

令和7年度 三鷹市高齢者の生活と福祉実態調査報告書

- ◆ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- ◆ 要支援・要介護認定者と介護者の生活と福祉に関する実態調査
(基礎集計・三鷹市独自調査、在宅介護実態調査)
- ◆ 介護人財の確保・定着等に関するアンケート調査
(介護サービス事業所調査、介護・看護職員、ケアマネジャー調査)

令和8年3月



三 鷹 市

はじめに

このたび、令和9年度から令和11年度までを計画期間とする「三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画」の策定に向けて、高齢者の皆様の健康や生活の状況、医療・介護・福祉等に関するニーズ、要介護者の方やその生活を支える介護者の方の状況や介護保険制度に対する評価及び介護人財確保・定着への課題等の状況を把握するために実施した、①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、②要支援・要介護認定者と介護者の生活と福祉に関する実態調査、③介護人財の確保・定着等に関するアンケート調査（事業所調査・職員調査、ケアマネジャー調査）の結果をとりまとめた報告書を発行いたします。

三鷹市では、第5次三鷹市基本計画において、高齢者一人ひとりが、健康であっても、医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で尊厳を保持しつつ、安心して、自分らしい生活を継続していく必要があるとしています。そして、令和6年度から令和8年度までを計画期間とする「三鷹市高齢者計画・第九期介護保険事業計画」では、「高齢者一人ひとりが尊厳を保持しつつ、住み慣れた地域で、安心して年齢を重ねることができるよう、地域の住民や多様な主体が参画し、互いに支え合い、助け合い、頼り合えるまち」の実現を基本目標に掲げて、様々な施策を展開してきました。

令和8年度には、今回の調査結果と三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画検討市民会議での議論を踏まえ、「三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画」を策定する予定です。計画の策定には、今後も市民の皆様のご意見を幅広く知ることが重要であると考えており、同計画策定期間中には、パブリックコメントの実施も予定しています。

今回、全ての調査において市民の皆様及び関係者の皆様から多大なるご協力をいただき、三鷹市政に対する関心と期待の高さをあらためて感じております。この調査の結果を踏まえ、市民の皆様の生活と介護に関わる方々の環境がより良いものとなるよう、万全の体制で計画の策定に取り組んでまいります。

結びに、今回の調査の実施に当たり、ご協力をいただきました市民の皆様や関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和8年3月
三 鷹 市

目次

第1章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1
1. 調査の概要	3
（1）目的	3
（2）調査対象者	3
（3）調査方法	3
（4）実施期間	3
（5）回収状況	3
（6）本調査結果の留意事項	3
2. 自分や家族の生活状況について	5
問1（1）年齢	5
問1（2）性別	6
問1（3）居住地区	6
問1（4）家族構成	7
問1（5）介護の必要性の有無	8
問1（6）現在の認定状態	9
問1（7）現在の暮らしの状況	10
問1（8）住居形態	11
問1（9）持家の方の不安	12
問1（10）賃貸の方の不安	13
3. からだを動かすことについて	14
問2（1）～（3）歩行動作能力	14
問2（4）過去1年間の転倒経験	15
問2（5）転倒不安	16
問2（6）外出頻度	17
問2（7）昨年比外出頻度	18
問2（8）身体活動習慣	19
4. 食べることについて	20
問3（1）体格指数	20
問3（2）咀嚼機能	21
問3（3）歯の数	22
問3（4）共食・孤食	23
5. 毎日の生活について	25
問4（1）（2）認知機能	25
問4（3）～（7）手段的日常生活動作能力	26
問4（8）読書習慣	28
問4（9）（10）趣味と生きがい	29
問4（11）インターネット利用	31
問4（12）スマホやパソコンの利用方法	32
問4（13）聞き取りづらさ	33
6. 地域での活動について	34
問5（1）社会活動・社会参加	34

問5 (2) 地域づくり活動への参加意向	37
問5 (3) 地域づくり活動の企画運営意向	38
問5 (4) 「通いの場」への希望	39
問5 (5) 「通いの場」への参加条件	40
7. 就労について	41
問6 (1) 就労状態	41
8. たすけあいについて	42
問7 (1) 情緒的支援者(受領)	42
問7 (2) 情緒的支援者(授与)	44
問7 (3) 手段的支援者(受領)	46
問7 (4) 手段的支援者(授与)	48
問7 (5) 家族や友人以外の相談する相手	50
問7 (6) 誰とも話をしない日数	51
問7 (7)(8) ひきこもり	52
9. 健康について	53
問8 (1) 主観的健康観	53
問8 (2) 主観的幸福感	54
問8 (3)(4) うつ傾向	55
問8 (5) 喫煙	57
問8 (6) 治療中の病気	58
問8 (7) かかりつけ医・歯科医・薬剤師	60
問8 (8) 医療の不安	61
問8 (9) 介護の不安	62
問8 (10) ACP	63
10. 認知症にかかる相談窓口の把握について	64
問9 (1)(2) 認知症の有無・相談窓口	64
問9 (3) 認知症について学ぶ機会	65
問9 (4) 認知症に対する意見	66
11. 高齢者施策と介護保険制度について	69
問10 (1) 高齢者に対する政策や支援への要望	69
問10 (2) 介護保険料の負担感	71
問10 (3) 介護保険料納付の義務	72
問10 (4) 介護保険制度の評価	73
問10 (5) 介護サービスの給付と負担に関する意見	74
問10 (6) 療養場所の希望	75
問10 (7) 高齢者向け資料等の周知状況	76
12. 結果の概要と今後の課題	85
(1) 高齢者実態調査の経年変化から見える課題	85
(2) 全国と三鷹市の比較	88
(3) 日常生活圏域別にみた地域差	89
(4) 三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画の主な項目に関する現状と課題	92
(5) 全体総括・重点課題	95

第2章 要支援・要介護認定者と介護者の生活と福祉に関する調査	97
調査の概要.....	99
(1) 調査対象者.....	99
(2) 調査項目と報告書の構成	99
(3) 調査方法	99
(4) 実施期間	99
(5) 調査完了状況.....	100
(6) 用語の定義等.....	100
(7) 本調査の留意事項	102
第1節 基礎集計・三鷹市独自調査.....	103
1. 要介護者、回答者の属性等.....	105
(1) 要介護者の属性.....	105
(2) 回答者の属性.....	106
2. 世帯類型と家族等介護	107
(1) 世帯類型	107
(2) 家族等介護の頻度	107
(3) 主な介護者について	108
(4) 介護保険外サービスの利用	110
(5) 施設等入所・入居の検討状況	111
(6) 現在抱えている傷病等	111
(7) 訪問診療の利用.....	112
(8) 介護保険サービスの利用	112
3. 介護サービス等の利用	113
(1) 要介護認定の満足度	113
(2) ケアマネジャーへの依頼事項と満足度.....	114
(3) 今後のサービス利用意向	116
4. 社会参加や生きがい等	121
(1) 外出と社会参加の頻度	121
(2) 生きがいについて	122
5. 日常生活の心配事や災害対応.....	124
(1) 日常生活の心配事.....	124
(2) 災害時の対応.....	125
(3) 今後介護度が高くなった際の生活場所	126
6. 主な介護者の仕事と介護【家族等介護がある方のみ】	127
(1) 主な介護者の勤務形態	127
(2) 主な介護者の介護と仕事の両立.....	127
(3) 主な介護者が不安に感じる介護.....	129
(4) 主な介護者の負担感	130
(5) 主な介護者の居住場所	131
(6) 主な介護者の代わりに頼める人.....	131
(7) 仕事と介護を両立するために必要な支援	132
第2節 在宅介護調査.....	133

1. 認定データの単純集計	135
2. 在宅限界点を高めるための支援・サービスの提供体制の検討	137
(1) 基礎集計	137
(2) 要介護度別・認知症自立度の「主な介護者が不安に感じる介護」の変化.....	138
(3) 要介護度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	140
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等入所の検討状況」の関係	141
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係...	142
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等入所の検討状況」の関係	143
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	144
3. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	145
(1) 基礎集計	145
(2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	147
(3) 「サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係.....	150
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	152
(5) 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と施設等入所の検討状況.....	153
(6) 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	155
4. 介護保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	157
(1) 基礎集計	157
(2) 「世帯類型」「要介護度」×「介護保険外の支援・サービスの利用状況」.....	158
(3) 「世帯類型」「要介護度」×「必要と感じる介護保険外の支援・サービス」...	160
5. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	162
(1) 基礎集計	162
(2) 「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	163
(3) 「要介護度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	163
(4) 「要介護度別」の「世帯類型別の施設等入所の検討状況」	165
6. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討.....	166
(1) 基礎集計	166
(2) 訪問診療の利用割合	169
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ.....	171
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系の利用の有無	171
7. サービス未利用の理由など	173
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	173
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由.....	174
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス	175
(4) 要介護度別の抱えている傷病	176
(5) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	177
[第2章のまとめ] 結果の概要と今後の課題	178
(1) 在宅介護の限界点を高めるための支援.....	178
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援.....	179
(3) インフォーマルな地域資源の整備.....	180
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援.....	181
(5) 相談支援・ケアマネジメント機能の強化	182

(6) 三鷹市における認知症施策の推進	183
(7) 三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画の主な項目に関する現状と課題	184
第3章 介護人財の確保・定着等に関するアンケート調査	185
第1節 介護サービス事業所調査	185
1. 調査の概要	187
(1) 目的	187
(2) 調査対象	187
(3) 調査方法	187
(4) 実施期間	187
(5) 回収状況	187
2. 回答事業所の属性	188
3. 三鷹市への要望	189
(1) 市の事業の周知度、意見	189
(2) 市への要望	200
4. 事業所の現状と課題	202
(1) 財務の状況	202
(2) 介護サービス従業者	206
(3) 法人の従業員数規模	209
(4) 職員の採用・離職の状況	210
(5) 従業員の過不足状況	212
(6) 採用において利用した手段・媒体	213
(7) 早期離職防止や定着促進のための方策	217
(8) 人材育成のための取組	219
(9) サービス向上のための取組	221
(10) 事業所運営上の問題	222
(11) 多様な介護人財の活用	223
(12) 介護の仕事のイメージアップ	226
(13) ICTや介護ロボットの活用状況	227
(14) ハラスメントや虐待の状況	230
5. 地域包括ケアのビジョン	234
(1) 高齢者計画・第九期介護保険事業計画の基本目標	234
(2) 地域における生活支援（インフォーマルサービス）	236
(3) 自由意見	238
6. 結果の概要と今後の課題	239
(1) 三鷹市の介護サービス事業所の特徴	239
(2) 人材確保の現状と課題	239
(3) 人材確保・定着・育成のための三鷹市事業に対する意見・要望	239
(4) 地域包括ケアのビジョン	240
(5) 介護助手の活用	240
(6) ICT・介護ロボットの活用	240
(7) ハラスメント対策	241
(8) 虐待対策	241

第2節 介護・看護職員、ケアマネジャー調査	243
1. 調査の概要	245
(1) 目的	245
(2) 調査対象	245
(3) 調査方法	245
(4) 実施期間	245
(5) 回収状況	245
(6) 本調査の留意事項	245
2. 現在の仕事について	246
(1) 事業所、主な仕事（職種）、職位	246
(2) 仕事（職種）に関する希望	248
(3) 主な仕事（職種）の経験年数、今働いている法人での勤続年数	250
(4) 就業形態	252
(5) 1週間の労働時間	254
(6) 資格等について	256
(7) 月収	258
3. 仕事上の悩みや職場の取組等	259
(1) 労働条件や仕事の負担	259
(2) 利用者からのハラスメント等	271
(3) 相談できる人	273
(4) 職場での取組と働く上での悩み、不安、不満等の解消	275
(5) 仕事や職場の満足度	278
4. 就職の理由等	285
(1) 法人に就職した理由	285
(2) 法人に就職したきっかけ	287
5. 三鷹市への要望	289
(1) 市の事業の利用意向	289
6. 回答者の属性、生活状況	291
(1) 回答者の属性	291
(2) 回答者の生活状況	292
(3) 今の仕事をしていてよかったこと	295
(4) 福祉 Labo どんぐり山での研修希望	296
(5) 市への要望（自由記述）	297
7. 結果の概要と今後の課題	301
(1) 介護・看護職員、ケアマネジャーの労働環境	301
(2) 介護人財確保・定着・育成のための事業に対する意見・要望	302
資料編 アンケート調査票	303
1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	305
2. 要支援・要介護認定者と介護者の生活と福祉に関する実態調査	312
3. 介護サービス事業所調査	317
4. 介護・看護職員、ケアマネジャー調査	323

1. 調査結果の表示方法・留意事項

- 図表中の「n」は各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数を表している。
- 回答率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがある。また、複数の選択肢の回答率を合計した場合、小数点第2位を四捨五入しているため一致しないことがある。
- 回答者が2つ以上回答することができる質問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100%を超えることがある。
- 複数回答の図表においては、傾向をよりわかりやすくするために、「その他」「無回答」などを除き、選択肢を回答率（%）の高いものから低いものへと並び替えて表示している場合がある。
- 無回答のもの、単一回答の設問において複数回答したもの、選択の判別がつかないものについてはいずれも「無回答」として集計している。
- クロス集計については、分析の柱となる項目（属性）の「無回答」は掲載を省略しているため、全体合計と一致しないことがある。ただし、「全体」は集計対象の全数を表示しているため、分析の柱となる選択肢の回答者数を合計しても必ずしも全体の数値とは一致しない。
- 本文や図表中の選択肢の表記は、紙面の制約や読み易さの観点から語句を短縮・簡略化している場合がある。
- 本調査は3年ごとに行われており、前回調査があり比較可能な設問・選択肢については、傾向分析のため表示している。図表において、前回調査に相当する選択肢がない場合には「-」で表記している。
- 前回調査の結果と比較して3.0ポイント以上の増減がある項目（複数回答についてはかつ最大の項目）について記載している。
- 各調査固有の留意事項がある場合は、調査の概要に記載している。

2. 標本誤差について

○各調査は、対象となる母集団の中から、無作為に選ばれた一部の人（標本）について調査を行う「標本調査」である。調査結果の比率から母集団（各調査属性を備えた対象者全体）の傾向を推測する際には、統計上の誤差（標本誤差）を考慮する必要がある。各回答比率での標本誤差は次の早見表の通りとなる。

○例えば有効回答数が 2,740 人である介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の場合、ある質問の回答が 50%となったとき、三鷹市内の一般高齢者調査のこの質問に対する回答は、48.2%～51.8%の間にあると考えてよいことになる（信頼度 95%）。対象となる有効回答数が少なくなるほど標本誤差が大きくなる。

■標本誤差の算出式（ただし、信頼度を 95%とする。）

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$$\left(\begin{array}{l} N = \text{母集団数} \\ n = \text{有効回答数} \\ P = \text{回答比率} \end{array} \right)$$

■各調査における標本誤差早見表

	母集団概数	回答数	標本誤差				
			10%選択	20%選択	30%選択	40%選択	50%選択
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	41,000	2,740	1.09%	1.45%	1.66%	1.77%	1.81%
②要支援・要介護認定者調査	8,700	731	2.08%	2.78%	3.18%	3.40%	3.47%
③介護サービス事業所調査	150	81	4.45%	5.93%	6.79%	7.26%	7.41%
④介護・看護職員、ケアマネジャー調査	2,690	428	2.61%	3.48%	3.98%	4.26%	4.34%

第1章

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 調査の概要

(1) 目的

65歳以上の住民における健康や生活の状況、医療・介護・福祉等に関するニーズ、地域環境、市への要望等を把握し、次期介護保険事業計画等の施策立案に資する基礎資料を得ることを目的とした。

(2) 調査対象者

令和7年(2025年)10月1日時点で三鷹市在住の65歳以上の住民約40,000人のうち、特別養護老人ホーム入居者等を除外した後、無作為に抽出した4,000人を対象とした。

(3) 調査方法

郵送により調査票の配付を行った。調査票の回収については、郵送又はインターネットの選択式とした。調査票の回答・記入は、原則、対象となった高齢者本人であるが、健康上の理由等により本人が回答できない場合は、家族等に代理での回答・記入を依頼した。

(4) 実施期間

令和7年(2025年)10月20日～11月10日(11月17日までの返送分は回収に含めた。)

(5) 回収状況

有効回収数： 2,740票 (回収率68.5%)

うちインターネット経由の回収486票

(6) 本調査結果の留意事項

- ・要介護3～5は区分の回答者数が少ないため、割合については参考値として解釈する必要がある。

■要介護認定リスクの判定方法

この報告書においては、以下の判定方法によりリスク該当者とした。

①運動器機能リスク

設問	調査項目	選択肢	判定方法
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」	左記設問・選択肢で3つ以上が該当
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」	
問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」	
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1度ある」	
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」or 「2. やや不安である」	

②低栄養リスク

設問	調査項目	選択肢	判定方法
問3(1)	身長・体重	BMI (体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)}) < 18.5	左記設問・選択肢が該当

③咀嚼機能リスク

設問	調査項目	選択肢	判定方法
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」	左記設問・選択肢が該当

④うつリスク

設問	調査項目	選択肢	判定方法
問8(2)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」	左記設問・選択肢でいずれか1つ以上が該当
問8(3)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」	

⑤認知症リスク

設問	調査項目	選択肢	判定方法
問4(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」	左記設問・選択肢が該当

⑥閉じこもりリスク

設問	調査項目	選択肢	判定方法
問2(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 or「2. 週1回」	左記設問・選択肢が該当

⑦IADL リスク

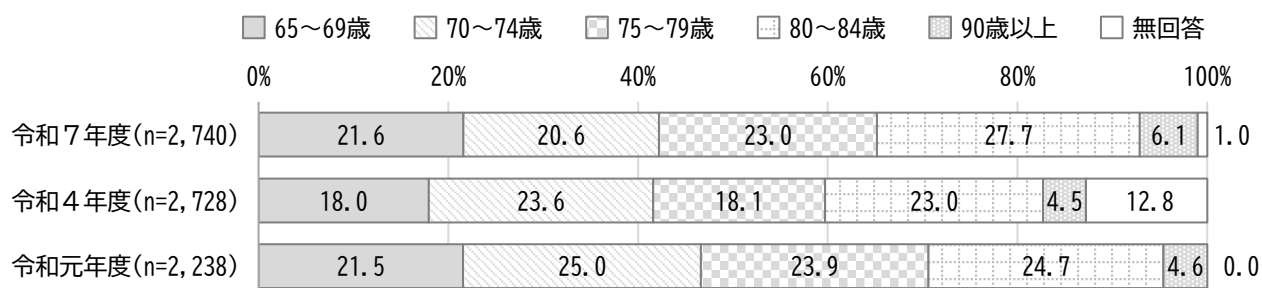
設問	調査項目	選択肢	判定方法
問4(3)	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」or 「2. できるけどしていない」	左記設問・選択肢で3つ以下が該当
問4(4)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1. できるし、している」or 「2. できるけどしていない」	
問4(5)	自分で食事の用意をしていますか	「1. できるし、している」or 「2. できるけどしていない」	
問4(6)	自分で請求書の支払いをしていますか	「1. できるし、している」or 「2. できるけどしていない」	
問4(7)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1. できるし、している」or 「2. できるけどしていない」	

2. 自分や家族の生活状況について

問1 (1) 年齢

あなたの年齢をお教えてください。

「65～69歳」が21.6%、「70～74歳」が20.6%、「75～79歳」が23.0%、「80～89歳」が27.7%、「90歳以上」が6.1%となっている。



		人数	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～89歳	90歳以上	無回答
全体		2,740	21.6%	20.6%	23.0%	27.7%	6.1%	1.0%
認定状況	自立	2,311	25.1%	23.5%	24.9%	24.6%	1.8%	0.1%
	要支援1・2	138	2.9%	1.4%	10.1%	60.9%	24.6%	0.0%
	要介護1・2	151	1.3%	5.3%	15.2%	43.0%	35.1%	0.0%
	要介護3～5	77	2.6%	6.5%	6.5%	41.6%	42.9%	0.0%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	22.2%	19.7%	25.0%	27.3%	5.7%	0.0%
	連雀地域	534	20.6%	22.7%	24.7%	26.8%	5.1%	0.2%
	井の頭地域	237	20.3%	21.9%	22.8%	24.9%	10.1%	0.0%
	東部地域	412	24.0%	20.6%	19.9%	30.1%	5.3%	0.0%
	新川中原地域	428	21.3%	19.9%	22.4%	30.1%	6.1%	0.2%
	西部地域	361	23.3%	21.3%	23.0%	25.8%	6.6%	0.0%
	大沢地域	183	18.6%	23.5%	24.6%	27.3%	6.0%	0.0%

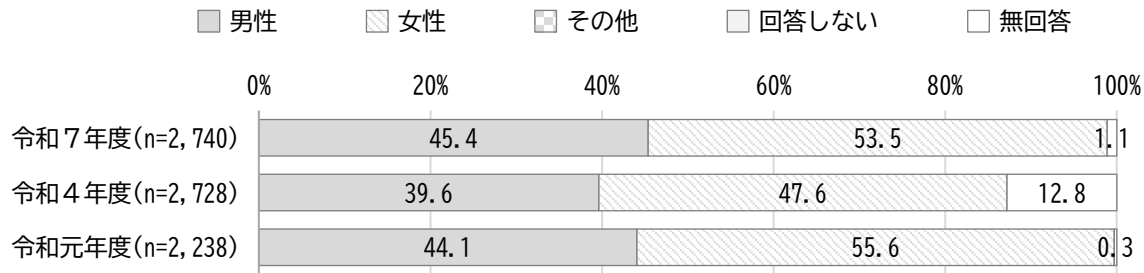
■年齢階層別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
65～69歳	591	3.0%	8.8%	16.1%	37.2%	33.8%	7.3%	0.7%
70～74歳	565	8.3%	7.3%	22.8%	37.3%	40.5%	9.4%	2.1%
75～79歳	630	10.8%	11.3%	27.3%	36.0%	37.9%	10.8%	2.7%
80～89歳	759	25.4%	11.3%	36.1%	39.3%	48.4%	22.0%	7.1%
90歳以上	167	60.5%	12.6%	46.1%	44.9%	56.9%	52.1%	15.6%

問1 (2) 性別

あなたの性別をお教えてください。

「男性」が45.4%、「女性」が53.5%となっている。

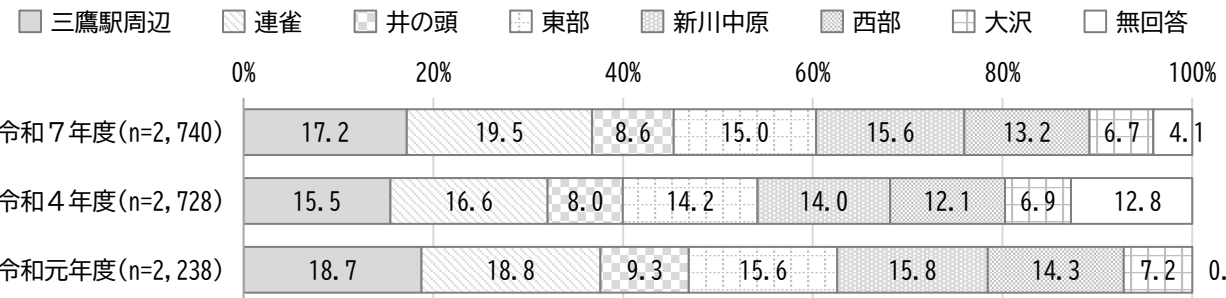


		人数	男性	女性	その他	回答しない	無回答
全体		2,740	45.4%	53.5%	0.0%	0.0%	1.1%
認定状況	自立	2,311	47.6%	52.1%	0.0%	0.0%	0.2%
	要支援1・2	138	36.2%	63.0%	0.0%	0.0%	0.7%
	要介護1・2	151	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	要介護3～5	77	33.8%	66.2%	0.0%	0.0%	0.0%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	48.5%	51.3%	0.0%	0.0%	0.2%
	連雀地域	534	46.3%	53.6%	0.0%	0.0%	0.2%
	井の頭地域	237	46.4%	52.7%	0.0%	0.0%	0.8%
	東部地域	412	44.2%	55.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	新川中原地域	428	43.0%	56.8%	0.0%	0.0%	0.2%
	西部地域	361	48.5%	51.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	大沢地域	183	43.7%	56.3%	0.0%	0.0%	0.0%

問1 (3) 居住地区

あなたの居住地区を町名と丁目それぞれお教えてください。

「連雀」が19.5%で最も高く、次いで、「三鷹駅周辺」が17.2%、「新川中原」が15.6%となっている。

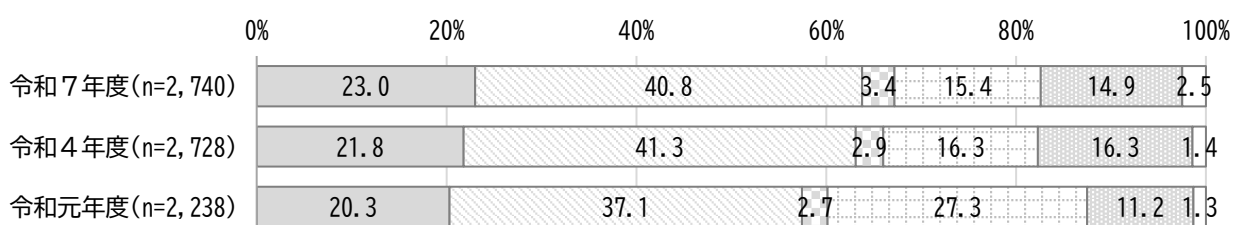


問1 (4) 家族構成

家族構成をお教えてください。

「1人暮らし」が23.0%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が40.8%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が3.4%、「息子・娘との2世帯（孫は含まない）」が15.4%、「その他」が14.9%であった。

1人暮らし
 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）
 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）
 息子・娘との2世帯（孫は含まない）
 その他
 無回答



「1人暮らし」の割合を認定状況別にみると、「要支援1・2」が38.4%と最も高く、「要介護3～5」が18.2%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、「東部」「新川中原」が25.2%と最も高く、「大沢」が18.0%と最も低かった。年齢階層別にみると、「90歳以上」で33.5%と最も高かった。

		人数	1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯(孫は含まない)	その他	無回答
全体		2,740	23.0%	40.8%	3.4%	15.4%	14.9%	2.5%
認定状況	自立	2,311	21.8%	43.1%	3.9%	15.0%	15.0%	1.3%
	要支援1・2	138	38.4%	34.8%	0.7%	15.9%	8.0%	2.2%
	要介護1・2	151	30.5%	25.2%	0.0%	21.2%	19.2%	4.0%
	要介護3～5	77	18.2%	28.6%	1.3%	27.3%	18.2%	6.5%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	21.4%	42.8%	3.8%	15.9%	14.0%	2.1%
	連雀地域	534	24.7%	42.5%	3.2%	13.7%	15.0%	0.9%
	井の頭地域	237	21.1%	42.2%	3.0%	12.7%	19.8%	1.3%
	東部地域	412	25.2%	38.3%	3.9%	16.0%	15.5%	1.0%
	新川中原地域	428	25.2%	40.4%	3.5%	17.1%	13.1%	0.7%
	西部地域	361	23.5%	42.1%	2.8%	14.7%	14.1%	2.8%
	大沢地域	183	18.0%	36.1%	2.7%	21.9%	18.0%	3.3%
年齢階層	65～69歳	591	18.1%	37.4%	11.3%	13.9%	18.6%	0.7%
	70～74歳	565	22.3%	48.0%	2.3%	10.4%	15.8%	1.2%
	75～79歳	630	21.6%	48.4%	1.3%	13.2%	13.7%	1.9%
	80～89歳	759	27.0%	37.5%	0.5%	19.8%	13.0%	2.1%
	90歳以上	167	33.5%	20.4%	0.0%	28.7%	14.4%	3.0%

■家族構成別の要介護リスク該当率

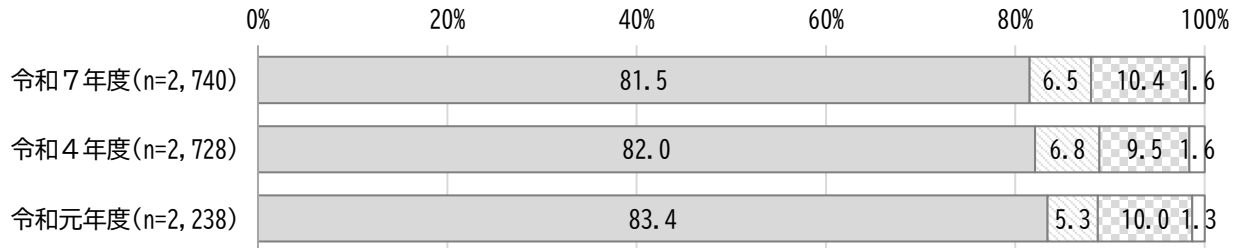
	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
1人暮らし	630	17.9%	12.2%	29.0%	41.9%	41.6%	16.0%	3.8%
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	1,117	11.8%	9.8%	25.2%	36.3%	40.3%	11.5%	3.0%
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	92	3.3%	6.5%	18.5%	32.6%	37.0%	9.8%	2.2%
息子・娘との2世帯	423	23.4%	8.7%	33.8%	38.5%	44.0%	22.2%	7.1%
その他	409	17.1%	9.3%	27.9%	37.9%	45.0%	18.1%	4.9%

問1 (5) 介護の必要性の有無

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

「介護・介助は必要ない」が81.5%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.5%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が10.4%であった。

介護・介助は必要ない
 介助は必要だが受けていない
 何らかの介護を受けている
 無回答



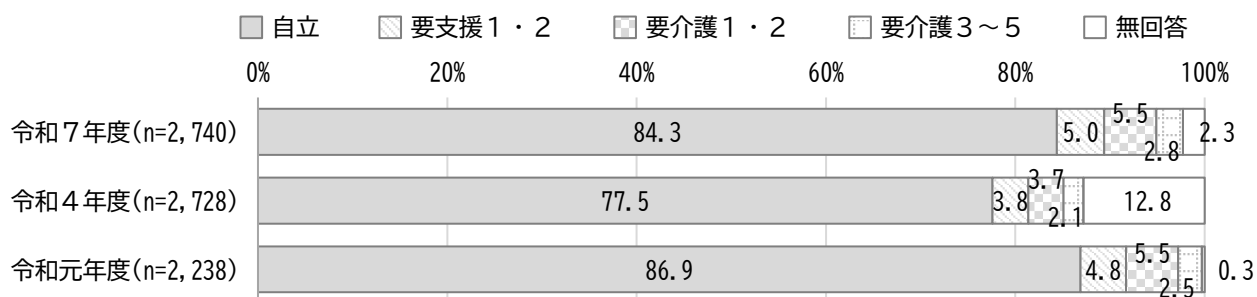
認定状況別にみると、「自立」の中にも「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が4.9%、「現在、何らかの介護を受けている」が1.8%であった。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」を日常生活圏域別にみると、「三鷹駅周辺」が7.4%、また、「現在、何らかの介護を受けている」は「井の頭」が13.5%と最も高かった。

		人数	介護・介助は必要ない	介助は必要だが受けていない	何らかの介護を受けている	無回答
全体		2,740	81.5%	6.5%	10.4%	1.6%
認定状況	自立	2,311	92.9%	4.9%	1.8%	0.4%
	要支援1・2	138	34.1%	27.5%	37.0%	1.4%
	要介護1・2	151	7.9%	13.2%	78.1%	0.7%
	要介護3～5	77	2.6%	3.9%	92.2%	1.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	83.3%	7.4%	8.3%	1.1%
	連雀地域	534	83.3%	6.9%	9.2%	0.6%
	井の頭地域	237	81.4%	4.6%	13.5%	0.4%
	東部地域	412	81.6%	6.6%	11.4%	0.5%
	新川中原地域	428	80.8%	6.8%	11.4%	0.9%
	西部地域	361	82.3%	6.6%	11.1%	0.0%
	大沢地域	183	81.4%	6.0%	11.5%	1.1%

問1 (6) 現在の認定状態

あなたの現在の状態は、次のうちどれですか。

「自立」が84.3%、「要支援1・2」が5.0%、「要介護1・2」が5.5%、「要介護3～5」が2.8%であった。「自立」は令和4年度の77.5%より6.8ポイント増加した。



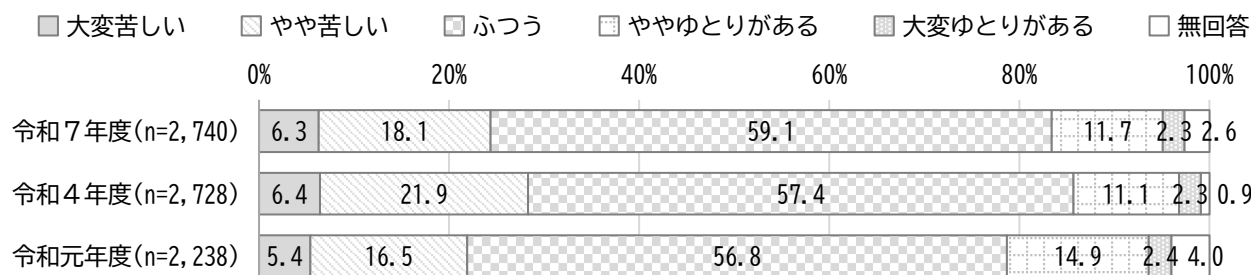
日常生活圏域別にみると、「自立」は「連雀」の86.9%が、また、要支援・要介護認定率は「新川中原」の15.2%が最も高かった。

		人数	自立	要支援1・2	要介護1・2	要介護3～5	無回答
全体		2,740	84.3%	5.0%	5.5%	2.8%	2.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	86.0%	4.9%	4.7%	2.8%	1.7%
	連雀地域	534	86.9%	4.1%	4.9%	2.4%	1.7%
	井の頭地域	237	84.8%	4.6%	6.8%	3.4%	0.4%
	東部地域	412	85.9%	3.6%	5.6%	4.1%	0.7%
	新川中原地域	428	83.6%	6.8%	5.6%	2.8%	1.2%
	西部地域	361	83.4%	6.6%	5.3%	2.5%	2.2%
	大沢地域	183	84.2%	4.9%	6.6%	2.7%	1.6%
年齢階層	65～69歳	591	98.3%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%
	70～74歳	565	96.1%	0.4%	1.4%	0.9%	1.2%
	75～79歳	630	91.3%	2.2%	3.7%	0.8%	2.1%
	80～89歳	759	74.8%	11.1%	8.6%	4.2%	1.3%
	90歳以上	167	25.1%	20.4%	31.7%	19.8%	3.0%
家族構成	1人暮らし	630	79.8%	8.4%	7.3%	2.2%	2.2%
	夫婦2人暮らし	1,209	89.8%	4.1%	3.1%	1.9%	1.1%
	息子・娘との2世帯	423	81.8%	5.2%	7.6%	5.0%	0.5%
	その他	409	84.8%	2.7%	7.1%	3.4%	2.0%

問1（7）現在の暮らしの状況

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

「大変苦しい/やや苦しい」が 24.4%、「ふつう」が 59.1%、「ややゆとりがある/大変ゆとりがある」が 14.0%であった。「大変苦しい/やや苦しい」の割合は、令和4年度の28.3%より3.9ポイント減少した。



「大変苦しい/やや苦しい」の割合を認定状況別にみると、「要介護3～5」が 33.8%と最も高く、「自立」が 23.8%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、「新川中原」が 29.2%と最も高く、「三鷹駅周辺」が 19.9%と最も低かった。

		人数	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答
全体		2,740	6.3%	18.1%	59.1%	11.7%	2.3%	2.6%
認定状況	自立	2,311	6.0%	17.8%	59.6%	12.4%	2.3%	2.0%
	要支援1・2	138	5.8%	19.6%	60.1%	9.4%	1.4%	3.6%
	要介護1・2	151	5.3%	20.5%	60.3%	6.6%	2.6%	4.6%
	要介護3～5	77	15.6%	18.2%	54.5%	5.2%	1.3%	5.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	4.9%	15.0%	58.3%	15.7%	3.4%	2.8%
	連雀地域	534	6.7%	17.8%	60.3%	11.0%	1.7%	2.4%
	井の頭地域	237	4.6%	15.6%	56.1%	16.0%	5.1%	2.5%
	東部地域	412	6.1%	18.4%	62.9%	9.2%	1.5%	1.9%
	新川中原地域	428	7.7%	21.5%	56.8%	8.6%	1.9%	3.5%
	西部地域	361	5.8%	22.7%	57.9%	10.8%	1.9%	0.8%
	大沢地域	183	7.1%	14.8%	61.7%	12.6%	1.6%	2.2%

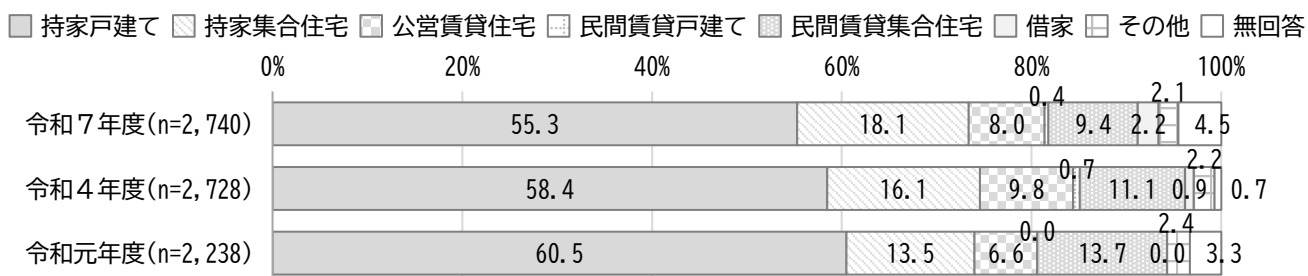
■暮らしの状況別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
大変苦しい	172	26.7%	8.1%	51.2%	59.3%	52.3%	25.0%	7.6%
やや苦しい	497	21.9%	10.7%	35.2%	53.3%	46.7%	20.3%	5.0%
ふつう	1,619	14.0%	10.4%	24.5%	33.5%	39.4%	14.8%	3.8%
ややゆとりがある	320	11.3%	8.4%	18.4%	27.8%	37.8%	8.1%	2.2%
大変ゆとりがある	62	11.3%	6.5%	21.0%	29.0%	38.7%	11.3%	3.2%

問1 (8) 住居形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

「持家（一戸建て）」が 55.3%と最も高く、次いで、「持家（集合住宅）」が 18.1%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 9.4%となっている。「持家（一戸建て）」の割合は、令和4年度の58.4%より3.1ポイント減少した。



持家（一戸建て/集合住宅）に住んでいる人の割合を認定状況別にみると、「自立」が 75.2%と最も高く、「要介護3～5」が 61.0%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、持家に住んでいる人の割合は「三鷹駅周辺」が 83.7%と最も高く、「新川中原」が 64.4%と最も低かった。

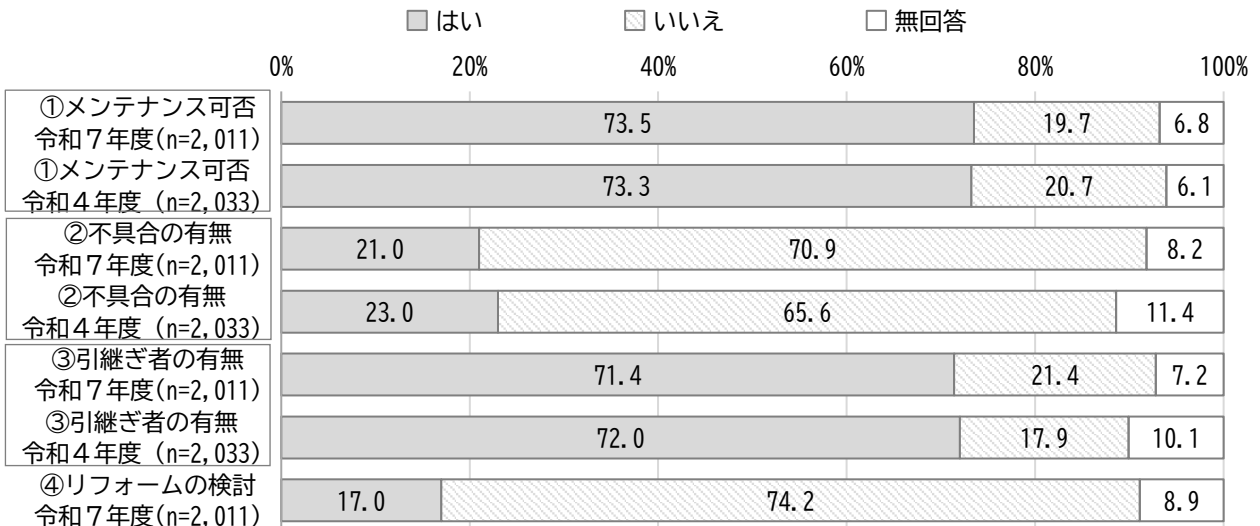
賃貸・借家に住んでいる人の割合を年齢階層別にみると、「65～69歳」が 23.4%と最も高く、家族構成別にみると、独居高齢者が 37.0%と最も高かった。

		人数	持家戸建て	持家集合住宅	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅戸建て	民間賃貸集合住宅	借家	その他	無回答
全体		2,740	55.3%	18.1%	8.0%	0.4%	9.4%	2.2%	2.1%	4.5%
認定状況	自立	2,311	56.0%	19.2%	7.7%	0.5%	9.5%	2.0%	1.3%	3.8%
	要支援1・2	138	58.0%	10.9%	10.9%	0.7%	7.2%	1.4%	5.1%	5.8%
	要介護1・2	151	46.4%	17.9%	9.3%	0.0%	11.9%	4.0%	6.0%	4.6%
	要介護3～5	77	53.2%	7.8%	6.5%	0.0%	6.5%	2.6%	13.0%	10.4%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	57.2%	26.5%	1.5%	0.4%	7.4%	1.7%	1.5%	3.8%
	連雀地域	534	32.0%	35.6%	15.2%	0.6%	8.4%	1.1%	2.4%	4.7%
	井の頭地域	237	76.8%	6.8%	3.0%	0.4%	6.8%	1.7%	2.1%	2.5%
	東部地域	412	50.5%	17.0%	8.3%	0.5%	14.8%	3.9%	1.5%	3.6%
	新川中原地域	428	55.8%	8.6%	13.3%	0.0%	9.8%	2.8%	3.3%	6.3%
	西部地域	361	67.0%	12.2%	3.6%	0.6%	9.7%	1.9%	2.2%	2.8%
	大沢地域	183	80.9%	1.6%	3.3%	1.1%	6.6%	1.6%	2.2%	2.7%
年齢階層	65～69歳	591	51.3%	21.7%	5.6%	0.7%	14.2%	2.9%	1.5%	2.2%
	70～74歳	565	55.4%	22.3%	7.3%	0.4%	9.6%	1.6%	0.5%	3.0%
	75～79歳	630	53.5%	19.0%	8.6%	0.5%	9.7%	3.2%	1.6%	4.0%
	80～89歳	759	57.2%	14.8%	9.7%	0.4%	6.5%	1.4%	2.8%	7.2%
	90歳以上	167	68.9%	6.0%	7.8%	0.0%	4.8%	1.2%	8.4%	3.0%
家族構成	1人暮らし	630	37.6%	16.7%	13.0%	0.5%	20.2%	3.3%	2.5%	6.2%
	夫婦2人暮らし	1,209	59.0%	21.3%	6.9%	0.3%	6.5%	1.6%	0.9%	3.6%
	息子・娘との2世帯	423	67.1%	15.8%	4.3%	0.2%	4.5%	1.9%	2.4%	3.8%
	その他	409	58.4%	15.2%	7.3%	0.7%	7.8%	2.4%	4.9%	3.2%

問1 (9) 持家の方の不安

【問1 (8) で1.～2.の「持家」の方のみ】
 ①修理等のメンテナンスはできますか。
 ②故障や段差などの不具合はありますか。
 ③引き継いでくれる人はいますか。
 ④リフォームを考えていますか。

「はい」は、メンテナンスの可否では 73.5%、不具合の有無では 21.0%、引継ぎ者の有無では 71.4%、リフォームを検討では 17.0%となっている。故障や段差などの不具合がない割合は 70.9%と令和4年度の 65.6%より 5.3ポイント増加した。



	人数	①メンテナンス可否			②不具合の有無			
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	
全体	2,011	73.5%	19.7%	6.8%	21.0%	70.9%	8.2%	
認定状況	自立	1,739	76.0%	17.8%	6.2%	19.1%	73.2%	7.7%
	要支援1・2	95	60.0%	30.5%	9.5%	27.4%	63.2%	9.5%
	要介護1・2	97	54.6%	34.0%	11.3%	30.9%	59.8%	9.3%
	要介護3～5	47	51.1%	38.3%	10.6%	53.2%	40.4%	6.4%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	395	75.7%	17.5%	6.8%	19.5%	73.4%	7.1%
	連雀地域	361	78.1%	15.0%	6.9%	19.1%	74.0%	6.9%
	井の頭地域	198	75.3%	19.7%	5.1%	21.7%	71.7%	6.6%
	東部地域	278	71.6%	22.3%	6.1%	19.1%	71.6%	9.4%
	新川中原地域	276	72.8%	21.0%	6.2%	24.3%	65.9%	9.8%
	西部地域	286	69.6%	23.1%	7.3%	19.2%	73.1%	7.7%
	大沢地域	151	70.9%	21.9%	7.3%	27.2%	66.2%	6.6%

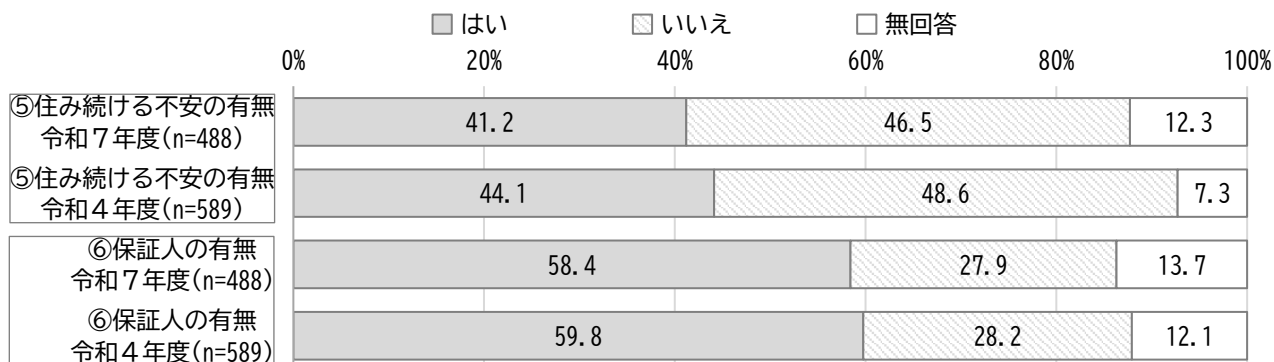
	人数	③引継ぎ者の有無			④リフォームの検討			
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	
全体	2,011	71.4%	21.4%	7.2%	17.0%	74.2%	8.9%	
認定状況	自立	1,739	70.8%	22.5%	6.6%	17.4%	74.5%	8.1%
	要支援1・2	95	70.5%	22.1%	7.4%	7.4%	82.1%	10.5%
	要介護1・2	97	82.5%	3.1%	14.4%	9.3%	73.2%	17.5%
	要介護3～5	47	85.1%	8.5%	6.4%	34.0%	57.4%	8.5%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	395	69.6%	24.1%	6.3%	17.7%	74.2%	8.1%
	連雀地域	361	70.6%	23.3%	6.1%	19.4%	72.0%	8.6%
	井の頭地域	198	75.3%	16.7%	8.1%	14.1%	78.3%	7.6%
	東部地域	278	69.4%	22.7%	7.9%	14.4%	74.8%	10.8%
	新川中原地域	276	70.3%	20.3%	9.4%	17.8%	71.7%	10.5%
	西部地域	286	74.1%	19.6%	6.3%	15.7%	76.6%	7.7%
	大沢地域	151	72.2%	21.9%	6.0%	15.9%	78.8%	5.3%

問1 (10) 賃貸の方の不安

【問1 (8) で3.～5.の「賃貸」の方のみ】

- ⑤今の家に住み続けること（契約更新）に不安はありますか。
 ⑥保証人はいますか。

「はい」は、住み続ける不安の有無では41.2%、保証人の有無では58.4%となっている。



	人数	⑤住み続ける不安の有無			⑥保証人の有無			
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	
全体	488	41.2%	46.5%	12.3%	58.4%	27.9%	13.7%	
認定状況	自立	408	43.4%	45.1%	11.5%	59.1%	28.7%	12.3%
	要支援 1・2	26	15.4%	57.7%	26.9%	50.0%	19.2%	30.8%
	要介護 1・2	32	37.5%	59.4%	3.1%	59.4%	28.1%	12.5%
	要介護 3～5	10	30.0%	70.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	44	59.1%	36.4%	4.5%	61.4%	36.4%	2.3%
	連雀地域	129	22.5%	59.7%	17.8%	54.3%	25.6%	20.2%
	井の頭地域	24	54.2%	41.7%	4.2%	58.3%	37.5%	4.2%
	東部地域	97	47.4%	44.3%	8.2%	58.8%	30.9%	10.3%
	新川中原地域	99	42.4%	41.4%	16.2%	54.5%	26.3%	19.2%
	西部地域	50	48.0%	42.0%	10.0%	68.0%	22.0%	10.0%
大沢地域	20	60.0%	35.0%	5.0%	55.0%	35.0%	10.0%	

3. からだを動かすことについて

問2 (1)～(3) 歩行動作能力

- (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。
 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。
 (3) 15分位続けて歩いていますか。

「階段の昇りができない」が18.5%、「椅子からの起立ができない」が11.4%、「15分継続歩行ができない」が9.1%であった。



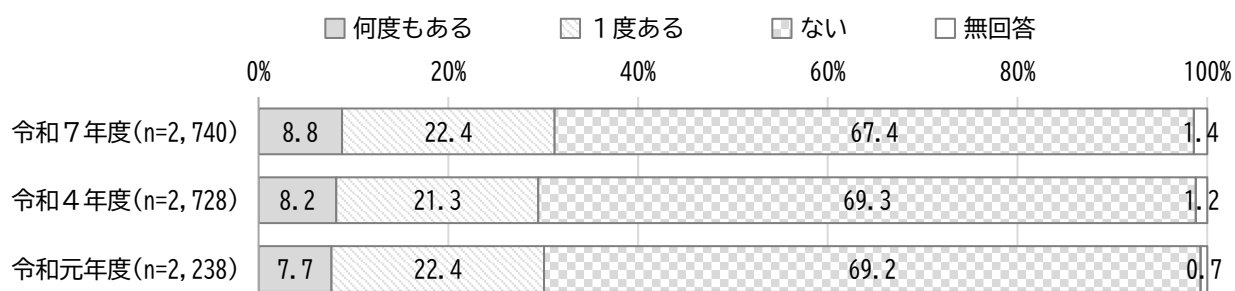
日常生活圏域別にみると、「階段の昇りができない」は「西部」が20.5%、「椅子からの起立ができない」は「井の頭」が13.5%、「15分継続歩行ができない」は「東部」が10.2%と最も高かった。

		人数	階段の昇り できない	椅子からの起立 できない	15分継続歩行 できない
全体		2,740	18.5%	11.4%	9.1%
認定状況	自立	2,311	10.7%	5.1%	3.0%
	要支援 1・2	138	54.3%	31.2%	23.2%
	要介護 1・2	151	67.5%	55.0%	50.3%
	要介護 3～5	77	88.3%	80.5%	84.4%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	16.9%	9.7%	7.8%
	連雀地域	534	18.2%	10.1%	8.8%
	井の頭地域	237	19.4%	13.5%	6.3%
	東部地域	412	18.2%	11.7%	10.2%
	新川中原地域	428	19.2%	11.9%	9.6%
	西部地域	361	20.5%	12.7%	10.0%
	大沢地域	183	16.9%	10.9%	9.8%

問2（4）過去1年間の転倒経験

過去1年間に転んだ経験がありますか。

「何度もある」と「1度ある」の合計は31.2%であった。



「何度もある」と「1度ある」の合計を日常生活圏域別にみると、「大沢」が38.3%と最も高く、「東部」が29.4%と最も低かった。

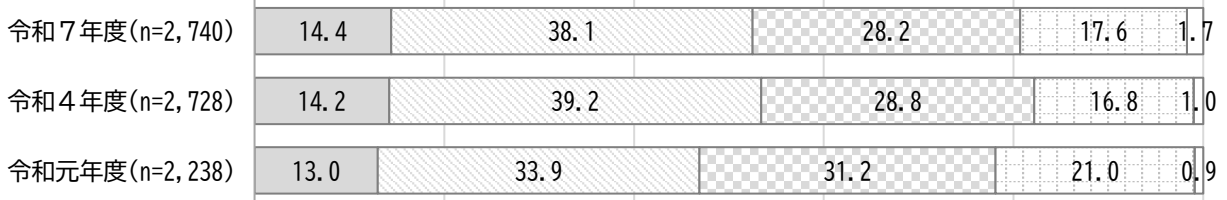
		人数	何度もある	1度ある	ない	無回答
全体		2,740	8.8%	22.4%	67.4%	1.4%
認定状況	自立	2,311	6.1%	21.8%	71.1%	1.0%
	要支援 1・2	138	13.8%	34.1%	48.6%	3.6%
	要介護 1・2	151	30.5%	23.8%	42.4%	3.3%
	要介護 3～5	77	35.1%	22.1%	41.6%	1.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	10.0%	20.8%	67.4%	1.9%
	連雀地域	534	8.1%	23.2%	68.0%	0.7%
	井の頭地域	237	8.0%	24.1%	67.1%	0.8%
	東部地域	412	8.5%	20.9%	69.7%	1.0%
	新川中原地域	428	10.0%	22.9%	64.7%	2.3%
	西部地域	361	8.0%	21.6%	69.8%	0.6%
	大沢地域	183	8.2%	30.1%	61.2%	0.5%

問2(5) 転倒不安

転倒に対する不安は大きいですか。

「とても不安である」と「やや不安である」の合計は52.5%であった。

とても不安である
 やや不安である
 あまり不安でない
 不安でない
 無回答



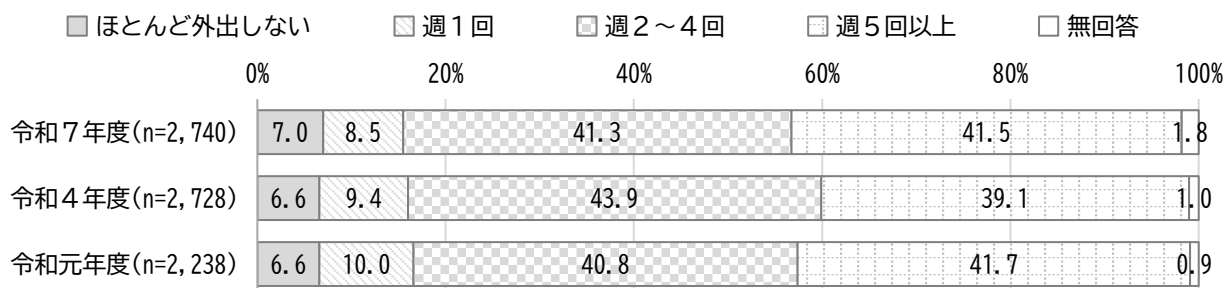
「とても不安である」と「やや不安である」の合計を日常生活圏域別にみると、「新川中原」が55.9%と最も高く、「三鷹駅周辺」が49.4%と最も低かった。

		人数	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
全体		2,740	14.4%	38.1%	28.2%	17.6%	1.7%
認定状況	自立	2,311	9.7%	38.0%	31.2%	19.8%	1.2%
	要支援 1・2	138	33.3%	48.6%	10.9%	3.6%	3.6%
	要介護 1・2	151	45.7%	39.1%	9.3%	3.3%	2.6%
	要介護 3～5	77	57.1%	22.1%	5.2%	10.4%	5.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	13.6%	35.8%	29.4%	19.5%	1.7%
	連雀地域	534	13.1%	37.1%	28.1%	20.2%	1.5%
	井の頭地域	237	13.5%	40.5%	27.0%	18.1%	0.8%
	東部地域	412	14.8%	39.3%	29.4%	15.3%	1.2%
	新川中原地域	428	16.4%	39.5%	25.7%	15.7%	2.8%
	西部地域	361	13.3%	40.7%	31.6%	13.9%	0.6%
	大沢地域	183	16.4%	38.3%	25.7%	18.6%	1.1%

問2(6) 外出頻度

週に1回以上は外出していますか。

「ほとんど外出しない」が7.0%、「週1回」が8.5%、「週2～4回」が41.3%、「週5回以上」が41.5%であった。外出頻度が「週に1回以下」の閉じこもりリスク該当者は15.5%であった。



外出頻度が「週に1回以下」の閉じこもりリスク該当者を認定状況別にみると、「自立」が10.7%、「要支援1・2」が31.1%、「要介護1・2」が46.3%、「要介護3～5」が70.1%と要介護度が高い区分ほど閉じこもりリスク該当者の割合が高い傾向がみられた。日常生活圏域別にみると、「東部」が18.7%と最も高く、「三鷹駅周辺」が12.3%と最も低かった。

		人数	ほとんど外出しない	週1回	週2～4回	週5回以上	無回答
全体		2,740	7.0%	8.5%	41.3%	41.5%	1.8%
認定状況	自立	2,311	3.3%	7.4%	41.5%	46.6%	1.3%
	要支援 1・2	138	13.0%	18.1%	46.4%	18.1%	4.3%
	要介護 1・2	151	31.1%	15.2%	43.7%	7.3%	2.6%
	要介護 3～5	77	62.3%	7.8%	19.5%	6.5%	3.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	5.5%	6.8%	35.8%	49.8%	2.1%
	連雀地域	534	5.4%	9.0%	41.9%	42.3%	1.3%
	井の頭地域	237	8.9%	3.8%	40.5%	45.6%	1.3%
	東部地域	412	8.0%	10.7%	42.2%	37.6%	1.5%
	新川中原地域	428	7.5%	8.4%	43.7%	37.4%	3.0%
	西部地域	361	5.3%	10.8%	45.4%	38.0%	0.6%
	大沢地域	183	10.4%	7.7%	43.2%	38.3%	0.5%

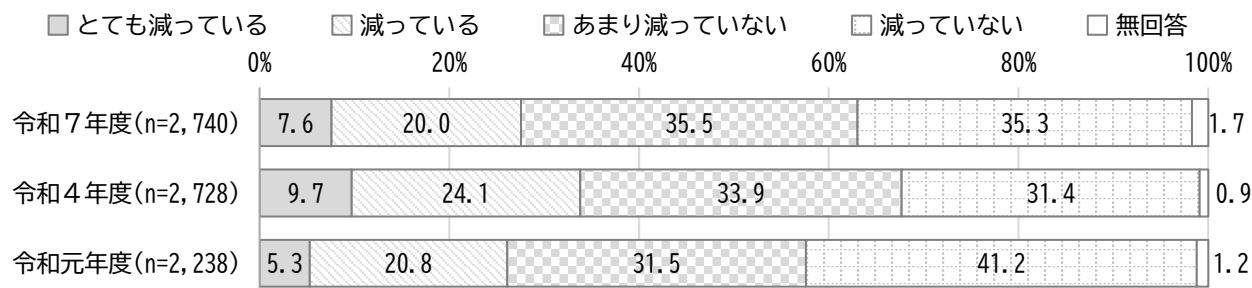
■外出頻度別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
ほとんど外出しない	192	69.3%	15.1%	53.6%	53.6%	60.4%	100.0%	24.5%
週1回	233	29.6%	10.3%	36.5%	46.4%	49.4%	100.0%	9.4%
週2～4回	1,131	15.0%	9.6%	30.1%	41.8%	43.9%	0.0%	2.8%
週5回以上	1,136	4.5%	9.2%	18.8%	29.7%	34.2%	0.0%	1.0%

問2（7）昨年比外出頻度

昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

「とても減っている」が7.6%、「減っている」が20.0%、「あまり減っていない」が35.5%、「減っていない」が35.3%であった。昨年と比べて外出の回数が「とても減っている/減っている」の割合は27.6%と令和4年度の33.8%より6.2ポイント減少した。



「とても減っている/減っている」を認定状況別にみると、「自立」が22.6%、「要支援1・2」が52.9%、「要介護1・2」が58.3%、「要介護3～5」が65.0%と要介護度が高い区分ほど外出頻度が減少する傾向がみられた。日常生活圏域別にみると、「大沢」が32.2%と最も高く、「三鷹駅周辺」が23.8%と最も低かった。

		人数	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
全体		2,740	7.6%	20.0%	35.5%	35.3%	1.7%
認定状況	自立	2,311	4.1%	18.5%	37.3%	39.1%	1.0%
	要支援1・2	138	18.8%	34.1%	28.3%	13.8%	5.1%
	要介護1・2	151	28.5%	29.8%	27.8%	8.6%	5.3%
	要介護3～5	77	49.4%	15.6%	15.6%	15.6%	3.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	8.3%	15.5%	34.3%	40.0%	1.9%
	連雀地域	534	5.8%	20.2%	37.6%	35.8%	0.6%
	井の頭地域	237	8.4%	19.0%	32.1%	39.2%	1.3%
	東部地域	412	8.3%	21.6%	35.7%	32.8%	1.7%
	新川中原地域	428	7.9%	21.3%	37.6%	30.1%	3.0%
	西部地域	361	6.9%	21.9%	36.0%	34.6%	0.6%
	大沢地域	183	8.7%	23.5%	31.7%	35.5%	0.5%

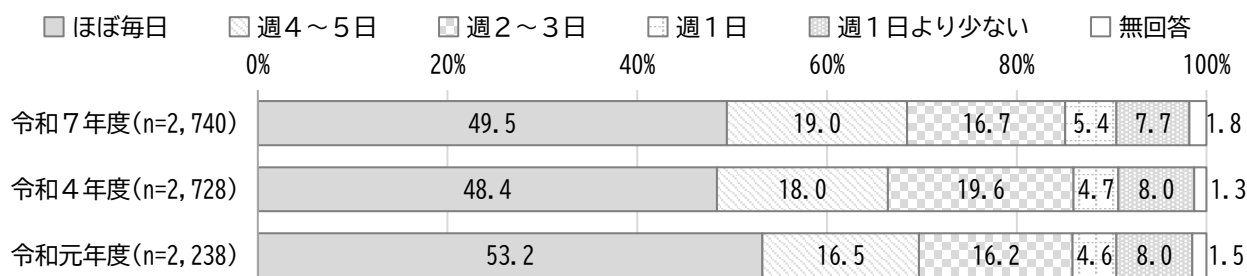
■外出頻度変化別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
とても減っている	208	63.9%	11.5%	62.5%	59.6%	61.5%	70.7%	20.7%
減っている	547	26.7%	12.6%	42.6%	54.7%	56.1%	25.2%	5.9%
あまり減っていない	972	10.1%	10.8%	23.0%	36.9%	40.7%	10.3%	2.7%
減っていない	966	4.5%	7.3%	15.7%	24.9%	29.2%	3.5%	1.2%

問2(8) 身体活動習慣

仕事や家事、散歩、体操などで身体を動かす時間が1日の合計で40分以上という日が、週に何日くらいありますか。

「ほぼ毎日」が49.5%、「週4～5日」が19.0%、「週2～3日」が16.7%、「週1日」が5.4%、「週1日より少ない」が7.7%であった。「ほぼ毎日/週に4～5日」の割合は68.5%と令和4年度の66.4%と同程度であった。



「ほぼ毎日/週に4～5日」を認定状況別にみると、「自立」が74.5%、「要支援1・2」が50.0%、「要介護1・2」が22.5%、「要介護3～5」が14.3%と要介護度が高い区分ほど身体を動かす日数が減少する傾向がみられた。日常生活圏域別にみると、「井の頭」が73.4%と最も高く、「新川中原」が63.1%と最も低かった。

		人数	ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	週に1日	週に1日未満	無回答
全体		2,740	49.5%	19.0%	16.7%	5.4%	7.7%	1.8%
認定状況	自立	2,311	54.2%	20.3%	15.7%	4.5%	4.5%	0.9%
	要支援1・2	138	31.9%	18.1%	21.7%	11.6%	11.6%	5.1%
	要介護1・2	151	13.2%	9.3%	31.8%	17.2%	23.2%	5.3%
	要介護3～5	77	7.8%	6.5%	9.1%	3.9%	67.5%	5.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	53.6%	18.6%	13.6%	5.5%	6.8%	1.9%
	連雀地域	534	51.1%	19.3%	16.7%	5.8%	6.7%	0.4%
	井の頭地域	237	58.6%	14.8%	15.2%	3.8%	6.8%	0.8%
	東部地域	412	48.8%	18.0%	16.7%	6.6%	8.3%	1.7%
	新川中原地域	428	42.3%	20.8%	18.2%	7.5%	8.2%	3.0%
	西部地域	361	45.2%	20.2%	19.9%	4.7%	8.3%	1.7%
	大沢地域	183	46.4%	23.0%	19.7%	2.7%	7.7%	0.5%

■身体活動習慣別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
ほぼ毎日	1,356	7.1%	10.6%	20.1%	32.7%	35.5%	7.8%	1.7%
週4～5日	520	11.0%	7.5%	26.5%	36.3%	41.7%	8.3%	1.7%
週2～3日	457	18.4%	8.1%	32.2%	46.0%	46.4%	12.9%	5.0%
週1日	149	36.2%	8.7%	44.3%	45.0%	47.0%	40.9%	13.4%
週1日より少ない	210	61.0%	15.7%	54.8%	54.8%	62.4%	69.0%	17.6%

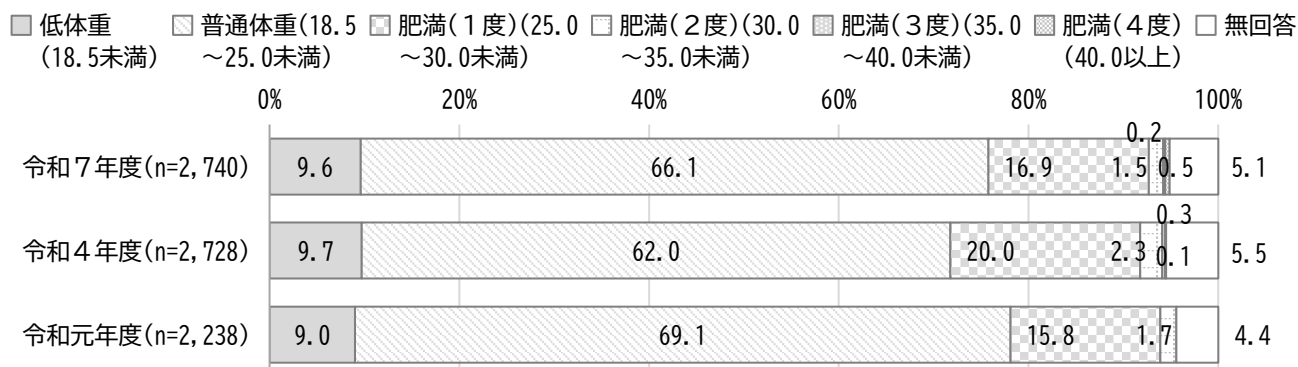
4. 食べることについて

問3 (1) 体格指数

身長と体重をご記入ください。

注) 体格指数 (Body Mass Index : BMI) = [体重 kg] ÷ [身長 m] ²

「低体重 (18.5 未満)」が 9.6%、「普通体重 (18.5~25.0 未満)」が 66.1%、「肥満 (1 度) (25.0~30.0 未満)」が 16.9%、「肥満 (2 度) (30.0~35.0 未満)」が 1.5%、「肥満 (3 度) (35.0~40.0 未満)」が 0.2%、「肥満 (4 度) (40.0 以上)」が 0.5%であった。「普通体重」が 66.1%と令和 4 年度 62.0%より 4.1 ポイント増加した一方、「肥満 (1 度)」以上が 19.1%と令和 4 年度 22.7%より 3.6 ポイント減少した。



(注) 令和元年度は BMI30 以上について区分していない

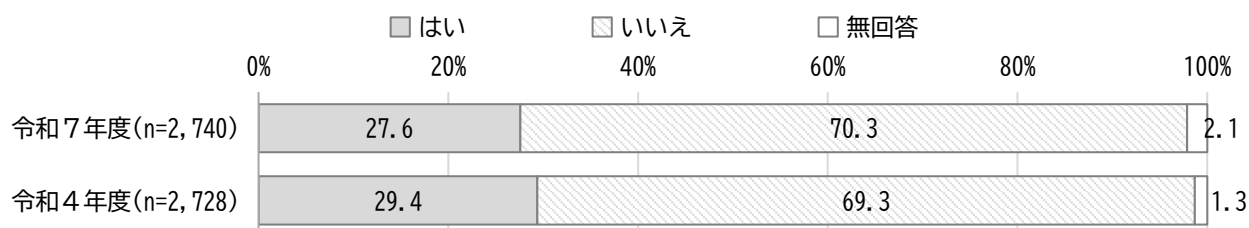
「低体重」の低栄養リスク該当者を認定状況別にみると、「自立」が 8.9%、「要支援 1・2」では 12.3%、「要介護 1・2」では 14.6%、「要介護 3~5」では 20.8%で、要介護度が高くなるにつれて、低体重の該当者の割合が増加していた。日常生活圏域別にみると、「三鷹駅周辺」が 12.1%と最も高く、「新川中原」が 8.2%と最も低かった。

		人数	低体重 (18.5 未満)	普通体重 (~25 未満)	肥満 1 度 (~30 未満)	肥満 2 度 (~35 未満)	肥満 3 度 (~40 未満)	肥満 4 度 (40 以上)	無回答
全体		2,740	9.6%	66.1%	16.9%	1.5%	0.2%	0.5%	5.1%
認定状況	自立	2,311	8.9%	67.1%	18.0%	1.5%	0.2%	0.4%	3.9%
	要支援 1・2	138	12.3%	63.0%	10.9%	3.6%	0.0%	1.4%	8.7%
	要介護 1・2	151	14.6%	60.9%	13.9%	1.3%	0.7%	0.7%	7.9%
	要介護 3~5	77	20.8%	49.4%	6.5%	0.0%	0.0%	1.3%	22.1%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	12.1%	65.5%	16.7%	1.3%	0.0%	0.2%	4.2%
	連雀地域	534	10.7%	66.5%	15.9%	1.1%	0.2%	0.6%	5.1%
	井の頭地域	237	11.4%	71.3%	11.8%	2.5%	0.0%	0.4%	2.5%
	東部地域	412	8.5%	66.0%	16.7%	1.9%	0.7%	0.2%	5.8%
	新川中原地域	428	8.2%	65.4%	17.8%	2.8%	0.2%	0.7%	4.9%
	西部地域	361	8.3%	65.9%	20.8%	0.8%	0.0%	0.6%	3.6%
	大沢地域	183	9.8%	67.8%	17.5%	0.0%	0.0%	0.5%	4.4%

問3 (2) 咀嚼機能

半年前に比べて固(かた)いものが食べにくくなりましたか。

「はい」が27.6%、「いいえ」が70.3%であった。



「はい」と回答した咀嚼機能リスク該当者を認定状況別にみると、「自立」が24.5%、「要支援1・2」では34.1%、「要介護1・2」では47.0%、「要介護3～5」では62.3%で、要介護度が高くなるにつれて、咀嚼機能リスクありの割合が増加していた。日常生活圏域別にみると、「新川中原」が29.9%と最も高く、「井の頭」が25.3%と最も低かった。

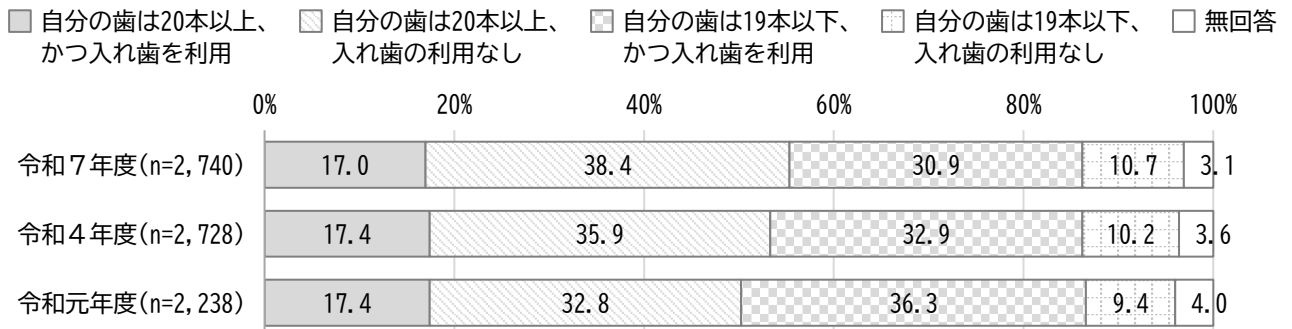
		人数	はい	いいえ	無回答
全体		2,740	27.6%	70.3%	2.1%
認定状況	自立	2,311	24.5%	73.8%	1.6%
	要支援 1・2	138	34.1%	62.3%	3.6%
	要介護 1・2	151	47.0%	49.0%	4.0%
	要介護 3～5	77	62.3%	33.8%	3.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	26.9%	71.4%	1.7%
	連雀地域	534	27.9%	70.4%	1.7%
	井の頭地域	237	25.3%	73.0%	1.7%
	東部地域	412	26.5%	70.9%	2.7%
	新川中原地域	428	29.9%	67.5%	2.6%
	西部地域	361	26.0%	72.9%	1.1%
	大沢地域	183	29.0%	69.4%	1.6%

問3 (3) 歯の数

歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です。)

「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 17.0%、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 38.4%、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 30.9%、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」が 10.7%であった。

「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」又は「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」といった残存歯が 20 本以上の人は 55.4%と令和 4 年度の 53.3%と同程度であった。「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」又は「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」といった残存歯が 19 本以下の人は 41.6%と令和 4 年度の 43.1%と同程度であった。



「残存歯が 20 本以上（入れ歯なし・あり）」の割合を、認定状況別にみると、「自立」が 58.6%、「要支援 1・2」では 43.5%、「要介護 1・2」では 34.5%、「要介護 3～5」では 28.6%で、要介護度が高くなるにつれて減少していた。日常生活圏域別にみると、「三鷹駅周辺」が 60.0%と最も高く、「新川中原」が 51.7%と最も低かった。

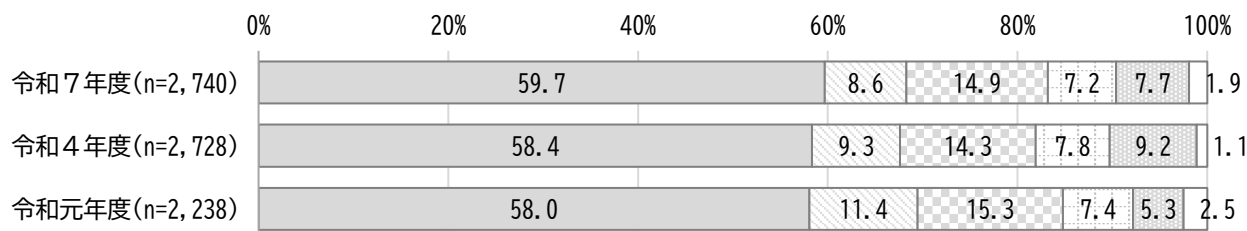
		人数	20 本以上 入れ歯利用	20 本以上 入れ歯なし	19 本以下 入れ歯利用	19 本以下 入れ歯なし	無回答
全体		2,740	17.0%	38.4%	30.9%	10.7%	3.1%
認定状況	自立	2,311	17.4%	41.2%	28.6%	10.5%	2.3%
	要支援 1・2	138	16.7%	26.8%	41.3%	8.0%	7.2%
	要介護 1・2	151	12.6%	21.9%	46.4%	12.6%	6.6%
	要介護 3～5	77	9.1%	19.5%	49.4%	18.2%	3.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	18.9%	41.1%	27.1%	10.0%	3.0%
	連雀地域	534	18.2%	37.8%	32.0%	9.7%	2.2%
	井の頭地域	237	16.9%	41.8%	27.4%	11.4%	2.5%
	東部地域	412	16.0%	40.3%	29.6%	10.2%	3.9%
	新川中原地域	428	18.5%	33.2%	33.6%	11.2%	3.5%
	西部地域	361	14.4%	38.8%	33.0%	10.8%	3.0%
	大沢地域	183	13.1%	40.4%	32.2%	12.0%	2.2%

問3（4）共食・孤食

どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

「毎日ある」が 59.7%、「週に何度かある」が 8.6%、「月に何度かある」が 14.9%、「年に何度かある」が 7.2%、「ほとんどない」が 7.7%であった。

毎日ある
 週に何度かある
 月に何度かある
 年に何度かある
 ほとんどない
 無回答



「月に何度かある」「年に何度かある」「ほとんどない」を合わせた孤食者の割合を認定状況別にみると、「自立」が 29.1%、「要支援1・2」が 40.5%、「要介護1・2」が 31.1%、「要介護3～5」が 23.4%と要介護度が高くなるにつれて孤食の割合が減少していた。日常生活圏域別にみると、「大沢」が 31.6%と最も高く、「三鷹駅周辺」は 28.6%と最も低かった。家族構成別にみると、独居高齢者が 75.4%と高くなっており、孤食によるうつや認知機能の低下が懸念される。

		人数	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体		2,740	59.7%	8.6%	14.9%	7.2%	7.7%	1.9%
認定状況	自立	2,311	60.5%	8.8%	14.6%	7.2%	7.3%	1.6%
	要支援1・2	138	50.0%	6.5%	23.9%	10.1%	6.5%	2.9%
	要介護1・2	151	58.9%	8.6%	15.9%	6.6%	8.6%	1.3%
	要介護3～5	77	66.2%	6.5%	1.3%	5.2%	16.9%	3.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	61.7%	8.3%	12.3%	8.9%	7.4%	1.5%
	連雀地域	534	59.6%	9.7%	15.9%	5.2%	8.4%	1.1%
	井の頭地域	237	62.9%	7.6%	13.1%	5.1%	11.0%	0.4%
	東部地域	412	58.7%	9.0%	15.5%	8.0%	6.1%	2.7%
	新川中原地域	428	56.8%	9.6%	16.4%	7.7%	6.5%	3.0%
	西部地域	361	59.0%	9.1%	14.4%	8.3%	7.5%	1.7%
年齢階層	大沢地域	183	61.2%	5.5%	15.8%	7.1%	8.7%	1.6%
	65～69歳	591	68.7%	9.6%	10.5%	5.1%	4.7%	1.4%
	70～74歳	565	60.5%	7.8%	15.4%	8.0%	7.1%	1.2%
	75～79歳	630	60.5%	7.8%	15.9%	6.3%	7.8%	1.7%
	80～89歳	759	52.6%	8.3%	17.8%	8.6%	10.5%	2.2%
90歳以上	167	56.9%	13.2%	11.4%	9.0%	6.6%	3.0%	
家族構成	1人暮らし	630	7.0%	15.1%	37.8%	16.5%	21.1%	2.5%
	夫婦2人暮らし	1,209	78.6%	5.3%	8.0%	3.7%	2.6%	1.7%
	息子・娘との2世帯	423	70.4%	10.4%	8.0%	4.5%	5.4%	1.2%
	その他	409	73.1%	7.3%	6.8%	6.4%	4.6%	1.7%

■共食の頻度別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
毎日ある	1,635	14.7%	8.9%	24.7%	35.4%	41.2%	15.5%	4.3%
週に何度かある	236	15.7%	11.0%	28.0%	39.4%	41.5%	9.3%	4.2%
月に何度かある	408	17.2%	12.3%	30.9%	38.5%	42.4%	14.7%	2.2%
年に何度かある	197	13.7%	8.6%	30.5%	43.7%	42.6%	15.2%	4.6%
ほとんどない	211	22.3%	13.3%	42.7%	50.7%	44.5%	23.2%	6.6%

■無会話の頻度別の要介護リスク該当率

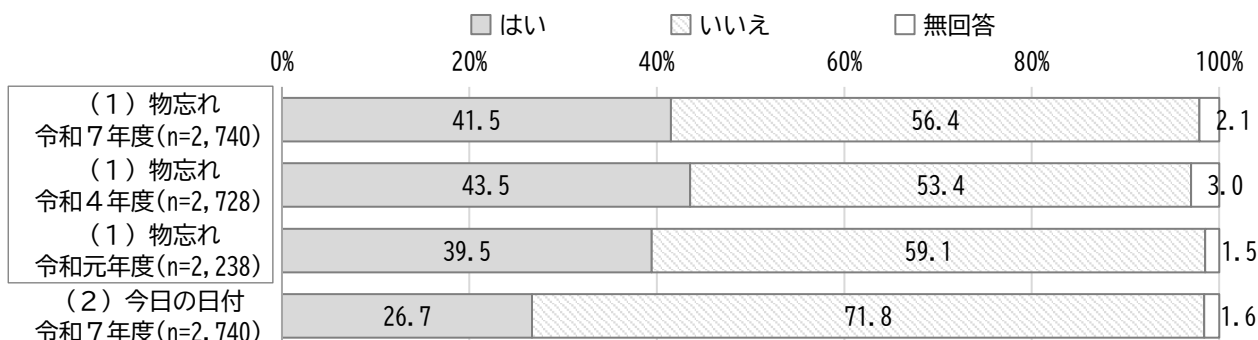
	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
ほとんどない	2,050	14.0%	9.5%	25.3%	34.2%	40.2%	14.6%	3.8%
週に1～2日くらいある	349	16.0%	11.7%	33.8%	46.7%	43.6%	11.7%	3.2%
週に3日以上ある	252	23.8%	9.9%	35.3%	55.2%	48.0%	26.2%	6.0%

5. 毎日の生活について

問4 (1) (2) 認知機能

- (1) 物忘れが多いと感じますか。
 (2) 今日が何月何日かわからない時がありますか。

物忘れについて、「はい」が41.5%、「いいえ」が56.4%であった。今日の日付について、「はい」が26.7%、「いいえ」が71.8%であった。



「物忘れが多いと感じますか」という質問に対して「はい」と回答した認知機能リスクありを認定状況別にみると、「自立」が38.1%、「要支援1・2」では55.8%、「要介護1・2」が59.6%、「要介護3～5」が80.5%と要介護度が高い区分ほど物忘れが増加する傾向がみられた。日常生活圏域別にみると、「大沢」が53.6%と最も高く、「東部」が39.3%と最も低かった。

	人数	物忘れ			今日の日付			
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	
全体	2,740	41.5%	56.4%	2.1%	26.7%	71.8%	1.6%	
認定状況	自立	2,311	38.1%	60.1%	1.8%	22.4%	76.4%	1.2%
	要支援1・2	138	55.8%	39.9%	4.3%	43.5%	52.9%	3.6%
	要介護1・2	151	59.6%	37.7%	2.6%	57.0%	40.4%	2.6%
	要介護3～5	77	80.5%	18.2%	1.3%	70.1%	28.6%	1.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	39.8%	58.3%	1.9%	26.1%	72.5%	1.5%
	連雀地域	534	40.8%	57.7%	1.5%	26.4%	72.5%	1.1%
	井の頭地域	237	42.6%	56.1%	1.3%	25.3%	73.0%	1.7%
	東部地域	412	39.3%	59.0%	1.7%	25.2%	73.1%	1.7%
	新川中原地域	428	41.8%	55.6%	2.6%	28.7%	69.4%	1.9%
	西部地域	361	41.6%	56.0%	2.5%	28.3%	70.4%	1.4%
	大沢地域	183	53.6%	44.3%	2.2%	31.7%	67.8%	0.5%
年齢階層	65～69歳	591	33.7%	65.3%	1.0%	19.0%	80.4%	0.7%
	70～74歳	565	40.5%	57.9%	1.6%	23.5%	75.2%	1.2%
	75～79歳	630	37.9%	60.2%	1.9%	23.2%	75.4%	1.4%
	80～89歳	759	48.2%	49.0%	2.8%	32.4%	65.9%	1.7%
	90歳以上	167	56.9%	39.5%	3.6%	55.1%	41.3%	3.6%
家族構成	1人暮らし	630	41.4%	55.4%	3.2%	25.6%	72.7%	1.7%
	夫婦2人暮らし	1,209	40.0%	58.1%	1.9%	25.6%	73.1%	1.2%
	息子・娘との2世帯	423	44.0%	54.4%	1.7%	30.3%	68.6%	1.2%
	その他	409	45.0%	54.3%	0.7%	28.9%	69.4%	1.7%

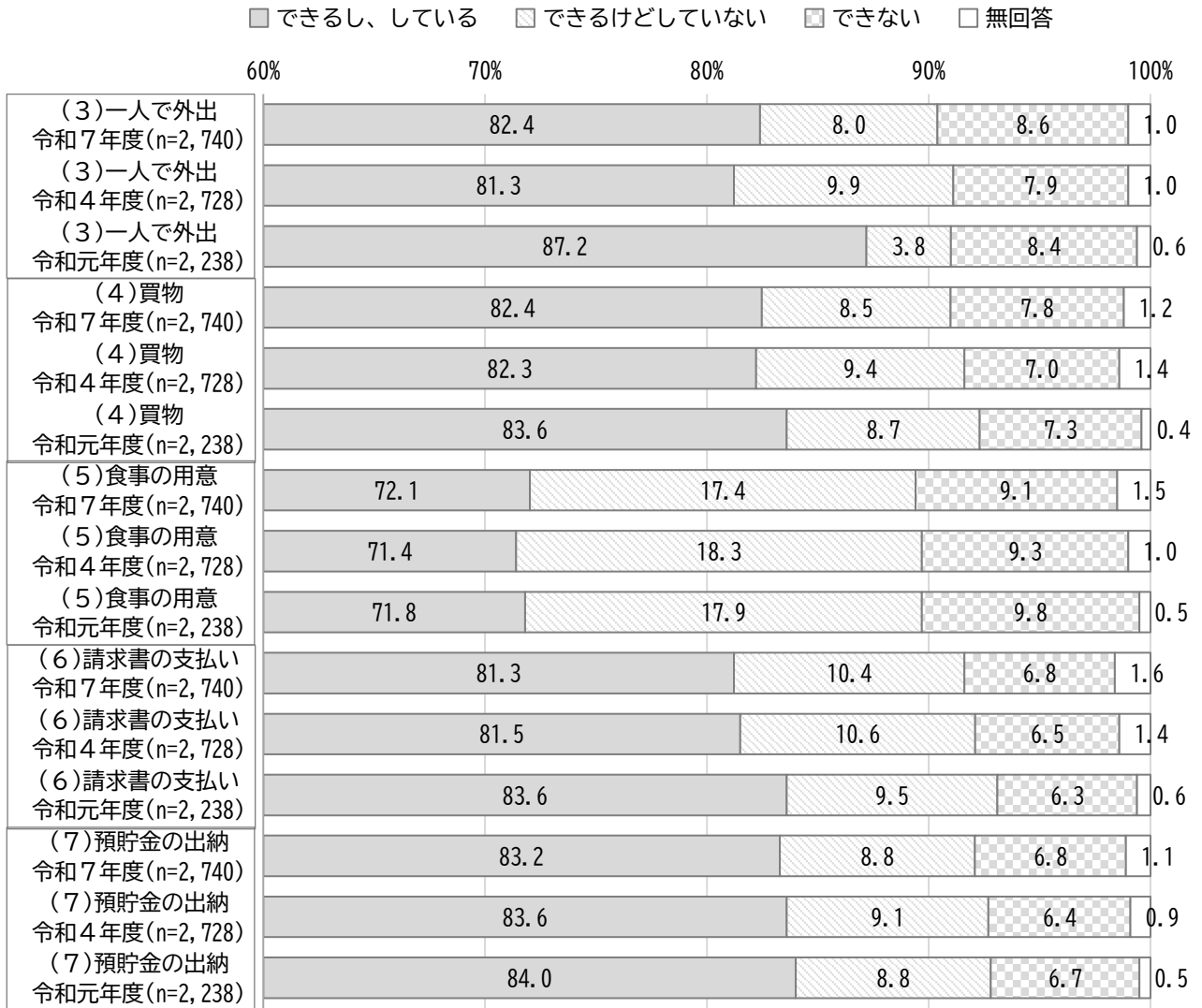
■ 認知機能別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
(1) 物忘れ はい	1,137	23.5%	10.5%	37.0%	49.8%	100.0%	20.3%	6.0%
(1) 物忘れ いいえ	1,545	10.1%	9.6%	21.0%	29.3%	0.0%	12.0%	2.7%
(2) 日付 はい	731	28.5%	11.6%	40.8%	52.1%	70.2%	27.2%	8.9%
(2) 日付 いいえ	1,966	11.0%	9.4%	22.9%	32.8%	31.4%	11.1%	2.4%

問4 (3) ~ (7) 手段的日常生活動作能力

- (3) バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)
- (4) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。
- (5) 自分で食事の用意をしていますか。
- (6) 自分で請求書の支払いをしていますか。
- (7) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

「できない」割合は、「1人で外出」が 8.6%、「買物」が 7.8%、「食事の用意」が 9.1%、「請求書の支払い」が 6.8%、「預貯金の出納」が 6.8%となっている。



注) パーセンテージの小さい項目の数字を見やすくするために横軸の始点を 60%にした。

■手段的日常生活動作能力

「できない」割合を認定状況別にみると、「1人で外出」「買物」「食事の用意」「請求書の支払い」「預貯金の出納」ともに要介護度が高くなるにつれて増加していた。日常生活圏域別にみると、5つの設問に対して「できない」割合は、「大沢」が最も高い項目が多く、「三鷹駅周辺」で最も低い項目が多かった。

		人数	できない				
			1人で外出	買物	食事の用意	請求書の支払	預貯金出納
全体		2,740	8.6%	7.8%	9.1%	6.8%	6.8%
認定状況	自立	2,311	2.1%	1.8%	3.9%	1.7%	1.9%
	要支援1・2	138	18.8%	15.9%	16.7%	9.4%	8.0%
	要介護1・2	151	58.3%	51.0%	44.4%	41.1%	42.4%
	要介護3～5	77	93.5%	92.2%	84.4%	88.3%	84.4%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	7.6%	7.6%	8.3%	5.1%	5.5%
	連雀地域	534	8.2%	7.3%	9.6%	6.9%	6.6%
	井の頭地域	237	9.3%	8.4%	11.0%	7.2%	7.6%
	東部地域	412	7.8%	7.5%	9.7%	6.3%	6.3%
	新川中原地域	428	9.3%	7.9%	8.4%	7.5%	7.5%
	西部地域	361	8.6%	8.0%	9.1%	7.5%	6.9%
	大沢地域	183	10.9%	9.3%	9.8%	9.8%	10.4%

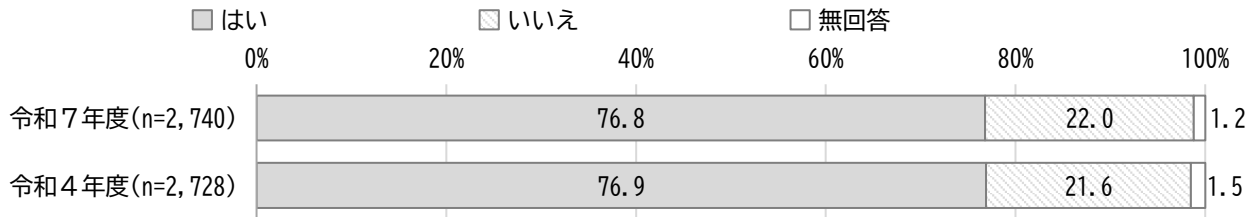
■手段的日常生活動作能力と要介護リスク該当率

		人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体		2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
できない	一人で外出	237	82.3%	16.0%	54.4%	53.2%	67.1%	65.8%	31.2%
	買物	215	83.3%	16.3%	57.7%	55.3%	70.2%	70.2%	35.8%
	食事の用意	248	63.7%	14.9%	50.0%	52.0%	67.7%	53.2%	20.2%
	請求書の支払	185	77.8%	14.6%	58.4%	57.8%	76.2%	64.9%	29.7%
	預貯金出納	187	77.0%	13.9%	59.4%	55.6%	73.8%	63.6%	27.3%

問4(8) 読書習慣

(8) 本や雑誌を読んでいますか。

「はい」が76.8%、「いいえ」が22.0%であった。



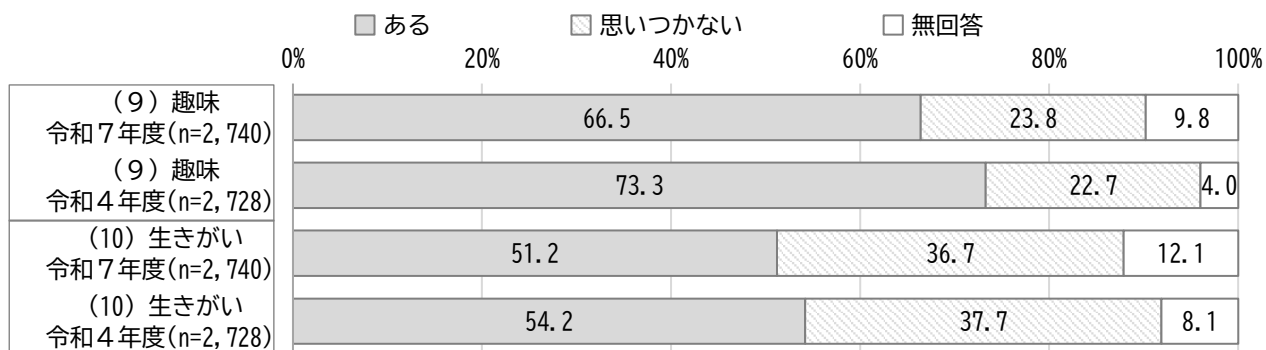
「はい」を日常生活圏域別にみると、「井の頭」が80.6%と最も高く、「西部」が73.4%と最も低かった。

		人数	はい	いいえ	無回答
全体		2,740	76.8%	22.0%	1.2%
認定状況	自立	2,311	80.1%	19.0%	0.9%
	要支援 1・2	138	63.8%	31.9%	4.3%
	要介護 1・2	151	64.9%	35.1%	0.0%
	要介護 3～5	77	26.0%	72.7%	1.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	80.3%	18.6%	1.1%
	連雀地域	534	76.4%	22.8%	0.7%
	井の頭地域	237	80.6%	19.4%	0.0%
	東部地域	412	79.4%	19.2%	1.5%
	新川中原地域	428	73.6%	25.0%	1.4%
	西部地域	361	73.4%	25.5%	1.1%
	大沢地域	183	76.5%	22.4%	1.1%

問4 (9) (10) 趣味と生きがい

(9) 趣味はありますか。
 (10) 生きがいはありますか。

趣味では、「ある」が66.5%、「思いつかない」が23.8%であった。生きがいでは、「ある」が51.2%、「思いつかない」が36.7%であった。令和4年度と比較して趣味がある人の割合は6.8ポイント、また、生きがいのある人の割合は3.0ポイント減少した。



趣味がある人の割合と生きがいがある人の割合、いずれの項目においても要介護度が高くなるにつれてその割合が減少していた。日常生活圏域別にみると、大きな地域差がありいずれの項目においても、「ある」割合は「井の頭」が最も高く、「新川中原」が最も低かった。「井の頭」と「新川中原」の地域差は、趣味で7.9ポイント、生きがいで14.7ポイントの違いがあった。家族構成別にみると、独居高齢者の趣味がある割合が59.2%、生きがいがある割合が43.2%といずれの項目においても最も低かった。

		趣味			生きがい			
		人数	ある	思いつかない	無回答	ある	思いつかない	無回答
全体		2,740	66.5%	23.8%	9.8%	51.2%	36.7%	12.1%
認定状況	自立	2,311	71.5%	20.2%	8.3%	54.9%	34.2%	10.9%
	要支援1・2	138	50.7%	34.1%	15.2%	38.4%	48.6%	13.0%
	要介護1・2	151	33.1%	45.7%	21.2%	25.8%	51.7%	22.5%
	要介護3～5	77	23.4%	68.8%	7.8%	23.4%	67.5%	9.1%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	66.9%	24.6%	8.5%	55.3%	36.4%	8.3%
	連雀地域	534	67.2%	23.8%	9.0%	51.9%	36.1%	12.0%
	井の頭地域	237	70.5%	18.6%	11.0%	59.1%	28.7%	12.2%
	東部地域	412	67.5%	23.8%	8.7%	51.5%	38.6%	10.0%
	新川中原地域	428	62.6%	25.5%	11.9%	44.4%	40.7%	15.0%
	西部地域	361	68.1%	22.7%	9.1%	49.6%	37.4%	13.0%
	大沢地域	183	67.8%	25.1%	7.1%	51.9%	37.7%	10.4%
年齢階層	65～69歳	591	78.3%	18.4%	3.2%	61.6%	33.3%	5.1%
	70～74歳	565	73.1%	20.5%	6.4%	56.8%	35.0%	8.1%
	75～79歳	630	66.2%	24.0%	9.8%	48.1%	39.0%	12.9%
	80～89歳	759	58.9%	26.2%	14.9%	45.7%	36.9%	17.4%
	90歳以上	167	41.9%	41.3%	16.8%	35.3%	46.1%	18.6%
家族構成	1人暮らし	630	59.2%	29.0%	11.7%	43.2%	43.5%	13.3%
	夫婦2人暮らし	1,209	72.4%	19.2%	8.4%	58.1%	31.3%	10.7%
	息子・娘との2世帯	423	62.4%	29.1%	8.5%	47.5%	38.8%	13.7%
	その他	409	67.2%	23.0%	9.8%	50.1%	40.6%	9.3%

■趣味・生きがい有無別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
(9) 趣味あり	1,821	9.6%	9.2%	22.0%	34.3%	37.2%	9.7%	2.1%
(9) 思いつかない	651	30.9%	10.8%	39.8%	48.4%	53.8%	29.3%	9.1%
(10) 生きがいあり	1,404	10.2%	8.5%	21.7%	31.5%	37.5%	9.3%	1.6%
(10) 思いつかない	1,005	22.6%	10.2%	34.8%	47.6%	47.8%	23.5%	7.3%

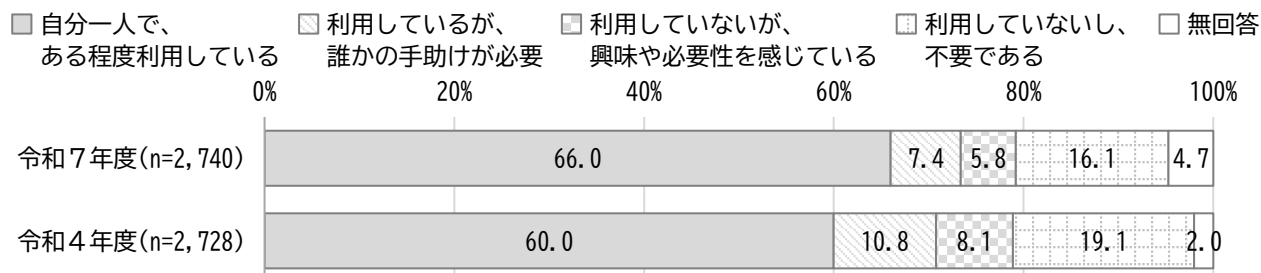
■インターネット利用状況別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
自分一人で、ある程度利用している	1,808	8.4%	9.1%	21.6%	35.5%	37.2%	8.6%	1.2%
利用しているが、誰かの手助けが必要	203	20.7%	11.8%	38.9%	47.8%	55.2%	17.2%	5.4%
利用していないが興味や必要性を感じている	160	26.3%	7.5%	38.1%	43.8%	45.6%	25.0%	10.6%
利用していないし、不要である	440	38.9%	12.5%	43.9%	40.7%	48.9%	38.9%	12.3%

問4 (11) インターネット利用

スマートフォン（スマホ）、タブレット、パソコンを用いてインターネットを利用していますか。

「自分一人で、ある程度利用している」が 66.0%、「利用しているが、誰かの手助けが必要」が 7.4%、「利用していないが、興味や必要性を感じている」が 5.8%、「利用していないし、不要である」が 16.1%であった。「自分一人で、ある程度利用している」の割合は、令和4年度の60.0%より 6.0 ポイント増加した。



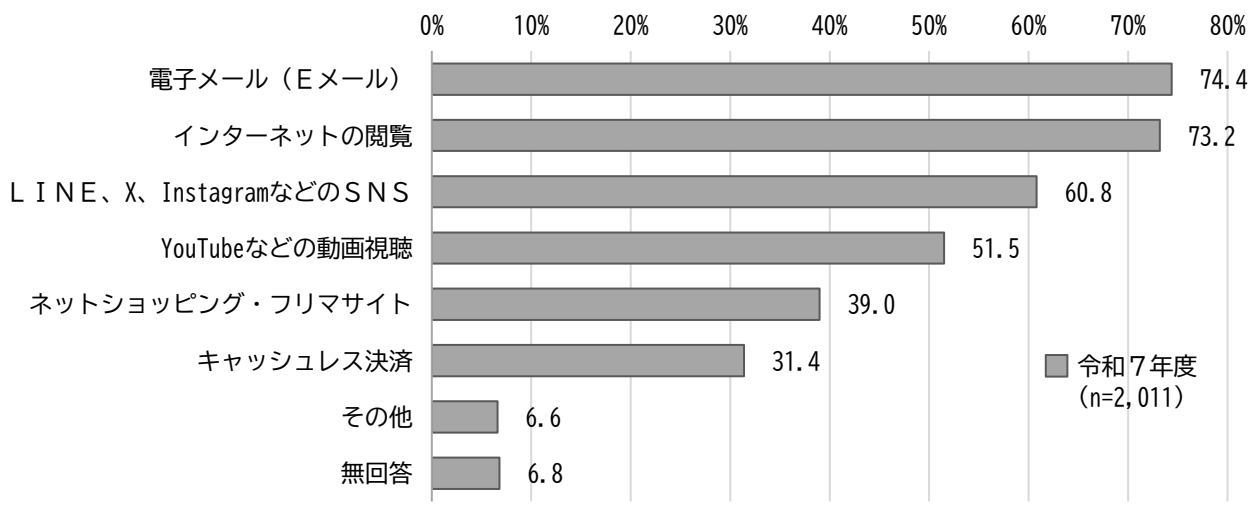
「自分一人で、ある程度利用している」を日常生活圏域別にみると、「三鷹駅周辺」が 71.8%と最も高く、「新川中原」が 59.3%と最も低かった。家族構成別にみると独居高齢者が 57.8%と最も低かった。

		人数	インターネットの利用				
			自分一人で ある程度利用	誰かの手助け で利用	利用しないが 必要性を感じる	利用して いないし不要	無回答
全体		2,740	66.0%	7.4%	5.8%	16.1%	4.7%
認定 状況	自立	2,311	72.8%	7.1%	5.2%	11.1%	3.8%
	要支援 1・2	138	42.8%	10.1%	10.1%	27.5%	9.4%
	要介護 1・2	151	19.2%	7.9%	12.6%	49.0%	11.3%
	要介護 3～5	77	9.1%	5.2%	6.5%	76.6%	2.6%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	71.8%	5.7%	4.4%	13.3%	4.7%
	連雀地域	534	68.0%	6.9%	6.2%	14.4%	4.5%
	井の頭地域	237	70.0%	5.5%	5.1%	16.9%	2.5%
	東部地域	412	65.0%	6.3%	5.8%	18.9%	3.9%
	新川中原地域	428	59.3%	10.0%	7.9%	17.5%	5.1%
	西部地域	361	64.0%	8.3%	5.3%	17.2%	5.3%
年 齢 階 層	65歳～69歳	591	87.0%	5.2%	1.5%	3.7%	2.5%
	70歳～74歳	565	81.1%	5.8%	3.0%	6.5%	3.5%
	75歳～79歳	630	69.2%	9.8%	6.0%	11.9%	3.0%
	80歳～89歳	759	47.4%	8.8%	10.1%	26.1%	7.5%
	90歳以上	167	16.8%	5.4%	9.6%	61.7%	6.6%
家 族 構 成	1人暮らし	630	57.8%	6.3%	7.8%	23.2%	4.9%
	夫婦2人暮らし	1,209	74.5%	6.6%	3.9%	10.3%	4.6%
	息子・娘の2世帯	423	58.4%	9.9%	6.1%	21.7%	3.8%
	その他	409	64.8%	8.3%	8.6%	14.2%	4.2%

問4 (12) スマホやパソコンの利用方法

【問4 (11) でインターネットを利用している方のみ】
 スマートフォン（スマホ）やパソコンをどのように利用していますか。（複数回答）

「電子メール（Eメール）」が 74.4%、「インターネットの閲覧」が 73.2%、「LINE、X、Instagram などの SNS」が 60.8%、「YouTube などの動画視聴」が 51.5%、「ネットショッピング・フリマサイト」が 39.0%、「キャッシュレス決済」が 31.4%、「その他」が 6.6%であった。



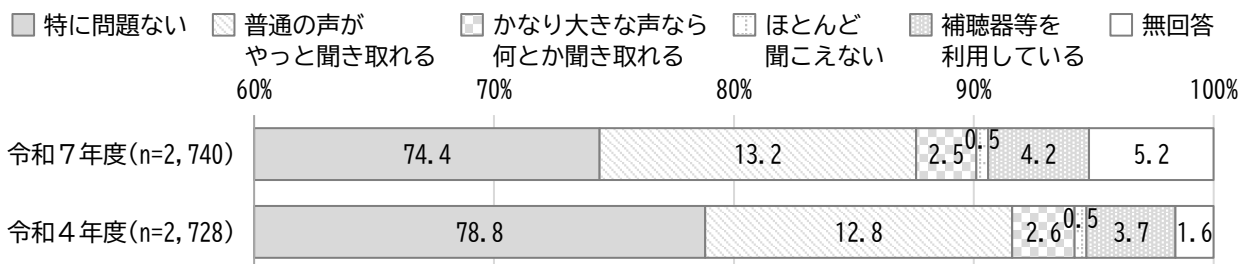
日常生活圏域別にみると、「電子メール（Eメール）」は「井の頭」が 79.3%と最も高く、「新川中原」が 68.7%と最も低かった。

		人数	電子メール (Eメール)	インターネットの閲覧	LINE、X、InstagramなどのSNS	YouTubeなどの動画視聴	ネットショッピング・フリマサイト	キャッシュレス決済	その他	無回答
全体		2,011	74.4%	73.2%	60.8%	51.5%	39.0%	31.4%	6.6%	6.8%
認定状況	自立	1,847	76.4%	75.4%	62.6%	53.4%	41.1%	33.2%	6.0%	6.4%
	要支援 1・2	73	47.9%	54.8%	46.6%	28.8%	16.4%	12.3%	6.8%	9.6%
	要介護 1・2	41	51.2%	43.9%	36.6%	31.7%	12.2%	4.9%	14.6%	12.2%
	要介護 3～5	11	36.4%	36.4%	9.1%	45.5%	27.3%	9.1%	18.2%	9.1%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	366	79.0%	79.2%	61.5%	60.1%	42.6%	33.3%	8.2%	5.5%
	連雀地域	400	74.0%	75.0%	61.0%	52.3%	41.0%	29.0%	5.5%	6.3%
	井の頭地域	179	79.3%	75.4%	63.1%	49.2%	40.8%	32.4%	7.3%	6.7%
	東部地域	294	75.9%	72.4%	63.9%	54.4%	38.4%	36.1%	6.1%	7.8%
	新川中原地域	297	68.7%	70.0%	57.6%	43.8%	36.0%	30.3%	6.7%	7.1%
	西部地域	261	74.7%	72.8%	62.8%	48.3%	36.4%	30.7%	5.4%	6.5%
	大沢地域	140	75.7%	70.0%	57.1%	52.1%	40.7%	33.6%	6.4%	5.0%

問4 (13) 聞き取りづらさ

生活の中で、人の話が聞き取りづらいことがありますか。

「特に問題ない」が 74.4%、「普通の声がやっと聞き取れる」が 13.2%、「かなり大きな声なら何とか聞き取れる」が 2.5%、「ほとんど聞こえない」が 0.5%、「補聴器等を利用している」が 4.2%であった。「特に問題ない」の割合は、令和4年度の 78.8%より 4.4ポイント減少した。



注) パーセンテージの小さい項目の数字を見やすくするために横軸の始点を 60%にした。

「特に問題ない」以外を日常生活圏域別にみると、「新川中原」が 27.7%と最も高く、「三鷹駅周辺」が 23.3%と最も低かった。

		人数	特に問題ない	普通の声がやっと聞き取れる	かなり大きな声なら何とか聞き取れる	ほとんど聞こえない	補聴器等を利用している	無回答
全体		2,740	74.4%	13.2%	2.5%	0.5%	4.2%	5.2%
認定状況	自立	2,311	79.4%	12.5%	1.3%	0.1%	3.3%	3.4%
	要支援 1・2	138	55.1%	18.8%	3.6%	1.4%	15.2%	5.8%
	要介護 1・2	151	40.4%	17.2%	15.2%	0.7%	6.6%	19.9%
	要介護 3～5	77	37.7%	16.9%	13.0%	6.5%	0.0%	26.0%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	76.7%	12.3%	1.1%	0.6%	4.9%	4.4%
	連雀地域	534	76.4%	12.2%	3.0%	0.6%	2.1%	5.8%
	井の頭地域	237	73.8%	12.7%	4.2%	0.8%	4.2%	4.2%
	東部地域	412	74.8%	15.3%	1.9%	0.7%	3.4%	3.9%
	新川中原地域	428	72.2%	15.4%	2.1%	0.2%	4.4%	5.6%
	西部地域	361	73.4%	12.5%	4.4%	0.3%	3.6%	5.8%
	大沢地域	183	72.7%	10.9%	1.6%	0.5%	7.1%	7.1%

■聞き取りづらさ別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
特に問題ない	2,039	9.6%	9.8%	23.4%	35.1%	36.6%	11.2%	2.7%
普通の声がやっと聞き取れる	361	25.2%	8.9%	38.5%	48.2%	53.5%	20.2%	6.1%
かなり大きな声なら何とか聞き取れる	69	62.3%	10.1%	49.3%	42.0%	62.3%	53.6%	20.3%
ほとんど聞こえない	14	57.1%	7.1%	28.6%	50.0%	64.3%	50.0%	7.1%
補聴器等を利用している	114	22.8%	11.4%	34.2%	43.0%	54.4%	23.7%	6.1%

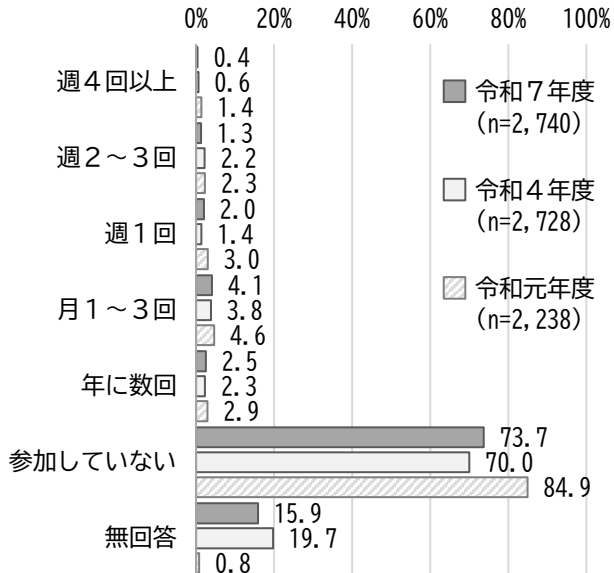
6. 地域での活動について

問5 (1) 社会活動・社会参加

以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

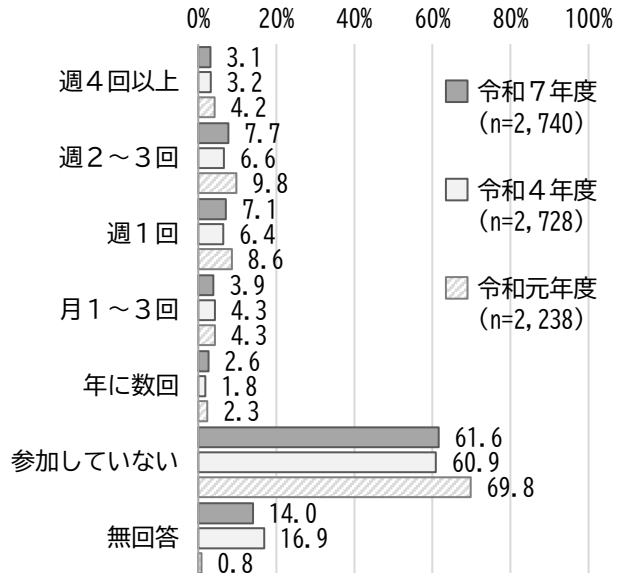
① ボランティアのグループ

年に数回以上参加している割合は 10.3%と、令和4年度の10.3%と同じであった。



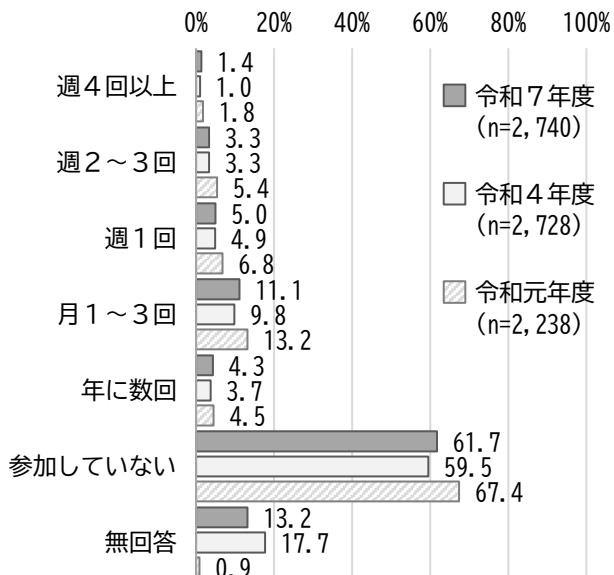
② スポーツ関係のグループ

年に数回以上参加している割合は 24.4%と、令和4年度の22.3%と同程度であった。



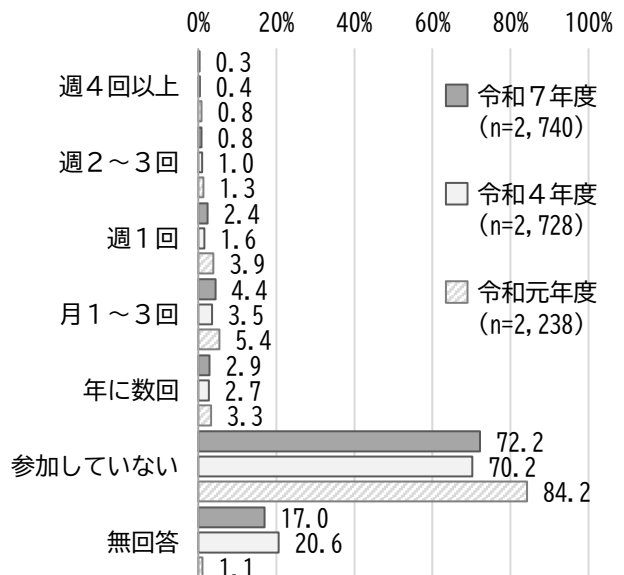
③ 趣味関係のグループ

年に数回以上参加している割合は 25.1%と、令和4年度の22.7%と同程度であった。



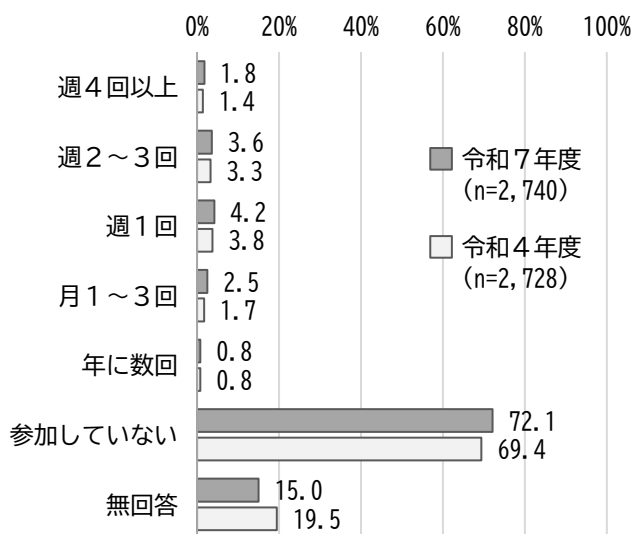
④ 学習・教養サークル

年に数回以上参加している割合は 10.8%と、令和4年度の9.2%と同程度であった。



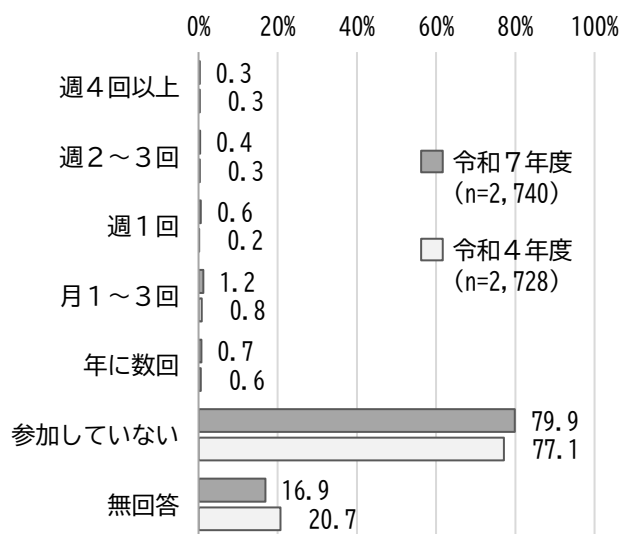
⑤ 通いの場

年に数回以上参加している割合は 12.9%と、令和4年度の 11.0%と同程度であった。



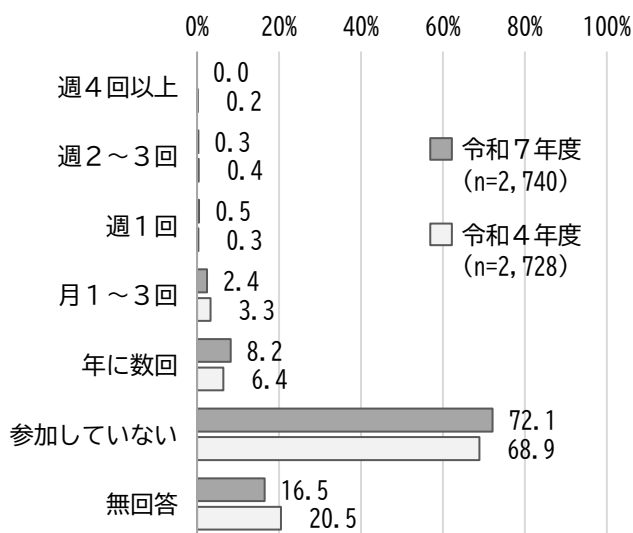
⑥ 老人（シニア）クラブ

年に数回以上参加している割合は3.2%と、令和4年度の 2.2%と同程度であった。



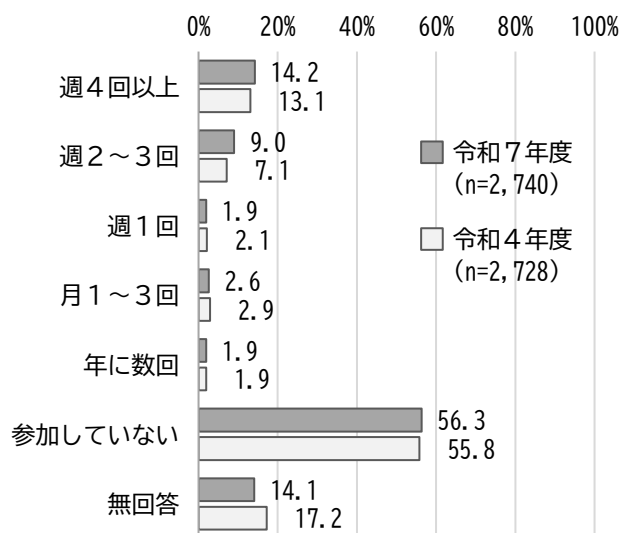
⑦ 町内会・自治会

年に数回以上参加している割合は 11.4%と、令和4年度の 10.6%と同程度であった。



⑧ 収入のある仕事

年に数回以上参加している割合は 29.6%と、令和4年度の 27.1%と同程度であった。



■社会参加・社会活動

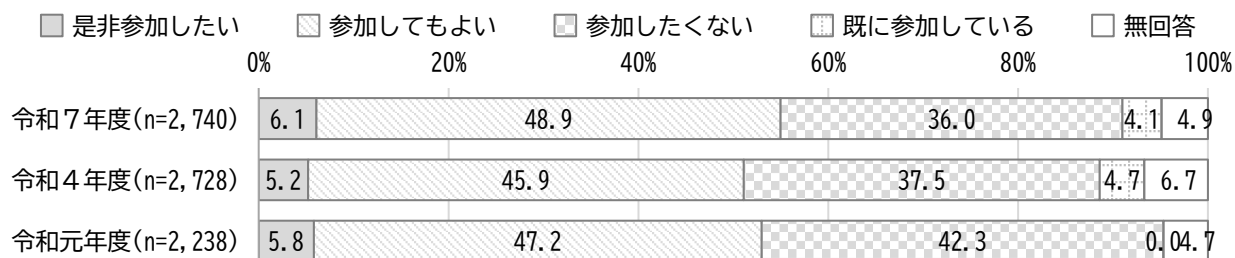
「年に数回以上参加している」を日常生活圏域別にみると「ボランティアのグループ」では「大沢」が13.6%と最も高く、「東部」が8.1%と最も低かった。「スポーツ関係のグループ」では「大沢」が27.8%と最も高く、「井の頭」が22.0%と最も低かった。「趣味関係のグループ」では「三鷹駅周辺」が29.4%と最も高く、「新川中原」が22.8%と最も低かった。「学習・教養サークル」では「井の頭」が15.9%と最も高く、「新川中原」が8.6%と最も低かった。「通いの場」では「西部」が15.0%と最も高く、「三鷹駅周辺」が11.4%と最も低かった。「老人（シニア）クラブ」では「新川中原」が4.5%と最も高く、「井の頭」が2.0%と最も低かった。「町内会・自治会」では「新川中原」が12.8%と最も高く、「井の頭」が8.3%と最も低かった。「収入のある仕事」では「井の頭」が32.9%と最も高く、「西部」が27.1%と最も低かった。

		人数	ボラン ティア	スポー ツ	趣味	学習教 養	通いの 場	シニア クラブ	町内会・ 自治会	収入の ある 仕事
全体		2,740	10.3%	24.4%	25.1%	10.8%	12.9%	3.2%	11.4%	29.6%
認定 状況	自立	2,311	11.4%	27.7%	27.5%	11.7%	11.2%	2.8%	12.3%	33.8%
	要支援 1・2	138	8.0%	4.2%	18.1%	8.7%	27.5%	6.3%	5.8%	4.3%
	要介護 1・2	151	2.0%	3.3%	8.6%	4.6%	29.2%	4.7%	6.7%	3.4%
	要介護 3～5	77	2.6%	2.6%	5.2%	2.6%	6.5%	2.6%	1.3%	2.6%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	9.7%	26.7%	29.4%	13.1%	11.4%	3.7%	11.7%	30.0%
	連雀地域	534	9.7%	25.1%	26.0%	10.6%	13.4%	2.5%	12.0%	29.6%
	井の頭地域	237	13.1%	22.0%	26.2%	15.9%	12.7%	2.0%	8.3%	32.9%
	東部地域	412	8.1%	24.8%	25.3%	12.2%	14.4%	2.1%	11.5%	32.3%
	新川中原地域	428	11.8%	22.9%	22.8%	8.6%	11.9%	4.5%	12.8%	27.6%
	西部地域	361	9.8%	24.6%	23.2%	8.7%	15.0%	3.1%	11.1%	27.1%
	大沢地域	183	13.6%	27.8%	23.4%	8.8%	13.1%	3.8%	11.4%	31.7%
年 齢 階 層	65歳～69歳	591	11.9%	29.1%	26.4%	12.0%	8.0%	0.3%	11.2%	52.4%
	70歳～74歳	565	9.4%	25.3%	25.1%	10.1%	9.8%	1.1%	10.5%	42.0%
	75歳～79歳	630	11.7%	28.4%	26.6%	10.3%	14.7%	3.7%	13.2%	27.0%
	80歳～89歳	759	9.4%	21.1%	26.1%	11.7%	16.4%	6.2%	12.3%	10.6%
	90歳以上	167	6.6%	5.4%	13.2%	7.8%	19.2%	5.4%	4.2%	3.0%
家 族 構 成	1人暮らし	630	9.4%	22.2%	26.0%	11.8%	16.1%	4.7%	12.3%	23.3%
	夫婦2人暮らし	1,209	11.0%	28.4%	27.4%	11.9%	12.0%	2.4%	10.7%	33.8%
	息子・娘の2世帯	423	10.8%	21.0%	21.5%	8.1%	11.9%	3.3%	10.8%	25.9%
	その他	409	9.2%	21.0%	22.5%	9.5%	12.7%	2.4%	11.5%	32.1%
趣味あり		1,821	12.9%	31.8%	34.4%	14.1%	14.5%	3.5%	12.4%	34.4%
思いつかない		651	3.2%	7.6%	2.7%	3.2%	8.8%	2.1%	8.3%	21.6%
生きがいあり		1,404	14.1%	32.2%	35.7%	15.8%	15.6%	3.3%	13.1%	37.3%
思いつかない		1,005	5.4%	15.5%	12.3%	4.9%	9.4%	2.8%	9.6%	22.3%

問5（2）地域づくり活動への参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

「参加してもよい」が 48.9%で最も高く、次いで、「参加したくない」が 36.0%、「是非参加したい」が 6.1%となっている。参加者として「是非参加したい/参加してもよい」の参加意向のある割合は 55.0%と令和4年度の 51.1%より 3.9 ポイント増加した。



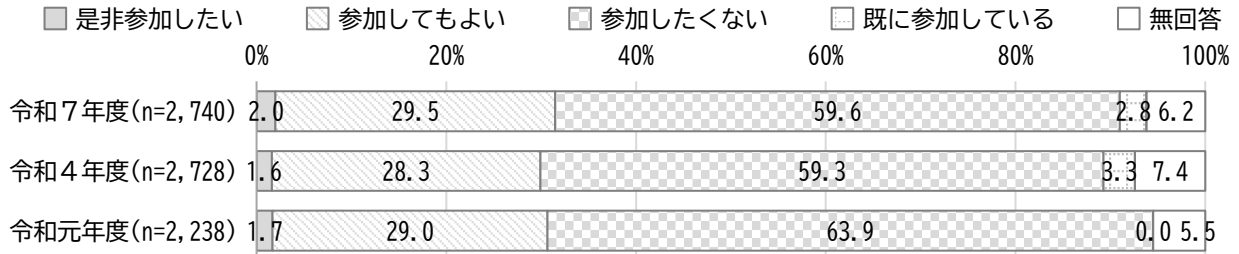
「是非参加したい/参加してもよい」の参加意向のある割合を認定状況別にみると、「自立」が 57.9%、「要支援1・2」が 44.2%、「要介護1・2」が 37.1%、「要介護3～5」が 20.8%であった。日常生活圏域別にみると、「連雀」が 57.9%と最も高く、「井の頭」が 49.8%と最も低かった。

		人数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体		2,740	6.1%	48.9%	36.0%	4.1%	4.9%
認定状況	自立	2,311	6.1%	51.8%	34.4%	4.2%	3.5%
	要支援1・2	138	6.5%	37.7%	41.3%	8.0%	6.5%
	要介護1・2	151	4.6%	32.5%	49.0%	0.0%	13.9%
	要介護3～5	77	2.6%	18.2%	59.7%	1.3%	18.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	4.9%	49.6%	38.1%	3.2%	4.2%
	連雀地域	534	7.5%	50.4%	35.0%	3.4%	3.7%
	井の頭地域	237	5.5%	44.3%	40.1%	5.1%	5.1%
	東部地域	412	4.9%	51.7%	34.0%	4.1%	5.3%
	新川中原地域	428	5.4%	47.9%	36.0%	6.1%	4.7%
	西部地域	361	8.6%	47.6%	35.7%	4.4%	3.6%
	大沢地域	183	4.4%	48.6%	37.7%	2.2%	7.1%

問5（3）地域づくり活動の企画運営意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

「参加したくない」が 59.6%で最も高く、次いで、「参加してもよい」が 29.5%、「既に参加している」が 2.8%となっている。企画・運営（お世話役）として「是非参加したい/参加してもよい」の参加意向のある割合は 31.5%と令和4年度の 29.9%と同程度であった。



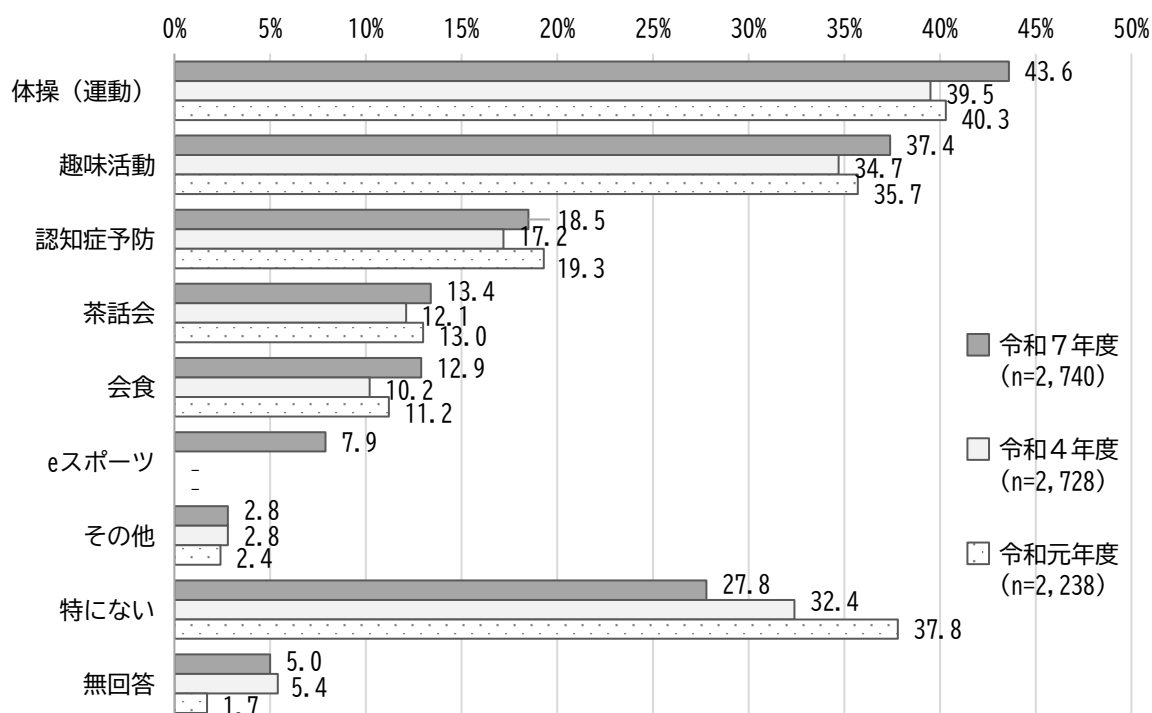
「是非参加したい/参加してもよい」の参加意向のある割合を認定状況別にみると、「自立」が 33.6%、「要支援1・2」が 14.4%、「要介護1・2」が 19.2%、「要介護3～5」が 11.7%であった。日常生活圏域別にみると、「三鷹駅周辺」が 33.3%と最も高く、「井の頭」が 28.7%と最も低かった。

		人数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体		2,740	2.0%	29.5%	59.6%	2.8%	6.2%
認定状況	自立	2,311	1.9%	31.7%	58.7%	3.0%	4.7%
	要支援1・2	138	1.4%	13.0%	75.4%	3.6%	6.5%
	要介護1・2	151	2.0%	17.2%	63.6%	0.0%	17.2%
	要介護3～5	77	1.3%	10.4%	68.8%	2.6%	16.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	1.7%	31.6%	59.5%	2.1%	5.1%
	連雀地域	534	1.3%	31.3%	60.1%	2.8%	4.5%
	井の頭地域	237	2.5%	26.2%	59.5%	5.5%	6.3%
	東部地域	412	1.0%	31.1%	58.3%	2.2%	7.5%
	新川中原地域	428	1.4%	28.3%	62.9%	2.8%	4.7%
	西部地域	361	3.3%	27.4%	60.4%	2.5%	6.4%
	大沢地域	183	4.4%	26.2%	57.4%	3.3%	8.7%

問5（4）「通いの場」への希望

介護予防や健康維持のために、どのような「通いの場」があれば良いと思いますか。（複数回答）

「体操（運動）」が43.6%で最も高く、次いで、「趣味活動」が37.4%、「特にない」が27.8%となっている。「体操（運動）」は令和4年度の39.5%より4.1ポイント増加した。



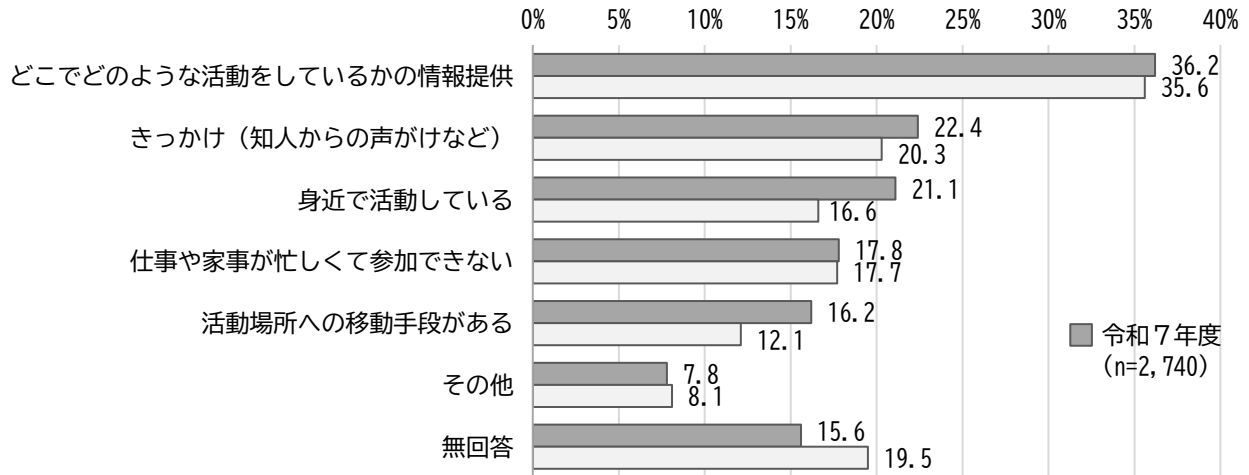
認定状況別にみると、「自立」及び「要支援1・2」では「体操」「趣味活動」「認知症予防」の順に希望者の割合が高かった。要介護度が高くなるにつれて「体操」「趣味活動」「茶話会」「会食」の割合が低くなった。

		人数	体操 (運動)	会食	茶話会	認知症 予防	趣味 活動	eスポー ツ	その他	特にな い	無回答
全体		2,740	43.6%	12.9%	13.4%	18.5%	37.4%	7.9%	2.8%	27.8%	5.0%
認定 状況	自立	2,311	46.2%	13.0%	13.3%	18.2%	40.5%	8.4%	2.6%	26.6%	3.9%
	要支援1・2	138	35.5%	18.1%	16.7%	21.0%	22.5%	2.9%	4.3%	30.4%	6.5%
	要介護1・2	151	26.5%	10.6%	15.9%	23.2%	19.9%	4.6%	2.6%	33.1%	13.9%
	要介護3～5	77	15.6%	3.9%	3.9%	15.6%	14.3%	3.9%	6.5%	53.2%	10.4%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	42.8%	12.5%	13.3%	16.5%	41.7%	8.9%	4.0%	28.6%	4.0%
	連雀地域	534	43.3%	12.9%	13.3%	20.2%	40.6%	5.8%	1.9%	28.5%	3.9%
	井の頭地域	237	41.4%	12.7%	11.4%	16.0%	35.0%	9.7%	2.5%	30.0%	5.9%
	東部地域	412	48.5%	12.6%	13.8%	18.2%	37.4%	6.8%	2.4%	25.0%	4.9%
	新川中原地域	428	42.5%	14.5%	16.4%	18.9%	33.4%	8.2%	3.0%	29.7%	4.0%
	西部地域	361	41.3%	13.0%	12.7%	21.6%	37.4%	10.8%	3.6%	25.8%	5.0%
	大沢地域	183	46.4%	11.5%	9.3%	16.9%	34.4%	5.5%	2.7%	28.4%	6.0%

問5（5）「通いの場」への参加条件

「通いの場」にどのような条件があれば参加したいですか。（複数回答）

「どこでどのような活動をしているかの情報提供」が36.2%で最も高く、次いで、「きっかけ（知人からの声かけなど）」が22.4%、「身近で活動している」が21.1%となっている。「身近で活動している」は令和4年度の16.6%より4.5ポイント増加した。



認定状況別にみると、「要支援1・2」「要介護1・2」及び「要介護3～5」では「活動場所への移動手段がある」が最も高く、「自立」では「どこでどのような活動をしているかの情報提供」が最も高かった。

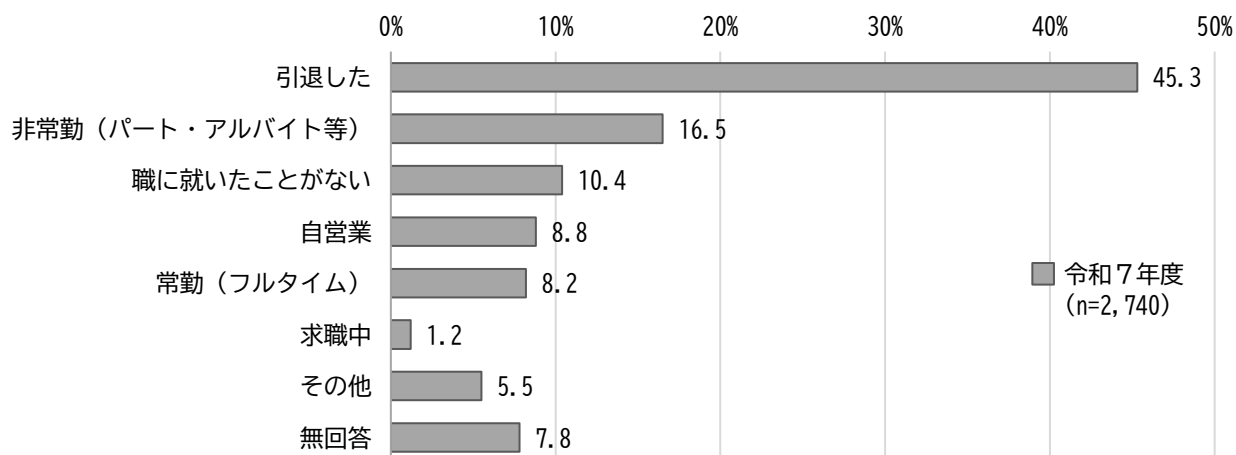
		人数	身近で活動している	きっかけ	どこでどのような活動をしているかの情報提供	活動場所への移動手段がある	仕事や家事が忙しくて参加できない	その他	無回答
全体		2,740	21.1%	22.4%	36.2%	16.2%	17.8%	7.8%	15.6%
認定状況	自立	2,311	22.7%	23.3%	39.7%	14.7%	19.8%	6.5%	13.0%
	要支援1・2	138	12.3%	21.0%	19.6%	23.2%	8.7%	10.9%	27.5%
	要介護1・2	151	10.6%	14.6%	14.6%	29.1%	4.6%	15.9%	31.8%
	要介護3～5	77	6.5%	10.4%	10.4%	23.4%	3.9%	31.2%	29.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	19.1%	19.3%	38.8%	13.6%	20.8%	8.5%	14.2%
	連雀地域	534	19.5%	26.2%	40.6%	15.5%	13.5%	7.7%	15.7%
	井の頭地域	237	23.6%	18.6%	33.8%	16.5%	19.0%	5.9%	17.7%
	東部地域	412	21.6%	22.6%	36.7%	18.7%	18.9%	9.2%	13.3%
	新川中原地域	428	21.5%	25.0%	30.8%	15.7%	18.7%	9.3%	15.2%
	西部地域	361	21.3%	21.3%	37.4%	16.3%	16.9%	7.5%	15.2%
	大沢地域	183	21.9%	20.2%	36.1%	20.8%	19.1%	5.5%	19.1%

7. 就労について

問6 (1) 就労状態

現在のあなたの就労状態はどれですか。(複数回答)

「引退した」が45.3%で最も高く、次いで、「非常勤(パート・アルバイト等)」が16.5%、「職に就いたことがない」が10.4%となっている。



「常勤」「非常勤」又は「自営業」の働いている人の割合を認定状況別にみると、「自立」が38.1%、「要支援1・2」が9.4%、「要介護1・2」が2.0%、「要介護3～5」が5.2%であった。日常生活圏域別にみると、「東部」が35.2%と最も高く、「西部」が32.1%と最も低かった。

		人数	職に就いたことがない	引退した	常勤(フルタイム)	非常勤(パート・アルバイト等)	自営業	求職中	その他	無回答
全体		2,740	10.4%	45.3%	8.2%	16.5%	8.8%	1.2%	5.5%	7.8%
認定状況	自立	2,311	9.2%	44.1%	9.4%	19.0%	9.7%	1.4%	5.2%	6.0%
	要支援1・2	138	19.6%	49.3%	2.9%	0.0%	6.5%	0.0%	6.5%	19.6%
	要介護1・2	151	20.5%	55.0%	0.0%	0.7%	1.3%	0.7%	5.3%	17.9%
	要介護3～5	77	10.4%	57.1%	0.0%	1.3%	3.9%	0.0%	13.0%	15.6%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	10.2%	47.5%	9.3%	13.3%	10.6%	0.6%	5.9%	5.9%
	連雀地域	534	8.8%	47.2%	8.6%	17.4%	8.2%	0.7%	4.7%	7.7%
	井の頭地域	237	11.4%	46.8%	9.3%	13.5%	11.4%	1.3%	4.6%	5.1%
	東部地域	412	9.0%	45.4%	8.5%	18.7%	8.0%	1.2%	4.6%	8.0%
	新川中原地域	428	11.4%	42.3%	7.0%	18.5%	7.9%	2.6%	7.5%	7.9%
	西部地域	361	12.7%	43.5%	7.2%	16.3%	8.6%	0.8%	6.4%	8.6%
	大沢地域	183	9.3%	43.7%	7.1%	18.0%	8.2%	1.6%	4.4%	12.0%

■就労状況別の要介護リスク該当率

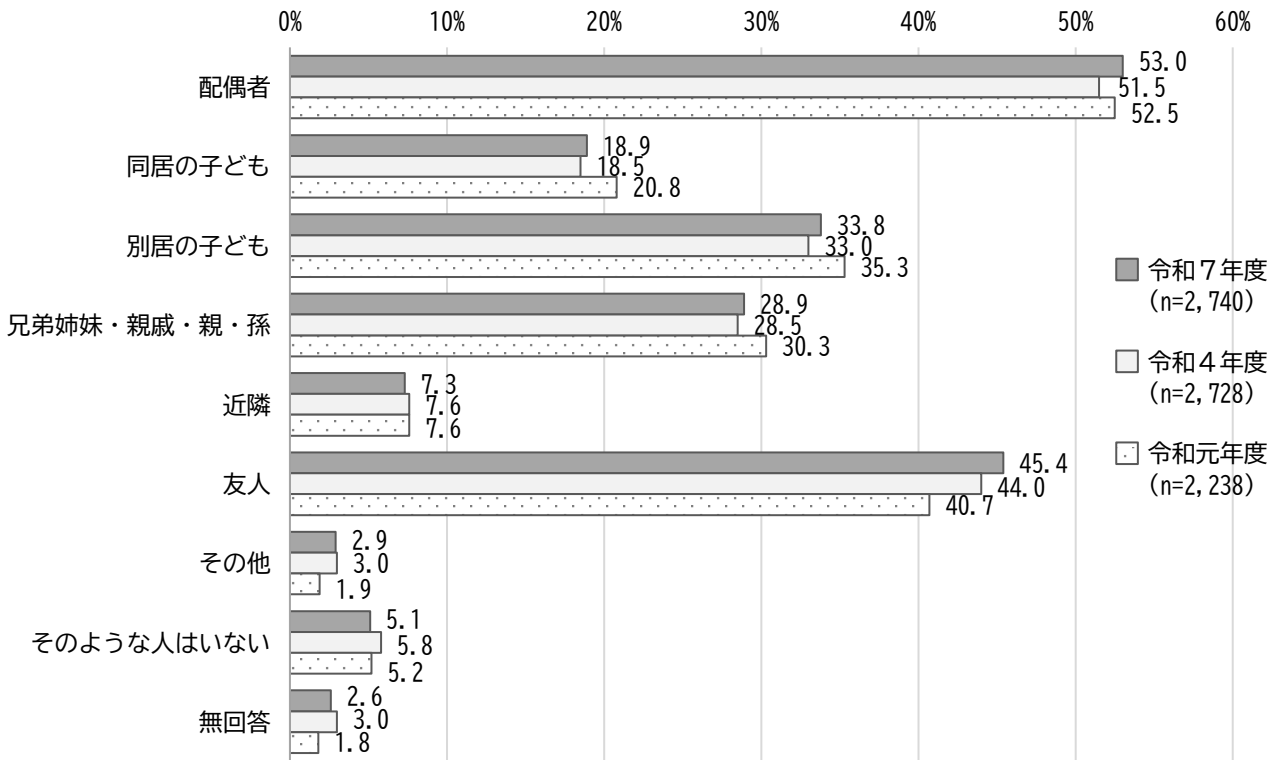
	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
職に就いたことがない	285	23.9%	11.6%	37.2%	43.5%	46.7%	20.7%	6.3%
引退した	1,240	17.9%	10.9%	29.2%	39.2%	44.3%	17.9%	4.9%
常勤(フルタイム)	226	1.8%	7.5%	15.9%	29.2%	32.7%	3.1%	0.0%
非常勤(パート等)	451	3.1%	9.1%	21.7%	33.3%	33.3%	3.5%	0.9%
自営業	242	7.4%	5.4%	24.0%	33.5%	42.6%	15.7%	2.1%
求職中	34	8.8%	8.8%	26.5%	41.2%	47.1%	11.8%	0.0%
その他	150	24.7%	9.3%	24.7%	44.0%	45.3%	22.7%	4.7%

8. たすけあいについて

問7(1) 情緒的支援者(受領)

あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(複数回答)

「配偶者」が53.0%で最も高く、次いで、「友人」が45.4%、「別居の子ども」が33.8%となっている。「心配事や愚痴を聞いてくれる人」が「いる以外」の割合は7.7%と令和4年度の8.8%と同程度であった。



■情緒的支援者（受領）

「心配事や愚痴を聞いてくれる人」が「いる以外」の割合を認定状況別にみると、「自立」が7.1%、「要支援1・2」が4.4%、「要介護1・2」が14.6%、「要介護3～5」が14.3%と、「要介護1・2」「要介護3～5」の割合が比較的高かった。日常生活圏域別にみると、「三鷹駅周辺」が9.1%と最も高く、「大沢」が6.6%と最も低かった。

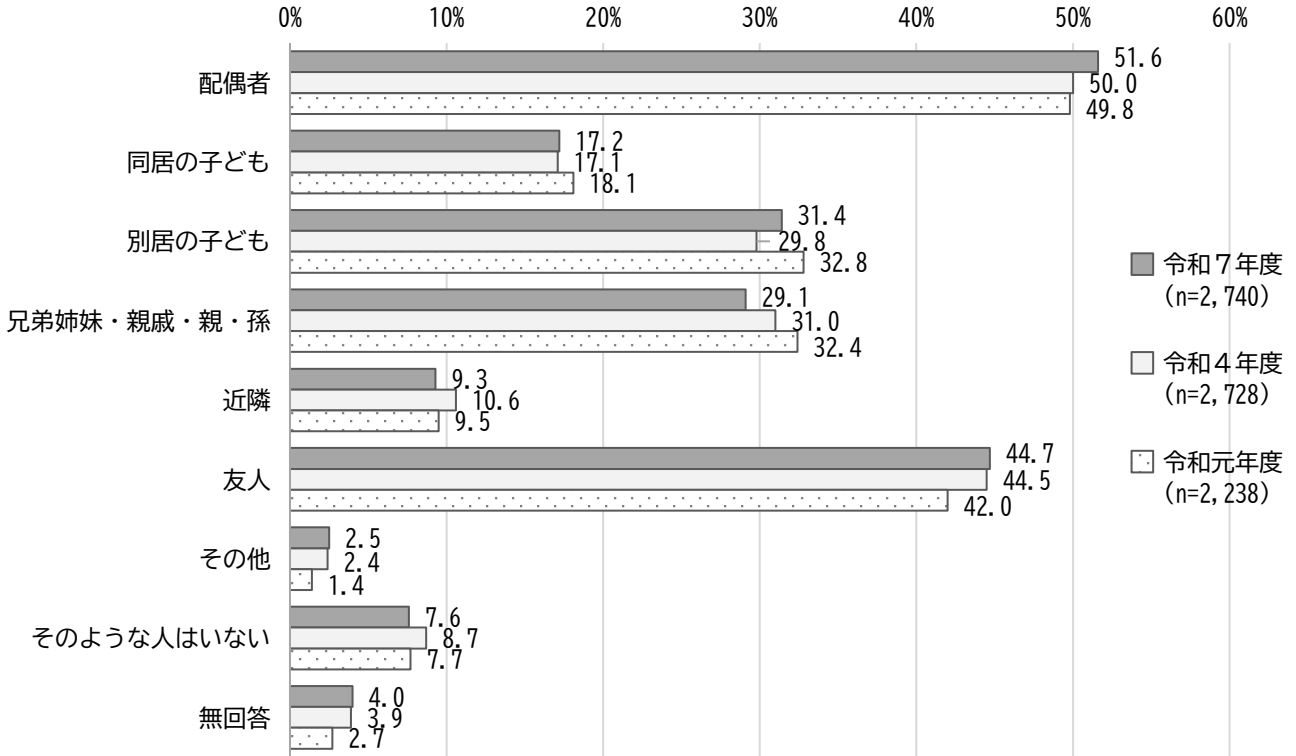
独居高齢者の「心配事や愚痴を聞いてくれる人」をみると、「友人」が51.7%となっている一方、「いる以外」15.4%と孤立している層もみられた。

		人数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	その他の親族	近隣	友人	その他	いない	無回答
全体		2,740	53.0%	18.9%	33.8%	28.9%	7.3%	45.4%	2.9%	5.1%	2.6%
認定状況	自立	2,311	56.5%	18.2%	33.3%	30.2%	7.4%	48.7%	2.3%	5.1%	2.0%
	要支援1・2	138	37.0%	17.4%	42.8%	29.0%	8.0%	37.7%	2.2%	2.2%	2.2%
	要介護1・2	151	28.5%	25.8%	35.1%	20.5%	4.6%	21.9%	6.6%	6.0%	8.6%
	要介護3～5	77	31.2%	29.9%	35.1%	13.0%	2.6%	6.5%	14.3%	7.8%	6.5%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	54.4%	17.2%	29.9%	26.3%	4.0%	47.0%	3.0%	5.9%	3.2%
	連雀地域	534	51.9%	16.7%	39.1%	29.6%	6.6%	44.6%	2.8%	5.1%	2.4%
	井の頭地域	237	54.4%	21.5%	35.0%	30.4%	8.4%	45.6%	3.4%	5.5%	2.1%
	東部地域	412	51.5%	17.2%	33.7%	32.3%	9.2%	45.6%	4.9%	4.6%	2.4%
	新川中原地域	428	51.9%	19.9%	30.4%	29.2%	8.6%	45.6%	1.9%	4.4%	2.3%
	西部地域	361	56.0%	19.9%	33.0%	28.5%	8.9%	44.6%	2.5%	5.5%	1.9%
	大沢地域	183	49.7%	26.8%	37.7%	28.4%	6.0%	45.9%	2.2%	3.3%	3.3%
年齢階層	65歳～69歳	591	65.7%	17.8%	33.5%	31.0%	6.1%	53.5%	3.9%	5.6%	0.7%
	70歳～74歳	565	58.4%	14.2%	30.4%	31.5%	7.3%	54.0%	2.7%	4.2%	1.4%
	75歳～79歳	630	56.0%	18.1%	33.7%	29.8%	7.6%	47.1%	2.4%	4.6%	2.4%
	80歳～89歳	759	43.3%	21.6%	35.4%	26.6%	7.9%	37.4%	1.4%	5.7%	4.0%
	90歳以上	167	22.8%	29.3%	40.7%	19.8%	7.2%	20.4%	9.6%	5.4%	7.2%
家族構成	1人暮らし	630	1.4%	0.6%	36.3%	34.8%	11.1%	51.7%	4.4%	12.4%	3.0%
	夫婦2人暮らし	1,209	85.2%	2.9%	39.8%	25.9%	5.3%	46.7%	1.3%	2.7%	2.0%
	息子・娘の2世帯	423	44.4%	64.3%	23.9%	27.4%	7.6%	38.5%	2.8%	3.3%	3.3%
	その他	409	47.4%	44.7%	23.2%	30.3%	5.9%	40.6%	4.9%	3.2%	2.7%

問7(2) 情緒的支援者(授与)

反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(複数回答)

「配偶者」が51.6%で最も高く、次いで、「友人」が44.7%、「別居の子ども」が31.4%となっている。「心配事や愚痴を聞いてあげる人」が「いる以外」の割合は11.6%と令和4年度の12.6%と同程度であった。



■情緒的支援者（授与）

「心配事や愚痴を聞いてあげる人」が「いる以外」の割合を認定状況別にみると、「自立」が8.5%、「要支援1・2」が15.2%、「要介護1・2」が27.8%、「要介護3～5」が48.1%と、「要介護3～5」の割合が比較的高かった。日常生活圏域別にみると、「大沢」が13.1%と最も高く、「東部」が10.0%と最も低かった。

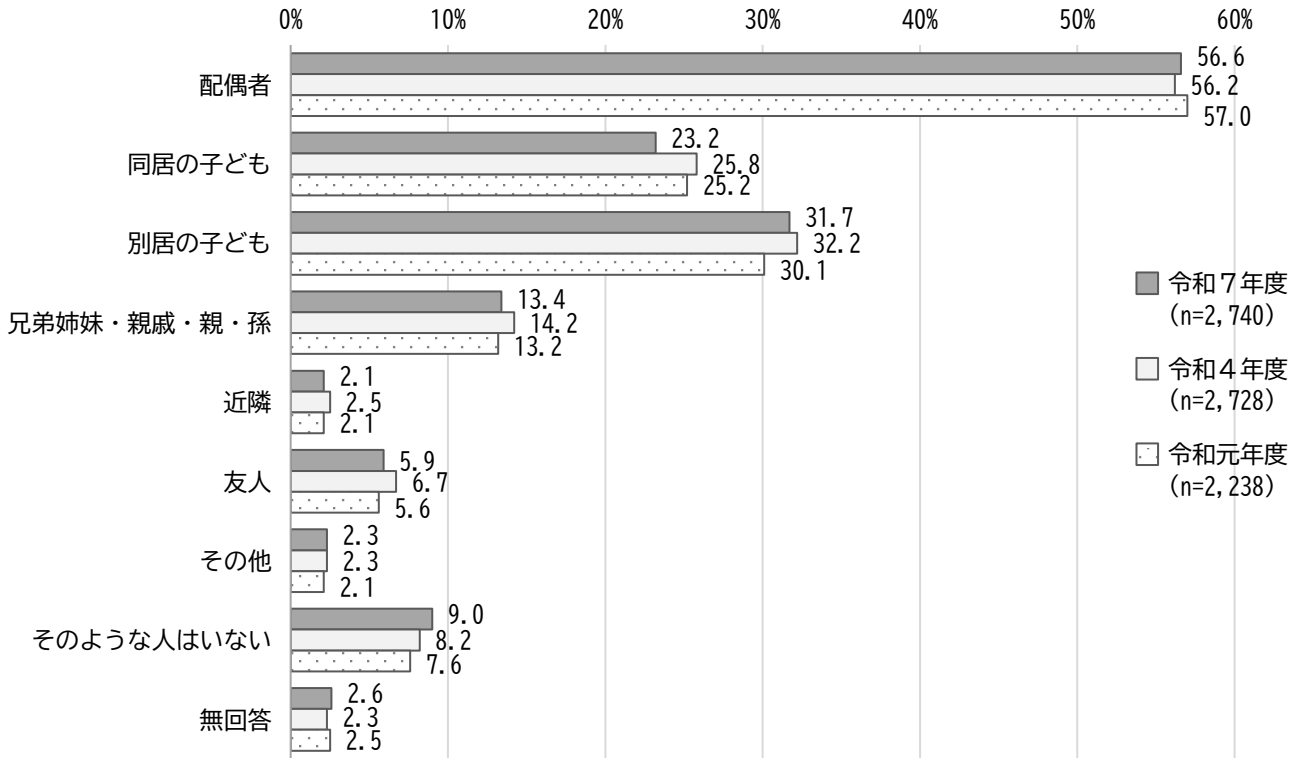
独居高齢者の「心配事や愚痴を聞いてあげる人」をみると、「友人」が53.0%となっている一方、「いる以外」21.7%と孤立している層もみられた。

		人数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	その他の親族	近隣	友人	その他	いない	無回答
全体		2,740	51.6%	17.2%	31.4%	29.1%	9.3%	44.7%	2.5%	7.6%	4.0%
認定状況	自立	2,311	55.9%	17.3%	32.8%	31.2%	9.8%	48.5%	2.3%	5.9%	2.6%
	要支援1・2	138	31.9%	17.4%	33.3%	23.9%	5.8%	31.9%	2.2%	9.4%	5.8%
	要介護1・2	151	25.2%	18.5%	21.2%	17.9%	7.9%	19.2%	4.6%	17.9%	9.9%
	要介護3～5	77	23.4%	15.6%	16.9%	9.1%	1.3%	7.8%	3.9%	31.2%	16.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	54.9%	17.4%	30.1%	29.9%	7.0%	49.2%	2.3%	8.1%	3.2%
	連雀地域	534	51.9%	16.7%	37.5%	29.4%	8.6%	43.3%	2.8%	7.7%	4.1%
	井の頭地域	237	52.3%	21.1%	29.5%	27.8%	10.5%	46.8%	3.0%	8.4%	3.8%
	東部地域	412	51.5%	14.3%	30.8%	35.0%	10.2%	45.9%	4.4%	6.6%	3.4%
	新川中原地域	428	48.6%	17.8%	28.3%	27.6%	11.4%	44.6%	1.6%	6.8%	4.2%
	西部地域	361	53.2%	15.5%	30.5%	26.9%	10.2%	41.8%	1.4%	7.5%	3.6%
	大沢地域	183	47.0%	22.4%	29.5%	26.2%	8.2%	41.0%	2.2%	8.2%	4.9%
年齢階層	65歳～69歳	591	65.5%	20.0%	34.5%	34.3%	7.1%	53.3%	3.9%	4.7%	0.7%
	70歳～74歳	565	58.9%	13.8%	32.6%	31.3%	9.7%	52.6%	2.1%	5.1%	1.4%
	75歳～79歳	630	53.7%	16.5%	31.6%	29.0%	11.9%	46.5%	2.2%	5.9%	3.8%
	80歳～89歳	759	41.2%	18.3%	28.2%	26.6%	9.4%	37.8%	2.0%	10.4%	6.2%
	90歳以上	167	19.2%	17.4%	31.1%	15.6%	6.0%	16.2%	3.0%	18.0%	13.2%
家族構成	1人暮らし	630	1.1%	0.8%	27.5%	32.4%	12.2%	53.0%	3.7%	17.3%	4.4%
	夫婦2人暮らし	1,209	82.7%	3.0%	39.5%	27.5%	7.8%	43.7%	1.7%	3.5%	2.9%
	息子・娘の2世帯	423	44.2%	54.6%	22.2%	27.9%	9.2%	39.5%	1.9%	6.6%	5.4%
	その他	409	46.9%	44.7%	23.7%	30.3%	8.6%	42.8%	4.4%	4.9%	3.4%

問7(3) 手段的支援者(受領)

あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(複数回答)

「配偶者」が56.6%で最も高く、次いで、「別居の子ども」が31.7%、「同居の子ども」が23.2%となっている。「看病や世話をしてくれる人」が「いる以外」の割合は11.6%と令和4年度の10.5%と同程度であった。



■手段的支援者（受領）

「看病や世話をしてくれる人」が「いる以外」の割合を認定状況別にみると、「自立」が11.2%、「要支援1・2」が14.5%、「要介護1・2」が15.9%、「要介護3～5」が3.9%と、「要介護1・2」の割合が比較的高かった。日常生活圏域別にみると、「新川中原」が13.0%と最も高く、「大沢」が7.6%と最も低かった。

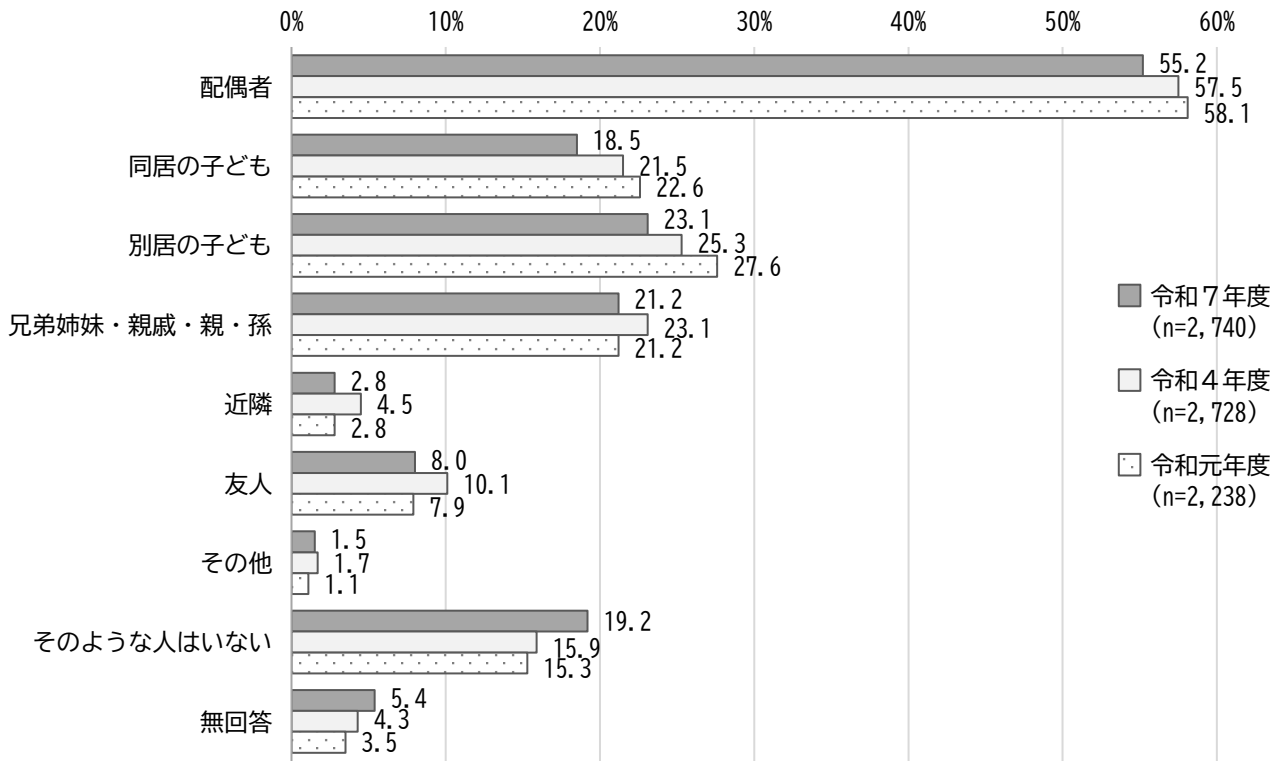
独居高齢者の「看病や世話をしてくれる人」をみると、「別居の子ども」が39.4%となっている一方、「いる以外」が33.7%と孤立している層もみられた。

		人数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	その他の親族	近隣	友人	その他	いない	無回答
全体		2,740	56.6%	23.2%	31.7%	13.4%	2.1%	5.9%	2.3%	9.0%	2.6%
認定状況	自立	2,311	60.5%	22.8%	30.6%	13.8%	1.9%	6.4%	1.1%	9.1%	2.1%
	要支援1・2	138	38.4%	19.6%	44.2%	11.6%	4.3%	2.9%	2.9%	8.7%	5.8%
	要介護1・2	151	30.5%	29.1%	41.1%	11.9%	1.3%	2.6%	9.3%	10.6%	5.3%
	要介護3～5	77	33.8%	33.8%	27.3%	14.3%	1.3%	0.0%	26.0%	2.6%	1.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	58.5%	21.2%	29.2%	12.9%	1.7%	4.9%	1.9%	9.7%	3.0%
	連雀地域	534	56.6%	21.0%	33.5%	13.3%	2.1%	5.6%	2.8%	8.4%	2.1%
	井の頭地域	237	58.2%	24.5%	30.0%	13.5%	3.4%	5.5%	1.7%	7.2%	2.5%
	東部地域	412	55.6%	21.6%	31.3%	15.3%	1.9%	7.5%	2.7%	9.5%	3.4%
	新川中原地域	428	54.0%	25.7%	32.5%	14.0%	1.6%	7.0%	3.3%	10.7%	2.3%
	西部地域	361	58.4%	24.7%	29.4%	13.3%	3.0%	5.3%	1.7%	8.9%	1.9%
	大沢地域	183	55.7%	30.6%	38.3%	13.1%	1.1%	4.4%	1.6%	6.0%	1.6%
年齢階層	65歳～69歳	591	70.2%	19.6%	25.9%	13.2%	1.9%	5.9%	1.2%	9.5%	0.7%
	70歳～74歳	565	63.5%	17.7%	26.5%	16.1%	1.9%	6.7%	0.7%	10.8%	1.2%
	75歳～79歳	630	59.8%	21.7%	31.7%	13.8%	2.5%	7.6%	1.1%	7.9%	3.0%
	80歳～89歳	759	46.1%	29.1%	37.5%	11.5%	1.6%	4.9%	2.8%	8.7%	3.7%
	90歳以上	167	22.2%	33.5%	44.3%	13.2%	3.6%	1.2%	15.0%	6.0%	5.4%
家族構成	1人暮らし	630	1.0%	1.3%	39.4%	24.9%	4.9%	14.3%	4.3%	29.4%	4.3%
	夫婦2人暮らし	1,209	91.9%	2.9%	37.1%	7.7%	1.5%	3.7%	0.7%	1.9%	1.4%
	息子・娘の2世帯	423	45.9%	79.2%	18.2%	9.5%	0.7%	2.4%	1.7%	4.0%	2.6%
	その他	409	50.9%	56.5%	19.8%	16.9%	1.0%	3.4%	4.6%	4.2%	2.4%

問7(4) 手段的支援者(授与)

反対に、看病や世話をしあける人(複数回答)

「配偶者」が55.2%で最も高く、次いで、「別居の子ども」が23.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が21.2%となっている。「看病や世話をしあける人」が「いる以外」の割合は24.6%と令和4年度の20.2%より4.4ポイント増加した。



■手段的支援者（授与）

「看病や世話をしてあげる人」が「いる以外」の割合を認定状況別にみると、「自立」が19.4%、「要支援1・2」が42.7%、「要介護1・2」が58.9%、「要介護3～5」が68.9%と、「要介護3～5」の割合が比較的高かった。日常生活圏域別にみると、「井の頭」が27.4%と最も高く、「連雀」が22.8%と最も低かった。

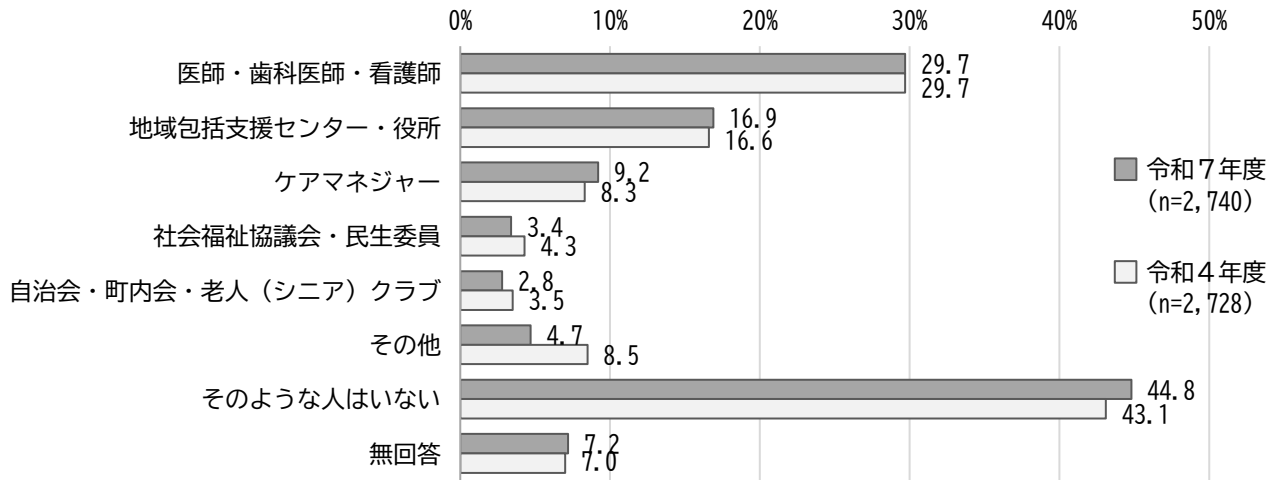
独居高齢者の「看病や世話をしてあげる人」をみると、「その他の親族」が24.4%となっている一方、「いる以外」が55.2%と約半数に上った。

		人数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	その他の親族	近隣	友人	その他	いない	無回答
全体		2,740	55.2%	18.5%	23.1%	21.2%	2.8%	8.0%	1.5%	19.2%	5.4%
認定状況	自立	2,311	60.2%	19.5%	25.6%	23.5%	2.9%	9.0%	1.3%	15.9%	3.5%
	要支援1・2	138	37.0%	15.2%	14.5%	11.6%	2.2%	3.6%	1.4%	32.6%	10.1%
	要介護1・2	151	19.9%	13.2%	6.6%	7.3%	2.0%	2.6%	4.0%	41.7%	17.2%
	要介護3～5	77	19.5%	6.5%	3.9%	6.5%	1.3%	1.3%	3.9%	49.4%	19.5%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	56.4%	17.2%	19.9%	22.9%	2.1%	6.4%	2.1%	19.5%	4.7%
	連雀地域	534	55.8%	18.2%	28.5%	20.8%	2.6%	8.4%	1.9%	18.7%	4.1%
	井の頭地域	237	54.4%	19.4%	20.7%	19.4%	4.6%	7.2%	2.1%	23.2%	4.2%
	東部地域	412	53.9%	18.0%	21.1%	23.1%	2.9%	10.2%	1.7%	18.7%	5.3%
	新川中原地域	428	53.7%	18.9%	21.0%	21.5%	2.8%	8.6%	0.9%	19.2%	5.4%
	西部地域	361	57.3%	16.6%	23.0%	19.7%	3.3%	8.0%	1.1%	17.5%	6.9%
	大沢地域	183	53.6%	25.7%	27.9%	20.2%	2.7%	6.6%	0.0%	18.6%	7.1%
年齢階層	65歳～69歳	591	68.9%	21.5%	29.8%	33.5%	2.5%	9.3%	1.2%	11.0%	1.0%
	70歳～74歳	565	62.5%	17.3%	27.6%	25.7%	2.8%	7.6%	0.7%	16.8%	1.9%
	75歳～79歳	630	57.8%	17.1%	22.9%	20.0%	4.1%	10.2%	1.3%	18.3%	5.1%
	80歳～89歳	759	45.1%	19.6%	18.1%	13.0%	2.1%	7.1%	2.0%	23.1%	8.4%
	90歳以上	167	21.0%	10.2%	8.4%	6.6%	2.4%	1.2%	4.2%	41.9%	18.0%
家族構成	1人暮らし	630	1.3%	0.6%	19.5%	24.4%	4.0%	14.9%	2.2%	47.1%	8.1%
	夫婦2人暮らし	1,209	89.6%	2.4%	31.1%	19.4%	2.6%	6.7%	0.7%	6.3%	3.0%
	息子・娘の2世帯	423	45.4%	59.1%	13.7%	17.7%	1.9%	4.5%	0.5%	19.4%	6.6%
	その他	409	49.1%	49.9%	15.4%	26.4%	2.2%	5.6%	3.9%	13.0%	5.9%

問7（5）家族や友人以外の相談する相手

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（複数回答）

「そのような人はいない」が44.8%で最も高く、次いで、「医師・歯科医師・看護師」が29.7%、「地域包括支援センター・役所」が16.9%となっている。



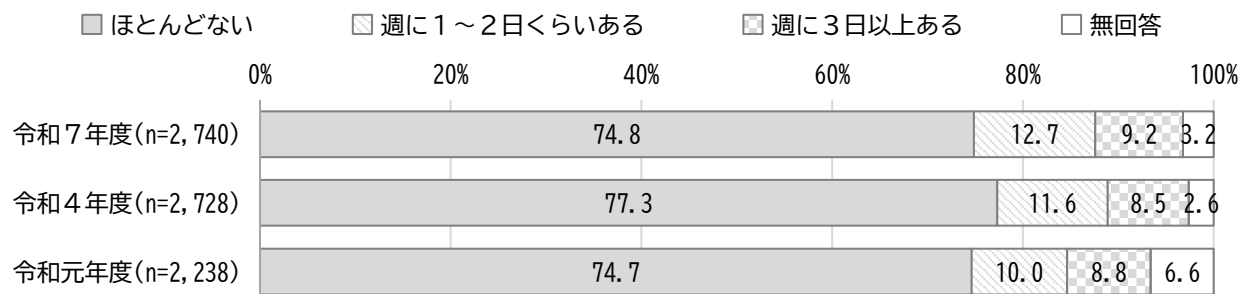
相談相手がいないと回答した割合を認定状況別にみると、「自立」が48.9%と最も高かった。日常生活圏域別にみると、「連雀」が47.0%と最も高く、「西部」が39.9%と最も低かった。相談相手の総数として一番多かった「医師・歯科医師・看護師」については、「西部」が33.5%と最も高く、「新川中原」が26.2%と最も低かった。

		人数	自治会・町内会等	社協・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・役所	その他	そのような人はいない	無回答
全体		2,740	2.8%	3.4%	9.2%	29.7%	16.9%	4.7%	44.8%	7.2%
認定状況	自立	2,311	3.0%	3.5%	3.3%	30.1%	15.3%	4.9%	48.9%	6.6%
	要支援1・2	138	0.7%	2.2%	36.2%	30.4%	36.2%	5.8%	19.6%	7.2%
	要介護1・2	151	2.0%	4.0%	53.6%	27.2%	21.2%	2.6%	17.9%	11.3%
	要介護3～5	77	0.0%	0.0%	48.1%	28.6%	16.9%	2.6%	29.9%	11.7%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	3.2%	4.0%	8.9%	31.4%	18.2%	4.4%	44.1%	5.7%
	連雀地域	534	2.2%	2.4%	7.1%	28.7%	13.9%	5.6%	47.0%	7.1%
	井の頭地域	237	3.0%	4.6%	9.7%	32.9%	16.5%	3.8%	45.6%	5.5%
	東部地域	412	2.4%	2.7%	10.0%	30.6%	15.8%	5.6%	45.4%	7.0%
	新川中原地域	428	2.6%	4.4%	10.3%	26.2%	17.8%	4.9%	46.0%	8.9%
	西部地域	361	3.6%	4.4%	8.6%	33.5%	20.8%	4.7%	39.9%	6.9%
	大沢地域	183	3.3%	1.6%	9.8%	27.3%	19.1%	3.8%	45.4%	6.6%

問7(6) 誰とも話をしない日数

ふだん、「誰とも話をしない」という日がありますか。

「ほとんどない」が74.8%で最も高く、次いで、「週に1～2日くらいある」が12.7%、「週に3日以上ある」が9.2%となっている。誰とも話をしない日数「週に1日以上」の割合は21.9%と令和4年度の20.1%と同程度であった。



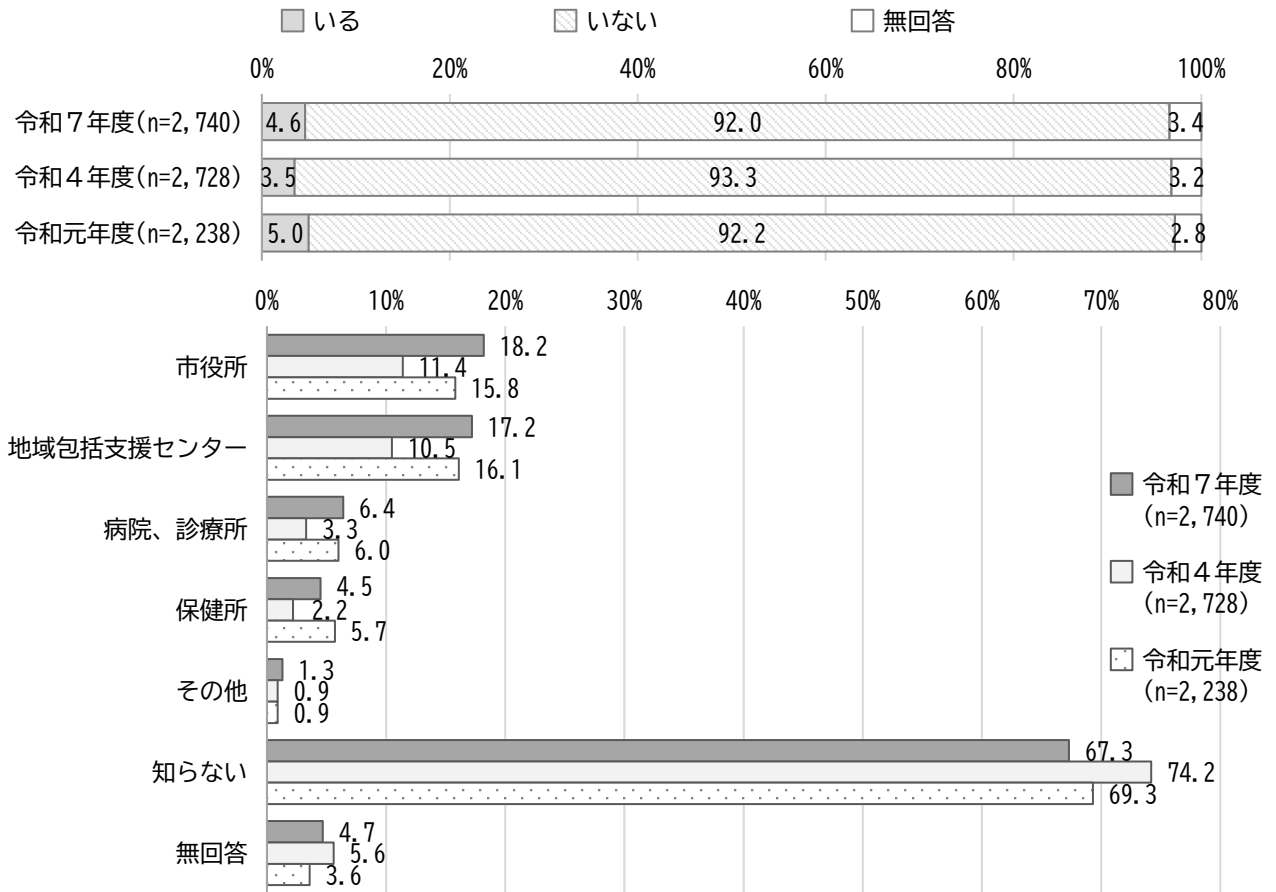
誰とも話をしない日数「週に1日以上」あるを認定状況別で見ると、「自立」が21.2%、「要支援1・2」が30.5%、「要介護1・2」が26.5%、「要介護3～5」が16.9%であった。日常生活圏域別にみると、「大沢」が25.1%と最も高く、「井の頭」が19.4%と最も低かった。年齢階層別にみると、「80～89歳」が26.4%と最も高かった。家族構成別にみると、独居高齢者が59.2%と高く、うつや認知機能の低下が懸念された。

		人数	ほとんどない	週に1～2日くらい	週に3日以上	無回答
全体		2,740	74.8%	12.7%	9.2%	3.2%
認定状況	自立	2,311	76.3%	12.2%	9.0%	2.6%
	要支援1・2	138	65.9%	19.6%	10.9%	3.6%
	要介護1・2	151	64.9%	15.2%	11.3%	8.6%
	要介護3～5	77	75.3%	7.8%	9.1%	7.8%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	74.2%	12.3%	9.7%	3.8%
	連雀地域	534	75.8%	12.4%	9.7%	2.1%
	井の頭地域	237	77.2%	8.4%	11.0%	3.4%
	東部地域	412	74.8%	13.1%	8.5%	3.6%
	新川中原地域	428	73.4%	15.4%	8.4%	2.8%
	西部地域	361	76.2%	11.6%	9.1%	3.0%
	大沢地域	183	71.6%	15.3%	9.8%	3.3%
年齢階層	65～69歳	591	80.0%	12.2%	6.9%	0.8%
	70～74歳	565	76.3%	12.0%	9.7%	1.9%
	75～79歳	630	78.6%	11.0%	8.1%	2.4%
	80～89歳	759	69.0%	15.2%	11.2%	4.6%
	90歳以上	167	65.9%	13.2%	10.2%	10.8%
家族構成	1人暮らし	630	37.9%	33.2%	26.0%	2.9%
	夫婦2人暮らし	1,209	87.6%	6.7%	3.1%	2.6%
	息子・娘との2世帯	423	83.9%	7.6%	5.2%	3.3%
	その他	409	83.6%	5.9%	5.9%	4.6%

問7(7)(8) ひきこもり

(7) ご家族・ご親族の中に、ひきこもり(学校や仕事、人との交遊などの社会参加を避けて半年以上、家にとどまり続けている状態)の方はいらっしゃいますか。
 (8) 三鷹市内または近隣市区で、ひきこもりに関する相談や支援を行っている機関を知っていますか。それは、どの機関ですか。(複数回答)

ひきこもり状態の家族・親族の有無について、「いない」が92.0%で最も高く、次いで、「いる」が4.6%となっている。また、ひきこもりに関する相談や支援を行っている機関について、「知らない」が67.3%で最も高く、次いで、「市役所」が18.2%、「地域包括支援センター」が17.2%となっている。「市役所」の割合は、令和4年度の11.4%より6.8ポイント増加した。



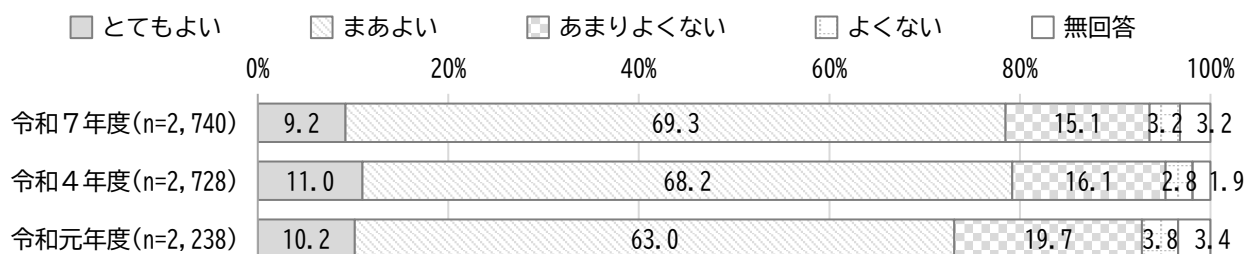
	人数	ひきこもり者		ひきこもり相談機関						
		いる	いない	市役所	地域包括支援センター	保健所	病院、診療所	その他	知らない	
全体	2,740	4.6%	92.0%	18.2%	17.2%	4.5%	6.4%	1.3%	67.3%	
認定状況	自立	2,311	4.8%	92.6%	19.4%	16.7%	4.6%	6.4%	1.3%	67.9%
	要支援1・2	138	3.6%	92.0%	15.2%	26.8%	5.8%	7.2%	0.7%	59.4%
	要介護1・2	151	4.0%	89.4%	9.3%	17.9%	3.3%	7.9%	2.0%	67.5%
	要介護3~5	77	3.9%	89.6%	6.5%	14.3%	1.3%	3.9%	1.3%	70.1%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	5.3%	91.7%	16.7%	14.6%	4.9%	5.9%	1.1%	69.7%
	連雀地域	534	4.9%	92.5%	19.9%	18.2%	4.3%	6.2%	1.7%	66.5%
	井の頭地域	237	3.0%	94.5%	13.9%	18.1%	4.6%	5.9%	1.7%	72.2%
	東部地域	412	4.4%	93.0%	16.3%	16.5%	4.6%	7.0%	0.7%	70.1%
	新川中原地域	428	3.7%	92.3%	19.6%	18.7%	3.5%	5.1%	1.9%	66.4%
	西部地域	361	5.3%	90.6%	16.6%	17.2%	3.6%	6.9%	1.4%	64.5%
大沢地域	183	3.3%	91.8%	24.0%	20.8%	7.1%	8.7%	0.0%	61.7%	

9. 健康について

問8 (1) 主観的健康観

現在のあなたの健康状態はいかがですか。

「まあよい」が 69.3%で最も高く、次いで、「あまりよくない」が 15.1%、「とてもよい」が 9.2%となっている。「とてもよい/まあよい」の割合は 78.5%、「あまりよくない/よくない」の割合は 18.3%と令和4年度の 18.9%と同程度であった。



「あまりよくない/よくない」を認定状況別にみると、「自立」が 13.7%、「要支援1・2」が 39.8%、「要介護1・2」が 44.4%、「要介護3～5」が 63.7%であり、「自立」と「要支援・要介護認定者」との間で健康状態に大きな差がみられた。日常生活圏域別にみると、「西部」が 20.5%と最も高く、「井の頭」が 15.6%と最も低かった。年齢階層別にみると、「90歳以上」で 35.9%と最も高かった。家族構成別でみると、独居高齢者で 21.4%と最も高かった。

		人数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
全体		2,740	9.2%	69.3%	15.1%	3.2%	3.2%
認定状況	自立	2,311	10.3%	73.2%	11.8%	1.9%	2.8%
	要支援1・2	138	2.2%	52.9%	33.3%	6.5%	5.1%
	要介護1・2	151	3.3%	48.3%	35.8%	8.6%	4.0%
	要介護3～5	77	3.9%	29.9%	36.4%	27.3%	2.6%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	10.2%	69.9%	14.4%	3.4%	2.1%
	連雀地域	534	11.0%	66.5%	16.1%	3.2%	3.2%
	井の頭地域	237	13.9%	68.8%	11.8%	3.8%	1.7%
	東部地域	412	6.8%	72.1%	14.6%	2.9%	3.6%
	新川中原地域	428	7.7%	70.1%	16.4%	2.8%	3.0%
	西部地域	361	8.3%	68.1%	17.2%	3.3%	3.0%
年齢階層	大沢地域	183	8.7%	68.9%	15.3%	4.4%	2.7%
	65～69歳	591	14.9%	73.9%	8.8%	0.8%	1.5%
	70～74歳	565	10.8%	73.3%	12.0%	1.8%	2.1%
	75～79歳	630	7.8%	71.3%	13.8%	2.5%	4.6%
	80～89歳	759	6.2%	63.8%	20.4%	5.9%	3.7%
家族構成	90歳以上	167	4.2%	57.5%	28.7%	7.2%	2.4%
	1人暮らし	630	7.1%	68.3%	18.4%	3.0%	3.2%
	夫婦2人暮らし	1,209	10.9%	70.4%	13.4%	2.6%	2.6%
	息子・娘との2世帯	423	7.6%	69.7%	16.5%	3.3%	2.8%
その他	409	9.8%	67.7%	13.7%	5.1%	3.7%	

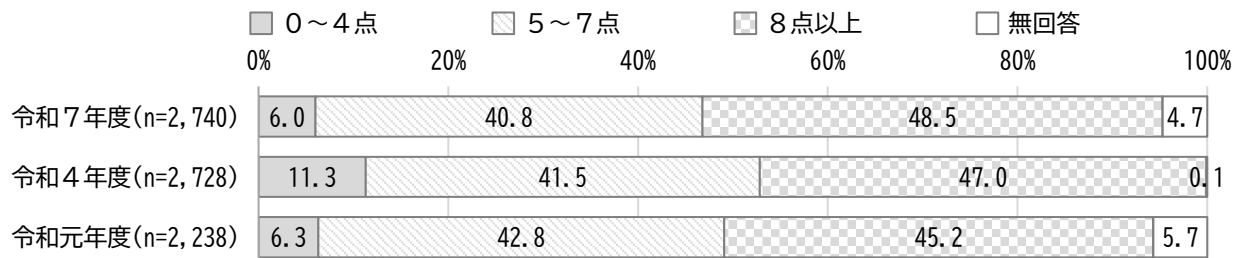
■主観的健康観別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
とてもよい	252	3.2%	6.3%	7.5%	10.3%	21.8%	4.0%	0.8%
まあよい	1,898	9.4%	9.3%	24.4%	34.6%	39.4%	11.2%	2.5%
あまりよくない	415	39.3%	12.8%	45.8%	68.0%	58.3%	34.5%	8.9%
よくない	88	69.3%	19.3%	63.6%	76.1%	67.0%	54.5%	26.1%

問8(2) 主観的幸福感

あなたは、現在どの程度幸せですか。
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

「0～4点」が6.0%、「5～7点」が40.8%、「8点以上」が48.5%であった。主観的幸福感が低い「0～4点」は令和4年度の11.3%より5.3ポイント減少した。



主観的幸福感が高い「8点以上」を認定状況別にみると、「自立」が50.4%、「要支援1・2」が44.2%、「要介護1・2」が31.8%、「要介護3～5」が33.8%と要介護度が高い方が低かった。日常生活圏域別にみると、「井の頭」が54.4%と最も高く、「新川中原」が46.5%と最も低かった。年齢階層別にみると、「65～69歳」が53.3%と最も高かった。家族構成別にみると、独居高齢者が38.6%と最も低かった。

		人数	0～4点	5～7点	8点以上	無回答
全体		2,740	6.0%	40.8%	48.5%	4.7%
認定状況	自立	2,311	5.2%	40.5%	50.4%	3.9%
	要支援1・2	138	8.6%	41.2%	44.2%	5.8%
	要介護1・2	151	8.6%	50.3%	31.8%	9.3%
	要介護3～5	77	18.2%	35.1%	33.8%	13.0%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	5.8%	39.8%	50.8%	3.4%
	連雀地域	534	5.9%	41.0%	49.1%	4.1%
	井の頭地域	237	6.7%	35.0%	54.4%	3.8%
	東部地域	412	6.8%	40.3%	47.8%	5.1%
	新川中原地域	428	5.8%	42.2%	46.5%	5.4%
	西部地域	361	4.9%	43.2%	47.4%	4.7%
	大沢地域	183	8.2%	38.2%	48.1%	5.5%
年齢階層	65～69歳	591	4.9%	40.0%	53.3%	1.9%
	70～74歳	565	7.0%	38.8%	51.5%	2.8%
	75～79歳	630	4.5%	43.4%	46.1%	6.0%
	80～89歳	759	6.5%	42.3%	44.9%	6.2%
	90歳以上	167	9.6%	34.2%	48.6%	7.8%
家族構成	1人暮らし	630	9.8%	46.5%	38.6%	5.2%
	夫婦2人暮らし	1,209	4.0%	38.5%	53.9%	3.5%
	息子・娘との2世帯	423	5.6%	36.7%	53.0%	4.7%
	その他	409	7.0%	43.7%	42.8%	6.4%

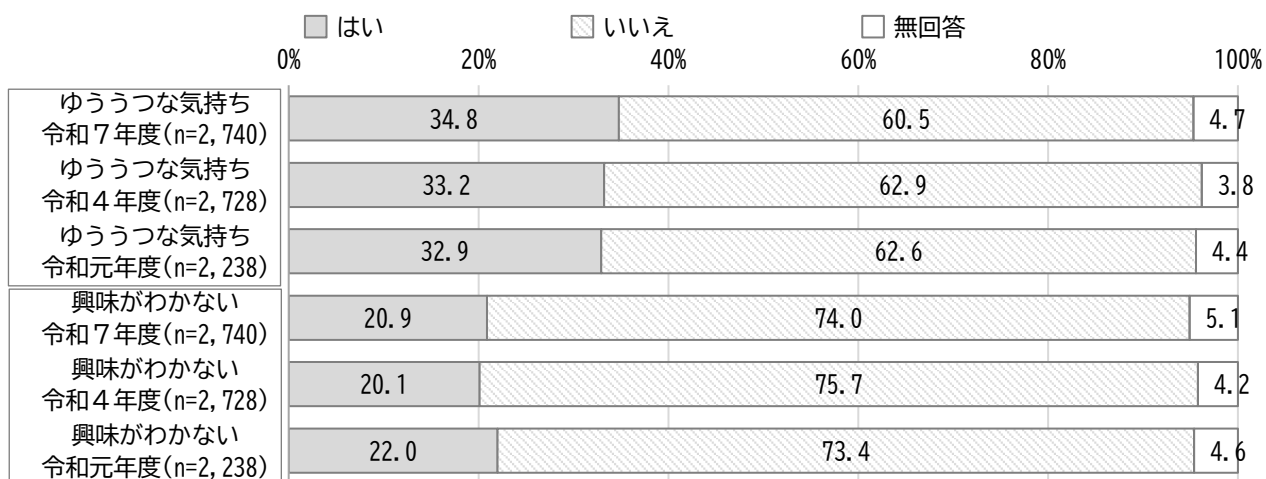
主観的幸福感別の要介護リスク該当率

	人数	運動器機能	低栄養	咀嚼機能	うつ	認知症	閉じこもり	IADL
全体	2,740	15.7%	9.9%	27.6%	37.9%	41.6%	15.5%	4.2%
0～4点	164	34.8%	12.2%	48.8%	86.0%	54.3%	30.5%	11.6%
5～7点	1,118	16.4%	9.6%	31.0%	50.8%	5.6%	17.4%	4.5%
8～10点	1,328	11.4%	10.0%	21.5%	23.3%	3.4%	11.7%	2.8%

問8 (3) (4) うつ傾向

- (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
- (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについて、「はい」が34.8%、「いいえ」が60.5%となっている。また、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがあったかについて、「はい」が20.9%、「いいえ」が74.0%となっている。



■うつ傾向者の状態像

気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについて「はい」を認定状況別にみると、「要支援1・2」が48.6%と最も高く、「自立」では33.0%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、「井の頭」が40.1%と最も高く、「大沢」が31.1%と最も低かった。年齢階層別にみると、「90歳以上」が42.5%と最も高かった。家族構成別にみると、独居高齢者が38.4%と最も高かった。

どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがあったかについて「はい」を認定状況別にみると、「要介護3～5」が48.1%と最も高く、「自立」では18.0%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、「連雀」が24.3%と最も高く、「大沢」が19.1%と最も低かった。年齢階層別にみると、「90歳以上」が29.3%と最も高かった。家族構成別にみると、独居高齢者が24.9%と最も高かった。

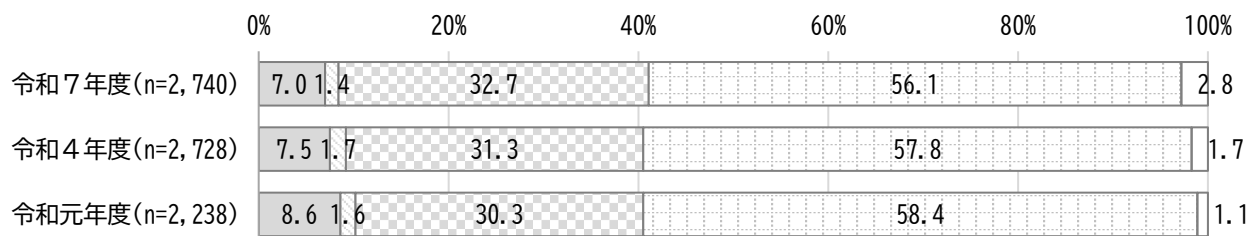
		人数	ゆううつな気持ち			興味がわからない		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		2,740	34.8%	60.5%	4.7%	20.9%	74.0%	5.1%
認定状況	自立	2,311	33.0%	63.2%	3.8%	18.0%	77.8%	4.1%
	要支援1・2	138	48.6%	45.7%	5.8%	34.8%	58.0%	7.2%
	要介護1・2	151	45.0%	46.4%	8.6%	36.4%	54.3%	9.3%
	要介護3～5	77	48.1%	39.0%	13.0%	48.1%	39.0%	13.0%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	31.8%	65.3%	3.0%	16.5%	79.7%	3.8%
	連雀地域	534	35.6%	60.7%	3.7%	24.3%	72.3%	3.4%
	井の頭地域	237	40.1%	56.5%	3.4%	22.4%	73.4%	4.2%
	東部地域	412	34.7%	59.7%	5.6%	19.7%	74.5%	5.8%
	新川中原地域	428	35.3%	60.5%	4.2%	20.6%	75.2%	4.2%
	西部地域	361	38.5%	56.0%	5.5%	23.0%	70.9%	6.1%
	大沢地域	183	31.1%	62.3%	6.6%	19.1%	72.1%	8.7%
年齢階層	65～69歳	591	34.7%	63.5%	1.9%	18.6%	79.2%	2.2%
	70～74歳	565	34.7%	63.0%	2.3%	19.1%	78.4%	2.5%
	75～79歳	630	32.9%	60.3%	6.8%	19.0%	74.6%	6.3%
	80～89歳	759	35.3%	59.0%	5.7%	23.6%	69.7%	6.7%
	90歳以上	167	42.5%	50.3%	7.2%	29.3%	61.1%	9.6%
家族構成	1人暮らし	630	38.4%	57.3%	4.3%	24.9%	71.3%	3.8%
	夫婦2人暮らし	1,209	32.9%	63.6%	3.5%	18.8%	77.5%	3.7%
	息子・娘との2世帯	423	35.7%	59.3%	5.0%	22.2%	70.9%	6.9%
	その他	409	35.5%	58.4%	6.1%	20.0%	73.6%	6.4%

問8（5）喫煙

タバコは吸っていますか。

「もともと吸っていない」が56.1%で最も高く、次いで、「吸っていたがやめた」が32.7%、「ほぼ毎日吸っている」が7.0%となっている。

ほぼ毎日吸っている
 時々吸っている
 吸っていたがやめた
 もともと吸っていない
 無回答



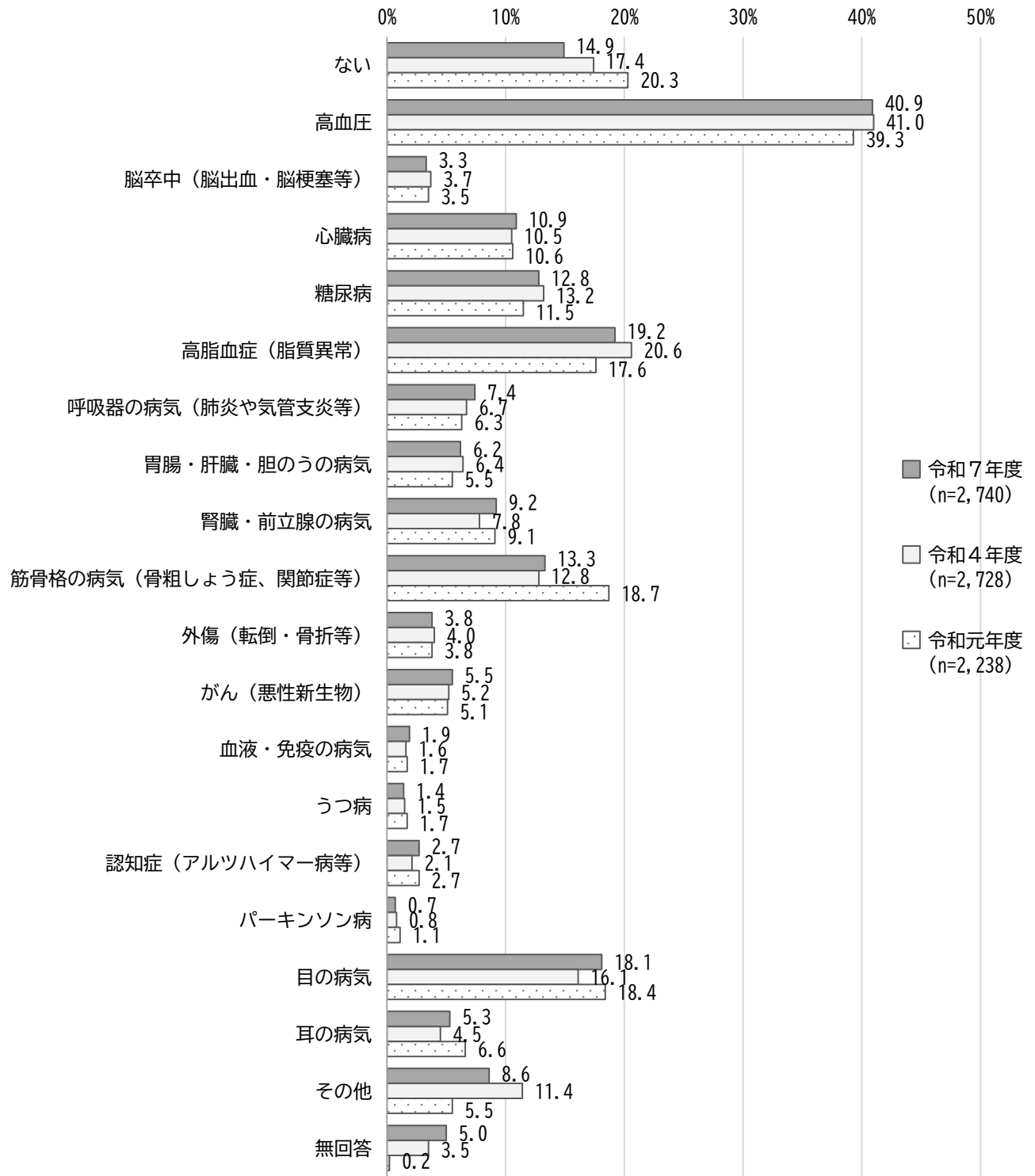
「ほぼ毎日」と「時々」を合わせた喫煙者を認定状況別にみると、「自立」では9.4%であったが、「要介護3～5」では1.3%と喫煙者の割合は減少していた。日常生活圏域別にみると、「連雀」が11.3%と最も高く、「井の頭」で6.7%と最も低かった。

		人数	ほぼ毎日吸っている	時々吸っている	吸っていたが、やめた	もともと吸っていない	無回答
全体		2,740	7.0%	1.4%	32.7%	56.1%	2.8%
認定状況	自立	2,311	7.9%	1.5%	34.1%	54.2%	2.4%
	要支援1・2	138	1.4%	0.7%	23.9%	69.6%	4.3%
	要介護1・2	151	1.3%	1.3%	25.2%	68.9%	3.3%
	要介護3～5	77	1.3%	0.0%	28.6%	66.2%	3.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	6.8%	1.7%	33.7%	55.7%	2.1%
	連雀地域	534	9.2%	2.1%	33.5%	53.0%	2.2%
	井の頭地域	237	4.6%	2.1%	30.0%	62.0%	1.3%
	東部地域	412	6.3%	0.7%	35.4%	54.4%	3.2%
	新川中原地域	428	7.7%	1.9%	31.8%	56.3%	2.3%
	西部地域	361	6.4%	0.6%	33.8%	56.0%	3.3%
	大沢地域	183	7.1%	0.5%	30.1%	59.6%	2.7%

問8(6) 治療中の病気

現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

「高血圧」が40.9%で最も高く、次いで、「高脂血症(脂質異常)」が19.2%、「目の病気」が18.1%となっている。



■治療中の病気

		人数	ない	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症
全体		2,740	14.9%	40.9%	3.3%	10.9%	12.8%	19.2%
認定状況	自立	2,311	16.6%	40.6%	2.2%	9.6%	12.7%	20.0%
	要支援1・2	138	1.4%	51.4%	8.0%	26.1%	12.3%	16.7%
	要介護1・2	151	3.3%	43.7%	9.9%	14.6%	16.6%	13.2%
	要介護3～5	77	6.5%	33.8%	14.3%	18.2%	9.1%	9.1%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	14.8%	37.1%	2.5%	10.4%	14.6%	21.4%
	連雀地域	534	14.0%	41.4%	3.2%	11.4%	12.2%	18.5%
	井の頭地域	237	16.9%	40.5%	3.8%	11.0%	8.0%	19.0%
	東部地域	412	12.9%	43.7%	3.4%	10.0%	14.3%	17.7%
	新川中原地域	428	16.4%	44.4%	3.3%	9.3%	13.6%	19.2%
	西部地域	361	14.7%	39.1%	4.4%	13.6%	13.0%	22.2%
	大沢地域	183	14.2%	40.4%	2.7%	12.0%	10.4%	16.9%

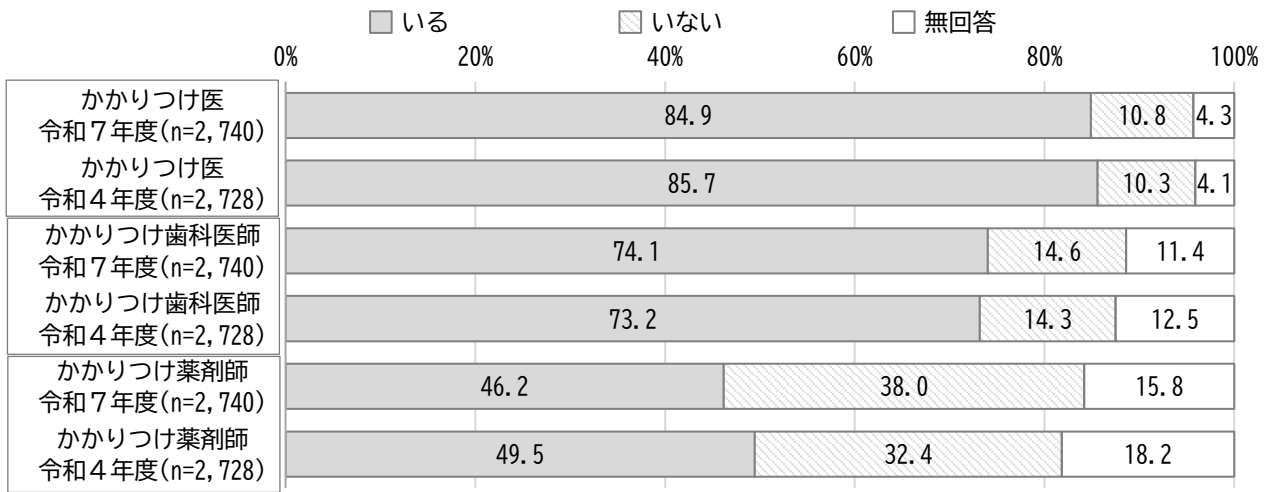
		呼吸器の病気	胃腸/肝臓/胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気	外傷	がん	血液・免疫の病気
全体		7.4%	6.2%	9.2%	13.3%	3.8%	5.5%	1.9%
認定状況	自立	7.1%	6.1%	9.0%	12.5%	2.6%	4.9%	1.6%
	要支援1・2	8.0%	7.2%	13.0%	22.5%	11.6%	5.1%	2.2%
	要介護1・2	7.9%	6.6%	9.3%	21.9%	12.6%	11.9%	6.6%
	要介護3～5	11.7%	2.6%	10.4%	7.8%	9.1%	14.3%	2.6%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	6.4%	4.4%	8.9%	16.7%	3.4%	7.2%	1.5%
	連雀地域	7.3%	7.5%	7.1%	15.0%	2.8%	5.6%	1.7%
	井の頭地域	3.8%	5.1%	9.7%	9.7%	2.5%	5.1%	3.0%
	東部地域	6.6%	6.8%	10.9%	13.1%	6.1%	4.9%	2.2%
	新川中原地域	7.5%	7.0%	10.5%	13.3%	3.5%	5.1%	1.9%
	西部地域	10.5%	6.6%	9.1%	10.0%	5.8%	6.4%	2.2%
	大沢地域	11.5%	5.5%	9.8%	14.2%	2.7%	4.9%	2.2%

		うつ病	認知症	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体		1.4%	2.7%	0.7%	18.1%	5.3%	8.6%	5.0%
認定状況	自立	1.1%	0.6%	0.2%	17.7%	4.8%	8.7%	4.6%
	要支援1・2	2.2%	0.7%	2.9%	23.9%	8.7%	9.4%	7.2%
	要介護1・2	4.0%	19.9%	2.0%	22.5%	7.3%	10.6%	3.3%
	要介護3～5	2.6%	35.1%	9.1%	13.0%	5.2%	1.3%	6.5%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	1.3%	1.3%	1.3%	15.9%	5.1%	11.9%	4.4%
	連雀地域	1.7%	3.0%	0.2%	17.8%	4.3%	8.2%	4.1%
	井の頭地域	1.3%	3.4%	0.8%	16.5%	4.6%	5.9%	5.5%
	東部地域	1.9%	2.9%	0.2%	20.6%	6.6%	8.0%	5.1%
	新川中原地域	1.4%	3.0%	1.2%	18.5%	5.8%	7.7%	5.4%
	西部地域	1.4%	3.3%	0.8%	18.3%	5.8%	7.8%	3.9%
	大沢地域	0.0%	2.2%	0.5%	21.9%	5.5%	10.4%	3.8%

問8 (7) かかりつけ医・歯科医・薬剤師

かかりつけ医師・歯科医師・薬剤師はいますか。

医師は「いる」が 84.9%、「いない」が 10.8%、歯科医師は「いる」が 74.1%、「いない」が 14.6%、薬剤師は「いる」が 46.2%、「いない」が 38.0%となっている。



認定状況別にみると、かかりつけ医師が「いる」は「要支援1・2」が 93.5%と最も高く、「自立」が 84.0%と最も低かった。他方、かかりつけ歯科医師が「いる」は「自立」が 75.7%と最も高かった。かかりつけ薬剤師が「いる」は「要介護1・2」が 64.9%と最も高かった。

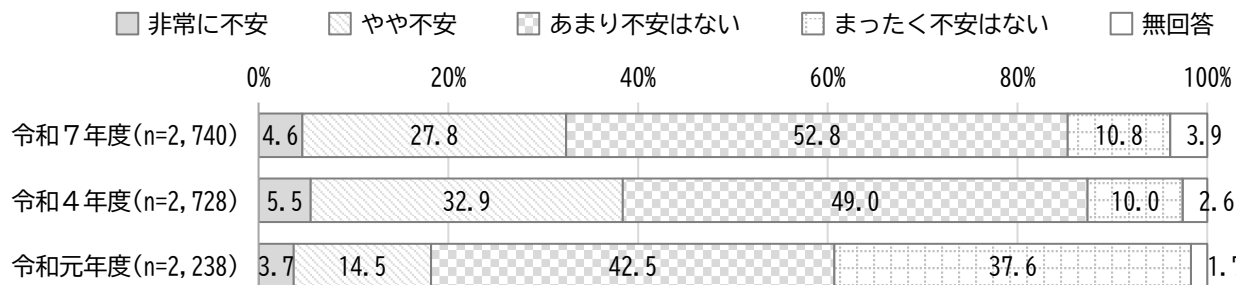
日常生活圏域別にみると、かかりつけ医師及びかかりつけ薬剤師は「井の頭」が最も高く、「大沢」が全体的に低い傾向がみられた。

	人数	医師		歯科医師		薬剤師		
		いる	いない	いる	いない	いる	いない	
全体	2,740	84.9%	10.8%	74.1%	14.6%	46.2%	38.0%	
認定状況	自立	2,311	84.0%	12.3%	75.7%	14.4%	43.6%	41.7%
	要支援1・2	138	93.5%	0.7%	69.6%	12.3%	60.9%	15.2%
	要介護1・2	151	92.1%	2.0%	58.3%	24.5%	64.9%	21.2%
	要介護3~5	77	90.9%	5.2%	71.4%	13.0%	63.6%	16.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	84.1%	11.9%	78.6%	12.5%	45.6%	43.2%
	連雀地域	534	86.3%	10.5%	76.2%	13.9%	49.4%	37.8%
	井の頭地域	237	88.2%	10.1%	77.2%	15.2%	50.6%	35.4%
	東部地域	412	85.2%	10.2%	73.3%	16.7%	46.8%	39.3%
	新川中原地域	428	84.6%	11.4%	72.2%	13.3%	41.1%	38.6%
	西部地域	361	85.3%	9.7%	72.0%	16.1%	47.6%	35.2%
	大沢地域	183	80.3%	14.8%	69.4%	20.8%	43.2%	38.8%

問8（8）医療の不安

必要な時に十分な医療を受けられるか不安はありますか。

「あまり不安はない」が 52.8%で最も高く、次いで、「やや不安」が 27.8%、「まったく不安はない」が 10.8%となっている。「非常に不安/やや不安」は 32.4%と令和4年度の 38.4%より 6.0ポイント減少した。



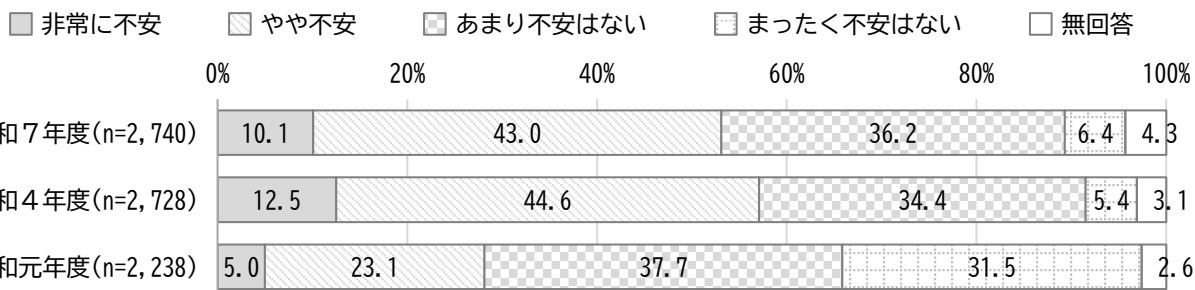
「非常に不安/やや不安」の割合を認定状況別にみると、「自立」が 32.7%、「要支援1・2」が 31.8%、「要介護1・2」が 29.8%、「要介護3～5」が 28.6%と、高い要介護度で低かった。日常生活圏域別にみると、「西部」が 36.0%と最も高く、「三鷹駅周辺」が 26.3%と最も低かった。年齢階層別にみると、「65～69歳」で 36.2%と最も高かった。家族構成別にみると独居高齢者で 38.7%と最も高かった。

		人数	非常に不安	やや不安	あまり不安はない	まったく不安はない	無回答
全体		2,740	4.6%	27.8%	52.8%	10.8%	3.9%
認定状況	自立	2,311	4.5%	28.2%	54.1%	9.9%	3.2%
	要支援1・2	138	4.3%	27.5%	50.7%	10.9%	6.5%
	要介護1・2	151	4.6%	25.2%	46.4%	15.9%	7.9%
	要介護3～5	77	5.2%	23.4%	40.3%	27.3%	3.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	4.7%	21.6%	58.7%	11.9%	3.2%
	連雀地域	534	4.3%	26.8%	54.1%	11.4%	3.4%
	井の頭地域	237	6.3%	28.7%	46.4%	15.6%	3.0%
	東部地域	412	5.3%	29.4%	53.9%	7.8%	3.6%
	新川中原地域	428	3.5%	30.8%	52.8%	9.1%	3.7%
	西部地域	361	5.3%	30.7%	49.9%	10.8%	3.3%
	大沢地域	183	4.4%	28.4%	52.5%	9.8%	4.9%
年齢階層	65～69歳	591	4.9%	31.3%	53.6%	8.5%	1.7%
	70～74歳	565	4.4%	29.2%	53.8%	9.9%	2.7%
	75～79歳	630	4.4%	25.6%	54.6%	10.2%	5.2%
	80～89歳	759	4.6%	26.6%	52.3%	12.1%	4.3%
	90歳以上	167	4.8%	24.6%	46.1%	18.6%	6.0%
家族構成	1人暮らし	630	7.3%	31.4%	46.5%	10.5%	4.3%
	夫婦2人暮らし	1,209	3.8%	26.6%	56.5%	10.2%	3.0%
	息子・娘との2世帯	423	4.0%	27.2%	53.2%	10.9%	4.7%
	その他	409	4.2%	28.1%	51.8%	12.2%	3.7%

問8 (9) 介護の不安

必要な時に十分な介護を受けられるか不安はありますか。

「やや不安」が 43.0%で最も高く、次いで、「あまり不安はない」が 36.2%、「非常に不安」が 10.1%となっている。「非常に不安/やや不安」は 53.1%と令和4年度の 57.1%より 4.0 ポイント減少した。



「非常に不安/やや不安」の割合を認定状況別にみると、「自立」が 54.6%、「要支援1・2」が 55.8%、「要介護1・2」が 37.1%、「要介護3～5」が 36.4%と、高い要介護度で低かった。日常生活圏域別にみると、「東部」が 57.1%と最も高く、「大沢」が 48.7%と最も低かった。年齢階層別にみると、「65～69 歳」で 57.8%と最も高かった。家族構成別にみると独居高齢者で 55.7%と最も高かった。

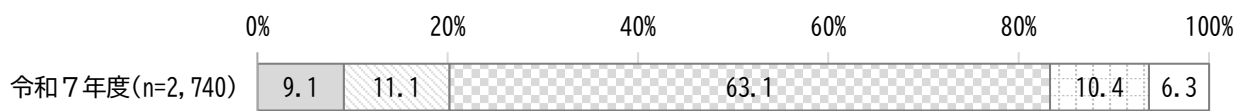
		人数	非常に不安	やや不安	あまり不安はない	まったく不安はない	無回答
全体		2,740	10.1%	43.0%	36.2%	6.4%	4.3%
認定状況	自立	2,311	10.2%	44.4%	36.7%	5.1%	3.7%
	要支援1・2	138	10.9%	44.9%	32.6%	5.1%	6.5%
	要介護1・2	151	6.6%	30.5%	41.1%	14.6%	7.3%
	要介護3～5	77	6.5%	29.9%	29.9%	28.6%	5.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	9.7%	40.7%	40.7%	5.7%	3.2%
	連雀地域	534	11.4%	42.1%	36.7%	6.2%	3.6%
	井の頭地域	237	11.0%	38.8%	36.3%	10.5%	3.4%
	東部地域	412	10.0%	47.1%	33.0%	5.6%	4.4%
	新川中原地域	428	10.0%	44.2%	36.2%	5.6%	4.0%
	西部地域	361	10.5%	46.5%	33.8%	5.5%	3.6%
	大沢地域	183	7.7%	41.0%	39.9%	5.5%	6.0%
年齢階層	65～69 歳	591	10.8%	47.0%	36.9%	3.4%	1.9%
	70～74 歳	565	12.0%	44.6%	36.3%	4.6%	2.5%
	75～79 歳	630	9.5%	43.5%	35.1%	6.3%	5.6%
	80～89 歳	759	9.4%	41.5%	36.5%	7.0%	5.7%
	90 歳以上	167	6.0%	30.5%	38.9%	18.6%	6.0%
家族構成	1人暮らし	630	15.2%	40.5%	33.7%	6.0%	4.6%
	夫婦2人暮らし	1,209	8.7%	45.2%	37.0%	5.4%	3.7%
	息子・娘との2世帯	423	7.3%	45.4%	35.0%	7.1%	5.2%
	その他	409	9.8%	38.9%	40.6%	7.1%	3.7%

問8 (10) ACP

人生の最終段階で受けたい医療やケアについて、自分自身で前もって考え、信頼する人と話し合い、共有しておく取組を「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と呼んでいます。あなたは将来の医療やケアについて決めていますか。

「決めていない」が63.1%で最も高く、次いで、「決めているが周りの人と共有していない」が11.1%、「わからない」が10.4%となっている。

決めており周りの人と共有している
 決めていない
 決めているが周りの人と共有していない
 わからない
 無回答



「決めており周りの人と共有している」の割合を認定状況別にみると、「自立」が7.2%、「要支援1・2」が14.5%、「要介護1・2」が21.9%、「要介護3～5」が27.3%と、高い要介護度で高かった。日常生活圏域別にみると、「大沢」が12.6%と最も高く、「西部」が7.5%と最も低かった。

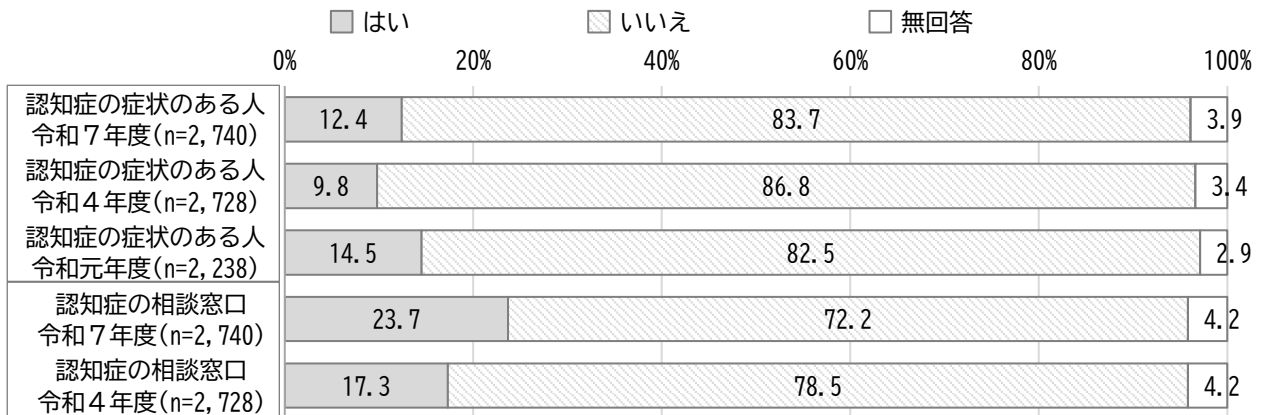
		人数	決めており周りの人と共有している	決めていない	決めているが周りの人と共有していない	わからない	無回答
全体		2,740	9.1%	63.1%	11.1%	10.4%	6.3%
認定状況	自立	2,311	7.2%	67.0%	11.4%	9.3%	5.2%
	要支援1・2	138	14.5%	46.4%	16.7%	13.0%	9.4%
	要介護1・2	151	21.9%	42.4%	7.9%	15.9%	11.9%
	要介護3～5	77	27.3%	31.2%	2.6%	32.5%	6.5%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	7.8%	64.8%	11.4%	11.0%	4.9%
	連雀地域	534	10.7%	62.9%	11.8%	9.6%	5.1%
	井の頭地域	237	10.1%	65.0%	11.8%	9.7%	3.4%
	東部地域	412	9.0%	64.1%	10.2%	9.2%	7.5%
	新川中原地域	428	7.7%	63.3%	10.0%	13.3%	5.6%
	西部地域	361	7.5%	64.3%	11.4%	10.2%	6.6%
大沢地域	183	12.6%	55.2%	13.7%	10.9%	7.7%	

10. 認知症にかかる相談窓口の把握について

問9 (1) (2) 認知症の有無・相談窓口

- (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状のある人がいますか。
 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症の症状のある人の有無では、「はい」が12.4%、「いいえ」が83.7%となっている。家族、親戚など身近に認知症の方が「いる」は12.4%と令和4年度の9.8%と同程度であった。また、認知症の相談窓口の周知では、「はい」が23.7%、「いいえ」が72.2%となっている。



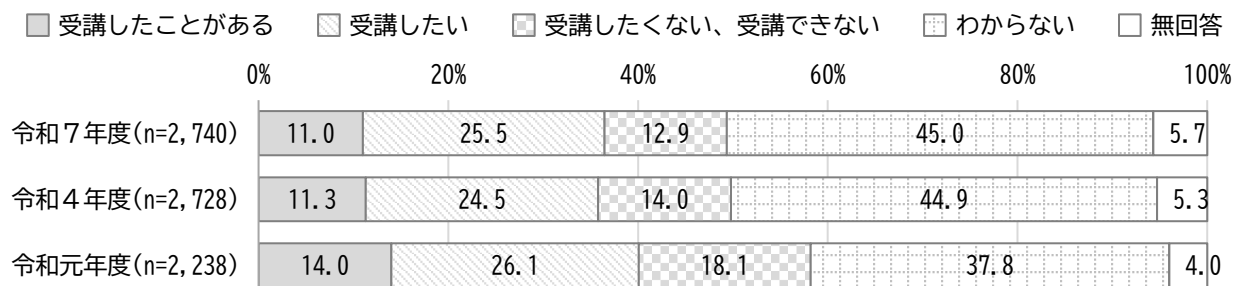
家族、親戚など身近に認知症の症状のある人が「いる」を認定状況別にみると、要介護度が高くなるほど「いる」が多くなった。日常生活圏域別にみると、「井の頭」が14.8%と最も高く、「新川中原」が9.6%と最も低かった。認知症の相談窓口について「知っている」を認定状況別にみると、要介護度が高くなるほど「知っている」が多くなった。日常生活圏域別にみると、「大沢」が31.1%と最も高く、「新川中原」が20.8%と最も低かった。

	人数	認知症の方の有無			認知症相談窓口の認知度			
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	
全体	2,740	12.4%	83.7%	3.9%	23.7%	72.2%	4.2%	
認定状況	自立	2,311	10.4%	86.6%	3.0%	23.2%	73.8%	3.1%
	要支援1・2	138	13.0%	80.4%	6.5%	26.8%	65.9%	7.2%
	要介護1・2	151	29.1%	61.6%	9.3%	27.2%	62.9%	9.9%
	要介護3～5	77	42.9%	49.4%	7.8%	33.8%	55.8%	10.4%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	13.8%	83.5%	2.8%	21.8%	75.6%	2.5%
	連雀地域	534	11.2%	85.0%	3.7%	26.8%	70.4%	2.8%
	井の頭地域	237	14.8%	82.7%	2.5%	21.9%	76.4%	1.7%
	東部地域	412	13.3%	82.5%	4.1%	25.0%	69.7%	5.3%
	新川中原地域	428	9.6%	87.9%	2.6%	20.8%	75.0%	4.2%
	西部地域	361	13.3%	83.1%	3.6%	22.4%	73.1%	4.4%
	大沢地域	183	13.1%	80.3%	6.6%	31.1%	62.3%	6.6%

問9 (3) 認知症について学ぶ機会

認知症についての知識や接し方などを学ぶ講座を受講したことがありますか。受講したことがない方は、受講してみたいですか。

「わからない」が45.0%で最も高く、次いで、「受講したい」が25.5%、「受講したくない、受講できない」が12.9%となっている。



認知症についての知識や接し方などを学ぶ講座を「受講したことがある」割合を認定状況別にみると、「要支援1・2」の人では「受講したことがある」が11.6%と「自立」より高かった。日常生活圏域別にみると、「井の頭」が14.8%と最も高く、「新川中原」が7.9%と最も低かった。

		人数	受講したことがある	受講したい	受講したくない、 できない	わからない	無回答
全体		2,740	11.0%	25.5%	12.9%	45.0%	5.7%
認定 状況	自立	2,311	11.3%	26.7%	11.6%	45.7%	4.7%
	要支援1・2	138	11.6%	27.5%	13.0%	38.4%	9.4%
	要介護1・2	151	6.0%	15.2%	25.8%	42.4%	10.6%
	要介護3~5	77	7.8%	6.5%	26.0%	49.4%	10.4%
日常生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	9.1%	25.6%	12.7%	48.5%	4.0%
	連雀地域	534	12.5%	26.8%	12.7%	43.6%	4.3%
	井の頭地域	237	14.8%	19.4%	17.7%	44.3%	3.8%
	東部地域	412	11.2%	26.0%	11.7%	44.4%	6.8%
	新川中原地域	428	7.9%	25.2%	13.1%	48.6%	5.1%
	西部地域	361	10.5%	25.5%	10.5%	46.5%	6.9%
	大沢地域	183	13.7%	29.5%	14.8%	34.4%	7.7%

問9（4）認知症に対する意見

認知症に対して、どのように思われますか。

① 認知症になっても、その人の意思を尊重できる。
 ② 身近に認知症の人がいたら、お世話できる。
 ③ 家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしい。
 ④ 自分が認知症になったら、まわりの人の手を借りながら自宅での生活を続けたい。
 ⑤ 自分が認知症かもしれないと感じたとしても、すぐに病院に行くことには抵抗感がある。
 ⑥ 認知症または認知機能の低下は早期に発見したい。
 ⑦ 認知症の発症や認知機能の低下を抑制できる可能性があるなら取り組みたい。

認知症に関する設問に対して「そう思う/ややそう思う」の割合で最も高かったのは、「認知症の発症や認知機能の低下を抑制できる可能性があるなら取り組みたい」の80.3%、次いで、「認知症または認知機能の低下は早期に発見したい」の80.1%であった。

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない ■ あまり思わない ■ まったく思わない □ 無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%

①意志を尊重 令和7年度(n=2,740)	26.0	34.4	22.5	6.5	1.1	9.5
①意志を尊重 令和4年度(n=2,728)	25.8	35.0	21.0	6.1	1.7	10.2
①意志を尊重 令和元年度(n=2,238)	27.7	35.4	20.9	5.8	2.4	7.8
②世話をする 令和7年度(n=2,740)	13.8	27.7	28.1	15.0	6.1	9.3
②世話をする 令和4年度(n=2,728)	14.0	28.7	26.1	13.4	6.9	11.0
②世話をする 令和元年度(n=2,238)	15.1	27.8	27.5	13.6	8.1	8.0
③理解を得る 令和7年度(n=2,740)	24.0	29.8	19.5	12.8	5.1	8.9
③理解を得る 令和4年度(n=2,728)	23.6	29.7	18.7	12.2	5.8	10.1
③理解を得る 令和元年度(n=2,238)	27.9	30.2	15.8	13.1	5.9	7.1
④自宅で生活 令和7年度(n=2,740)	29.5	28.4	16.7	12.6	4.8	8.0
④自宅で生活 令和4年度(n=2,728)	30.9	27.6	16.2	11.1	5.8	8.3
④自宅で生活 令和元年度(n=2,238)	27.3	24.9	17.1	15.5	9.1	6.1
⑤病院抵抗感 令和7年度(n=2,740)	10.8	23.7	16.2	25.6	15.5	8.1
⑤病院抵抗感 令和4年度(n=2,728)	11.0	24.7	16.9	23.8	15.3	8.3
⑤病院抵抗感 令和元年度(n=2,238)	12.6	24.3	15.3	24.4	17.3	6.1
⑥認知症早期発見 令和7年度(n=2,740)	56.3	23.8	8.0	2.3	1.6	8.0
⑦認知症抑制に取組 令和7年度(n=2,740)	56.3	24.0	8.1	2.2	1.4	7.9

① 認知症になってもその人の意思を尊重できる

		人数	そう思う	やや そう思う	どちらで もない	あまり思 わない	まったく 思わない	無回答
全体		2,740	26.0%	34.4%	22.5%	6.5%	1.1%	9.5%
認定 状況	自立	2,311	26.1%	35.9%	23.2%	6.0%	1.0%	7.8%
	要支援1・2	138	21.7%	34.8%	13.8%	12.3%	0.7%	16.7%
	要介護1・2	151	30.5%	26.5%	17.9%	7.3%	2.0%	15.9%
	要介護3～5	77	22.1%	15.6%	27.3%	9.1%	3.9%	22.1%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	26.5%	33.1%	23.7%	8.5%	1.3%	7.0%
	連雀地域	534	27.7%	33.9%	23.8%	4.5%	1.7%	8.4%
	井の頭地域	237	31.6%	33.3%	18.1%	8.0%	1.7%	7.2%
	東部地域	412	26.7%	37.1%	19.9%	6.3%	0.7%	9.2%
	新川中原地域	428	22.2%	35.0%	24.8%	6.1%	1.4%	10.5%
	西部地域	361	23.5%	36.6%	22.2%	6.6%	0.6%	10.5%
	大沢地域	183	26.8%	33.9%	20.2%	7.7%	0.0%	11.5%

② 身近に認知症の人がいたらお世話できる

		人数	そう思う	やや そう思う	どちらで もない	あまり思 わない	まったく 思わない	無回答
全体		2,740	13.8%	27.7%	28.1%	15.0%	6.1%	9.3%
認定 状況	自立	2,311	14.0%	29.9%	29.0%	15.1%	4.3%	7.6%
	要支援1・2	138	8.7%	23.9%	20.3%	19.6%	10.1%	17.4%
	要介護1・2	151	15.9%	12.6%	21.2%	10.6%	21.9%	17.9%
	要介護3～5	77	11.7%	9.1%	22.1%	14.3%	20.8%	22.1%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	11.4%	29.7%	32.4%	14.6%	4.9%	7.0%
	連雀地域	534	14.6%	27.9%	28.5%	14.0%	7.3%	7.7%
	井の頭地域	237	17.7%	29.1%	26.2%	13.5%	7.2%	6.3%
	東部地域	412	14.3%	26.5%	28.9%	13.6%	6.6%	10.2%
	新川中原地域	428	12.6%	26.6%	25.2%	18.7%	6.1%	10.7%
	西部地域	361	12.5%	30.7%	25.5%	16.9%	4.2%	10.2%
	大沢地域	183	14.8%	23.5%	30.1%	13.7%	5.5%	12.6%

③ 家族が認知症になったら協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしい

		人数	そう思う	やや そう思う	どちらで もない	あまり思 わない	まったく 思わない	無回答
全体		2,740	24.0%	29.8%	19.5%	12.8%	5.1%	8.9%
認定 状況	自立	2,311	24.2%	31.3%	19.9%	12.9%	4.6%	7.1%
	要支援1・2	138	22.5%	26.1%	13.0%	15.2%	5.8%	17.4%
	要介護1・2	151	25.8%	19.2%	18.5%	9.3%	10.6%	16.6%
	要介護3～5	77	20.8%	13.0%	20.8%	14.3%	9.1%	22.1%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	21.4%	29.2%	21.8%	14.6%	6.6%	6.4%
	連雀地域	534	24.2%	30.7%	19.3%	12.4%	5.6%	7.9%
	井の頭地域	237	24.9%	30.4%	18.1%	11.4%	7.6%	7.6%
	東部地域	412	23.3%	32.3%	20.1%	11.4%	3.6%	9.2%
	新川中原地域	428	26.9%	30.6%	18.2%	11.4%	3.0%	9.8%
	西部地域	361	26.0%	23.8%	19.4%	16.3%	5.0%	9.4%
	大沢地域	183	20.8%	31.1%	18.6%	12.0%	5.5%	12.0%

④ 自分が認知症になったら、まわりの人の手を借りながら自宅での生活を続けたい

		人数	そう思う	やや そう思う	どちらで もない	あまり思 わない	まったく 思わない	無回答
全体		2,740	29.5%	28.4%	16.7%	12.6%	4.8%	8.0%
認定 状況	自立	2,311	28.9%	29.6%	17.3%	13.1%	4.6%	6.5%
	要支援1・2	138	32.6%	22.5%	13.0%	10.1%	6.5%	15.2%
	要介護1・2	151	33.1%	22.5%	15.9%	7.9%	6.0%	14.6%
	要介護3～5	77	32.5%	15.6%	14.3%	11.7%	5.2%	20.8%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	26.1%	30.7%	19.1%	14.8%	3.4%	5.9%
	連雀地域	534	31.1%	27.0%	16.5%	13.5%	5.2%	6.7%
	井の頭地域	237	32.9%	30.0%	15.6%	11.4%	4.6%	5.5%
	東部地域	412	29.9%	26.2%	19.9%	9.7%	5.6%	8.7%
	新川中原地域	428	32.0%	25.7%	13.8%	12.9%	6.1%	9.6%
	西部地域	361	26.9%	29.6%	18.3%	13.3%	3.9%	8.0%
	大沢地域	183	26.2%	35.5%	12.0%	11.5%	3.3%	11.5%

⑤自分が認知症かもしれないと感じたとしても、すぐに病院に行くことには抵抗感がある

		人数	そう思う	やや そう思う	どちらで もない	あまり思 わない	まったく 思わない	無回答
全体		2,740	10.8%	23.7%	16.2%	25.6%	15.5%	8.1%
認定 状況	自立	2,311	10.1%	24.3%	16.3%	27.1%	15.7%	6.4%
	要支援1・2	138	10.9%	23.2%	10.9%	23.9%	14.5%	16.7%
	要介護1・2	151	15.2%	20.5%	18.5%	15.2%	16.6%	13.9%
	要介護3～5	77	20.8%	14.3%	20.8%	9.1%	11.7%	23.4%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	11.7%	25.0%	16.9%	26.9%	13.8%	5.7%
	連雀地域	534	9.6%	22.3%	17.4%	26.6%	16.9%	7.3%
	井の頭地域	237	13.1%	22.4%	14.8%	23.2%	19.4%	7.2%
	東部地域	412	11.4%	26.0%	14.6%	23.5%	16.3%	8.3%
	新川中原地域	428	11.4%	22.0%	17.8%	26.2%	12.6%	10.0%
	西部地域	361	10.5%	26.3%	16.1%	24.4%	15.0%	7.8%
	大沢地域	183	7.1%	20.2%	13.7%	30.1%	19.7%	9.3%

⑥認知症または認知機能の低下は早期に発見したい

		人数	そう思う	やや そう思う	どちらで もない	あまり思 わない	まったく 思わない	無回答
全体		2,740	56.3%	23.8%	8.0%	2.3%	1.6%	8.0%
認定 状況	自立	2,311	57.6%	24.9%	7.4%	2.2%	1.5%	6.4%
	要支援1・2	138	52.2%	22.5%	7.2%	3.6%	0.7%	13.8%
	要介護1・2	151	51.0%	14.6%	12.6%	2.6%	4.6%	14.6%
	要介護3～5	77	37.7%	18.2%	18.2%	5.2%	0.0%	20.8%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	56.4%	26.1%	9.3%	2.1%	1.3%	4.9%
	連雀地域	534	56.0%	23.8%	7.1%	2.4%	3.0%	7.7%
	井の頭地域	237	55.7%	23.2%	9.7%	2.5%	3.0%	5.9%
	東部地域	412	57.5%	21.4%	8.3%	3.4%	1.2%	8.3%
	新川中原地域	428	57.5%	23.1%	6.5%	1.6%	0.9%	10.3%
	西部地域	361	54.6%	26.6%	8.0%	2.5%	0.6%	7.8%
	大沢地域	183	57.4%	22.4%	7.7%	1.1%	1.1%	10.4%

⑦認知症の発症や認知機能の低下を抑制できる可能性があるなら取り組みたい

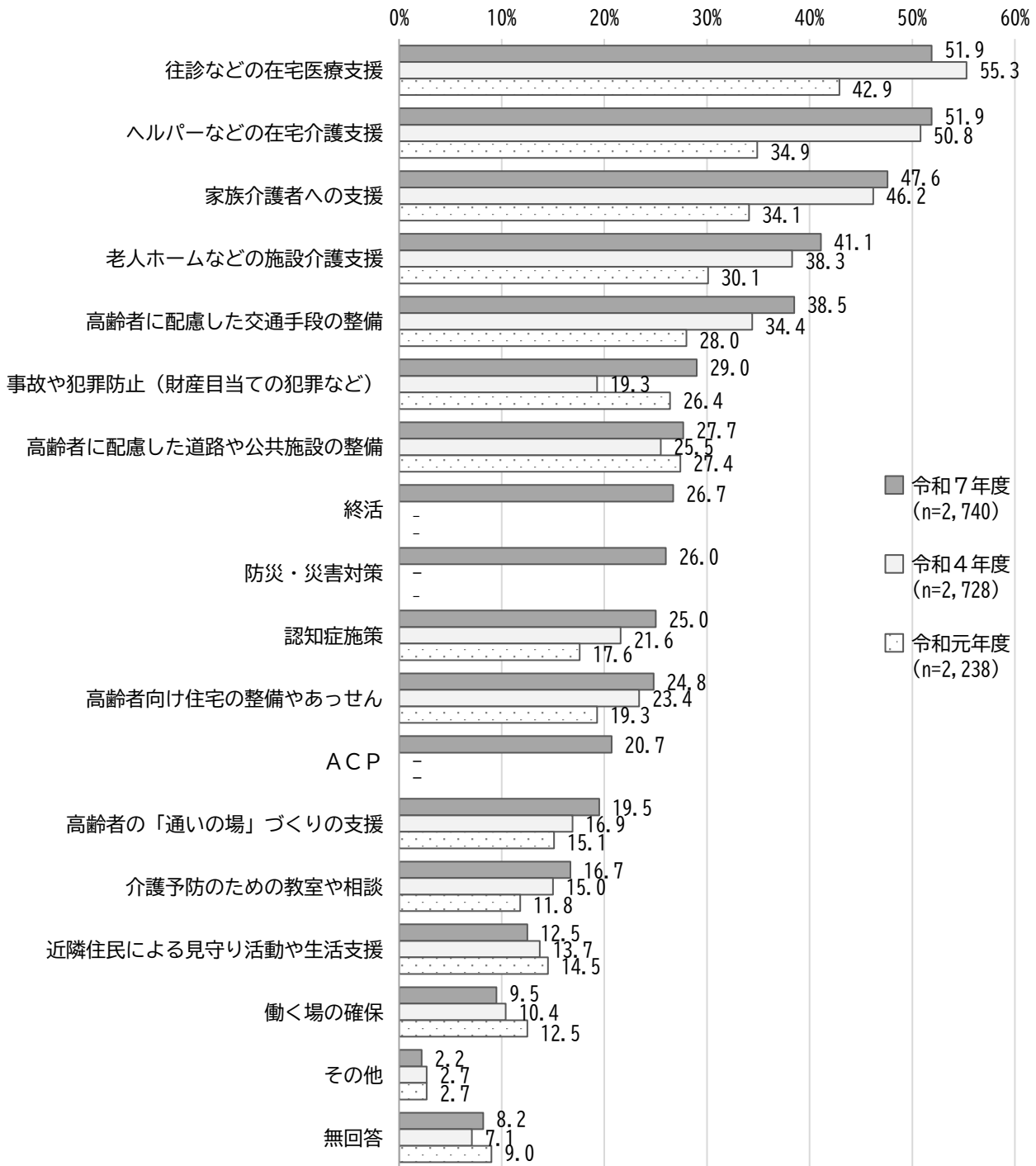
		人数	そう思う	やや そう思う	どちらで もない	あまり思 わない	まったく 思わない	無回答
全体		2,740	56.3%	24.0%	8.1%	2.2%	1.4%	7.9%
認定 状況	自立	2,311	57.8%	25.0%	7.5%	2.2%	1.2%	6.3%
	要支援1・2	138	51.4%	23.2%	8.0%	2.2%	0.7%	14.5%
	要介護1・2	151	46.4%	18.5%	13.2%	2.6%	4.0%	15.2%
	要介護3～5	77	40.3%	13.0%	19.5%	2.6%	3.9%	20.8%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	57.2%	23.7%	9.7%	3.0%	1.1%	5.3%
	連雀地域	534	56.0%	24.3%	6.7%	2.8%	2.8%	7.3%
	井の頭地域	237	56.1%	26.2%	9.7%	1.7%	1.3%	5.1%
	東部地域	412	56.3%	23.3%	8.0%	2.9%	1.5%	8.0%
	新川中原地域	428	57.2%	22.7%	7.5%	2.1%	0.9%	9.6%
	西部地域	361	53.7%	26.9%	9.4%	1.1%	1.1%	7.8%
	大沢地域	183	57.4%	21.3%	8.2%	1.1%	0.5%	11.5%

11. 高齢者施策と介護保険制度について

問10（1）高齢者に対する政策や支援への要望

高齢者に対する政策や支援のうち、今後、特に力を入れてほしい政策や支援はありますか。
（複数回答）

「往診などの在宅医療支援」「ヘルパーなどの在宅介護支援」が51.9%で最も高く、次いで、「家族介護者への支援」が47.6%となっている。「往診などの在宅医療支援」は令和4年度の55.3%より3.4ポイント減少した。他方、「認知症施策」は25.0%と令和4年度の21.6%より3.4ポイント増加した。



■高齢者に対する政策や支援への要望

		人数	往診などの在宅医療支援	ヘルパーなど在宅介護支援	老人ホームなど施設介護支援	認知症施策	家族介護者の支援	介護予防の教室や相談	住宅の整備やあっせん	住民による見守りや支援
全体		2,740	51.9%	51.9%	41.1%	25.0%	47.6%	16.7%	24.8%	12.5%
認定状況	自立	2,311	52.6%	53.1%	41.4%	25.4%	48.4%	17.1%	25.5%	12.0%
	要支援 1・2	138	50.0%	45.7%	37.0%	14.5%	34.8%	11.6%	18.8%	13.0%
	要介護 1・2	151	48.3%	49.0%	39.1%	27.2%	48.3%	15.2%	23.8%	17.2%
	要介護 3～5	77	41.6%	35.1%	44.2%	29.9%	48.1%	13.0%	18.2%	10.4%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	49.2%	52.8%	40.9%	25.6%	47.5%	18.2%	21.6%	11.9%
	連雀地域	534	50.9%	50.4%	43.3%	26.6%	48.1%	16.7%	23.6%	10.7%
	井の頭地域	237	53.6%	56.1%	40.5%	22.4%	43.9%	13.1%	23.2%	13.1%
	東部地域	412	53.6%	50.2%	43.2%	27.4%	51.7%	18.7%	31.1%	11.7%
	新川中原地域	428	52.6%	50.2%	37.9%	24.8%	47.2%	15.9%	27.8%	15.7%
	西部地域	361	54.8%	55.4%	41.3%	26.0%	47.4%	16.3%	23.3%	13.6%
	大沢地域	183	53.6%	53.6%	38.8%	20.2%	47.0%	14.2%	22.4%	10.4%

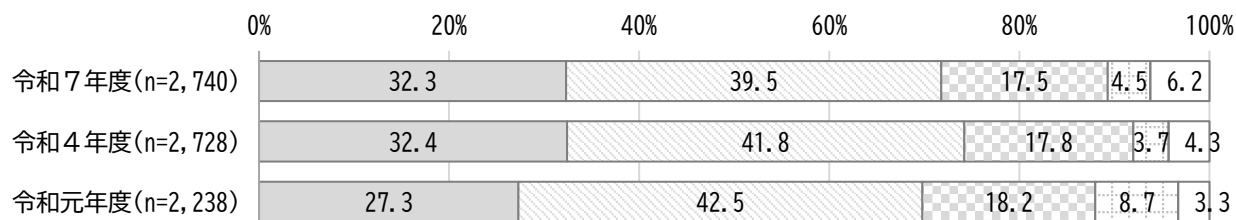
		働く場の確保	高齢者の通いの場づくり	道路や施設の整備	高齢者に配慮した交通整備	事故や犯罪防止	防災・災害対策	終活	ACP	その他
全体		9.5%	19.5%	27.7%	38.5%	29.0%	26.0%	26.7%	20.7%	2.2%
認定状況	自立	10.6%	19.6%	27.7%	39.5%	30.5%	27.1%	27.1%	20.9%	2.0%
	要支援 1・2	0.0%	22.5%	31.2%	37.0%	22.5%	22.5%	26.8%	18.8%	2.9%
	要介護 1・2	4.6%	19.2%	29.8%	35.8%	23.8%	18.5%	22.5%	15.9%	3.3%
	要介護 3～5	3.9%	10.4%	16.9%	19.5%	13.0%	14.3%	19.5%	19.5%	3.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	8.5%	18.4%	26.1%	34.3%	32.0%	28.6%	31.6%	23.1%	3.6%
	連雀地域	10.3%	18.4%	27.3%	34.6%	26.2%	23.8%	26.8%	21.7%	1.7%
	井の頭地域	6.3%	19.4%	30.4%	38.8%	30.4%	29.5%	24.9%	19.0%	2.1%
	東部地域	11.2%	22.1%	31.8%	40.8%	29.1%	27.7%	28.4%	20.6%	2.2%
	新川中原地域	11.7%	19.4%	26.4%	38.6%	29.0%	25.2%	27.1%	19.2%	1.9%
	西部地域	8.9%	19.9%	25.5%	43.8%	29.9%	23.5%	24.4%	20.5%	1.9%
	大沢地域	8.2%	15.8%	28.4%	46.4%	29.0%	26.8%	23.0%	20.8%	1.1%

問10（2）介護保険料の負担感

介護保険料の支払いについて、どのように感じていますか。

「多少負担に感じている」が 39.5%で最も高く、次いで、「負担に感じている」が 32.3%、「あまり負担には感じていない」が 17.5%となっている。「負担/多少負担に感じている」の割合は 71.8%と令和4年度の 74.2%より 2.4 ポイント減少した。

■ 負担に感じている ■ 多少負担に感じている ■ あまり負担には感じていない ■ 負担には感じていない □ 無回答



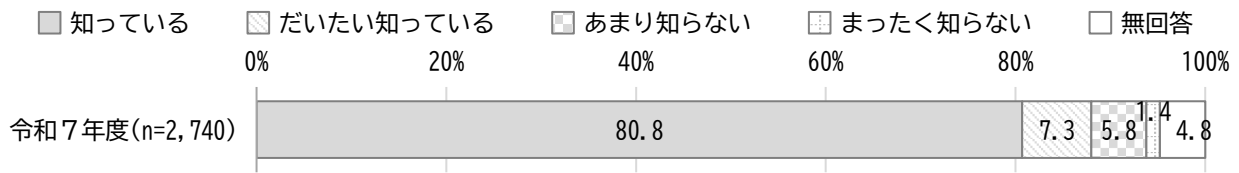
「負担/多少負担に感じている」の割合を認定状況別にみると、「自立」が 73.4%と最も高く、「要支援1・2」が 63.8%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、「大沢」が 74.3%と最も高く、「井の頭」が 67.5%と最も低かった。

		人数	負担に感じている	多少負担に感じている	あまり負担に感じていない	負担には感じていない	無回答
全体		2,740	32.3%	39.5%	17.5%	4.5%	6.2%
認定状況	自立	2,311	33.5%	39.9%	17.2%	3.8%	5.5%
	要支援1・2	138	23.2%	40.6%	21.7%	5.1%	9.4%
	要介護1・2	151	20.5%	37.7%	21.2%	10.6%	9.9%
	要介護3～5	77	35.1%	33.8%	15.6%	9.1%	6.5%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	31.4%	39.2%	18.9%	6.1%	4.4%
	連雀地域	534	32.0%	40.4%	18.9%	3.4%	5.2%
	井の頭地域	237	33.3%	34.2%	23.2%	4.6%	4.6%
	東部地域	412	31.3%	41.5%	14.8%	3.9%	8.5%
	新川中原地域	428	35.0%	38.1%	15.2%	4.4%	7.2%
	西部地域	361	30.2%	39.6%	20.2%	5.0%	5.0%
	大沢地域	183	32.2%	42.1%	13.1%	4.4%	8.2%

問10（3）介護保険料納付の義務

介護保険の利用にかかわらず、介護保険料を納付しなければいけない事をご存知ですか。

「知っている」が 80.8%で最も高く、次いで、「だいたい知っている」が 7.3%、「あまり知らない」が 5.8%となっている。



「知っている/だいたい知っている」の割合を認定状況別にみると、「自立」が 89.8%と最も高く、「要介護1・2」が 76.1%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、「井の頭」が 92.4%と最も高く、「新川中原」が 85.5%と最も低かった。

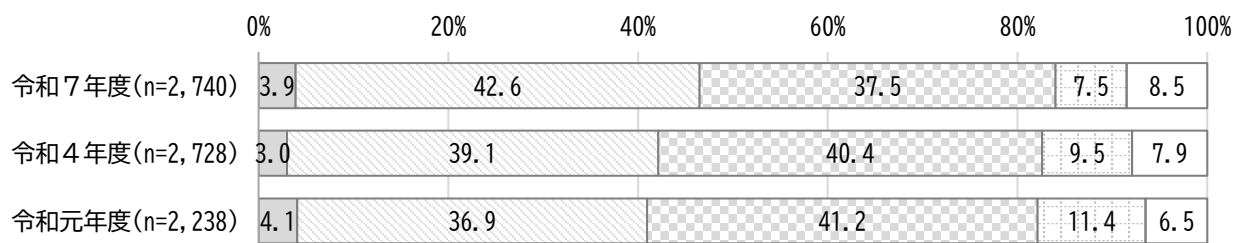
		人数	知っている	だいたい知っている	あまり知らない	まったく知らない	無回答
全体		2,740	80.8%	7.3%	5.8%	1.4%	4.8%
認定状況	自立	2,311	82.5%	7.3%	4.9%	1.1%	4.2%
	要支援1・2	138	76.1%	6.5%	5.8%	2.2%	9.4%
	要介護1・2	151	67.5%	8.6%	14.6%	2.6%	6.6%
	要介護3～5	77	74.0%	6.5%	7.8%	6.5%	5.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	80.1%	8.1%	5.7%	1.7%	4.4%
	連雀地域	534	81.6%	8.2%	5.4%	1.5%	3.2%
	井の頭地域	237	86.1%	6.3%	4.2%	0.0%	3.4%
	東部地域	412	78.9%	8.3%	5.6%	1.7%	5.6%
	新川中原地域	428	79.9%	5.6%	7.5%	1.4%	5.6%
	西部地域	361	83.7%	6.1%	4.7%	1.4%	4.2%
	大沢地域	183	80.3%	6.6%	4.4%	1.6%	7.1%

問10（4）介護保険制度の評価

介護保険制度は、あなたが納めている保険料に見合うだけの制度だと思いますか。

「まあそう思う」が 42.6%で最も高く、次いで、「あまりそう思わない」が 37.5%、「まったくそう思わない」が 7.5%となっている。「非常にそう思う/まあそう思う」の介護保険制度に対して肯定的な評価者の割合は 46.5%と令和4年度の 42.1%より 4.4ポイント増加した。

■ 非常にそう思う ▨ まあそう思う □ あまりそう思わない ▩ まったくそう思わない □ 無回答



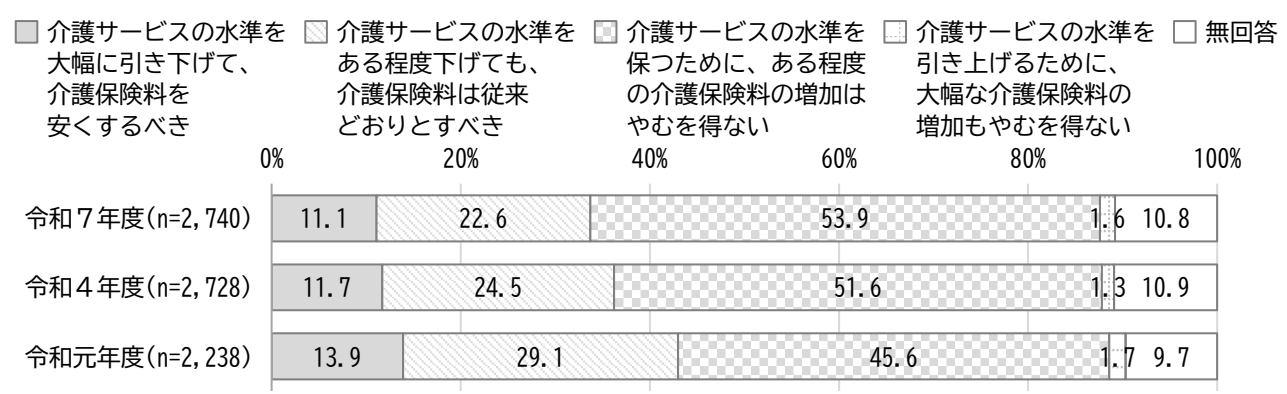
「非常にそう思う/まあそう思う」の介護保険制度に対して肯定的な評価者の割合を認定状況別にみると、「要介護3～5」が 62.3%と最も高く、「自立」が 44.7%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、肯定的な評価の割合は「西部」が 49.3%と最も高く、「新川中原」が 45.8%と最も低かった。

		人数	非常に そう思う	まあ そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	無回答
全体		2,740	3.9%	42.6%	37.5%	7.5%	8.5%
認定 状況	自立	2,311	2.9%	41.8%	39.4%	7.9%	8.0%
	要支援1・2	138	10.9%	44.9%	27.5%	6.5%	10.1%
	要介護1・2	151	7.9%	52.3%	25.8%	2.6%	11.3%
	要介護3～5	77	10.4%	51.9%	22.1%	6.5%	9.1%
日常 生活 圏域	三鷹駅周辺地域	472	2.8%	45.6%	36.4%	8.9%	6.4%
	連雀地域	534	4.7%	41.0%	41.0%	6.6%	6.7%
	井の頭地域	237	3.4%	43.5%	38.4%	7.2%	7.6%
	東部地域	412	4.4%	41.5%	36.9%	8.0%	9.2%
	新川中原地域	428	3.5%	42.3%	37.1%	7.5%	9.6%
	西部地域	361	3.9%	45.4%	35.2%	6.9%	8.6%
	大沢地域	183	5.5%	43.2%	32.2%	9.3%	9.8%

問10（5）介護サービスの給付と負担に関する意見

高齢者数が増えると、介護サービスの水準を維持するために、どうしても介護保険料が高くなってしまいます。あなたのご意見は、次のどれに近いですか

「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」が53.9%で最も高く、次いで、「介護サービスの水準をある程度下げても、介護保険料は従来どおりとすべき」が22.6%、「介護サービスの水準を大幅に引き下げて、介護保険料を安くするべき」が11.1%となっている。「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」（53.9%）と「介護サービスの水準を保つために、大幅な介護保険料の増加はやむを得ない」（1.6%）を合わせた介護保険料の増加を「容認」する意見は55.5%と令和4年度の52.9%と同程度であった。



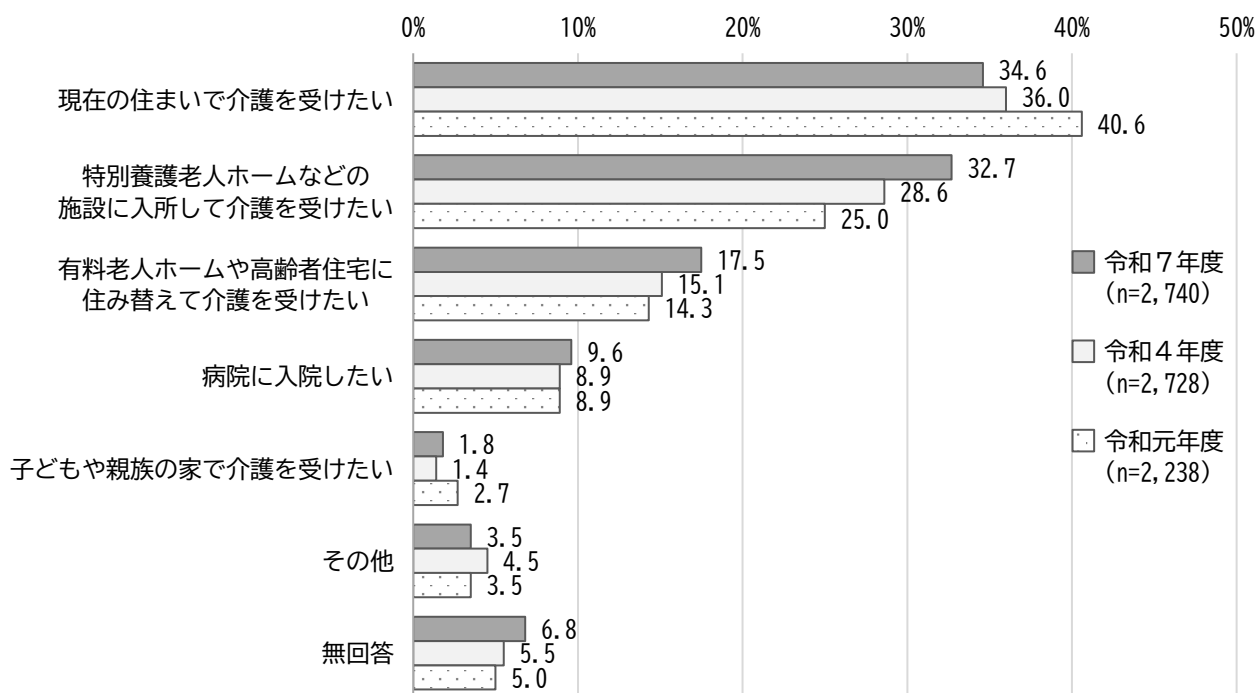
介護保険料の増加を「容認」する意見を認定状況別にみると、「要介護1・2」が60.9%と最も高く、「要支援1・2」が50.0%と最も低かった。日常生活圏域別にみると、「西部」が61.2%と最も高く、「大沢」が48.6%と最も低かった。

		人数	介護サービスの水準を大幅に引き下げて、介護保険料を安くするべき	介護サービスの水準をある程度下げても、介護保険料は従来どおりとすべき	介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない	介護サービスの水準を引き上げるために、大幅な介護保険料の増加はやむを得ない	無回答
全体		2,740	11.1%	22.6%	53.9%	1.6%	10.8%
認定状況	自立	2,311	10.8%	23.5%	54.3%	1.4%	10.0%
	要支援1・2	138	11.6%	23.2%	49.3%	0.7%	15.2%
	要介護1・2	151	13.9%	13.9%	58.3%	2.6%	11.3%
	要介護3～5	77	11.7%	18.2%	50.6%	5.2%	14.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	8.9%	23.1%	55.9%	2.8%	9.3%
	連雀地域	534	10.1%	24.3%	55.6%	1.7%	8.2%
	井の頭地域	237	8.9%	22.4%	59.5%	1.3%	8.0%
	東部地域	412	11.7%	22.1%	52.2%	1.5%	12.6%
	新川中原地域	428	14.3%	22.0%	50.2%	0.9%	12.6%
	西部地域	361	8.6%	19.4%	59.8%	1.4%	10.8%
	大沢地域	183	13.1%	25.1%	46.4%	2.2%	13.1%

問10（6）療養場所の希望

仮に、あなたが寝たきりのような状態になった時には、どのようにしたいですか。ご希望に最も近いものを選んでください。（複数回答）

「現在の住まいで介護を受けたい」が 34.6%で最も高く、次いで、「特別養護老人ホームなどの施設に入所して介護を受けたい」が 32.7%、「有料老人ホームや高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」が 17.5%となっている。「特別養護老人ホームなどの施設に入所して介護を受けたい」は令和4年度の 28.6%より 4.1ポイント増加している。



認定状況別にみると、全てのカテゴリーで「現在の住まいで介護を受けたい」という回答の割合が高く、要介護度が高くなるほどその割合が増えていた。日常生活圏域別にみると、「現在の住まい」を希望する割合は「井の頭」が 40.9%と最も高く、「連雀」が 31.1%と最も低かった。一方、「特別養護老人ホームなどの施設」を希望する割合は「大沢」が 36.1%と最も高く、「井の頭」が 26.6%と最も低かった。

		人数	現在の住まい	子供や親族の家	有料老人ホームや高齢者住宅	特別養護老人ホーム等の施設	病院に入院	その他	無回答
全体		2,740	34.6%	1.8%	17.5%	32.7%	9.6%	3.5%	6.8%
認定状況	自立	2,311	33.6%	1.6%	18.0%	33.7%	9.4%	3.5%	6.1%
	要支援1・2	138	38.4%	2.2%	18.1%	26.1%	10.9%	1.4%	10.9%
	要介護1・2	151	41.1%	3.3%	13.2%	27.8%	11.9%	6.0%	7.9%
	要介護3～5	77	44.2%	6.5%	9.1%	20.8%	6.5%	2.6%	14.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	31.8%	2.1%	21.4%	31.8%	10.0%	5.1%	4.7%
	連雀地域	534	31.1%	1.9%	18.7%	32.4%	10.1%	3.7%	6.4%
	井の頭地域	237	40.9%	1.7%	19.4%	26.6%	9.3%	3.8%	4.2%
	東部地域	412	33.5%	1.7%	17.2%	33.7%	10.0%	3.6%	8.0%
	新川中原地域	428	34.8%	2.8%	14.3%	34.6%	10.5%	2.8%	7.5%
	西部地域	361	37.4%	1.1%	16.9%	34.1%	7.8%	2.8%	6.4%
大沢地域	183	35.5%	1.1%	13.7%	36.1%	7.7%	1.6%	9.8%	

問10（7）高齢者向け資料等の周知状況

三鷹市の高齢者向けパンフレットやサービス等をご存じですか。

- ① 高齢者のためのしおり
- ② いつまでもこのまちで 介護保険のしおり
- ③ 三鷹市介護保険 介護サービス事業者ガイドブック
- ④ わが家・三鷹で暮らし続けるために
- ⑤ 三鷹版 わたしの覚え書きノート
- ⑥ 認知症にやさしいまち三鷹ガイドブック
- ⑦ 三鷹みんなで地域体操 うごこっと
- ⑧ 介護・医療・地域資源情報検索サイト「三鷹かよおっと」
- ⑨ 救急医療情報キット
- ⑩ あんしんキーホルダー
- ⑪ ひとり歩き高齢者等見守りシール
- ⑫ 地域包括支援センター
- ⑬ 権利擁護センターみたか
- ⑭ 福祉 Labo どんぐり山

「知っている」の割合は、「地域包括支援センター」が 44.5%で最も高く、次いで、「高齢者のためのしおり」が 21.9%、「福祉 Labo どんぐり」が 18.9%となっている。他方、「知らない」の割合は、「介護・医療・地域資源情報検索サイト三鷹かよおっと」が 80.3%で最も高く、次いで、「権利擁護センターみたか」が 77.7%、「三鷹版 わたしの覚え書きノート」が 75.6%となっている。「知っている」割合を令和4年度と比較すると「高齢者のためのしおり」が 6.2ポイント、次いで、「救急医療情報キット」が 5.8ポイント、「認知症ガイドブック」が 3.6ポイント増加している。

■高齢者向け資料等の周知状況

知っている
 聞いたことはある
 知らない
 無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%

①高齢者のためのしおり令和7年度	21.9	14.9	57.8	5.4
①高齢者のためのしおり令和4年度	15.7	10.6	64.8	9.0
①高齢者のためのしおり令和元年度	16.8	14.5	66.4	2.3
②介護保険のしおり令和7年度	14.3	13.3	64.9	7.6
②介護保険のしおり令和4年度	14.4	9.7	66.2	9.8
②介護保険のしおり令和元年度	17.9	13.6	66.1	2.4
③介護サービス事業者ガイド令和7年度	13.6	16.1	62.5	7.7
④三鷹で暮らし続けるために令和7年度	8.4	13.1	70.1	8.3
④三鷹で暮らし続けるために令和4年度	4.7	8.2	75.2	11.8
④三鷹で暮らし続けるために令和元年度	12.2	13.1	72.1	2.5
⑤わたしの覚え書きノート令和7年度	7.2	9.0	75.6	8.3
⑤わたしの覚え書きノート令和4年度	3.0	6.6	78.5	11.8
⑤わたしの覚え書きノート令和元年度	6.4	10.6	80.5	2.5
⑥認知症ガイドブック令和7年度	8.1	12.8	71.0	8.1
⑥認知症ガイドブック令和4年度	4.5	8.3	75.5	11.7
⑥認知症ガイドブック令和元年度	6.3	11.7	79.2	2.8
⑦地域体操うごこっと令和7年度	10.9	12.5	69.3	7.3
⑦地域体操うごこっと令和4年度	6.7	8.7	74.0	10.5
⑧「三鷹かよおっと」令和7年度	3.0	7.6	80.3	9.1
⑨救急医療情報キット令和7年度	11.5	11.1	68.9	8.4
⑨救急医療情報キット令和4年度	5.7	12.6	70.6	11.0
⑨救急医療情報キット令和元年度	10.1	15.1	72.3	2.4
⑩安心キーホルダー令和7年度	17.5	11.5	64.6	6.4
⑪高齢者等見守りシール令和7年度	5.5	12.9	73.1	8.5
⑫地域包括支援センター令和7年度	44.5	19.0	31.5	5.0
⑬権利擁護センターみたか令和7年度	4.5	9.0	77.7	8.9
⑭福祉Laboどんぐり山令和7年度	18.9	20.3	54.5	6.3

① 高齢者のためのしおり

「知らない」が 57.8%で最も高く、次いで、「知っている」が 21.9%、「聞いたことはある」が 14.9%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	21.9%	14.9%	57.8%	5.4%
認定状況	自立	2,311	19.7%	14.8%	60.9%	4.6%
	要支援 1・2	138	43.5%	15.9%	33.3%	7.2%
	要介護 1・2	151	27.2%	16.6%	43.7%	12.6%
	要介護 3～5	77	32.5%	10.4%	46.8%	10.4%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	20.8%	14.2%	61.9%	3.2%
	連雀地域	534	23.2%	16.5%	55.4%	4.9%
	井の頭地域	237	21.1%	15.6%	59.1%	4.2%
	東部地域	412	19.2%	16.7%	57.8%	6.3%
	新川中原地域	428	25.2%	13.8%	54.2%	6.8%
	西部地域	361	20.5%	12.5%	61.5%	5.5%
	大沢地域	183	21.9%	13.1%	57.9%	7.1%

② いつまでもこのまちで 介護保険のしおり

「知らない」が 64.9%で最も高く、次いで、「知っている」が 14.3%、「聞いたことはある」が 13.3%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	14.3%	13.3%	64.9%	7.6%
認定状況	自立	2,311	12.5%	13.1%	67.9%	6.5%
	要支援 1・2	138	35.5%	9.4%	44.2%	10.9%
	要介護 1・2	151	19.9%	14.6%	49.7%	15.9%
	要介護 3～5	77	18.2%	19.5%	48.1%	14.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	12.9%	12.3%	69.1%	5.7%
	連雀地域	534	15.9%	13.5%	64.6%	6.0%
	井の頭地域	237	14.3%	12.7%	65.8%	7.2%
	東部地域	412	11.2%	14.8%	65.8%	8.3%
	新川中原地域	428	17.3%	13.3%	60.5%	8.9%
	西部地域	361	13.6%	13.3%	65.1%	8.0%
	大沢地域	183	10.4%	12.0%	66.7%	10.9%

③ 三鷹市介護保険 介護サービス事業者ガイドブック

「知らない」が 62.5%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が 16.1%、「知っている」が 13.6%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	13.6%	16.1%	62.5%	7.7%
認定状況	自立	2,311	11.6%	15.8%	66.1%	6.6%
	要支援 1・2	138	34.1%	16.7%	39.9%	9.4%
	要介護 1・2	151	21.2%	15.9%	45.7%	17.2%
	要介護 3～5	77	23.4%	18.2%	42.9%	15.6%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	12.7%	16.5%	64.4%	6.4%
	連雀地域	534	15.2%	14.8%	63.1%	6.9%
	井の頭地域	237	13.9%	14.8%	65.4%	5.9%
	東部地域	412	11.2%	16.0%	65.0%	7.8%
	新川中原地域	428	15.7%	16.1%	59.1%	9.1%
	西部地域	361	13.9%	16.3%	62.0%	7.8%
	大沢地域	183	10.4%	18.6%	61.7%	9.3%

④ わが家・三鷹で暮らし続けるために

「知らない」が 70.1%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が 13.1%、「知っている」が 8.4%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	8.4%	13.1%	70.1%	8.3%
認定状況	自立	2,311	7.4%	12.7%	73.0%	6.9%
	要支援 1・2	138	16.7%	13.0%	55.1%	15.2%
	要介護 1・2	151	11.9%	17.2%	53.6%	17.2%
	要介護 3～5	77	11.7%	14.3%	57.1%	16.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	8.5%	13.8%	71.8%	5.9%
	連雀地域	534	9.2%	11.8%	71.3%	7.7%
	井の頭地域	237	7.6%	11.0%	74.3%	7.2%
	東部地域	412	7.3%	13.8%	70.1%	8.7%
	新川中原地域	428	9.1%	13.3%	68.0%	9.6%
	西部地域	361	7.5%	13.6%	70.1%	8.9%
	大沢地域	183	8.2%	13.1%	67.8%	10.9%

⑤ 三鷹版 わたしの覚え書きノート

「知らない」が75.6%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が9.0%、「知っている」が7.2%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	7.2%	9.0%	75.6%	8.3%
認定状況	自立	2,311	6.4%	8.9%	77.7%	7.0%
	要支援1・2	138	16.7%	10.1%	59.4%	13.8%
	要介護1・2	151	8.6%	9.9%	63.6%	17.9%
	要介護3～5	77	7.8%	2.6%	72.7%	16.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	5.3%	8.9%	79.4%	6.4%
	連雀地域	534	10.1%	10.1%	72.3%	7.5%
	井の頭地域	237	7.6%	5.9%	80.6%	5.9%
	東部地域	412	5.8%	6.6%	79.4%	8.3%
	新川中原地域	428	7.2%	8.6%	73.4%	10.7%
	西部地域	361	7.2%	9.7%	74.2%	8.9%
	大沢地域	183	6.6%	11.5%	71.6%	10.4%

⑥ 認知症にやさしいまち三鷹ガイドブック

「知らない」が71.0%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が12.8%、「知っている」が8.1%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	8.1%	12.8%	71.0%	8.1%
認定状況	自立	2,311	7.4%	12.7%	73.1%	6.8%
	要支援1・2	138	14.5%	10.9%	59.4%	15.2%
	要介護1・2	151	9.9%	14.6%	58.9%	16.6%
	要介護3～5	77	11.7%	11.7%	59.7%	16.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	7.2%	12.7%	75.2%	4.9%
	連雀地域	534	8.6%	12.7%	71.0%	7.7%
	井の頭地域	237	7.2%	13.5%	73.4%	5.9%
	東部地域	412	4.9%	14.3%	71.8%	9.0%
	新川中原地域	428	10.7%	9.6%	69.6%	10.0%
	西部地域	361	8.6%	13.9%	70.4%	7.2%
	大沢地域	183	9.3%	13.7%	64.5%	12.6%

⑦ 三鷹みんなで地域体操 うごこっと

「知らない」が 69.3%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が 12.5%、「知っている」が 10.9%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	10.9%	12.5%	69.3%	7.3%
認定状況	自立	2,311	10.3%	12.3%	71.7%	5.8%
	要支援1・2	138	19.6%	16.7%	50.0%	13.8%
	要介護1・2	151	13.2%	10.6%	57.6%	18.5%
	要介護3～5	77	9.1%	6.5%	66.2%	18.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	8.5%	11.4%	74.8%	5.3%
	連雀地域	534	10.9%	15.4%	66.7%	7.1%
	井の頭地域	237	11.4%	11.4%	71.7%	5.5%
	東部地域	412	7.5%	10.2%	73.8%	8.5%
	新川中原地域	428	13.6%	13.1%	65.2%	8.2%
	西部地域	361	14.1%	12.7%	65.9%	7.2%
	大沢地域	183	9.8%	11.5%	68.3%	10.4%

⑧ 介護・医療・地域資源情報検索サイト「三鷹かよおっと」

「知らない」が 80.3%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が 7.6%、「知っている」が 3.0%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	3.0%	7.6%	80.3%	9.1%
認定状況	自立	2,311	2.6%	7.0%	82.9%	7.5%
	要支援1・2	138	5.8%	12.3%	65.2%	16.7%
	要介護1・2	151	4.0%	9.9%	66.2%	19.9%
	要介護3～5	77	6.5%	3.9%	71.4%	18.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	2.3%	7.4%	84.5%	5.7%
	連雀地域	534	2.8%	9.0%	79.4%	8.8%
	井の頭地域	237	3.0%	6.3%	84.8%	5.9%
	東部地域	412	1.7%	5.3%	83.0%	10.0%
	新川中原地域	428	5.6%	8.2%	75.9%	10.3%
	西部地域	361	2.2%	8.0%	79.5%	10.2%
	大沢地域	183	1.6%	7.1%	78.1%	13.1%

⑨ 救急医療情報キット

「知らない」が 68.9%で最も高く、次いで、「知っている」が 11.5%、「聞いたことはある」が 11.1%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	11.5%	11.1%	68.9%	8.4%
認定状況	自立	2,311	10.8%	10.6%	71.6%	7.0%
	要支援 1・2	138	19.6%	12.3%	51.4%	16.7%
	要介護 1・2	151	13.2%	13.2%	55.0%	18.5%
	要介護 3～5	77	10.4%	10.4%	63.6%	15.6%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	9.5%	10.4%	74.8%	5.3%
	連雀地域	534	15.0%	11.2%	66.5%	7.3%
	井の頭地域	237	9.7%	11.0%	73.0%	6.3%
	東部地域	412	10.7%	8.3%	70.9%	10.2%
	新川中原地域	428	11.4%	13.1%	65.7%	9.8%
	西部地域	361	12.2%	11.9%	67.0%	8.9%
	大沢地域	183	10.9%	9.3%	67.8%	12.0%

⑩ あんしんキーホルダー

「知らない」が 64.6%で最も高く、次いで、「知っている」が 17.5%、「聞いたことはある」が 11.5%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	17.5%	11.5%	64.6%	6.4%
認定状況	自立	2,311	15.6%	11.4%	67.4%	5.5%
	要支援 1・2	138	33.3%	10.1%	49.3%	7.2%
	要介護 1・2	151	25.8%	12.6%	46.4%	15.2%
	要介護 3～5	77	22.1%	6.5%	57.1%	14.3%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	15.7%	9.7%	70.3%	4.2%
	連雀地域	534	18.0%	10.5%	65.4%	6.2%
	井の頭地域	237	16.9%	13.1%	66.2%	3.8%
	東部地域	412	19.2%	13.6%	60.7%	6.6%
	新川中原地域	428	14.7%	12.4%	65.2%	7.7%
	西部地域	361	21.3%	11.9%	59.3%	7.5%
	大沢地域	183	16.9%	7.7%	65.6%	9.8%

⑪ ひとり歩き高齢者等見守りシール

「知らない」が 73.1%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が 12.9%、「知っている」が 5.5%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	5.5%	12.9%	73.1%	8.5%
認定状況	自立	2,311	5.1%	12.5%	75.2%	7.3%
	要支援 1・2	138	6.5%	18.1%	59.4%	15.9%
	要介護 1・2	151	8.6%	15.9%	60.3%	15.2%
	要介護 3～5	77	7.8%	7.8%	66.2%	18.2%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	5.9%	11.9%	77.1%	5.1%
	連雀地域	534	5.4%	14.6%	72.5%	7.5%
	井の頭地域	237	5.1%	11.0%	77.2%	6.8%
	東部地域	412	4.4%	12.9%	73.3%	9.5%
	新川中原地域	428	6.1%	13.1%	70.6%	10.3%
	西部地域	361	7.8%	12.5%	70.4%	9.4%
	大沢地域	183	2.7%	9.8%	74.9%	12.6%

⑫ 地域包括支援センター

「知っている」が 44.5%で最も高く、次いで、「知らない」が 31.5%、「聞いたことはある」が 19.0%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	44.5%	19.0%	31.5%	5.0%
認定状況	自立	2,311	41.0%	20.5%	34.1%	4.4%
	要支援 1・2	138	73.2%	5.1%	15.2%	6.5%
	要介護 1・2	151	60.3%	12.6%	15.9%	11.3%
	要介護 3～5	77	62.3%	10.4%	18.2%	9.1%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	40.9%	18.4%	38.1%	2.5%
	連雀地域	534	41.9%	19.9%	33.7%	4.5%
	井の頭地域	237	47.7%	18.1%	32.9%	1.3%
	東部地域	412	45.1%	20.4%	28.6%	5.8%
	新川中原地域	428	44.9%	18.9%	29.0%	7.2%
	西部地域	361	48.8%	16.6%	29.6%	5.0%
	大沢地域	183	47.5%	21.3%	23.0%	8.2%

⑬ 権利擁護センターみたか

「知らない」が 77.7%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が 9.0%、「知っている」が 4.5%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	4.5%	9.0%	77.7%	8.9%
認定状況	自立	2,311	4.3%	8.9%	79.3%	7.5%
	要支援 1・2	138	4.3%	8.0%	71.7%	15.9%
	要介護 1・2	151	4.6%	8.6%	68.2%	18.5%
	要介護 3～5	77	9.1%	6.5%	67.5%	16.9%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	4.2%	9.5%	80.7%	5.5%
	連雀地域	534	5.2%	9.9%	77.0%	7.9%
	井の頭地域	237	4.2%	7.6%	82.3%	5.9%
	東部地域	412	3.2%	8.3%	79.4%	9.2%
	新川中原地域	428	4.9%	7.9%	76.2%	11.0%
	西部地域	361	3.9%	9.7%	75.9%	10.5%
	大沢地域	183	4.9%	8.2%	72.7%	14.2%

⑭ 福祉 Labo どんぐり山

「知らない」が 54.5%で最も高く、次いで、「聞いたことはある」が 20.3%、「知っている」が 18.9%となっている。

		人数	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		2,740	18.9%	20.3%	54.5%	6.3%
認定状況	自立	2,311	18.5%	20.5%	55.9%	5.1%
	要支援 1・2	138	27.5%	19.6%	43.5%	9.4%
	要介護 1・2	151	13.2%	20.5%	50.3%	15.9%
	要介護 3～5	77	22.1%	16.9%	45.5%	15.6%
日常生活圏域	三鷹駅周辺地域	472	15.0%	19.1%	61.2%	4.7%
	連雀地域	534	16.5%	21.5%	56.2%	5.8%
	井の頭地域	237	14.3%	18.1%	62.9%	4.6%
	東部地域	412	12.4%	20.4%	59.7%	7.5%
	新川中原地域	428	17.3%	20.1%	54.7%	7.9%
	西部地域	361	23.8%	23.0%	46.3%	6.9%
	大沢地域	183	51.9%	18.6%	23.0%	6.6%

12. 結果の概要と今後の課題

(1) 高齢者実態調査の経年変化から見える課題

過去に実施した調査の結果と、今年度（令和7年度）に実施した調査の結果を比較し、高齢者の健康や生活等の変化を調べた。なお、各調査の回収状況が異なり、特に令和4年度以降、インターネット調査を新たに導入したため、それが結果に影響を及ぼしている可能性があり、調査結果の単純な比較には一定の注意が必要である。しかし、回答者の性別、年齢階級、要介護認定者、日常生活圏域の分布は、過去の調査と今回の調査で同程度であったことを踏まえると、概況を把握する上での参考資料にはなり得ると考える。

① 改善傾向が認められた項目

健康面では、主観的幸福感が緩やかに向上している。幸福感が「8点以上」と回答した割合は、令和元年度45.2%から令和4年度47.0%、令和7年度には48.5%へと上昇しており、長期的に改善傾向が確認できる（問8-2）。また、口腔機能に関する指標として「自分の歯が20本以上ある」と回答した人の割合も、令和元年度50.2%から令和7年度には55.4%まで増加しており、歯科保健施策やセルフケア意識の浸透がうかがえる（問3-3）。

生活面では、閉じこもりリスク（外出頻度が週1回以下）が令和元年度16.6%から令和7年度15.5%へと低下しており、外出機会の確保や地域活動の効果が一定程度表れていると考えられる（問2-6）。さらに、インターネット利用率は令和4年度60.0%から令和7年度66.0%へ上昇しており、情報取得や社会参加の手段が拡大している点も評価できる（問4-11）。これらの結果から、健康意識や社会的つながりを支える基盤は、総じて改善方向にあるといえる。

② 前回悪化したが今回改善した項目

一時的に悪化したものの、直近調査で改善がみられた項目も複数確認された。健康面では、BMI25以上の肥満該当者割合が、令和元年度17.5%から令和4年度22.7%へ増加した後、令和7年度には19.1%まで低下している（問3-1）。コロナ禍等による生活習慣の変化が一時的に影響した可能性があるが、近年は改善に転じている。

また、転倒に対して「とても不安」「やや不安」と回答した人の割合は、令和元年度46.9%から令和4年度53.4%へ上昇したものの、令和7年度には52.5%とわずかに低下しており、不安感の高止まりはあるものの改善の兆しがみられる（問2-5）。

生活面では、暮らしが「やや苦しい／大変苦しい」と感じている人の割合が、令和4年度28.3%から令和7年度24.4%へと4ポイント近く改善している（問1-7）。これらの結果から、悪化局面を経ても施策や社会環境の変化により回復する項目が存在することが示唆される。

③ 前回改善したが今回悪化した項目

一方で、前回調査まで改善していたものの、今回再び悪化がみられた項目もある。健康状態について「とてもよい／まあよい」と回答した割合は、令和元年度73.2%から令和4年度79.2%へ上昇したが、令和7年度には78.5%と大きな変化はみられていない（問8-1）。高水準を維持しているものの、改善が頭打ちとなり、再び低下傾向に転じる可能性が示唆される。

また、医療面では「かかりつけ医がいる」と回答した割合が、令和4年度85.7%から令和7年度84.9%へとわずかに低下している（問8-7）。変化幅は小さいものの、高齢化の進行や医療機関の受診行動の変化が影響している可能性があり、今後の動向に注意が必要である。これら

の項目は、一見良好な水準に見えるが、改善が持続しない点に留意し、継続的な支援が求められる。

④ 悪化傾向が認められた項目

継続的な悪化傾向が認められる項目として、心身の不調や孤立に関する指標が挙げられる。「この1か月にゆううつな気持ちになったことがある」と回答した割合は、令和元年度32.9%から令和7年度34.8%へと増加しており、精神的健康への不安が拡大している（問8-3）。また、「現在、病気がない」と回答した割合は令和元年度20.3%から令和7年度14.9%へと低下しており、慢性疾患を抱える高齢者が増加していることが示唆される（問8-6）。

孤立面では、「誰とも話をしない日が週1日以上ある」と回答した割合が、令和元年度18.8%から令和7年度21.9%へ上昇傾向がうかがえる（問7-6）。加えて、一人暮らしの割合も令和元年度20.3%から令和7年度23.0%へ増加しており、今後さらなる孤立リスクの高まりが懸念される（問1-4）。これらは、重点的な対策が必要な課題である。

⑤ 今後への示唆

経年変化の分析から、三鷹市における高齢者施策は一定の成果を上げている一方、課題の質が変化していることが明らかとなった。幸福感や口腔機能、外出頻度などは改善傾向にあり、健康づくりや社会参加施策の継続が重要である。一方で、うつ傾向や孤立、一人暮らしの増加といった悪化項目は、従来型の支援だけでは十分に対応しきれない可能性を示している。

今後は、身体的健康の維持に加え、心理的支援や人とのつながりを重視した施策を強化する必要がある。また、一度改善した指標でも再び悪化する可能性があることから、短期的な成果にとどまらず、継続的なモニタリングと柔軟な施策見直しが求められる。経年変化を踏まえた「予防重視・孤立予防型」の施策展開が、今後の重要な方向性であるといえる。

■経年差が認められた項目

①改善傾向が認められた項目

分野	項目	H25	H28	R1	R4	R7
健康	主観的幸福感が「8点以上」（高い）	—	—	45.2%	47.0%	48.5%
	自分の歯が20本以上ある	—	—	50.2%	53.3%	55.4%
生活	閉じこもりリスク（外出頻度が週に1回以下）	9.6%	8.8%	16.6%	16.0%	15.5%
	インターネットを利用している	—	—	—	60.0%	66.0%
社会参加	収入のある仕事を月に1回以上している	26.1%	26.8%	23.7%	25.2%	27.7%
認知症	自分が認知症かもしれないと感じた際、病院に行くことには抵抗感がある	—	36.4%	36.9%	35.7%	34.5%
医療介護	介護保険制度は納めている保険料に見合うと思う	43.7%	43.4%	41.0%	42.1%	46.5%
	介護保険料の増加はやむを得ない	43.3%	47.1%	47.3%	52.9%	55.5%

②前回悪化したが今回改善した項目

分野	項目	H25	H28	R1	R4	R7
健康	肥満1（BMI25）以上	—	—	17.5%	22.7%	19.1%
	転倒に対してとても/やや不安である	—	—	46.9%	53.4%	52.5%
孤立	情緒的支援者がいる	—	—	93.0%	91.2%	92.3%
生活	バスや電車を使って1人で外出している	83.4%	85.7%	87.2%	81.3%	82.4%
	暮らしが「やや苦しい/大変苦しい」	23.4%	22.4%	21.9%	28.3%	24.4%
	1日40分以上、身体を動かす日がほぼ毎日	—	52.6%	53.2%	48.4%	49.5%
	階段を手すりや壁をつたわず昇っている	—	—	63.2%	59.2%	60.0%
社会参加	ボランティアのグループに参加している	12.2%	14.9%	14.3%	10.3%	10.3%
	スポーツ関係のグループに参加している	—	—	29.2%	22.3%	24.4%
	趣味関係のグループに参加している	—	—	31.7%	22.7%	25.1%
	学習・教養のグループに参加している	—	—	14.7%	9.2%	10.8%
	地域づくり活動に是非参加したい/してもよい	—	—	53.0%	51.1%	55.0%
医療介護	介護保険料の支払いが負担/多少負担	65.3%	67.6%	69.8%	74.2%	71.8%
	必要な時に十分な医療を受けられるか非常に/やや不安	43.5%	31.3%	18.2%	38.4%	32.4%
	必要な時に十分な介護サービスを受けられるか非常に/やや不安	53.3%	42.7%	28.1%	57.1%	53.1%

③前回改善したが今回悪化した項目

分野	項目	H25	H28	R1	R4	R7
健康	健康状態がよい/まあよい	—	—	73.2%	79.2%	78.5%
医療介護	かかりつけ医がいる	83.2%	83.5%	—	85.7%	84.9%

④悪化傾向が認められた項目

分野	項目	H25	H28	R1	R4	R7
健康	この1か月ゆううつな気持ちになったことがある	—	—	32.9%	33.2%	34.8%
	現在、病気がない	—	—	20.3%	17.4%	14.9%
孤立	誰とも話をしない日が週に1日以上ある	—	19.7%	18.8%	20.1%	21.9%
	手段的支援者がいる	—	—	89.9%	89.5%	88.4%
	一人暮らし	17.1%	16.6%	20.3%	21.8%	23.0%
生活	趣味がある	—	—	—	73.3%	66.5%
	生きがいがある	—	—	—	54.2%	51.2%
認知症	認知症に関する講座を受講したことがある	—	12.1%	14.0%	11.3%	11.0%

(2) 全国と三鷹市の比較

生活分野について全国と三鷹市を比較すると、まず独居世帯の割合は、全国では22.4%（令和6年国民生活基礎調査）であるのに対し、三鷹市では23.0%と、全国水準とほぼ同程度でやや高い状況にある。このことから、三鷹市においても全国と同様に高齢者の単身化が進行しており、孤立防止や見守り体制の重要性が示唆される。

就業率については、全国の65歳以上就業率が25.6%であるのに対し、三鷹市では27.7%（月1回以上の就業）と全国平均を上回っている。この結果から、三鷹市では高齢期における就業や社会参加の意欲が比較的高い水準にあり、就業支援や生きがいづくり施策の展開に一定の基盤があると考えられる。

インターネット利用率を見ると、全国では58.3%であるのに対し、三鷹市では66.0%と高い水準を示している。これは、三鷹市においてデジタル環境へのアクセスや利用が全国平均より進んでいることを示しており、情報提供やオンライン手続等を活用した施策展開の可能性が高い一方、利用が困難な層への配慮も引き続き必要である。

生活意識については、全国では「生活が大変・やや苦しい」と感じている人の割合が48.3%と約半数を占めているのに対し、三鷹市では24.4%と全国より低い割合となっている。一方で、「生活が大変・ややゆとりがある」と回答した割合は、全国では6.6%であるのに対し、三鷹市では14.0%と全国を大きく上回っている。これらの結果から、三鷹市では全国と比べて生活意識に一定の安定感がみられるものの、経済的困難を感じている層も一定数存在しており、格差への配慮が求められる。

健康分野についてみると、肥満（BMI25以上）の割合は全国では26.4%であるのに対し、三鷹市では19.1%と全国より低い水準にある（問3-1）。一方、やせの割合は全国では7.2%であるのに対し、三鷹市では9.6%と全国を上回っている。

以上の比較から、三鷹市は就業率やインターネット利用率、生活意識の面で全国平均より良好な側面を持つ一方、独居世帯の増加や低栄養リスクといった全国共通の課題も併せ持っている。高齢者計画・第十期介護保険事業計画においては、全国動向を踏まえつつ、三鷹市の特性に応じたきめ細かな施策展開が求められる。

■全国と三鷹市の比較

分野	項目	全国	三鷹市
生活	独居世帯	22.3% 社会保障・人口問題研究所推計(令和7年)	23.0% R7調査問1-4
	就業	25.6% 労働力調査(令和6年)	27.7% R7調査問5-1
	インターネット利用率	58.3% 通信利用動向調査(令和5年)	66.0% R7調査問4-11
	生活意識大変/やや苦しい	48.3% 国民生活基礎調査(令和4年)	24.4% R7調査問1-7
	生活意識大変/ややゆとりがある	6.6% 国民生活基礎調査(令和4年)	14.0% R7調査問1-7
健康	肥満(BMI:25以上)	26.4% 国民健康・栄養調査(令和5年)	19.1% R7調査問3-1
	やせ(BMI:18.5未満)	7.2% 国民健康・栄養調査(令和5年)	9.6% R7調査問3-1

注) 全国の調査結果は、65歳以上を対象とした数値を示した。就業率は月1回以上を集計した。

（3）日常生活圏域別にみた地域差

本報告書では、日常生活圏域ごとの課題を探るために、各調査項目の結果を日常生活圏域別に比較した。

① 三鷹駅周辺

三鷹駅周辺地域は、市内でも特に交通利便性と情報環境に恵まれた地域である。週5日以上外出すると回答した人は49.8%に上り、市内でも高い割合を示している（問2-6）。また、インターネットを手助けなく利用できる人の割合は71.8%と市内最高水準であり、行政情報や医療・福祉サービスへのアクセス環境は整っているといえる（問4-11）。一方で、地域包括支援センターを「知らない」と回答した人は38.1%と高く、支援資源の存在が十分に周知されていない点が課題である（問10-7）。今後は、駅周辺という立地特性を活かし、デジタル媒体や交通結節点を活用した情報発信を強化することで、支援制度の認知向上と参加行動の促進を図る必要がある。

② 連雀

連雀地域では、身体機能面と社会的つながりの間にギャップがみられる。同居の子が「心配事や愚痴を聞いてくれる」と回答した割合は16.7%と市内で最も低く、家族内での相談機能が弱い傾向が示されている（問7-1）。一方で、階段を手すりや壁をつたわずに昇っている人の割合は65.4%と高く、身体機能は比較的良好である（問2-1）。このことから、日常生活動作は自立しているものの、心理的な支えや人との関係性が希薄な層が一定数存在すると考えられる。身体的自立が高いほど支援が表面化しにくく、孤立が見えにくい点が課題である。今後は、健康づくり事業と併せて、交流や相談の場を自然に組み込んだ地域活動を展開し、社会的孤立を未然に防ぐ取組が求められる。

③ 井の頭

井の頭地域は、健康状態や生活満足度において良好な指標が目立つ地域である。15分以上歩き続けている人の割合は87.3%と市内で最も高く、日常的な身体活動が確保されていることがうかがえる（問2-3）。また、「生きがいがある」と回答した人も59.1%と相対的に高く、精神的充実度も高い（問4-10）。その一方で、将来の医療や介護について「決めていない」と回答した人が65.0%と高く、健康状態が良好な層ほど将来への備えが後回しになっている可能性が示唆される（問8-10）。現状の満足度の高さが、将来リスクへの意識を低下させている可能性も考えられる。今後は、健康なうちから将来を考える機会を提供し、ACP（人生会議）や終活支援を段階的に進めることが重要である。

④ 東部

東部地域では、外出頻度が「週に1回以下」の閉じこもりリスク該当者が18.7%と市内で高くなっており、社会とのつながりが希薄になりがちなことから社会的孤立や孤独が懸念される（問2-6）。また、認知症で病院を受診することに抵抗があると回答した人は37.4%と市内で高く、早期受診や相談につながりにくい状況が懸念される（問9-4）。一方で、高齢者向け住宅の整備やあっせんへの支援を求める割合は31.1%と高く、生活環境の改善ニーズも顕在化して

いる（問10-1）。今後は、外出の機会を促進するとともに、医療・住まい・相談を一体的に支援する体制づくりが求められる。

⑤ 新川中原

新川中原地域は、市内でも支援ニーズが高い地域である。要介護・要支援認定を受けている人の割合は15.2%と最も高く、既に何らかの支援を必要とする高齢者が多いことが分かる（問1-6）。一方、インターネットを手助けなく利用できる人は59.3%と低水準であり、デジタルを通じた情報取得が難しい層が多い（問4-11）。さらに、認知症に関する相談窓口を知っている人は20.8%にとどまり、支援制度が十分に届いていない状況がうかがえる（問9-2）。今後は、紙媒体や対面による情報提供、身近な相談体制の充実など、地域特性に即したアプローチが不可欠である。

⑥ 西部

西部地域では、制度に対する理解や受容が比較的進んでいる。介護保険料が高くなることについて「容認できる」と回答した人は61.2%と市内で最も高く、制度の必要性が一定程度理解されているといえる（問10-5）。これは、将来の介護リスクに対する認識が比較的高いことを示している。一方で、「生きがいがある」と回答した人は49.6%と低く、心身活動の低下が懸念される（問4-10）。制度理解の高さが高い一方で、自律的な行動変容につなげていない点が課題である。今後は、制度への理解を基盤として、介護予防や健康づくりへの参加を促す具体的な取組が求められる。

⑦ 大沢

大沢地域では、認知症に対する不安と関心の双方が高い。物忘れが多いと感じる人は53.6%と市内で最も高く、認知機能低下への不安が顕著である（問4-1）。一方で、認知症に関する講座を受講したいと回答した人は29.5%と高く、学習意欲や予防への関心も強い（問9-3）。また、高齢者に配慮した交通整備を求める割合は46.4%と高く、地理的条件による移動のしづらさが課題となっている（問10-1）。今後は、学習意欲を具体的な行動につなげるとともに、移動支援を含めた生活基盤の整備が重要である。

⑧ 今後への示唆

日常生活圏域別の分析から、三鷹市では地域ごとに高齢者の生活課題が大きく異なることが明らかとなった。三鷹駅周辺や井の頭では健康状態や情報環境は良好である一方、支援制度の認知や将来への備えが課題となっている。新川中原や東部では、要介護リスクや医療・住環境への不安が高く、重点的かつ継続的な支援が求められる。今後は、市全体で一律の施策を展開するのではなく、圏域ごとの特性を踏まえた「地域別重点施策」を検討することが重要である。経年変化と地域差の両面を踏まえた施策展開が、持続可能な地域包括ケアの実現につながると考えられる。

■地域差が認められた項目（割合が高い地域と低い地域で約10ポイント以上の差があった項目）

分野	項目	割合が高い地域		割合が低い地域	
生活	生活にやや/大変ゆとりがある	井の頭	21.1%	新川中原	10.5%
		三鷹駅周辺	19.1%	東部	10.7%
	持家	三鷹駅周辺	83.7%	新川中原	64.4%
		井の頭	83.6%	連雀	67.6%
	賃貸借家	東部	27.5%	三鷹駅周辺	11.0%
		新川中原	25.9%	井の頭	11.9%
	階段を手すりや壁をつたわずに昇っている	連雀	65.4%	西部	51.8%
		井の頭	62.4%		
	15分以上歩き続けている	井の頭	87.3%	西部	76.5%
				大沢	76.5%
	週に5回以上外出している	三鷹駅周辺	49.8%	新川中原	37.4%
				東部	37.6%
	身体を動かす時間が1日で40分以上ほぼ毎日	井の頭	58.6%	新川中原	42.3%
		三鷹駅周辺	53.6%	西部	45.2%
昨年と比べて外出の回数が減っていない	三鷹駅周辺	40.0%	新川中原	30.1%	
物忘れが多いと感じる	大沢	53.6%	東部	39.3%	
			三鷹駅周辺	39.8%	
生きがいがある	井の頭	59.1%	新川中原	44.4%	
	三鷹駅周辺	55.3%	西部	49.6%	
インターネットを手助けなく利用している	三鷹駅周辺	71.8%	新川中原	59.3%	
	井の頭	70.0%			
孤独	心配事や愚痴を聞いてくれる同居の子がいる	大沢	26.8%	連雀	16.7%
	看病や世話をしてくれる同居の子がいる	大沢	30.6%	連雀	21.0%
医療介護	かかりつけ薬剤師がいる	井の頭	50.6%	新川中原	41.1%
	必要な時に十分な医療を受けられるか不安なし	三鷹駅周辺	70.6%	西部	60.7%
	将来の医療やケアについて決めていない	井の頭	65.0%	大沢	55.2%
	認知症に関する相談窓口を知っている	大沢	31.1%	新川中原	20.8%
	認知症に関する講座を受講したい	大沢	29.5%	井の頭	19.4%
	認知症で病院に行くことに抵抗感がある	東部	37.4%	大沢	27.3%
	介護保険料の支払いに負担感はない	井の頭	27.8%	大沢	17.5%
	介護保険料が高くなることを容認	西部	61.2%	大沢	48.6%
行政	高齢者に配慮した交通手段の整備への支援期待	大沢	46.4%	三鷹駅周辺	34.3%
		東部	31.1%	三鷹駅周辺	21.6%
	高齢者向け住宅の整備やあっせんへの支援期待	東部	31.1%	三鷹駅周辺	21.6%
	ひきこもりに関する相談機関：市役所	大沢	24.0%	井の頭	13.9%
	ひきこもりに関する相談機関を知らない	井の頭	72.2%	大沢	61.7%
	寝たきりになった時に現住所で介護を受けたい	井の頭	40.9%	連雀	31.1%
	寝たきりになった時に特養で介護を受けたい	大沢	36.1%	井の頭	26.6%
	認知症にやさしいまちガイドブックを知らない	三鷹駅周辺	75.2%	大沢	64.5%
	三鷹みんなで地域体操うごこつとを知らない	三鷹駅周辺	74.8%	新川中原	65.2%
	あんしんキーホルダーを知らない	三鷹駅周辺	70.3%	西部	59.3%
		三鷹駅周辺	38.1%	大沢	23.0%
	地域包括支援センターを知らない	連雀	33.7%		
	権利擁護センターみたかを知らない	井の頭	82.3%	大沢	72.7%
	福祉Laboどんぐり山を知らない	井の頭	62.9%	大沢	23.0%
三鷹駅周辺		61.2%	西部	46.3%	

(4) 三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画の主な項目に関する現状と課題

今回実施した高齢者実態調査の結果を踏まえ、高齢者計画・第十期介護保険事業計画の策定に向けた現状認識と課題を整理した。

1) 社会参加の推進

① 就業支援、生きがい活動の充実

高齢期における就業や生きがい活動は、所得確保のみならず、健康維持や社会的孤立の防止に資する重要な要素である。本市において「収入のある仕事を月1回以上している」と回答した高齢者は27.7%であり、令和4年度の25.2%からは上昇しているものの、依然として3割に満たない水準にとどまっている（問5-1）。また、趣味・学習・ボランティアなどのグループ活動への参加率は、前回調査から微増がみられたものの、令和4年度と比較して趣味がある人の割合は6.8ポイント、また、生きがいのある人の割合は3.0ポイント減少した（問4-9,10）。

一方、地域活動や就業への参加率が高い人ほど生きがいの「ある」傾向が確認されており、就業機会や社会参加の場の確保が、生きがい形成と相互に関係していることが示唆される。今後は、就業を希望する高齢者が能力や意欲に応じて無理なく働ける環境整備に加え、就業に限らない多様な生きがい活動の選択肢を提示することが重要である。第十期においては、就業支援と生きがい活動を一体的に捉えた取組の充実が課題となる。

② 地域住民主体の活動支援

地域住民主体の活動は、住民同士のつながりを深め、地域全体で高齢者を支える基盤となる。本市では、地域づくり活動への参加意向を持つ高齢者は55.0%、また、実際に企画・運営に関わりたいと考える人は31.5%となった（問5-2、問5-3）。また、地域活動への参加の条件として「きっかけがない」「情報が分からない」といった回答が多く、活動の存在や参加方法が十分に伝わっていない状況がうかがえる（問5-5）。

さらに、地域資源の認知度を見ると、地域包括支援センターを「知らない」と回答した人が31.5%存在するなど、支援拠点や活動の周知不足も課題である（問10-7）。住民主体の活動を推進するためには、活動の担い手を特定の層に固定せず、参加のハードルを下げる工夫が求められる。第十期においては、既存の地域活動を支援するとともに、参加しやすい小規模・短時間型の活動や、デジタルも活用した情報発信の強化が必要である。

2) 支え合いの仕組みづくりの推進

① 支え合いの仕組みづくり

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続するためには、公的サービスだけでなく、地域における支え合いの仕組みづくりが重要である。本市では、手段的支援者として「家族・親族」を挙げる割合が最も高い一方、「近隣」や「友人」を挙げる割合は相対的に低く、非公式な地域支援の広がりには課題がみられる（問7-3）。

一方で、軽微な生活支援や見守りなどについては、専門職でなくても対応可能な内容も多く、地域の担い手を活用する余地は大きい。第十期においては、既存の自治会や地域団体、ボランティア活動と連携しながら、身近で分かりやすい支え合いの仕組みを構築するとともに、活動内容の可視化や担い手育成を進めることが課題である。

② 社会的包摂（社会的孤立の防止）

社会的孤立は、高齢者の心身機能の低下や生活の質の低下につながる重要な課題である。本市の調査では、誰とも話さない日がある人と回答した人が21.9%存在しており、特に単身世帯で59.2%とその傾向が強い（問7-6）。また、外出頻度が前年より減少した人は全体で一定数に上り、社会参加機会の減少が孤立リスクを高めていることがうかがえる（問2-7）。

一方、地域活動や趣味活動に参加していない人ほど、閉じこもりリスク傾向がみられ、社会参加が孤立防止に有効である可能性が示されている（問4-9、問5-1）。しかし、身体機能の低下や移動手段の制約、情報不足などにより、参加したくても参加できない層が存在する点が課題である（問5-5）。第十期においては、アウトリーチ型の支援や見守り体制の強化に加え、外出が困難な高齢者でもつながりを持てる仕組みづくりを進める必要がある。地域全体で孤立を防ぐ視点を共有し、包摂的な地域づくりを推進することが重要である。

3) 認知症高齢者の支援

① 普及啓発・本人発信支援

認知症に関する正しい理解の普及と、本人の視点を尊重した支援の推進は、三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画における重要な柱である。本市の調査結果によると、認知症について「身近な問題として不安を感じている」と回答した人は多く、特に「物忘れが多くなったと感じる」とする割合は全体で約4割に上っている（問4-1）。

また、認知症に関する相談窓口について「知らない」と回答した人は約7割に上り、支援体制の周知が十分とはいえない状況である（問9-2）。さらに、認知症に関する講座や学習機会については、「受講したことがある」人が11.0%にとどまり、「受講したくない、受講できない」（12.9%）、「わからない」（45.0%）とする無関心層が多数確認されている（問9-3）。正しい知識や支援情報が十分に届いていないことが課題として挙げられる。

第十期においては、認知症を過度に恐れるのではなく、誰もがなり得る身近な課題として理解を深める普及啓発を一層推進する必要がある。加えて、認知症本人の声や経験を地域に発信する機会を設けることで、当事者理解の促進と偏見の解消につなげる取組が求められる。

② 予防と共生

認知症施策においては、発症予防とともに、認知症になっても安心して暮らし続けられる「共生」の視点が不可欠である。本市の調査では、外出頻度と認知機能に関連がみられ、外出回数が減少した人ほど物忘れへの不安を抱える割合が高い傾向が確認されている（問2-7、問2-6）。また、趣味のある人や就業中の人は、認知症リスク該当率が相対的に低い傾向がみられ、日常的な社会参加が予防に寄与している可能性が示唆される（問4-9, 6-1）。

一方、「認知症かもしれないと感じたとしても、すぐに病院に行くことには抵抗感がある」と考える人が34.5%と、検査を受けることへの心理的抵抗感が依然として存在する（問9-4）。その結果、早期発見が遅れるリスクも懸念される。認知症とともに生きるためには、本人だけでなく家族や地域住民、関係機関が共通理解を持ち、早期に対応することが重要である。

第十期においては、運動・交流・社会参加を通じた認知症予防の取組を継続的に推進するとともに、認知症になっても尊厳をもって地域で生活できる環境づくりが求められる。見守り体制の強化や相談支援の充実に加え、認知症への理解を前提とした地域づくりを進めることで、「予防」と「共生」を両立する施策展開が課題となる。

4) 地域包括ケアシステムの構築・深化

① 在宅療養の支援・推進

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を継続するためには、在宅療養を支える体制の充実が不可欠である。本市の調査では、将来、介護や医療が必要になった場合の暮らし方について、「現在の住まいで介護を受けたい」と回答した人が最も多く、在宅志向が強いことが確認されている（問10-6）。

また、必要な時に十分な医療・介護を受けられるか不安である人の割合は令和4年度より減少したものの医療で約3割、介護で約5割に上り安心材料が十分とはいえない状況がうかがえる（問8-8、問8-9）。さらに、将来の医療やケアについて事前に話し合っている人は少数にとどまり、意思決定支援（ACP）が十分に浸透していないことも課題である（問8-10）。

第十期においては、在宅医療・介護サービスの連携強化に加え、住民に対する分かりやすい情報提供と相談体制の充実が求められる。あわせて、人生の最終段階を見据えた意思決定支援を早期から進めることで、本人の希望に沿った在宅療養の実現を支える体制づくりが重要である。

② 健康づくりと介護予防のための取組

健康寿命の延伸と介護予防は、地域包括ケアシステムを支える基盤である。本市の調査では、階段昇降や歩行といった運動器機能について「できるし、している」と回答した人が一定割合を占めている一方、年齢が上がるにつれて運動器機能リスクの上昇がみられる（問1-1）。また、外出回数が前年より減少した人は全体で27.6%に上り、身体活動量の低下が介護リスクを高めていることが示唆される（問2-7）。

一方、運動習慣のある人や地域活動に参加している人は、要介護リスクも低い傾向が確認されている（問2-8、問5-1）。

第十期においては、従来の集団型事業に加え、個々の生活状況や身体状態に応じた多様な健康づくり・介護予防の機会を提供することが求められる。外出や交流のきっかけづくりを通じて、日常生活の中で無理なく続けられる取組を広げ、地域全体で健康を支える仕組みを構築することが課題である。

5) 介護保険制度、高齢者のための施策

① 介護保険制度や介護保険料に関する意見

介護保険制度は、高齢者の生活を支える基幹的な社会保障制度であり、その理解と受容は制度の持続可能性に直結する。本市の調査では、介護保険制度に対して肯定的な評価者の割合は46.5%と令和4年度の42.1%より4.4ポイント増加したものの、介護保険制度に対して否定的な評価者の割合が45.0%と一定数を占めている（問10-4）。このことから、制度が日常生活とどのように関係しているのかが十分に伝わっていない状況もうかがえる。

一方、介護保険料に対する意識を見ると、介護保険の増加を容認する意見は55.5%いる一方で、負担に感じている人は71.8%と多数を占めた（問10-2、問10-5）。

第十期においては、制度の仕組みや役割を分かりやすく伝えるとともに、保険料とサービスの関係性について丁寧な説明を行うことが重要である。制度への理解を深めることで、将来への不安軽減と納得感のある制度運営につなげていくことが課題である。

② 高齢者のための施策

高齢者の生活を支えるためには、介護保険制度に加え、住まい、移動、見守り、生活支援など多様な施策を総合的に展開することが求められる。本市の調査では、今後、市に力を入れてほしい施策として「往診やヘルパーなどの在宅医療・介護支援」「家族介護者支援」「交通手段の整備・移動支援」「高齢者向け住宅の整備・あっせん」等が高い割合で挙げられており、日常生活を支える基盤整備へのニーズが強いことが明らかとなっている（問10-1）。

また、支援が必要になった際の相談先について「相談窓口を知らない」と回答した人も一定数存在し、施策や窓口が十分に認知されていない状況が課題である（問7-8、問9-2）。

第十期においては、高齢者一人ひとりの生活課題に応じたきめ細かな支援を行うとともに、施策情報を分かりやすく整理し、必要な人に確実に届く仕組みを構築することが求められる。介護保険制度と高齢者施策を一体的に展開し、安心して暮らし続けられる地域づくりを進めることが、今後の重要な課題である。

（5）全体総括・重点課題

本章では、今回実施した高齢者実態調査の結果を踏まえ、三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画に向けた現状と課題を社会参加、支え合い、認知症、地域包括ケア、制度・施策の各分野から整理した。

全体を通じて、高齢者の多くが「できる限り住み慣れた地域で暮らし続けたい」と考えている一方で、社会参加の機会不足、地域でのつながりの希薄化、制度や支援窓口の認知不足といった課題が複合的に存在していることが分かった。一般的に、身体機能が比較的保たれている段階では課題が顕在化しにくく、支援が必要になってから初めて孤立や不安が表面化する傾向がみられる。

認知症に関しては、不安感の高さに比べて正しい知識や相談先の認知が十分でなく、早期相談・早期支援につながりにくい構造が確認された。これは在宅療養や介護予防の分野とも共通しており、「情報はあるが届いていない」「制度はあるが利用につながっていない」という横断的課題として整理できる。

介護保険制度については、一定の理解と受容がみられる一方、負担感への不安も根強く、制度の持続可能性を支えるためには、丁寧で分かりやすい説明と信頼関係の構築が不可欠である。

第十期においては、個別施策を積み上げるだけでなく、社会参加の促進、支え合いの仕組みづくり、認知症への理解、在宅療養支援、介護予防を相互に連動させた施策展開が求められる。高齢者一人ひとりの状態や意向に応じた切れ目のない支援を実現するため、分野横断的な視点に立った地域包括ケアシステムの深化浸透が、今後の重要な課題である。

■重点課題と施策の方向性

重点分野	課題のまとめ	施策の方向性
① 社会参加・就業機会の確保	地域活動やボランティアへの参加率や就業率は大きな伸びを示しておらず、コロナ禍以降は一部で低下傾向もみられる。就業とそれ以外の社会参加との間にギャップが存在しており、第十期では就業偏重ではない多様な生きがい活動の受け皿整備が課題となっている。	○地域活動参加は伸び悩み、参加の固定化が進行 ⇒就業・ボランティア・生きがい活動を横断した多様な参加機会の創出と参加導線の強化

重点分野	課題のまとめ	施策の方向性
② 地域における支え合いの仕組みづくり	家族・親族による支援への依存度は、経年的に大きく変化していない一方、独居世帯や高齢者のみ世帯は着実に増加している。これにより、従来の家族中心型支援の持続可能性は低下している。地域住民主体の支え合い活動への期待は高まっているものの、実際の参加者数は限定的であり、担い手不足は年々顕在化している。第十期では、支え合いを「地域の仕組み」として定着させることが求められる。	○家族依存型支援が継続する中、独居・高齢者世帯の増加により地域支援の必要性が顕在化 ⇒住民主体活動の制度的支援と担い手育成を通じた持続可能な支え合い体制の構築
③ 社会的孤立の防止	外出頻度の低下や近隣との関係希薄化は、調査を重ねるごとに継続的にみられる。特に、要介護認定を受けていない層において孤立リスクが見えにくいまま蓄積している点が特徴である。相談相手がない高齢者の割合も大きな改善はみられておらず、従来の「困ってから支援」する仕組みでは限界がある。経年変化を踏まえると、日頃からの社会とのつながりの重要性が一層高まっている。	○外出頻度低下やつながりの希薄化が継続し、支援ニーズが見えにくい層が拡大 ⇒アウトリーチ型支援と日常的な見守りを組み合わせた孤立予防の仕組みづくり
④ 認知症高齢者支援の充実	認知症講座の受講歴のある割合や認知症の人の意志を尊重できる割合は、経年的にも大きな改善はみられない。認知症基本法を踏まえて第十期では、本人発信や地域での身近な事例共有を通じ、理解から意識・行動につなげる段階への転換が課題となる。	○認知症への理解は伸び悩み ⇒普及啓発の深化と本人発信を軸とした早期相談・地域支援体制の強化
⑤ 在宅療養支援と医療・介護連携	在宅での生活継続を希望する割合は、調査を通じて一貫して高い水準を維持している。一方で、在宅療養への不安や家族負担への懸念も同様に解消されていない。医療・介護連携の必要性に対する認識は高まっているが、人生の最終段階に向けた意思決定支援（ACP）の理解や実践は依然として限定的である。経年変化からは、希望と不安の乖離を埋める支援体制整備が重要であることが読み取れる。	○在宅希望は一貫して高いが、不安や家族負担への懸念は未解消 ⇒医療・介護連携の見える化と意思決定支援（ACP）の普及促進
⑥ 健康づくり・介護予防の推進	健康状態に関する自己評価は大きく悪化していないものの、閉じこもりリスクが一定程度みられる。また、うつリスクは、前回調査から継続しており、フレイルリスクの蓄積が懸念される。介護予防事業の認知は一定程度進んでいるものの、参加者の固定化が課題となっている。第十期では、広く社会参加の拡大と継続的な関与が重要である。	○健康意識は維持される一方、閉じこもりやうつリスクが蓄積 ⇒フレイル予防を軸とした運動・社会参加を統合した介護予防の強化
⑦ 介護保険制度・高齢者施策の理解促進	介護保険のしおり等に対する理解度は、経年的に大きな変化はなく、名前は知っているが内容は分からない層が一定数存在し続けている。制度や施策への不満というよりも、情報不足や分かりにくさが課題として蓄積している点が特徴である。第十期においては、情報提供の量に加えて「伝わり方」「相談につながる導線」を重視した改善が求められる。	○広報資料の認知は横ばいで、浸透度が経年的に残存課題 ⇒分かりやすい情報提供と相談につながる導線設計による制度理解の向上

第2章

要支援・要介護認定者と介護者の 生活と福祉に関する調査

調査の概要

(1) 調査対象者

令和7年(2025年)8月31日時点の要支援・要介護認定者のうち、各要介護度から200人ずつ無作為抽出した計1,400人を調査対象者とした。

(2) 調査項目と報告書の構成

国(厚生労働省)が示した調査項目に、三鷹市で独自に調査項目を追加して実施した。国と三鷹市独自で調査項目及び集計対象が一部異なることから、調査報告書を2節構成とした。

	第1節 介護者/認定者調査 (基礎集計・三鷹市独自の調査項目)	第2節 在宅介護実態調査 (国の調査項目)
本人の概況	・認定結果の満足度、ケアマネジャー連絡頻度・満足度、今後のサービス利用意向 ・社会参加や生きがい、介護度が高くなった際の生活場所 など	・世帯類型、家族等の介護の有無、介護保険以外の支援・サービスの利用状況 ・介護のための離職の有無、施設入所の検討状況 など
主な介護者の就労状況	・介護の負担感、介護者の居住場所、介護者の代わりに頼める人 ・仕事と介護の両立に効果のある地域や行政からの支援	・勤務形態、働き方の調整、仕事と介護の両立に効果のある勤務先の支援 ・就労継続の可否に係る意識、介護者が不安に感じる介護 など
集計対象	本調査の回答者731人	左記731人のうち施設入所中である等の理由により国の在宅介護実態調査の対象とならない135人を除いた596人
調査目的	左記に加えて、医療・介護・福祉等に関するニーズ、介護保険制度に対する評価、社会参加や生きがい、介護負担の軽減に必要な支援等を把握し、三鷹市独自の施策立案に資する基礎資料を得ることを目的とした。	次期介護保険事業計画の策定において、「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくために必要なサービスは何か」といった観点を盛り込むため、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的とした。

(3) 調査方法

郵送により調査票の配付を行った。調査票の回収については、郵送又はインターネットの選択式とした。調査票の回答・記入は、原則、対象となった高齢者本人であるが、健康上の理由等により本人が回答できない場合は、家族等に代理での回答・記入を依頼した。

(4) 実施期間

令和7年(2025年)10月20日～11月10日(11月17日までの返送分は回収に含めた。)

(5) 調査完了状況

要介護度	対象者数	回収数	回収率
要支援1	200	136	68.0%
要支援2	200	136	68.0%
要介護1	200	107	53.5%
要介護2	200	89	44.5%
要介護3	200	83	41.5%
要介護4	200	80	40.0%
要介護5	200	82	41.0%
合計(無回答 n=18を含む)	1,400	731	52.2%

(6) 用語の定義等

■要介護度の判定基準と状態像の目安

要介護度	判定基準	状態像の目安
要支援1	介護基準時間 25～32分未満	日常生活の能力は基本的にあるが、入浴などに一部介助が必要である。
要支援2	介護基準時間 32～50分未満	立ち上がりや歩行が不安定。排泄、入浴などに一部介助が必要であるが、適切なサービス利用により、明らかな要介護状態に移行することを防ぐことができる可能性がある。
要介護1	介護基準時間 32～50分未満	立ち上がりや歩行が不安定。排泄、入浴などに一部介助が必要である。理解力低下又は半年以内に要介護度が上がる可能性がある。
要介護2	介護基準時間 50～70分未満	起き上がりが自力では困難。 排泄、入浴などに一部又は全介助が必要である。
要介護3	介護基準時間 70～90分未満	起き上がり、寝返りが自力ではできない。 排泄、入浴、衣服の着脱などに全介助が必要である。
要介護4	介護基準時間 90～110分未満	排泄、入浴、衣服の着脱など多くの行為に全面的介助が必要である。
要介護5	介護基準時間 110分以上	生活全般について全面的介助が必要である。

■障がい高齢者の日常生活自立度

ランク	状態	判定基準
J	生活自立	何らかの身体的障がい等を有するが日常生活はほぼ自立し、独力で外出する。 1. 交通機関等を利用して外出する。 2. 隣近所へは外出する。
A	準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが介助なしには外出しない。 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
B	寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。 2. 介助により車いすに移乗する。
C	寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。 1. 自力で寝返りをうつ。 2. 自力では寝返りもうてない。

■認知症高齢者の日常生活自立度の判定基準と症状

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記IIの状態がみられる。	たびたび道に迷う、買物や事務、金銭管理などこれまでできたことにミスが目立つ など
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などが困難で、一人で留守番ができない など
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為 など
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	ランクIII aに同じ
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態 など

■サービス利用の分析に用いた用語の定義

用語	定義	
未利用	「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している者については、未利用として集計している。	
訪問系	(介護予防)訪問介護、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。	
通所系	(介護予防)通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。	
短期系	(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計している。	
その他	小規模多機能	(介護予防)小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護多機能	看護小規模多機能居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回	定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

■サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語	定義
未利用	上表と同じ
訪問系のみ	上表の「訪問系」又は「定期巡回」のみの利用を集計している。
訪問系を含む組み合わせ	上表の「訪問系(又は定期巡回)」+「通所系」、「訪問系(又は定期巡回)」+「短期系」、「訪問系(又は定期巡回)」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している。
通所系・短期系のみ	上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計している。

■その他、本調査報告書における定義

用語	定義
施設等	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、認知症高齢者グループホームを指す。
パートタイム	「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い者」が該当する。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等を含む。
一緒に住んでいる	同じ敷地内に住んでいることを指す。生計や住民票上の世帯を同じくしているか否かは問わない。集合住宅で同じ棟の違う部屋に居住している者は別居とする。

(7) 本調査の留意事項

- 令和4年度は訪問による面接調査、今年度は郵送・WEBによる書面調査と調査方法が異なることによるバイアスの可能性があるため単純比較には留意が必要である。

第2章

要支援・要介護認定者と介護者の 生活と福祉に関する調査

第1節 基礎集計・三鷹市独自調査

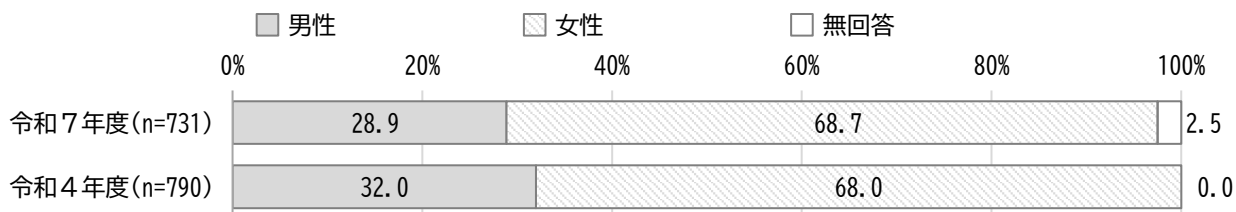
第2章

第1節 基礎集計・三鷹市独自調査

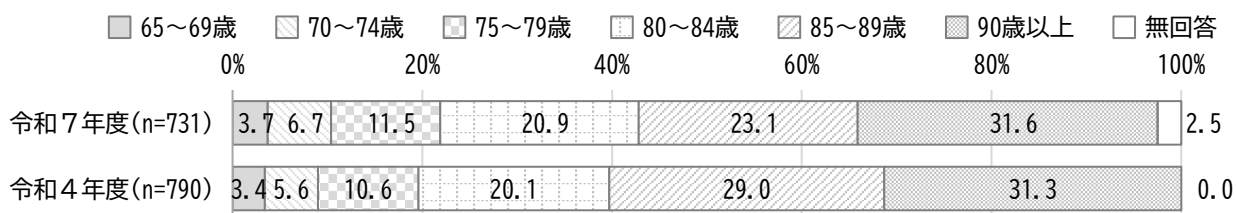
1. 要介護者、回答者の属性等

(1) 要介護者の属性

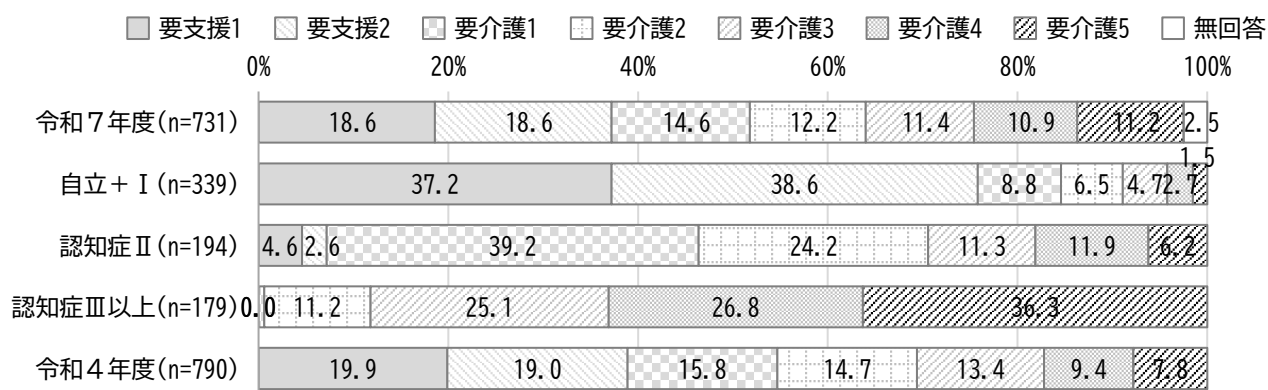
①本人の性別（認定情報）



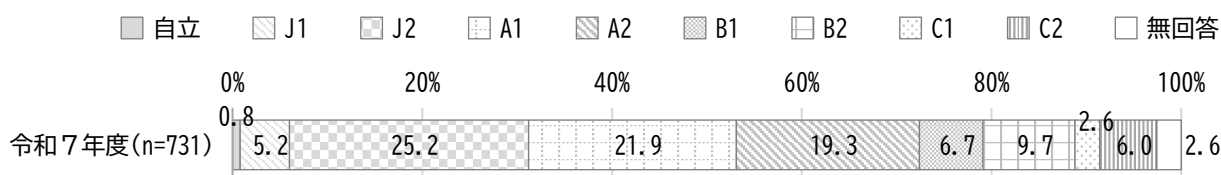
②本人の年齢（認定情報）



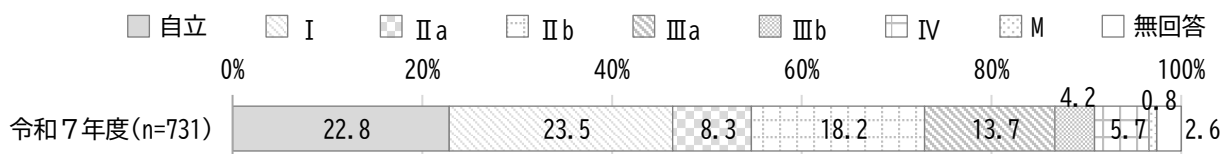
③本人の要介護度（認定情報）



④本人の障害自立度（認定情報）



⑤本人の認知症自立度（単数回答）



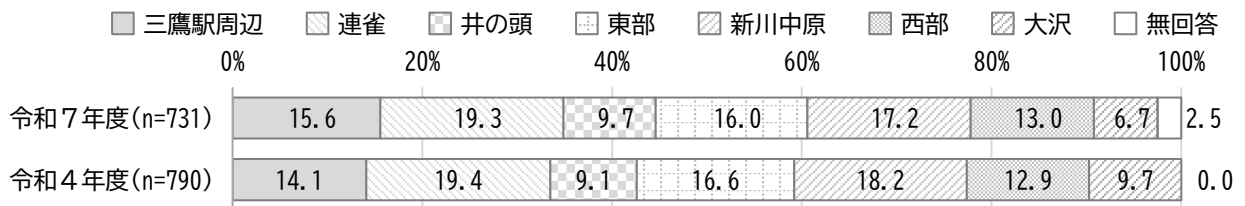
⑥本人の現在の状況（認定情報）

居所	件数	%
居宅（施設利用なし）*	576	78.8
介護老人福祉施設	16	2.2
介護老人保健施設	28	3.8
介護療養型医療施設	0	0.0
グループホーム	5	0.7
特定施設入居者施設	28	3.8
医療機関（療養病床）	8	1.1

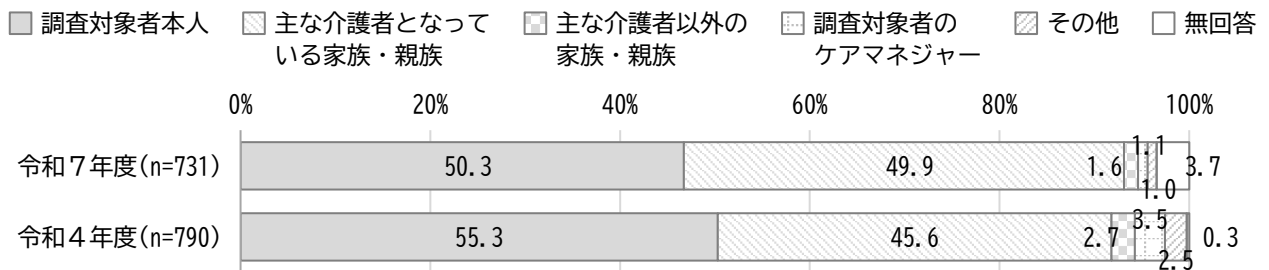
居所	件数	%
医療機関（療養病床以外）	27	3.7
その他の施設等	2	0.3
介護医療院	2	0.3
軽費老人ホーム*	1	0.1
有料老人ホーム*	13	1.8
サービス付き高齢者住宅*	6	0.8
無回答	19	2.6

* 本人の居所が、居宅（施設利用なし）、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅である596人を第2節在宅介護実態調査の対象者とした。

⑦本人の生活圏域（単数回答）



(2) 回答者の属性

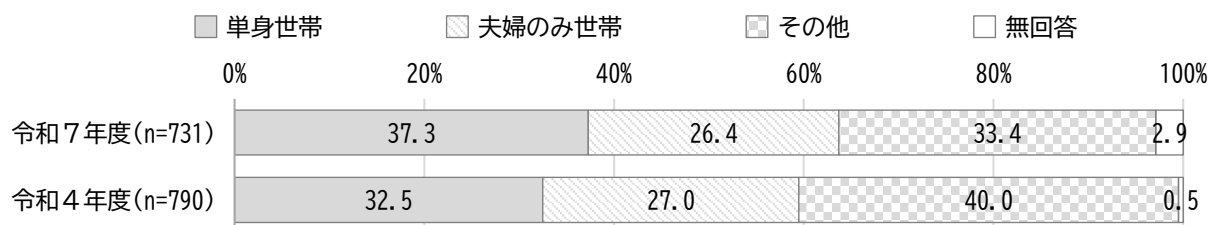


2. 世帯類型と家族等介護

(1) 世帯類型

A問1 世帯類型について、ご回答ください。(単数回答)

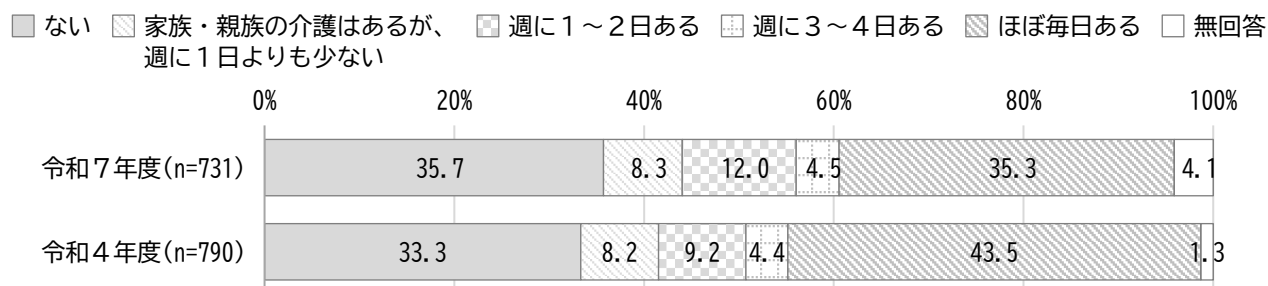
「単身世帯」が 37.3%で最も高く、次いで、「その他」が 33.4%、「夫婦のみ世帯」が 26.4%となっている。「単身世帯」は、令和4年度の32.5%より4.8ポイント増加した。



(2) 家族等介護の頻度

A問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。(単数回答)

「ない」が 35.7%で最も高く、次いで、「ほぼ毎日ある」が 35.3%、「週に1～2日ある」が 12.0%となっている。「ほぼ毎日ある」は、令和4年度の43.5%より8.2ポイント減少した。



(3) 主な介護者について

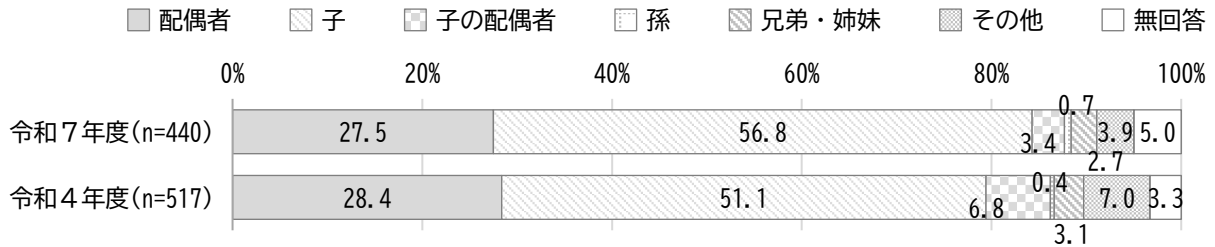
【家族等介護がある方のみ】

A問3 主な介護者の方は、どなたですか。（単数回答）

A問4・5 主な介護者の方の性別・年齢について、ご回答ください。（単数回答）

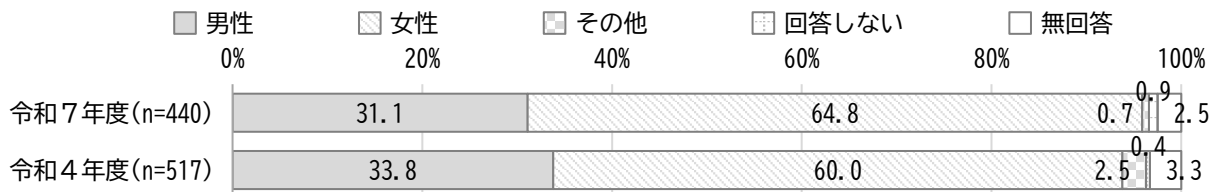
① 主な介護者の間柄

「子」が56.8%で最も高く、次いで、「配偶者」が27.5%、「その他」が3.9%となっている。「子」は、令和4年度の51.1%より5.7ポイント増加した。



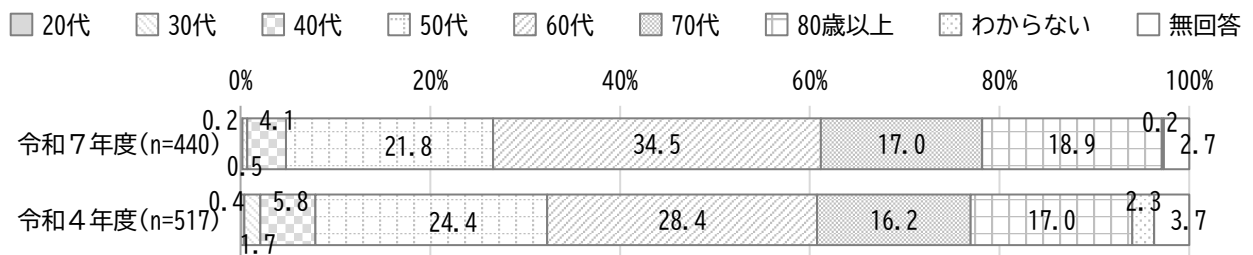
② 主な介護者の性別

「女性」が64.8%で最も高く、次いで、「男性」が31.1%、「回答しない」が0.9%となっている。「女性」は、令和4年度の60.0%より4.8ポイント増加した。



③ 主な介護者の年齢

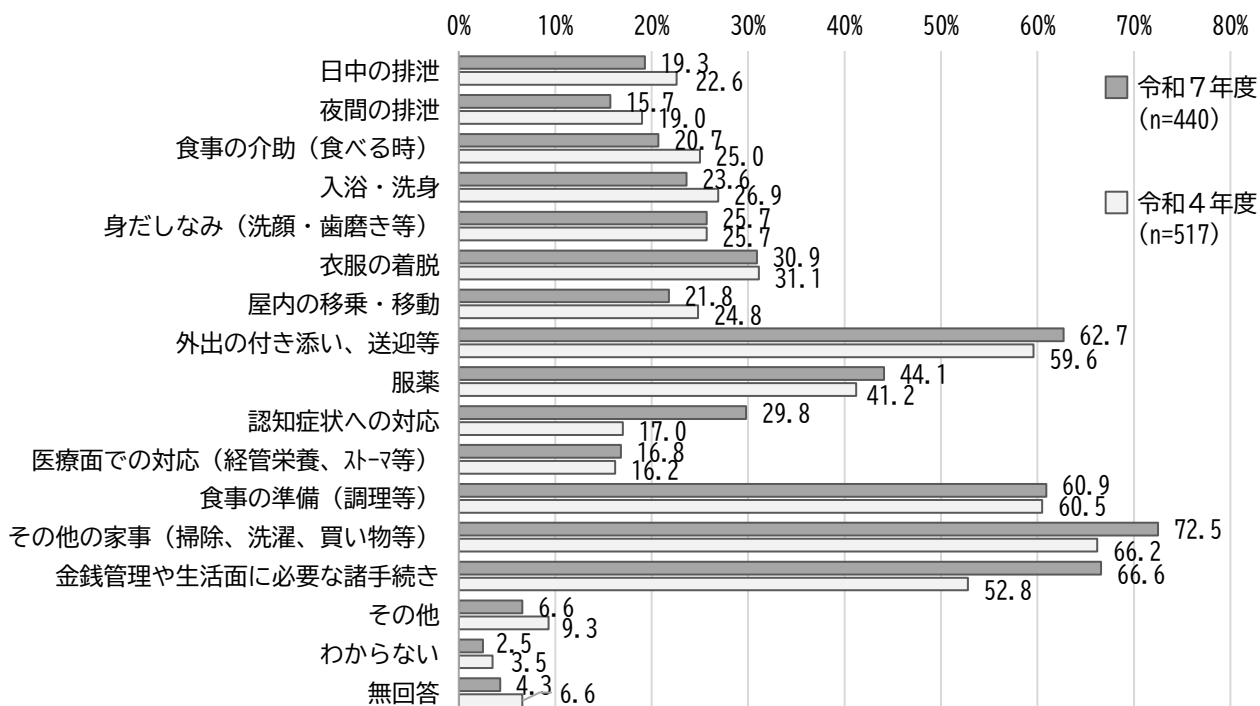
「60代」が34.5%で最も高く、次いで、「50代」が21.8%、「80歳以上」が18.9%となっている。「60代」は、令和4年度の28.4%より6.1ポイント増加した。



【家族等介護がある方のみ】

A問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。（複数回答）

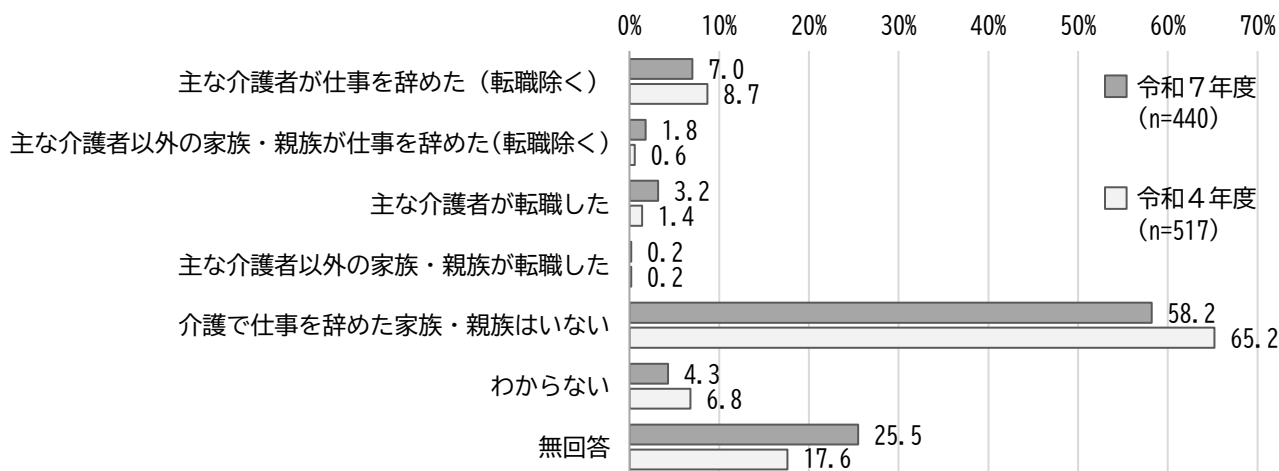
「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が72.5%で最も高く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が66.6%、「外出の付き添い、送迎等」が62.7%となっている。「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」は、令和4年度の52.8%より13.8ポイント増加した。



【家族等介護がある方のみ】

A問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。（複数回答）

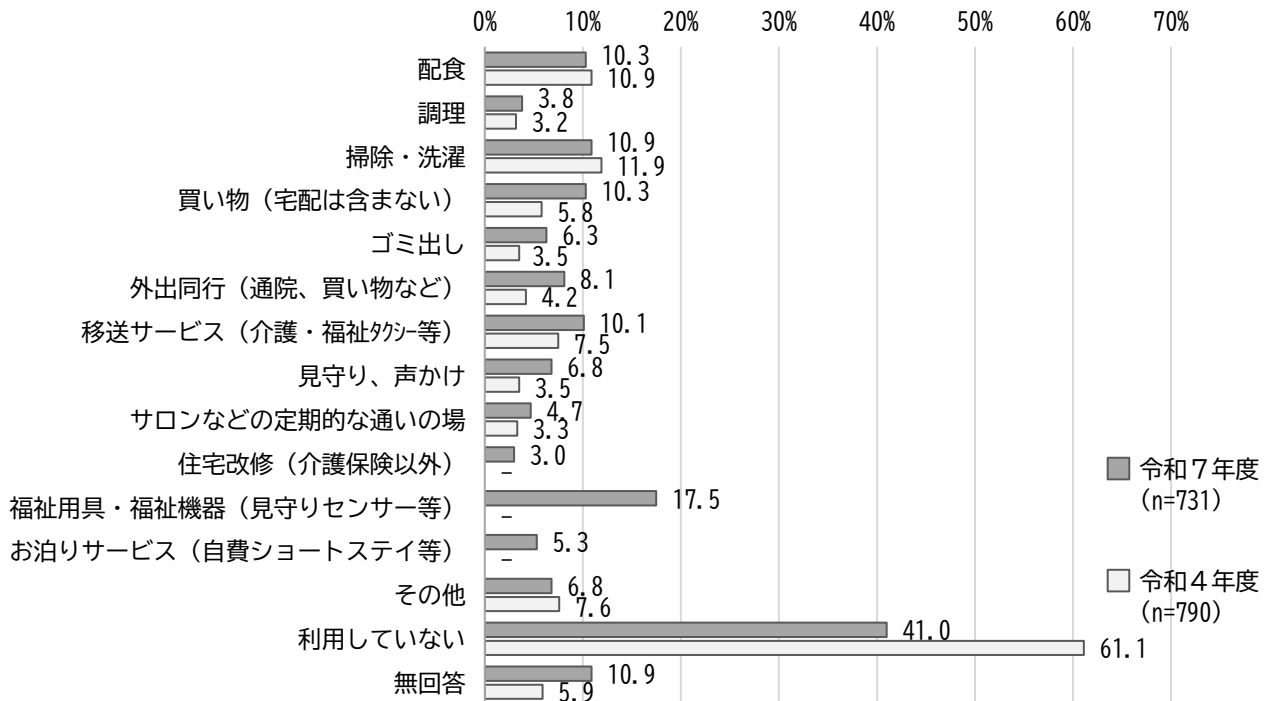
「介護で仕事を辞めた家族・親族はいない」が58.2%で最も高く、次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が7.0%、「わからない」が4.3%となっている。「介護で仕事を辞めた家族・親族はいない」が令和4年度の65.2%より7.0ポイント減少したが、「無回答」が25.5%と令和4年度の17.6%より7.9ポイント増加したため実質的な変化はないとみられる。



(4) 介護保険外サービスの利用

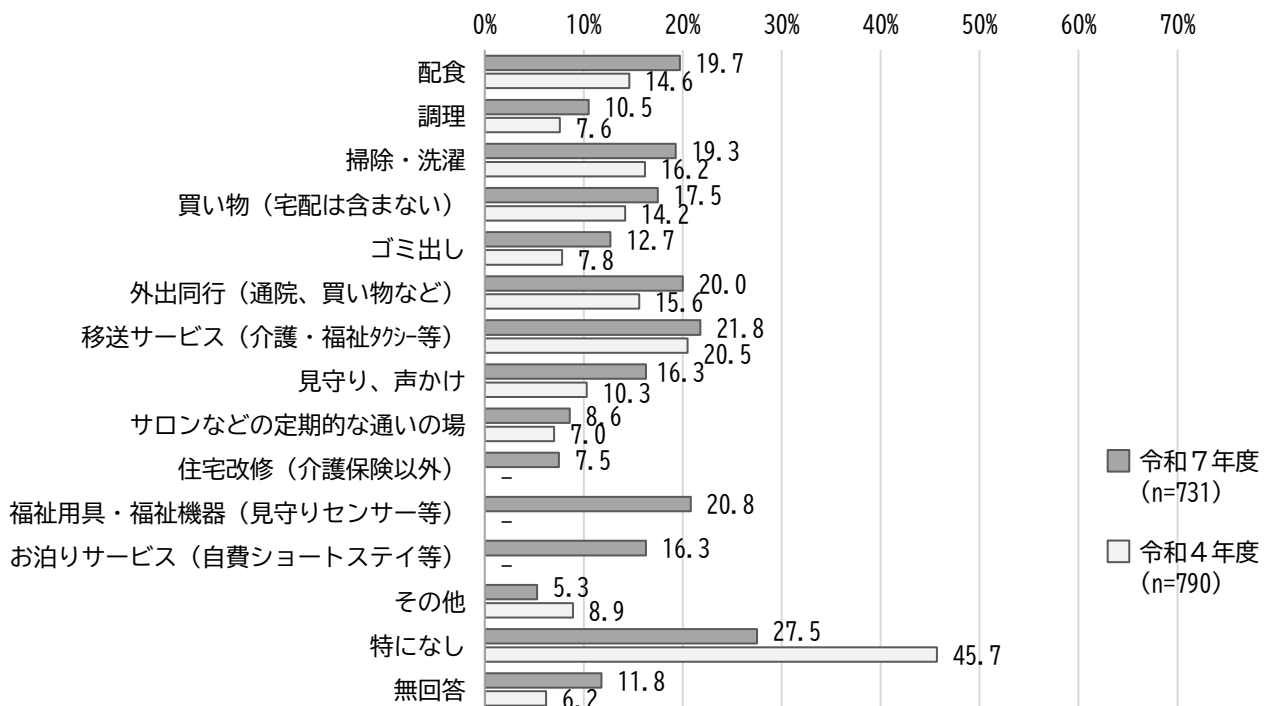
A問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（総合事業に基づくサービス等は「介護保険サービス」に含めます）。（単数回答）

「利用していない」が41.0%で最も高く、次いで、「福祉用具・福祉機器（見守りセンサー等）」が17.5%、「掃除・洗濯」が10.9%となっている。



A問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（複数回答）

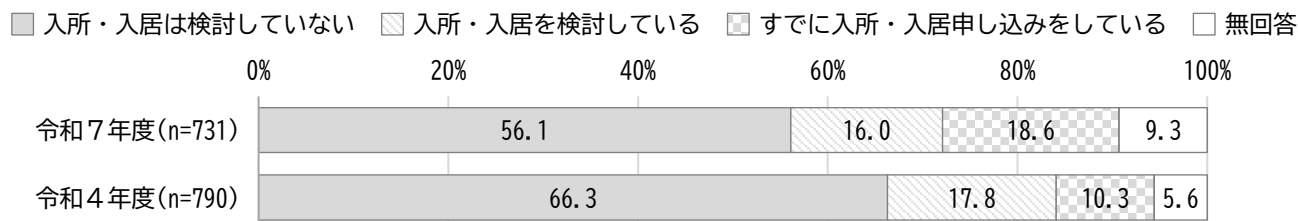
「特になし」が27.5%で最も高く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.8%、「福祉用具・福祉機器（見守りセンサー等）」が20.8%となっている。



(5) 施設等入所・入居の検討状況

A問 10 現時点での施設等への入所・入居の検討状況についてご回答ください。(単数回答)

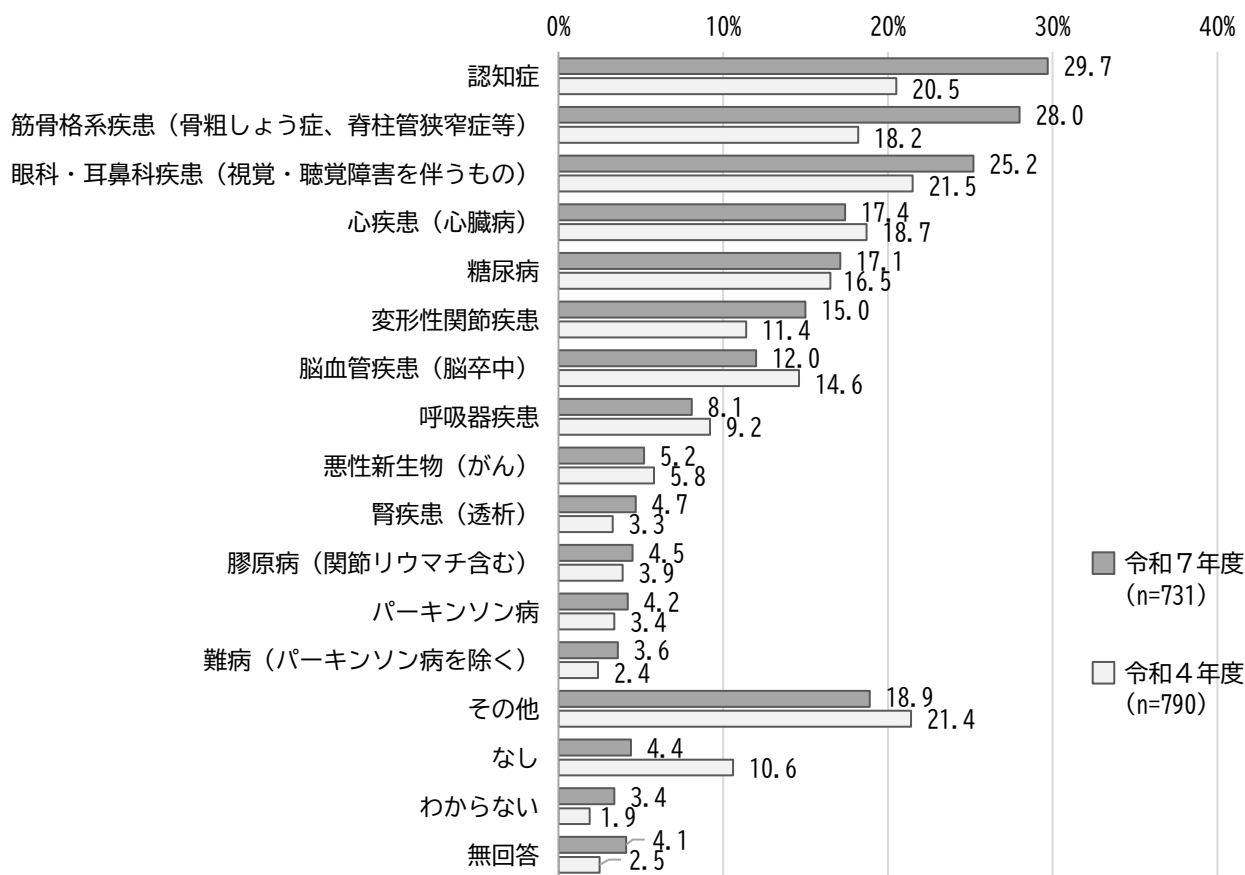
「入所・入居は検討していない」が56.1%で最も高く、次いで、「すでに入所・入居申し込みをしている」が18.6%、「入所・入居を検討している」が16.0%となっている。「入所・入居は検討していない」は、令和4年度の66.3%より10.2ポイント減少した。



(6) 現在抱えている傷病等

A問 11 ご本人(調査対象者)が現在抱えている傷病等について、ご回答ください。(複数回答)

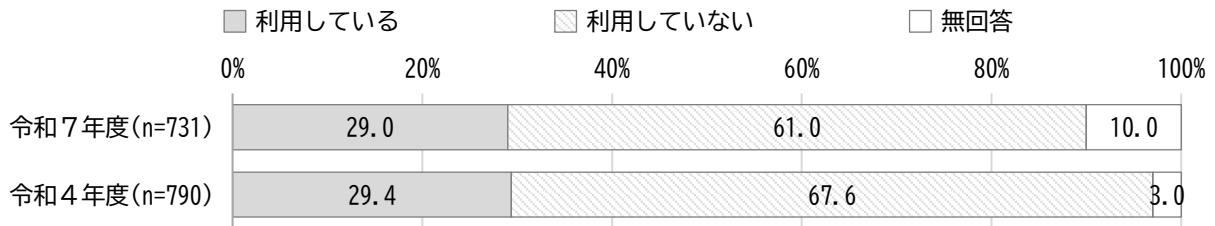
「認知症」が29.7%で最も高く、次いで、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が28.0%、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が25.2%となっている。「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」は、令和4年度の18.2%より9.8ポイント増加した。



(7) 訪問診療の利用

A問 12 ご本人（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。（単数回答）

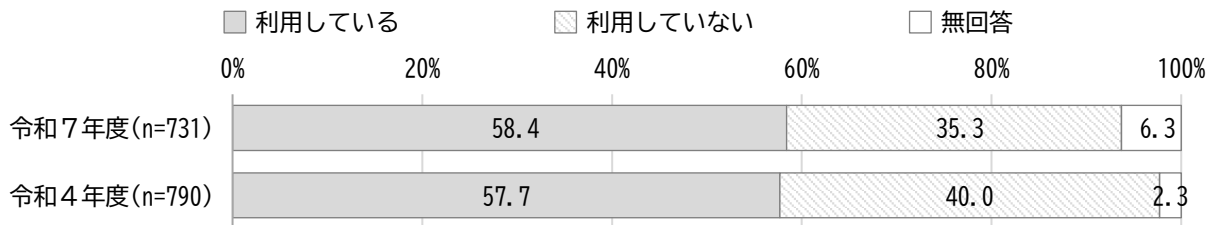
「利用している」が29.0%、「利用していない」が61.0%であった。



(8) 介護保険サービスの利用

A問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。（単数回答）

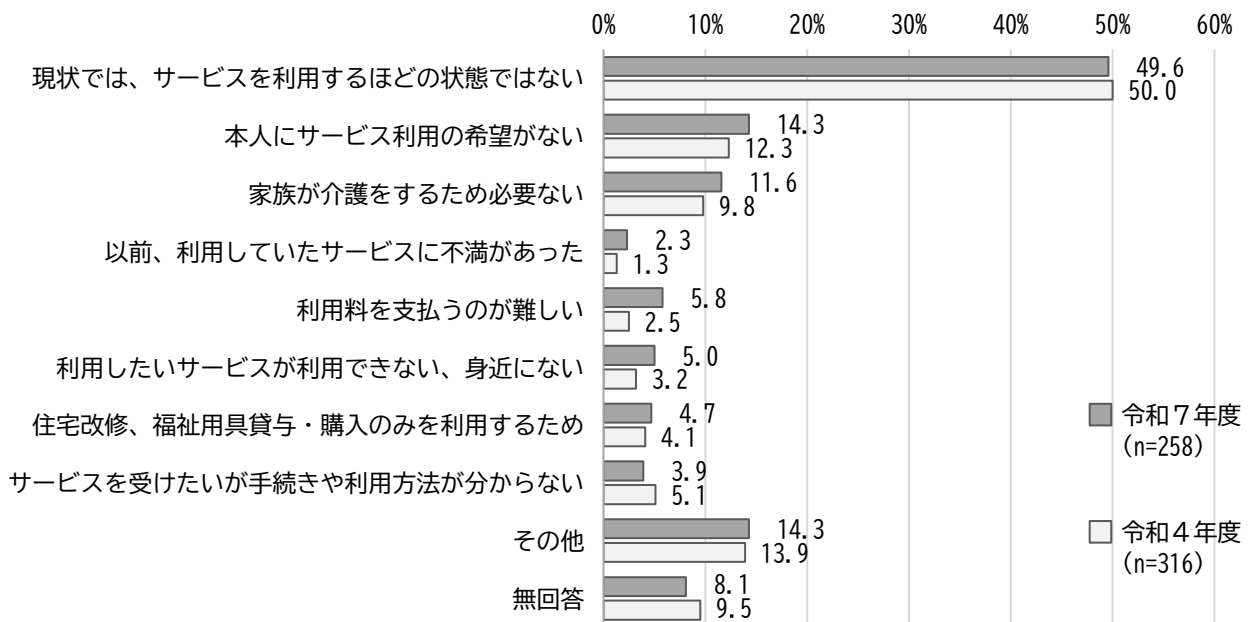
「利用している」が58.4%、「利用していない」が35.3%であった。



【介護保険サービスを利用していない方のみ】

A問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（複数回答）

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が49.6%で最も高く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」「その他」が14.3%となっている。



3. 介護サービス等の利用

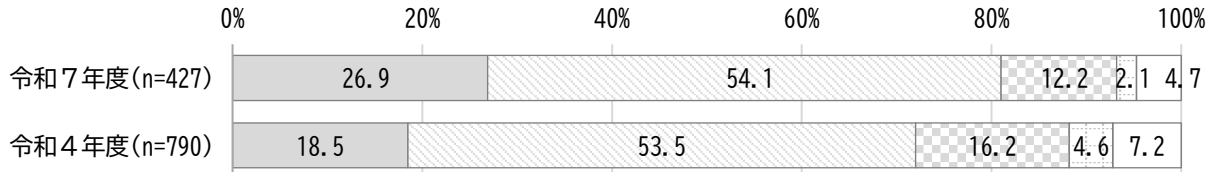
(1) 要介護認定の満足度

【介護保険サービスを利用している方のみ】

A問15 要介護認定の結果に満足していますか。(単数回答)

認定調査への満足状況について、「非常に満足している/わりと満足している」の満足している割合は 81.0%で、「あまり満足していない/全然満足していない」の満足していない割合は、14.3%であった。認知症自立度別でみると、満足している割合は「認知症Ⅲ以上」で86.1%と最も高かった。満足している割合は、令和4年度の72.0%より9.0ポイント増加した。

■ 非常に満足している ▨ わりと満足している ▩ あまり満足していない ▪ 全然満足していない □ 無回答



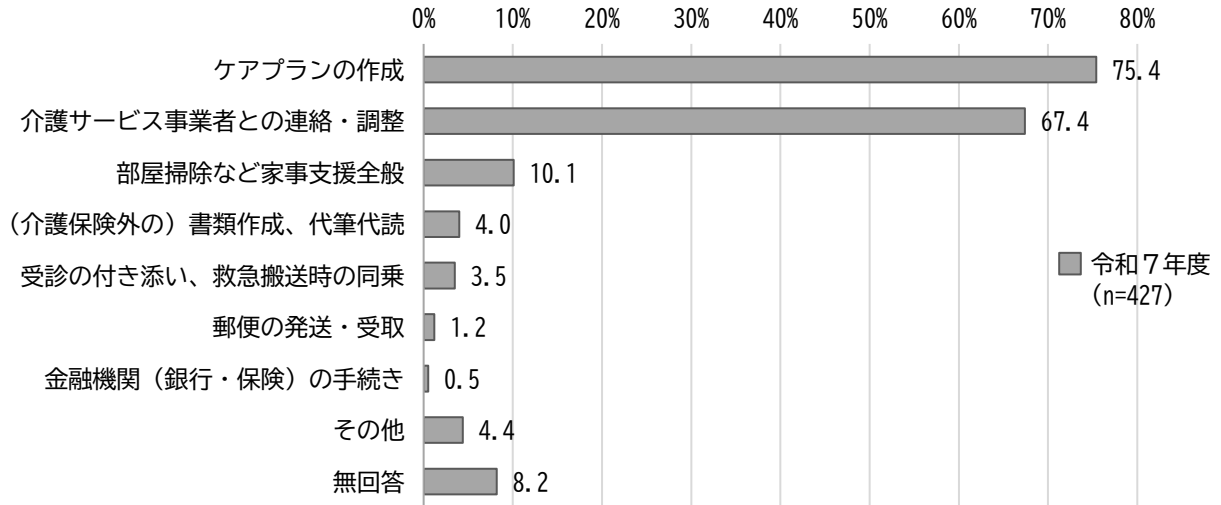
		人数	非常に満足している	わりと満足している	あまり満足していない	全然満足していない	無回答
全体		427	26.9%	54.1%	12.2%	2.1%	4.7%
認知状況	自立+Ⅰ	173	24.3%	56.6%	9.8%	1.7%	7.5%
	認知症Ⅱ	128	21.9%	57.0%	12.5%	3.9%	4.7%
	認知症Ⅲ以上	115	37.4%	48.7%	12.2%	0.9%	0.9%
世帯類型	単身世帯	159	25.2%	53.5%	15.7%	0.0%	5.7%
	夫婦のみ世帯	108	22.2%	58.3%	10.2%	2.8%	6.5%
	その他	151	31.8%	51.0%	10.6%	4.0%	2.6%

(2) ケアマネジャーへの依頼事項と満足度

【介護保険サービスを利用している方のみ】

A問 16 現在の担当ケアマネジャーにどのようなことをお願いしていますか。(複数回答)

「ケアプランの作成」が 75.4%で最も高く、次いで、「介護サービス事業者との連絡・調整」が 67.4%、「部屋掃除など家事支援全般」が 10.1%となっている。

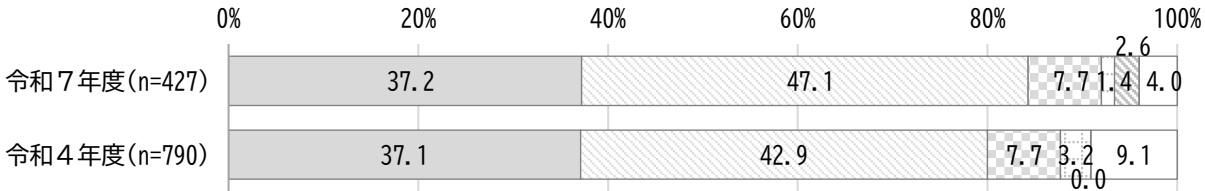


	人数	ケアプランの作成	介護サービス事業者との連絡・調整	受診の付き添い、救急搬送時の同乗	部屋掃除など家事支援全般	金融機関(銀行・保険)の手続き	書類作成、代筆代読	郵便の発送・受取	その他	無回答	
全体	427	75.4%	67.4%	3.5%	10.1%	0.5%	4.0%	1.2%	4.4%	8.2%	
認知状況	自立+I	173	68.8%	60.1%	2.9%	13.9%	0.0%	4.6%	1.2%	4.0%	9.8%
	認知症Ⅱ	128	75.0%	68.8%	3.1%	9.4%	0.8%	3.1%	0.8%	3.1%	10.9%
	認知症Ⅲ以上	115	86.1%	76.5%	5.2%	6.1%	0.9%	4.3%	1.7%	7.0%	3.5%
世帯類型	単身世帯	159	74.2%	65.4%	7.5%	17.6%	0.6%	6.3%	2.5%	5.7%	6.9%
	夫婦のみ世帯	108	75.9%	65.7%	0.9%	7.4%	0.0%	3.7%	0.0%	3.7%	9.3%
	その他	151	77.5%	72.2%	0.7%	4.0%	0.7%	1.3%	0.0%	4.0%	7.9%

【介護保険サービスを利用している方のみ】
 A問 17 全体的にみて、現在の担当ケアマネジャーの対応に、どの程度満足していますか。
 (単数回答)

ケアマネジャーへの満足度について、「非常に満足している/わりと満足している」の満足している割合は 84.3%に対して、「あまり満足していない/全然満足していない」の満足していない割合は 9.1%であった。満足している割合は、令和4年度の 80.0%より 4.3ポイント増加した。満足している割合を認知症自立度別にみると、「認知症Ⅲ以上」が 86.1%で最も高かった。世帯類型別でみると、「その他」が 86.1%と最も高かった。

■ 非常に満足している ■ わりと満足している ■ あまり満足していない ■ 全然満足していない ■ その他 □ 無回答



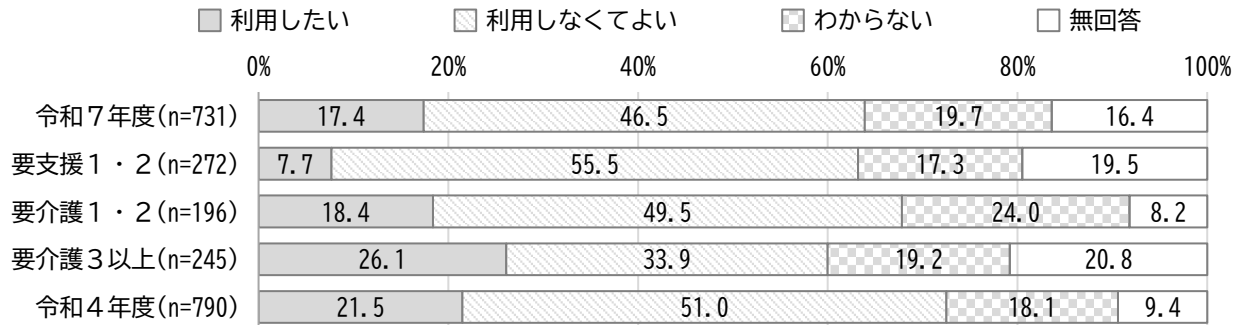
		人数	非常に満足している	わりと満足している	あまり満足していない	全然満足していない	その他	無回答
全体		427	37.2%	47.1%	7.7%	1.4%	2.6%	4.0%
認知状況	自立+ I	173	41.0%	41.0%	8.1%	2.3%	2.3%	5.2%
	認知症Ⅱ	128	32.8%	53.1%	7.0%	0.0%	3.1%	3.9%
	認知症Ⅲ以上	115	39.1%	47.0%	7.0%	1.7%	2.6%	2.6%
世帯類型	単身世帯	159	38.4%	45.3%	9.4%	1.9%	2.5%	2.5%
	夫婦のみ世帯	108	31.5%	50.9%	5.6%	1.9%	3.7%	6.5%
	その他	151	39.1%	47.0%	7.9%	0.7%	2.0%	3.3%

(3) 今後のサービス利用意向

A問 19 次のサービスを今後利用したいと思いますか。(単数回答)

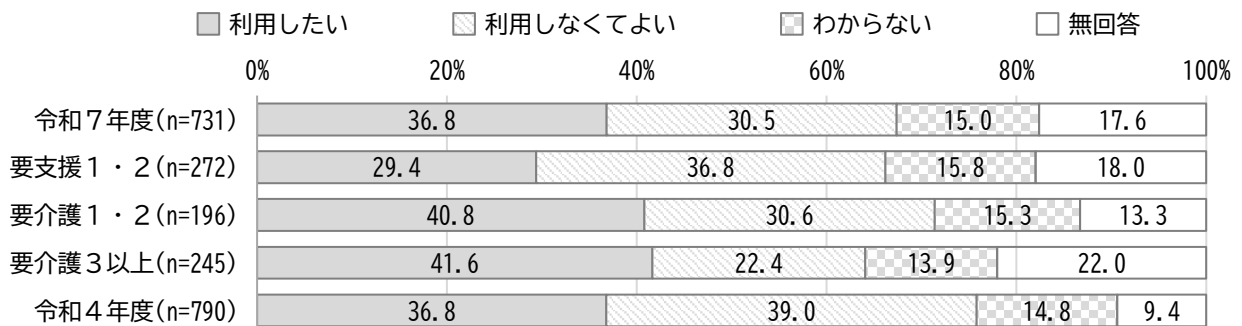
① 訪問入浴介護

「利用したい」が 17.4%、「利用しなくてよい」が 46.5%であった。利用意向のある割合は、要介護度が高くなるにつれて高かった。「利用したい」は、令和4年度の 21.5%より 4.1ポイント減少した。



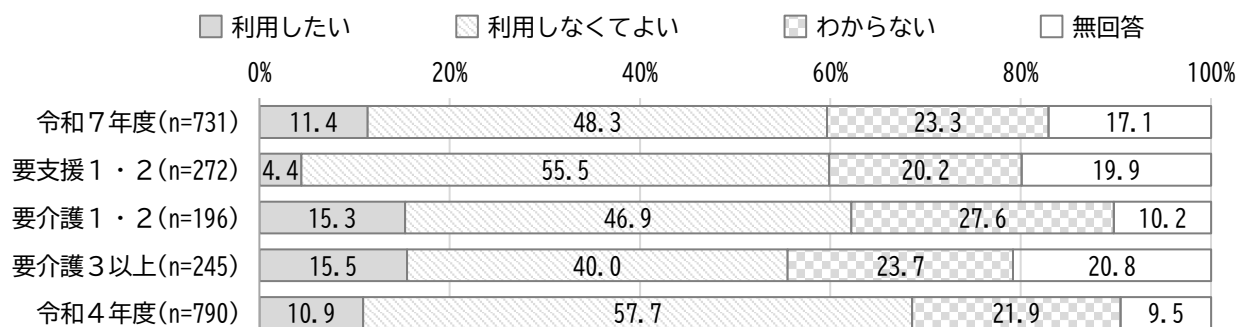
② 訪問リハビリテーション

「利用したい」が 36.8%、「利用しなくてよい」が 30.5%であった。利用意向のある割合は、要介護1～5で4割以上であった。



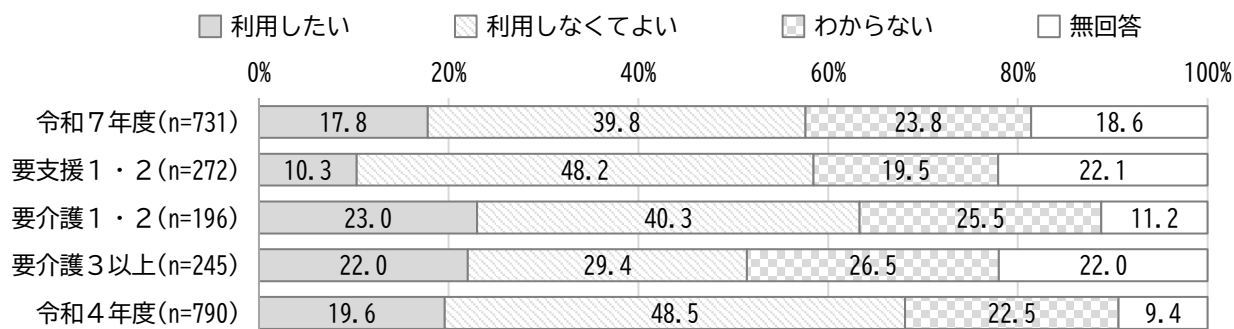
③ 認知症高齢者グループホーム

「利用したい」が 11.4%、「利用しなくてよい」が 48.3%であった。利用意向のある割合を要介護度別にみると要介護1～5で高かった。



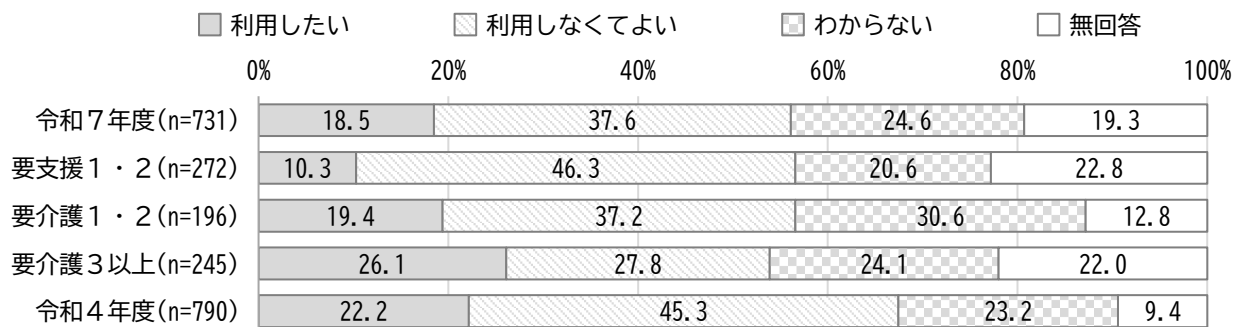
④ 小規模多機能型居宅介護

「利用したい」が17.8%、「利用しなくてよい」が39.8%であった。利用意向のある割合を要介護度別にみると、要介護1・2で高かった。



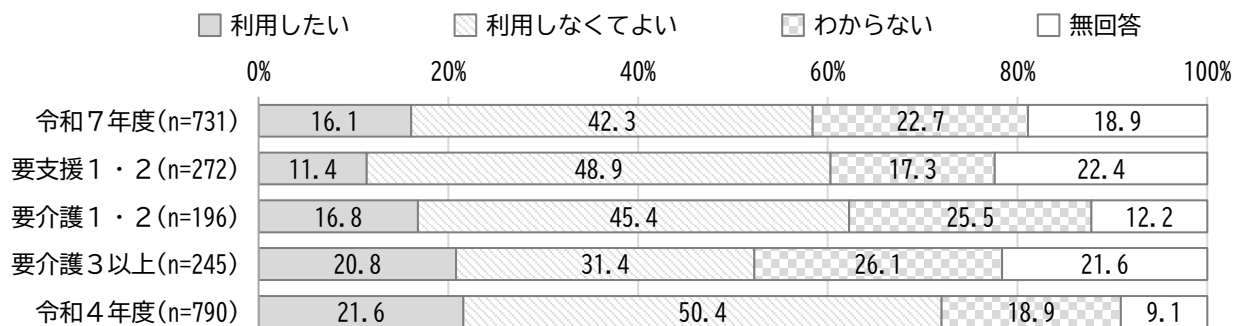
⑤ 看護小規模多機能型居宅介護

「利用したい」が18.5%、「利用しなくてよい」が37.6%であった。利用意向のある割合は、要介護度が高くなるにつれて高かった。「利用したい」は、令和4年度の22.2%より3.7ポイント減少した。



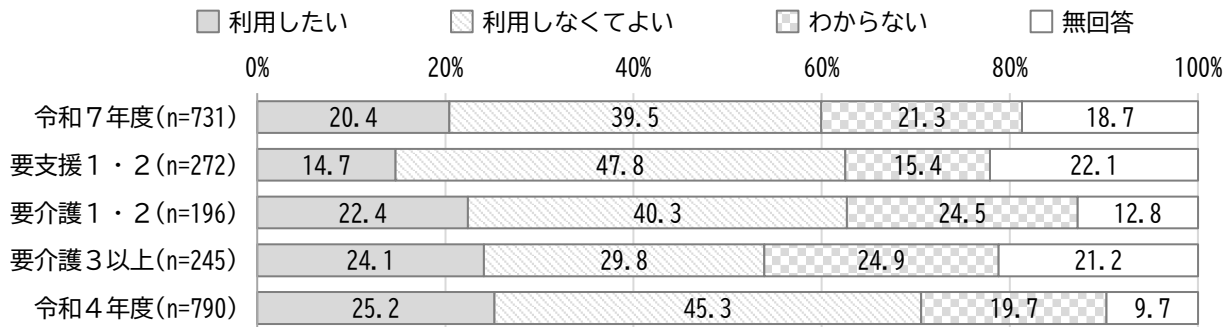
⑥ 夜間対応型訪問介護

「利用したい」が16.1%、「利用しなくてよい」が42.3%であった。利用意向のある割合は、要介護度が高くなるにつれて高かった。「利用したい」は、令和4年度の21.6%より5.5ポイント減少した。



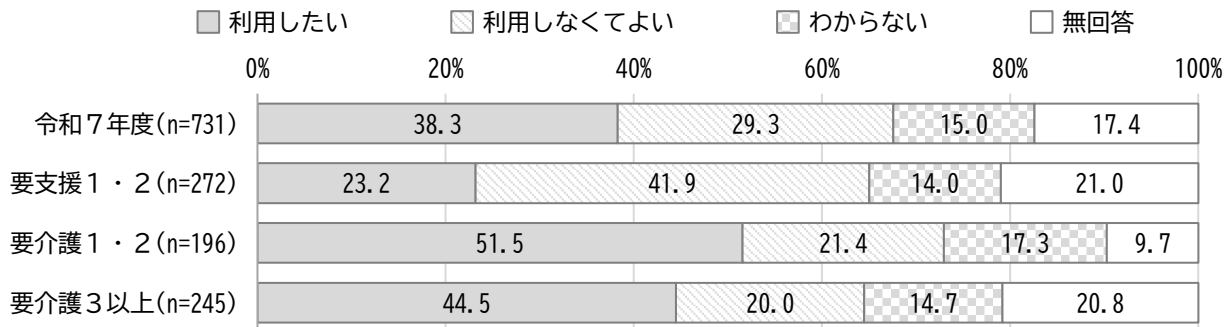
⑦ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

「利用したい」が 20.4%、「利用しなくてよい」が 39.5%であった。利用意向のある割合は、要介護度が高くなるにつれて高かった。「利用したい」は、令和4年度の 25.2%より 4.8ポイント減少した。



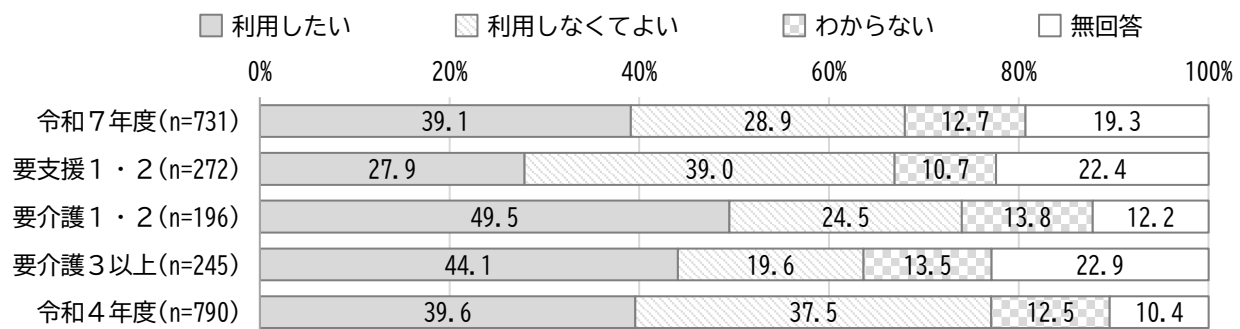
⑧ 短期入所生活介護（ショートステイ）

「利用したい」が 38.3%、「利用しなくてよい」が 29.3%であった。利用意向のある割合を要介護度別にみると「要介護1・2」で最も高かった。



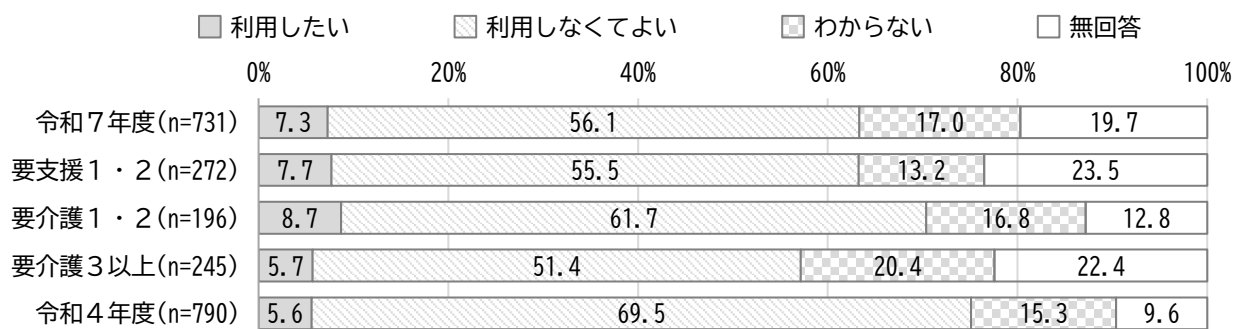
⑨ 訪問診療、往診

「利用したい」が 39.1%、「利用しなくてよい」が 28.9%であった。利用意向のある割合を要介護度別にみると「要介護1・2」で最も高かった。



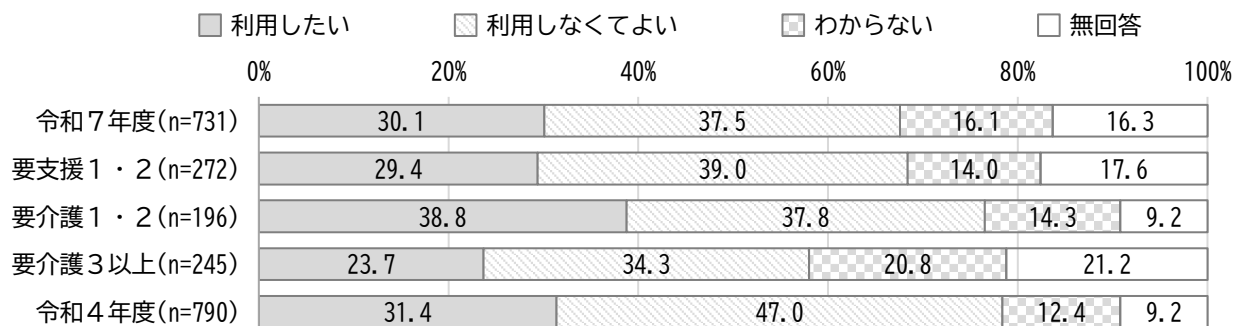
⑩ 権利擁護事業

「利用したい」が7.3%、「利用しなくてよい」が56.1%であった。



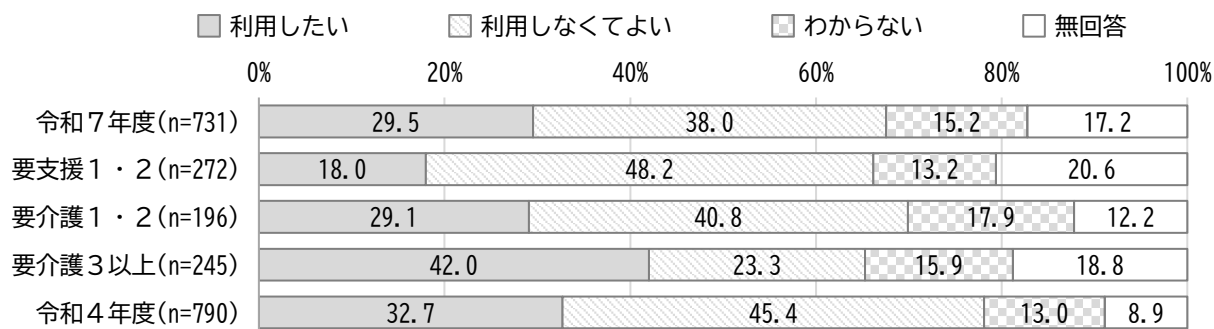
⑪ 配食サービス

「利用したい」が30.1%、「利用しなくてよい」が37.5%であった。利用意向のある割合を要介護度別にみると「要介護1・2」で最も高かった。



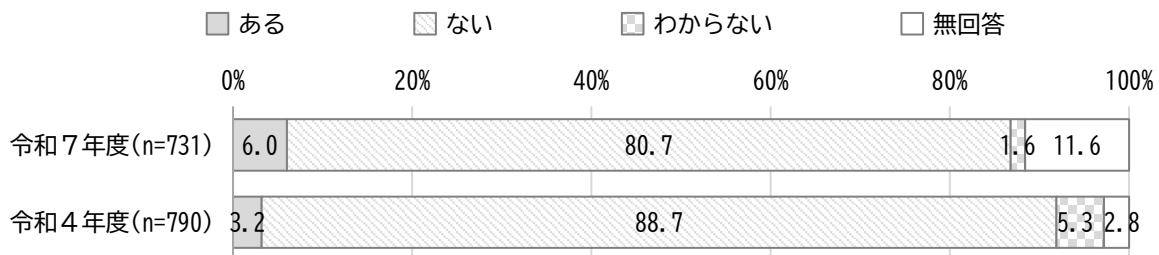
⑫ リフト付きタクシー

「利用したい」が29.5%、「利用しなくてよい」が38.0%であった。「利用したい」の割合は、要介護度が高くなるにつれて高かった。「利用したい」は、令和4年度の32.7%より3.2ポイント減少した。



A問 20 65歳になるまでに、障がい福祉サービスを利用したことがありますか。(単数回答)

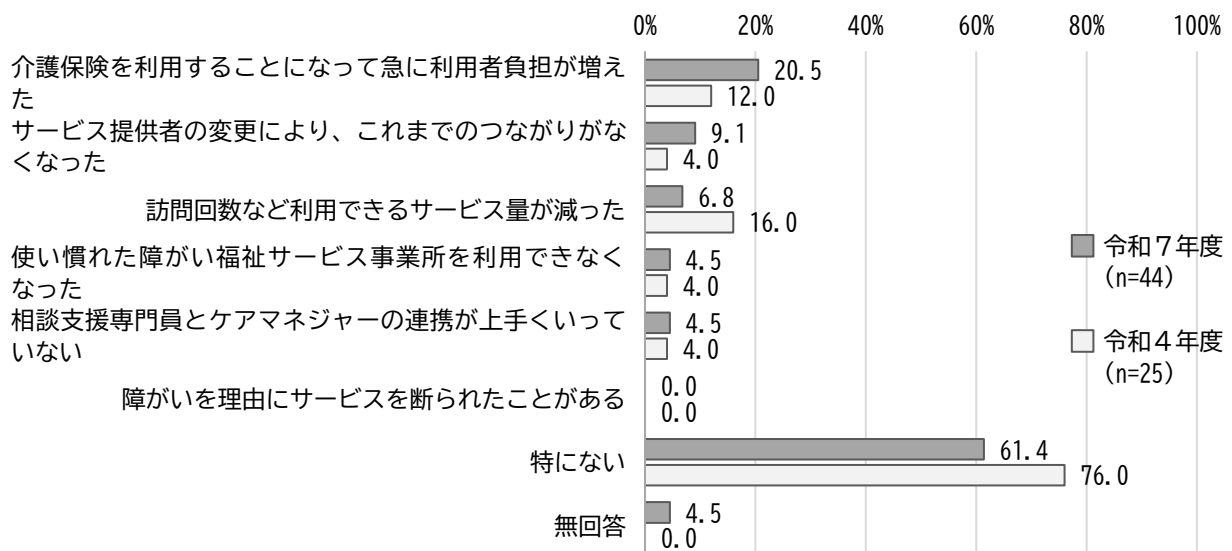
65歳になるまでに障がい福祉サービスを利用したことは、「ある」が6.0%、「ない」が80.7%であった。



【障がい福祉サービスを利用したことがある方のみ】

A問 21 65歳以降、サービス利用に関して、次のような問題がありましたか(複数回答)

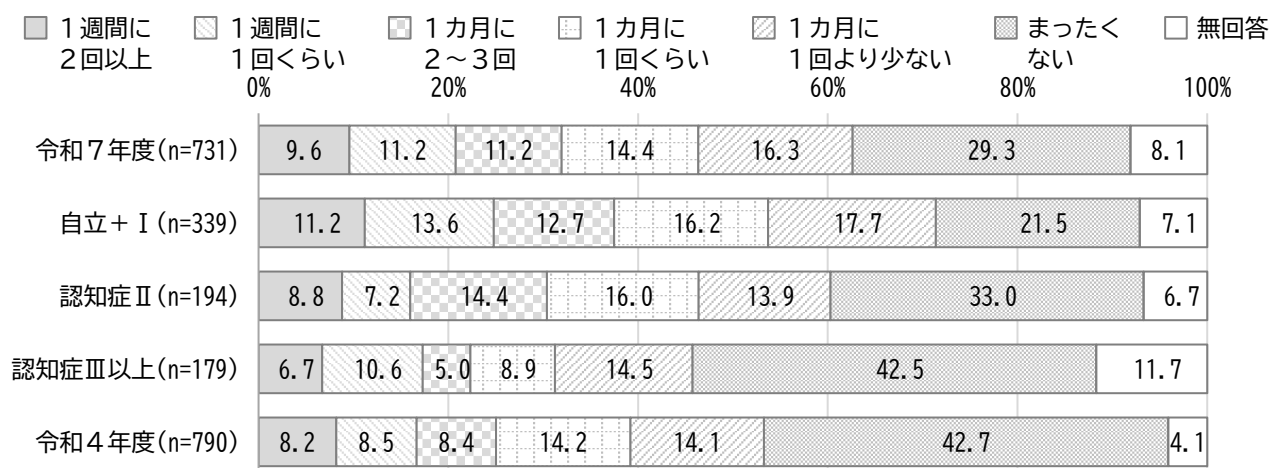
65歳になるまでに障がい福祉サービスを利用したことが「ある」人について、65歳に到達した日以降のサービス利用に関して、何らかの問題があったかについてたずねたところ、「特にない」が61.4%で最も高く、次いで、「介護保険を利用することになって急に利用者負担が増えた」が20.5%、「サービス提供者の変更により、これまでのつながりがなくなった」が9.1%であった。



4. 社会参加や生きがい等 (1) 外出と社会参加の頻度

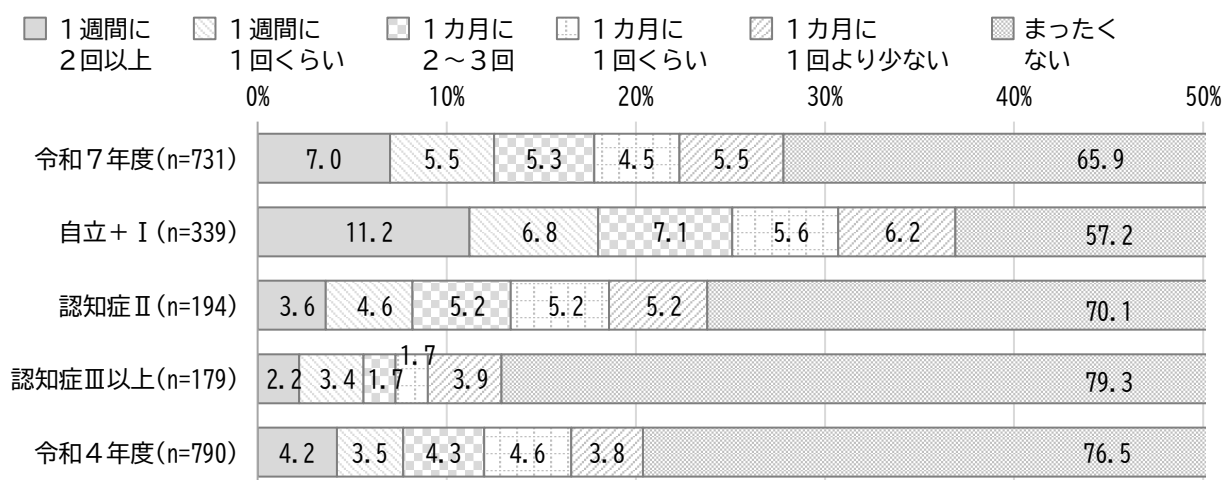
A問 22 あなたは、友人や知人、親戚の方と会ったり、一緒に出かけることが、どのくらいありますか。(単数回答)

友人・知人等との外出の頻度について、「1週間に2回以上」が9.6%、「1週間に1回くらい」が11.2%、「1カ月に2～3回」が11.2%、「1カ月に1回くらい」が14.4%で、これら月に1回以上の割合が46.4%であった。一方、「1カ月に1回より少ない」が16.3%、「まったくない」が29.3%で、これら月に1回未満の割合が45.6%であった。月に1回以上の割合は、認知症自立度の区分が高くなるにつれて低かった。月に1回以上の割合は、令和4年度の39.3%より7.1ポイント増加した。



A問 23 あなたは、自治会、町内会、趣味やグループ活動、その他のクラブ活動などに何回くらい出かけていますか。(単数回答)

自治会、町内会、趣味やその他のグループ活動について、「1週間に2回以上」が7.0%、「1週間に1回くらい」が5.5%、「1カ月に2～3回」が5.3%、「1カ月に1回くらい」が4.5%で、これら月に1回以上は22.3%であった。一方、「1カ月に1回より少ない」が5.5%、「まったくない」が65.9%で、これら月に1回未満の割合が71.4%であった。月に1回以上の割合は、認知症自立度が高くなるにつれて低かった。月に1回以上の割合は、令和4年度の16.6%より5.7ポイント増加した。



(注) パーセンテージの小さい項目の数字を見やすくするために横軸の終点を50%にした。

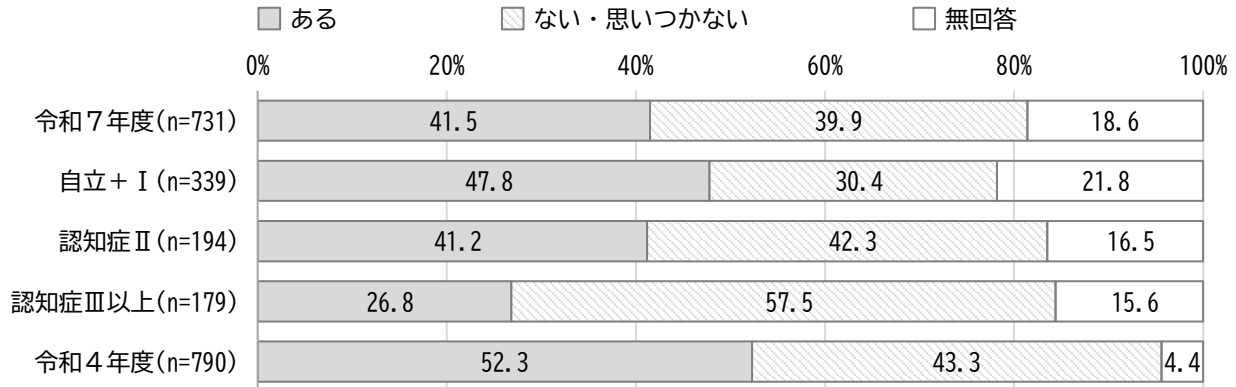
(2) 生きがいについて

A問 25 生きがいはありますか。(単数回答)

A問 25-1 また、それは何ですか(「ある」と回答した場合)。(複数回答)

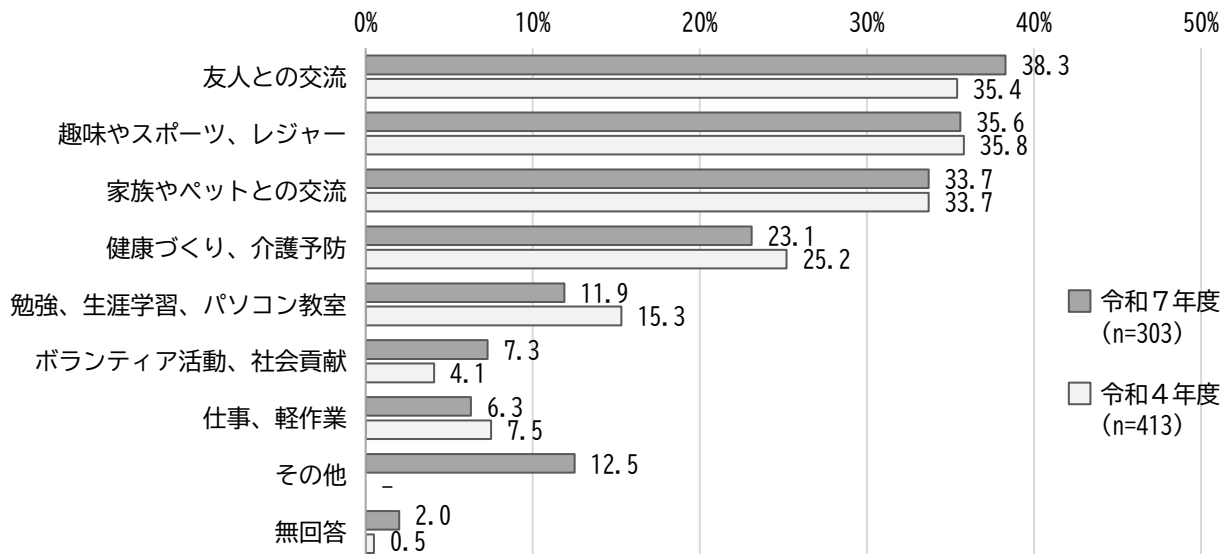
① 生きがいの有無

生きがいについて、「ある」が 41.5%、「思いつかない」が 39.9%であった。認知状況別で見ると、「ある」は「自立+ I」が 47.8%と最も高く、「認知症Ⅲ以上」が 26.8%と最も低かった。生きがいのある割合は、令和4年度の 52.3%より 10.8ポイント減少した。



② 生きがいの内容

生きがいについて、「ある」人に対してどんなことかたずねたところ、「友人との交流」が 38.3%と最も高く、次いで、「趣味やスポーツ、レジャー」が 35.6%、「家族やペットとの交流」が 33.7%であった。

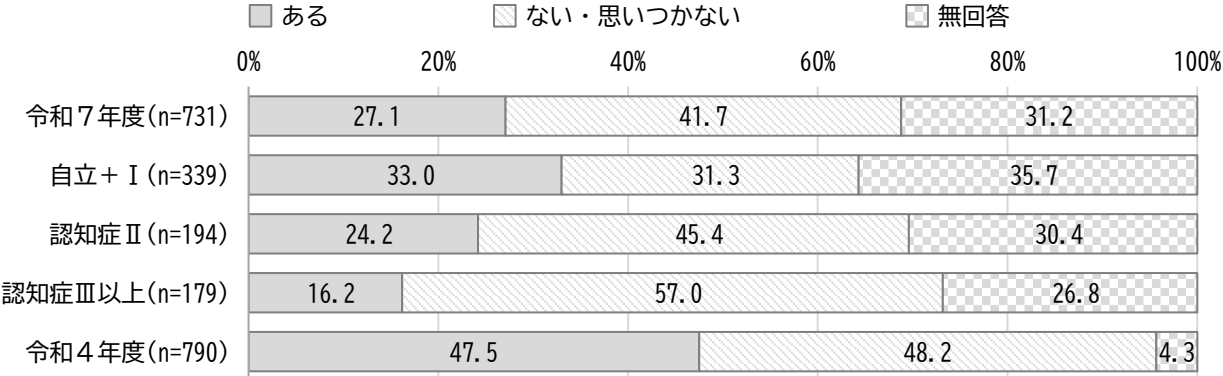


	人数	趣味やスポーツ、レジャー	家族やペットとの交流	仕事、軽作業	勉強、生涯学習、パソコン教室	友人との交流	健康づくり、介護予防	ボランティア活動、社会貢献	その他	無回答	
全体	303	35.6%	33.7%	6.3%	11.9%	38.3%	23.1%	7.3%	12.5%	2.0%	
認知状況	自立+ I	162	40.7%	30.2%	8.0%	16.0%	43.2%	26.5%	9.3%	10.5%	1.9%
	認知症Ⅱ	80	31.3%	35.0%	2.5%	5.0%	32.5%	18.8%	3.8%	17.5%	1.3%
	認知症Ⅲ以上	48	20.8%	45.8%	6.3%	8.3%	27.1%	12.5%	6.3%	12.5%	4.2%

A問 26 生きがいとしてやってみたいことはありますか。(単数回答)
 A問 26-1 また、それは何ですか(「ある」と回答した場合)。(複数回答)

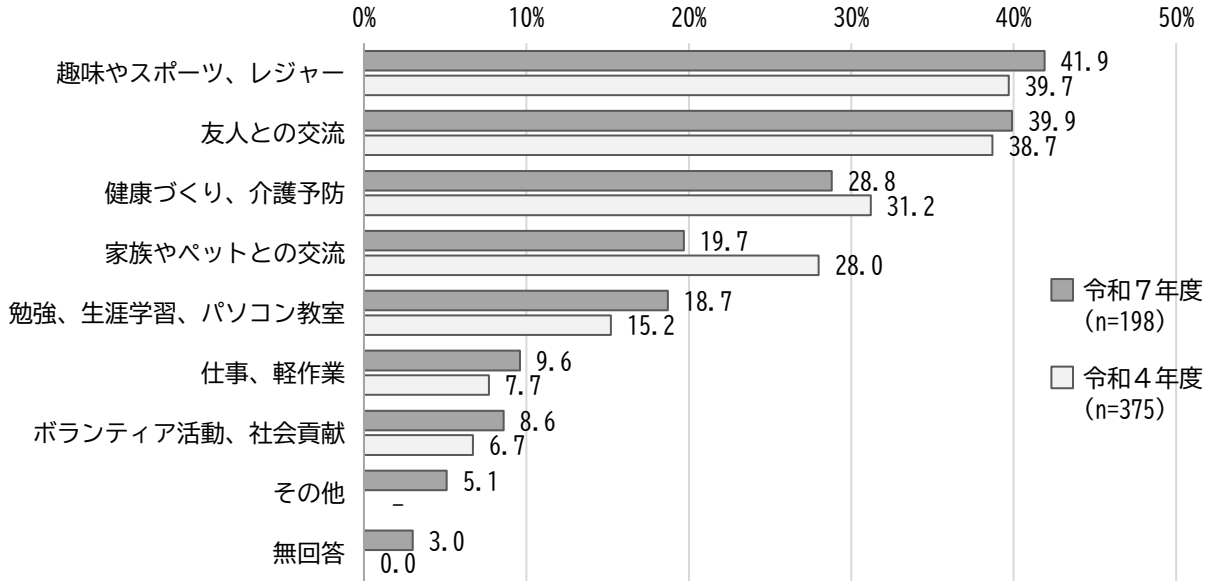
① 生きがいとしてやってみたいことの有無

生きがいとしてやってみたいことについて、「ある」が 27.1%、「思いつかない」が 41.7%であった。生きがいとしてやってみたいことのある割合は、認知症自立度の区分が高くなるにつれて低かった。令和4年度の 47.5%より 20.4ポイント減少した。



② 生きがいとしてやってみたいことの内容

生きがいとしてやってみたいことが「ある」人に対してどんなことかたずねたところ、「趣味やスポーツ、レジャー」が 41.9%と最も高く、次いで、「友人との交流」が 39.9%、「健康づくり、介護予防」が 28.8%であった。



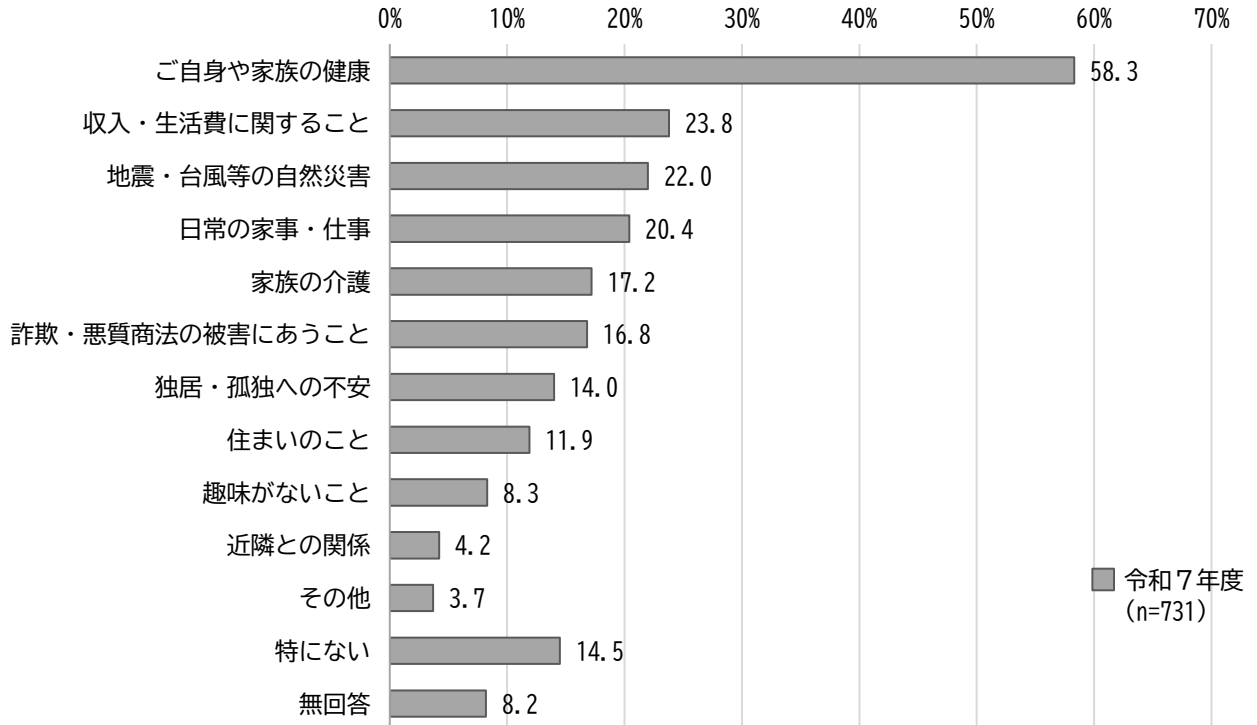
	人数	趣味やスポーツ、レジャー	家族やペットとの交流	仕事、軽作業	勉強、生涯学習、パソコン教室	友人との交流	健康づくり、介護予防	ボランティア活動、社会貢献	その他	無回答	
全体	198	41.9%	19.7%	9.6%	18.7%	39.9%	28.8%	8.6%	5.1%	3.0%	
認知状況	自立+ I	112	42.9%	17.0%	8.9%	17.9%	42.0%	32.1%	8.0%	3.6%	0.9%
	認知症Ⅱ	47	42.6%	23.4%	6.4%	17.0%	31.9%	23.4%	4.3%	6.4%	8.5%
	認知症Ⅲ以上	29	41.4%	27.6%	13.8%	13.8%	41.4%	17.2%	13.8%	6.9%	3.4%

5. 日常生活の心配事や災害対応

(1) 日常生活の心配事

A問 18 日常生活での心配ごとはありませんか。(複数回答)

「ご自身や家族の健康」が 58.3%で最も高く、次いで、「収入・生活費に関すること」が 23.8%、「地震・台風等の自然災害」が 22.0%となっている。認知症自立度別でみると、「家族の介護」「日常の家事・仕事」「収入・生活費に関すること」「近隣との関係」では高くなるにつれて高く、「詐欺・悪質商法の被害にあうこと」では高くなるにつれて低くなる傾向がみられた。

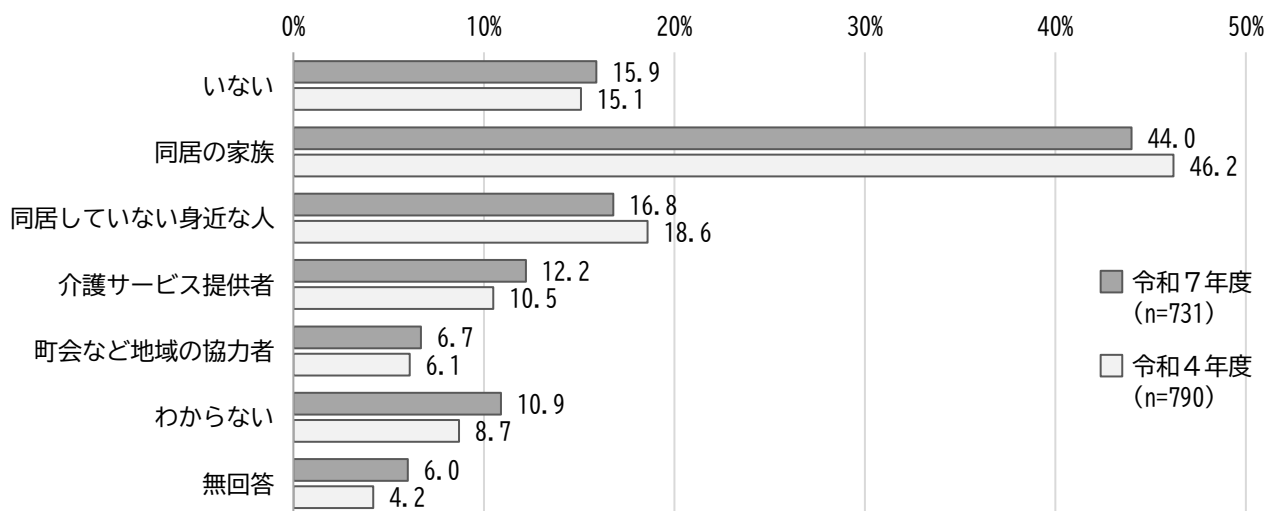


		人数	ご自身や家族の健康	家族の介護	地震・台風等の自然災害	独居・孤独への不安	住まいのこと	日常の家事・仕事	収入・生活費に関すること	近隣との関係	趣味がないこと	詐欺・悪質商法の被害にあうこと	その他	特になし	無回答
全体		731	58.3%	17.2%	22.0%	14.0%	11.9%	20.4%	23.8%	4.2%	8.3%	16.8%	3.7%	14.5%	8.2%
認知状況	自立+ I	339	54.3%	13.3%	26.3%	14.7%	11.5%	19.8%	18.6%	3.5%	5.6%	19.5%	2.4%	13.6%	10.3%
	自立度 II	194	66.0%	20.1%	16.0%	12.9%	12.9%	20.6%	26.8%	4.1%	13.4%	17.5%	5.7%	10.8%	6.7%
	III以上	179	58.7%	22.3%	20.7%	14.0%	12.3%	22.3%	31.8%	5.0%	7.8%	11.2%	3.9%	19.6%	6.7%
世帯類型	単身世帯	273	48.4%	8.1%	24.5%	23.1%	12.1%	17.6%	20.5%	4.8%	5.5%	21.2%	4.8%	16.8%	7.0%
	夫婦のみ世帯	193	66.3%	28.0%	13.0%	9.8%	9.8%	20.7%	20.7%	3.6%	12.4%	12.4%	3.1%	13.5%	8.8%
	その他	244	65.6%	20.1%	27.0%	7.4%	13.9%	24.2%	30.3%	4.1%	9.0%	16.4%	2.9%	12.7%	6.6%

(2) 災害時の対応

A問 24 災害時の避難を手助けしてくれる人はいますか。それは誰ですか。(複数回答)

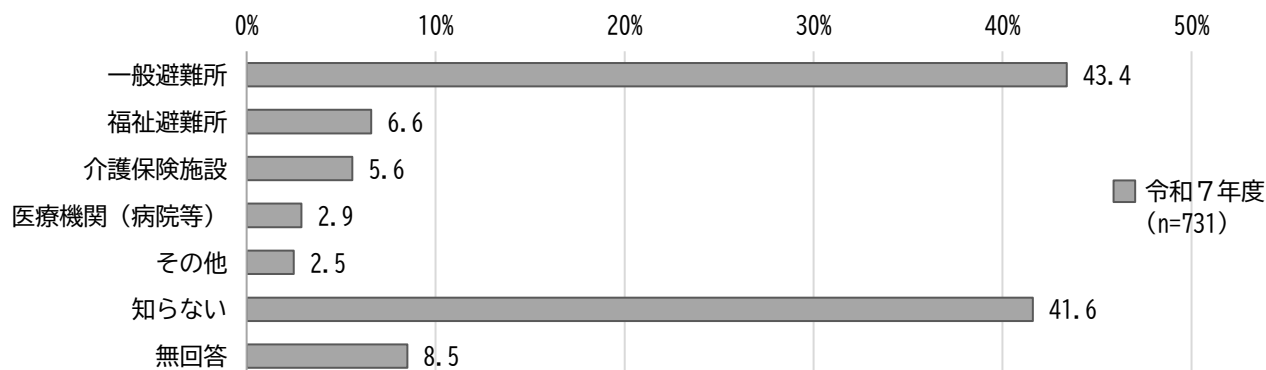
災害時に避難の手助けをしてくれる人について、「同居の家族」が44.0%で最も高く、次いで、「同居していない身近な人」が16.8%、「いない」が15.9%であった。



	人数	いない	同居の家族	同居していない身近な人	町会など地域の協力者	介護サービス提供者	わからない	無回答	
全体	731	15.9%	44.0%	16.8%	6.7%	12.2%	10.9%	6.0%	
認定状況	要支援1・2	272	25.0%	40.1%	18.8%	11.0%	2.6%	10.3%	5.9%
	要介護1・2	196	16.3%	50.0%	18.9%	4.6%	10.2%	11.2%	3.1%
	要介護3～5	245	5.3%	43.3%	12.7%	4.1%	24.9%	11.0%	9.0%

A問 28 災害時に自宅以外で避難できる場所を知っていますか。(複数回答)

災害時に自宅以外で避難できる場所について、「一般避難所」が43.4%で最も高く、次いで、「知らない」が41.6%、「福祉避難所」が6.6%であった。



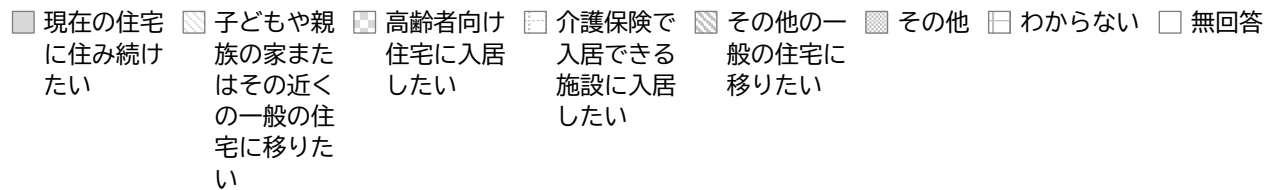
	人数	一般避難所	福祉避難所	介護保険施設	医療機関(病院等)	その他	知らない	無回答	
全体	731	43.4%	6.6%	5.6%	2.9%	2.5%	41.6%	8.5%	
認定状況	要支援1・2	272	50.7%	7.4%	4.8%	4.0%	2.6%	36.4%	8.8%
	要介護1・2	196	42.3%	6.6%	6.1%	3.1%	2.6%	46.4%	4.6%
	要介護3～5	245	35.1%	6.1%	6.5%	1.2%	2.4%	43.7%	11.8%

(3) 今後介護度が高くなった際の生活場所

A問 27 あなたは、今後、要介護度が高くなった場合、どこで生活したいとお考えですか。
(単数回答)

今後、要介護度が高くなった際に生活したい場所について、「現在の住宅に住み続けたい」が47.6%で最も高く、次いで、「介護保険で入居できる施設（特別養護老人ホームなど）に入居したい」が19.3%、「わからない」が9.6%であった。「現在の住宅に住み続けたい」は、令和4年度の58.9%より11.3ポイント減少した。

「現在の住宅に住み続けたい」割合は、要介護度が高くなるにつれて低くなるものの、「要介護3以上」でも41.6%であった。世帯類型別では、「夫婦のみ世帯」（53.9%）は「単身世帯」（39.9%）より14.0ポイント高かった。



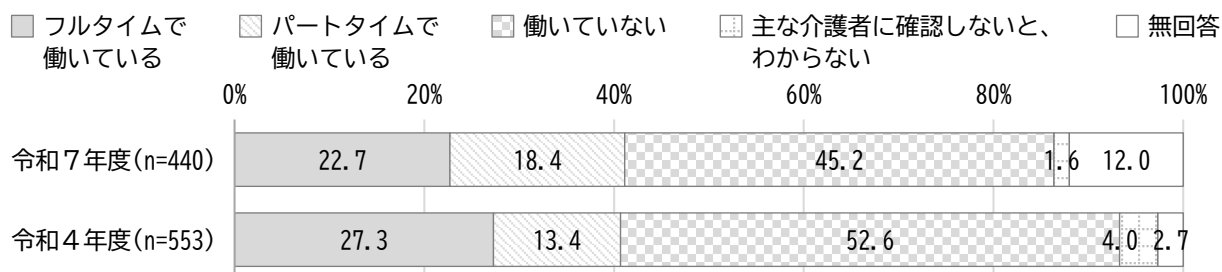
	人数	現在の住宅に住み続けたい	子どもや親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい	高齢者向け住宅に入居したい	介護保険で入居できる施設に入居したい	その他の一般の住宅に移りたい	その他	わからない	無回答	
全体	731	47.6%	0.7%	9.4%	19.3%	1.2%	3.0%	9.6%	9.2%	
認定状況	要支援1・2	272	51.8%	0.4%	12.9%	15.8%	1.1%	1.5%	7.4%	9.2%
	要介護1・2	196	48.5%	1.0%	7.7%	23.5%	2.6%	1.5%	9.7%	5.6%
	要介護3～5	245	41.6%	0.4%	6.9%	19.6%	0.4%	5.7%	12.7%	12.7%
世帯類型	単身世帯	273	39.9%	1.1%	13.2%	26.7%	0.4%	4.4%	8.4%	5.9%
	夫婦のみ世帯	193	53.9%	0.5%	8.3%	13.5%	1.6%	0.5%	9.3%	12.4%
	その他	244	53.3%	0.4%	5.7%	16.8%	1.2%	3.7%	10.7%	8.2%

6. 主な介護者の仕事と介護【家族等介護がある方のみ】

(1) 主な介護者の勤務形態

B問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(単数回答)

「フルタイム/パートタイムで働いている」が41.1%、「働いていない」が45.2%であった。「働いていない」は、令和4年度の52.6%より7.4ポイント減少した。

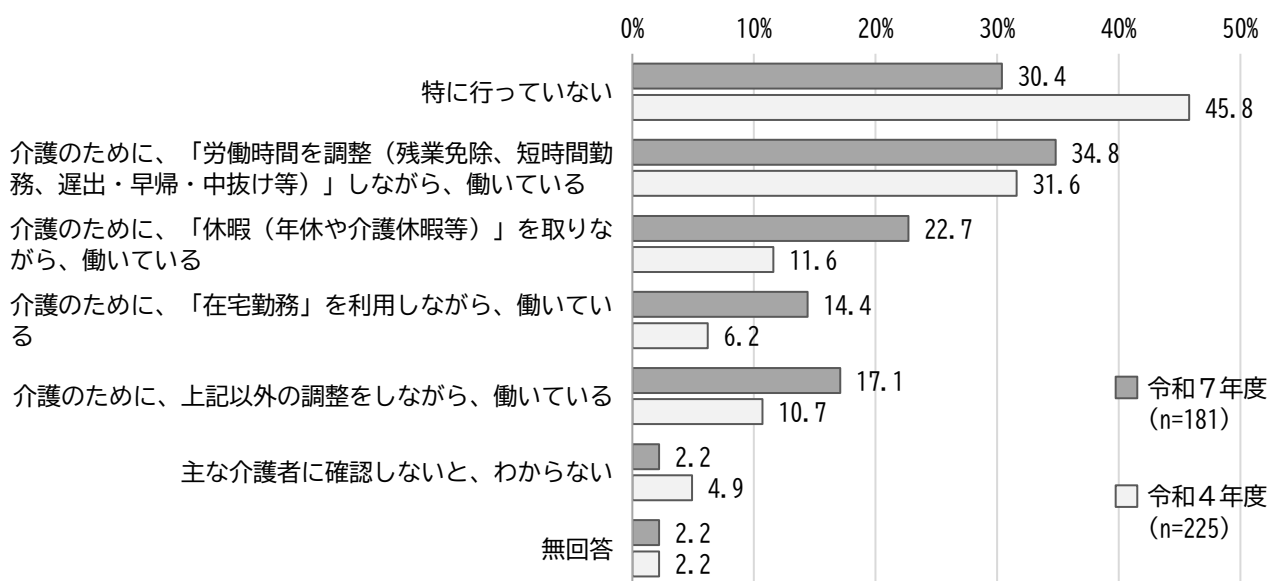


(2) 主な介護者の介護と仕事の両立

【主な介護者が働いている方のみ】

B問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。(複数回答)

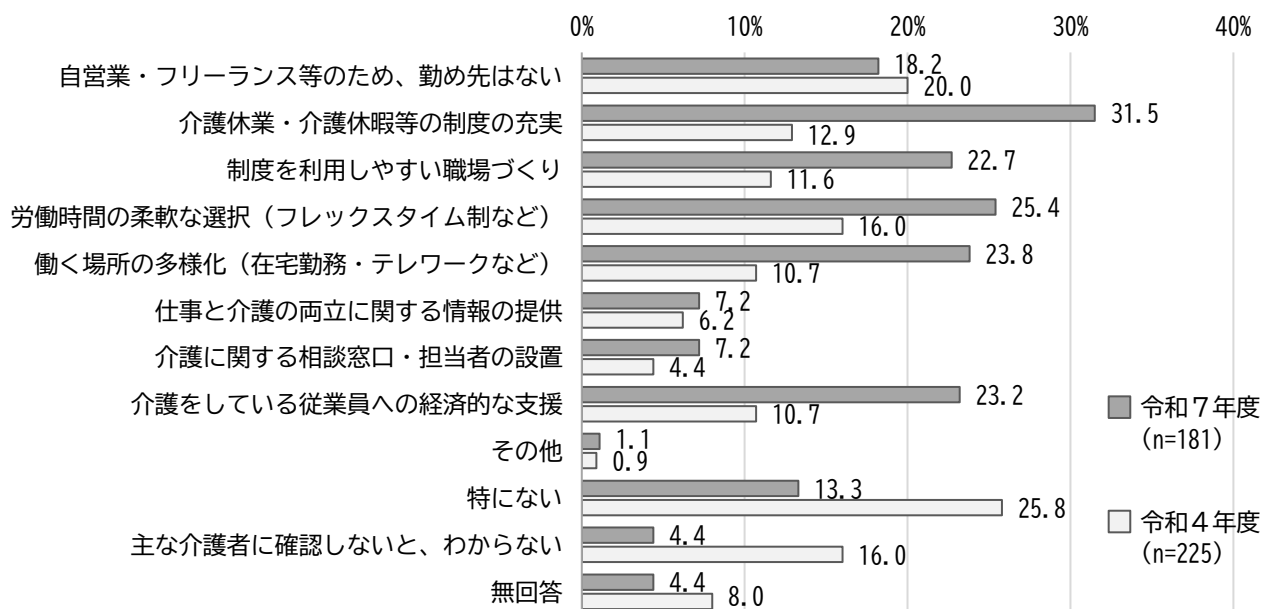
「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が34.8%で最も高く、次いで、「特に行っていない」が30.4%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が22.7%となっている。「特に行っていない」は、令和4年度の45.8%より15.4ポイント減少した。



【主な介護者が働いている方のみ】

B問3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（複数回答）

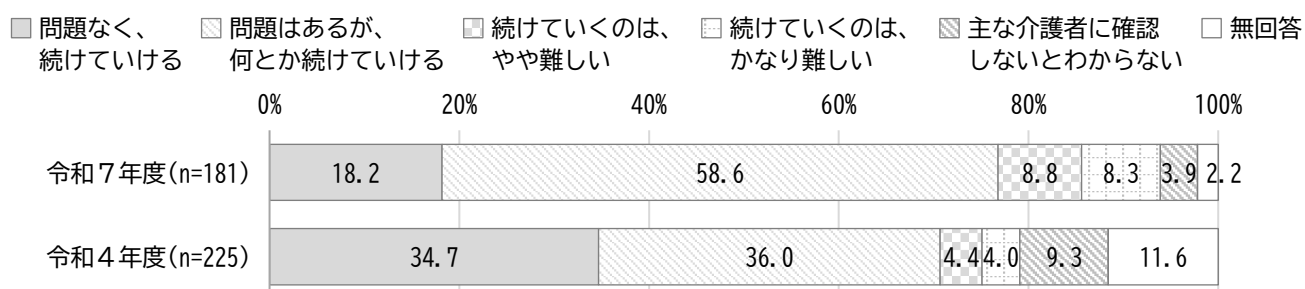
「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が31.5%で最も高く、次いで、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が25.4%、「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」が23.8%となっている。「介護休業・介護休暇等の制度の充実」は、令和4年度の12.9%より18.6ポイント増加している。



【主な介護者が働いている方のみ】

B問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（複数回答）

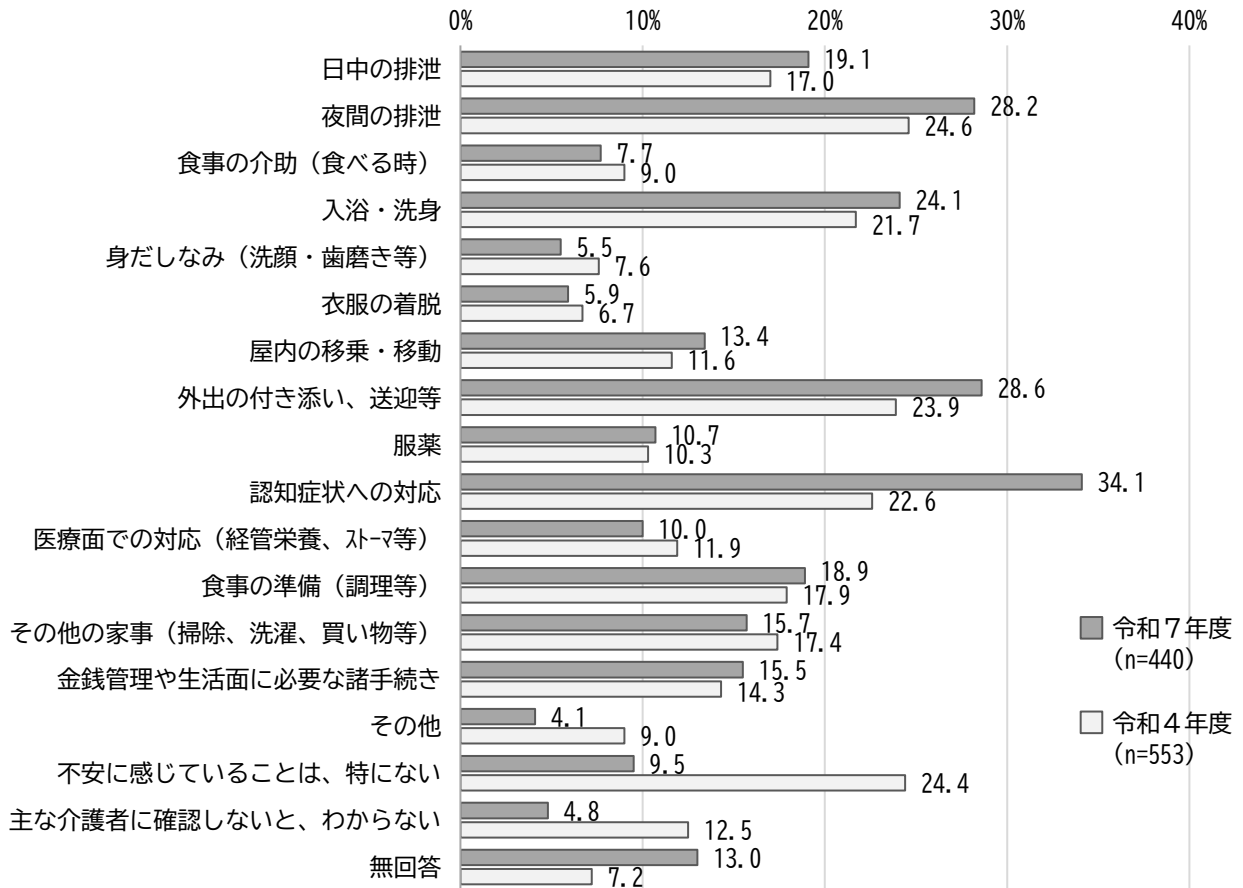
「問題はあるが、何とか続けていける」が58.6%で最も高く、次いで、「問題なく、続けていける」が18.2%、「続けていくのは、やや難しい」が8.8%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」は、令和4年度の36.0%より22.6ポイント増加している。



(3) 主な介護者が不安に感じる介護

B問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。（複数回答）

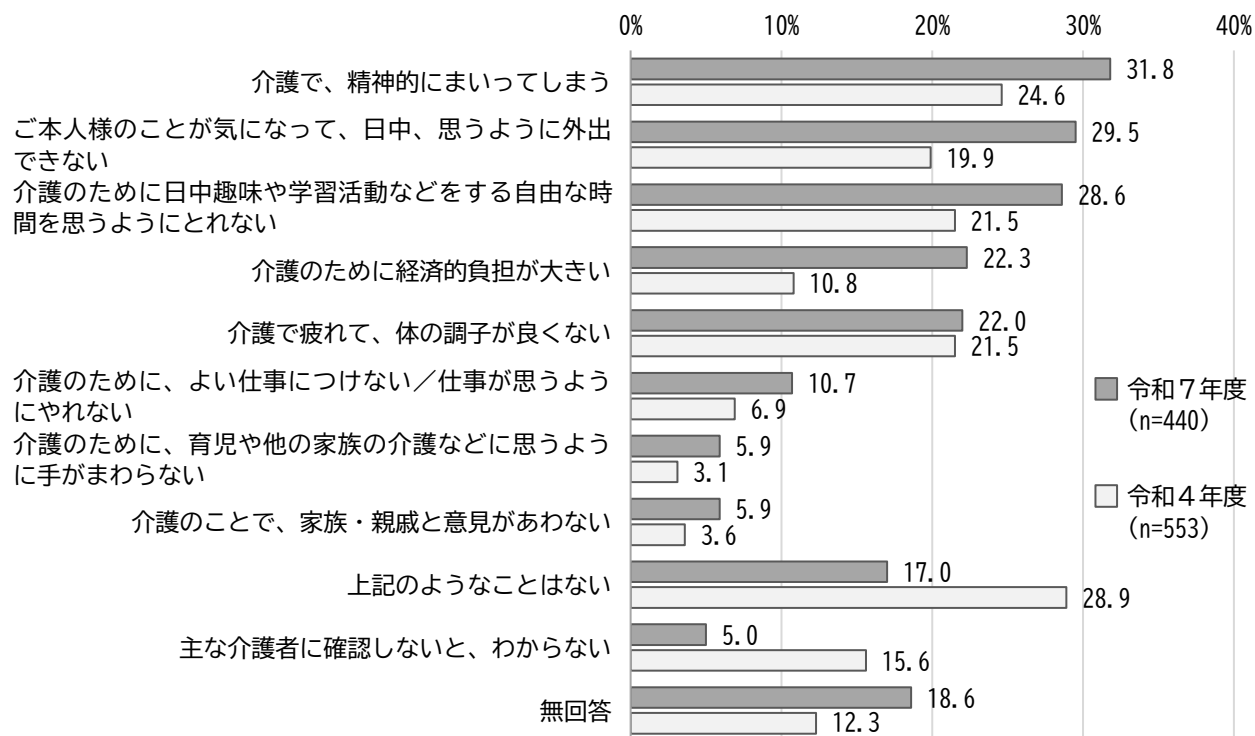
「認知症状への対応」が34.1%で最も高く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」が28.6%、「夜間の排泄」が28.2%となっている。「認知症状への対応」は、令和4年度の22.6%より11.5ポイント増加している。



(4) 主な介護者の負担感

B問6 介護をしている中で、主な介護者の方に該当することがありますか。(複数回答)

主な介護者が負担に感じることについて、「介護で、精神的にまいってしまう」が31.8%で最も高く、次いで、「ご本人様のことが気になって、日中、思うように外出できない」が29.5%、「介護のために日中趣味や学習活動などをする自由な時間を思うようにとれない」が28.6%であった。「介護のために経済的負担が大きい」は22.3%と令和4年度の10.8%より11.5ポイント増加した。



※「介護のために」の部分について令和4年度においては「お世話のために」と表記した。

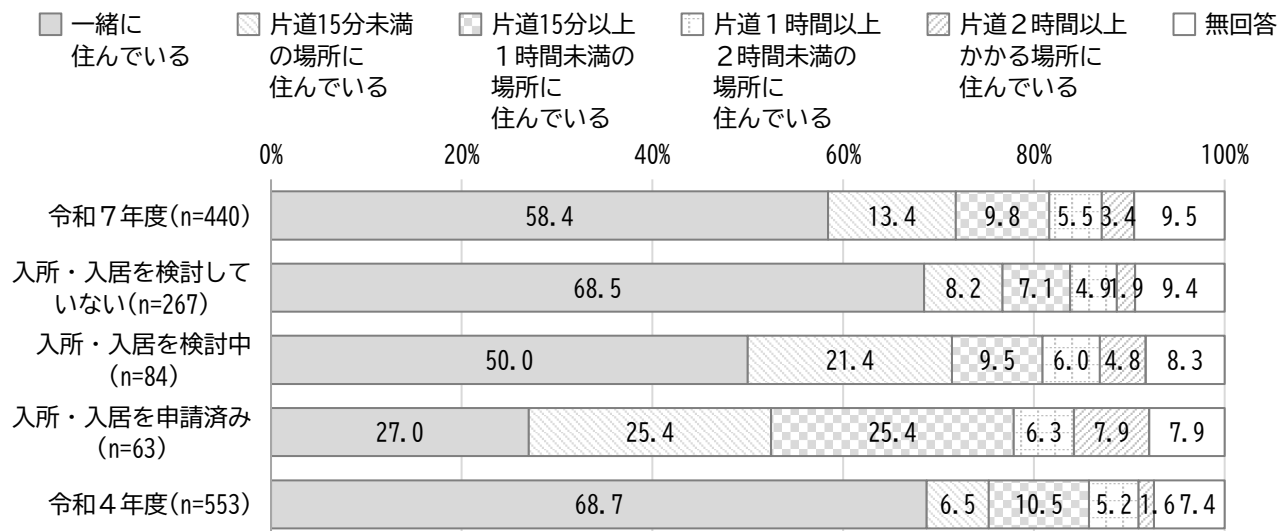
	人数	介護で疲れて、体の調子が良くない	介護で、精神的にまいってしまう	介護のために、よい仕事につけない/仕事が思うようにやれない	介護のために、育児や他の家族の介護などに手がまわらない	ご本人様のことが気になって、日中、思うように外出できない	
全体	440	22.0%	31.8%	10.7%	5.9%	29.5%	
認定状況	要支援1・2	130	8.5%	11.5%	3.8%	1.5%	12.3%
	要介護1・2	140	18.6%	35.7%	10.0%	5.7%	29.3%
	要介護3～5	159	37.1%	45.3%	16.4%	9.4%	44.7%

	介護のために自由な時間を思うようにとれない	介護のことで、家族・親戚と意見があわない	介護のために経済的負担が大きい	上記のようなことはない	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答	
全体	28.6%	5.9%	22.3%	17.0%	5.0%	18.6%	
認定状況	要支援1・2	10.0%	1.5%	3.8%	30.0%	7.7%	34.6%
	要介護1・2	29.3%	9.3%	25.7%	12.9%	5.7%	15.0%
	要介護3～5	43.4%	6.3%	32.1%	10.1%	1.9%	9.4%

(5) 主な介護者の居住場所

B問7 主な介護者の方は、ご本人様と一緒に住んでいますか。離れて住んでいる場合は、ふだん使っている交通手段で、どのくらいの時間がかかりますか。(単数回答)

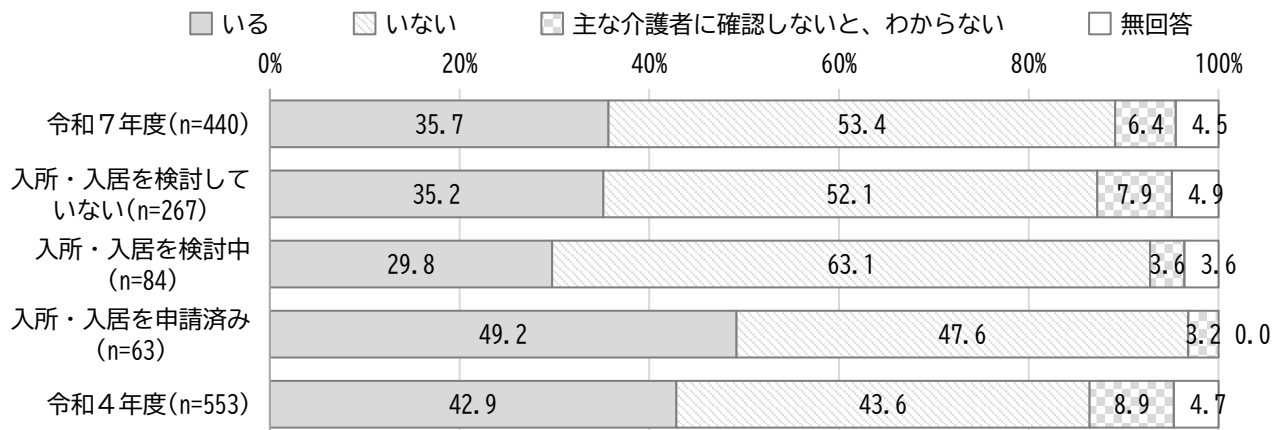
主な介護者の住んでいる場所については、「一緒に住んでいる」が 58.4%、別居介護者は 32.1%だった。「一緒に住んでいる」は、令和4年度の68.7%より10.3ポイント減少した一方、別居介護者は令和4年度の別居介護者 23.8%より 8.3ポイント増加した。



(6) 主な介護者の代わりに頼める人

B問8 もし主な介護者の方が、急病や外出などで介護ができないような状況になった場合、一週間程度、代わりに介護を頼める人がいますか。(単数回答)

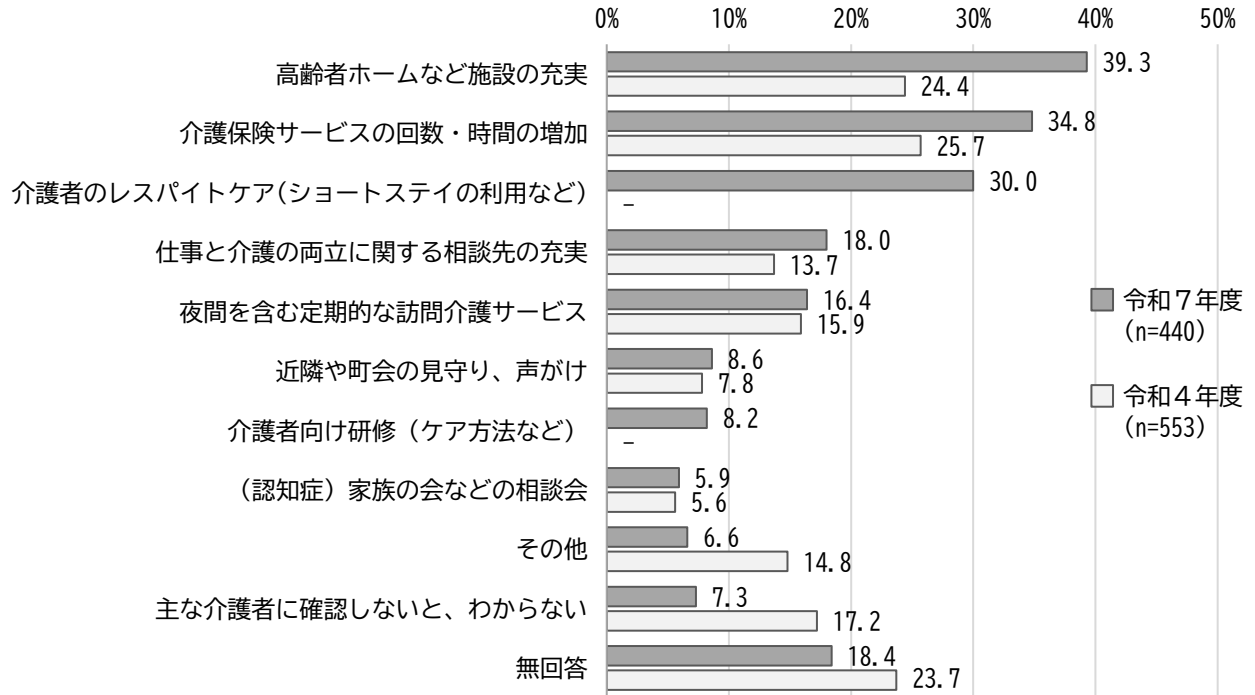
主な介護者が急病や外出などで世話ができない場合に、一週間程度、代わりに世話を頼める人がいるかについて、「いる」が 35.7%、「いない」が 53.4%であった。代わりに世話を頼める人が「いる」は、令和4年度の42.9%より7.2ポイント減少した。



(7) 仕事と介護を両立するために必要な支援

B問9 主な介護者の方が今後も働きながら介護を続けるためには、地域や行政からどのような支援が必要と思われますか。（複数回答）

主な介護者が今後も働きながら介護を続けるために必要な地域や行政からの支援について、「高齢者ホームなど施設の充実」が39.3%で最も高く、次いで、「介護保険サービスの回数・時間の増加」が34.8%、「介護者のレスパイトケア（ショートステイの利用など）」が30.0%であった。「高齢者ホームなど施設の充実」は、令和4年度の24.4%より14.9ポイント増加した。



	人数	仕事と介護の両立に関する相談先の充実	(認知症)家族の会などの相談会	介護保険サービスの回数・時間の増加	夜間を含む定期的な訪問介護サービス	高齢者ホームなど施設の充実	
全体	440	18.0%	5.9%	34.8%	16.4%	39.3%	
認定状況	要支援1・2	130	18.5%	3.8%	30.0%	13.1%	26.2%
	要介護1・2	140	15.0%	8.6%	38.6%	17.1%	45.7%
	要介護3～5	159	19.5%	4.4%	35.2%	18.9%	44.7%
入所入居	検討していない	267	18.4%	25.0%	40.1%	18.8%	11.0%
	検討中	84	19.0%	16.3%	50.0%	18.9%	4.6%
	申請済み	63	19.0%	5.3%	43.3%	12.7%	4.1%

	近隣や町会の見守り、声かけ	介護者のレスパイトケア	介護者向け研修(ケア方法など)	その他	主な介護者に確認しないとわからない	無回答	
全体	8.6%	30.0%	8.2%	6.6%	7.3%	18.4%	
認定状況	要支援1・2	14.6%	16.9%	5.4%	4.6%	10.0%	26.9%
	要介護1・2	7.1%	38.6%	9.3%	4.3%	6.4%	12.9%
	要介護3～5	5.0%	32.1%	9.4%	10.7%	5.0%	17.6%
入所入居	検討していない	10.1%	27.0%	7.9%	6.7%	8.6%	21.7%
	検討中	4.8%	44.0%	13.1%	3.6%	6.0%	10.7%
	申請済み	11.1%	30.2%	3.2%	6.3%	3.2%	6.3%

第2章

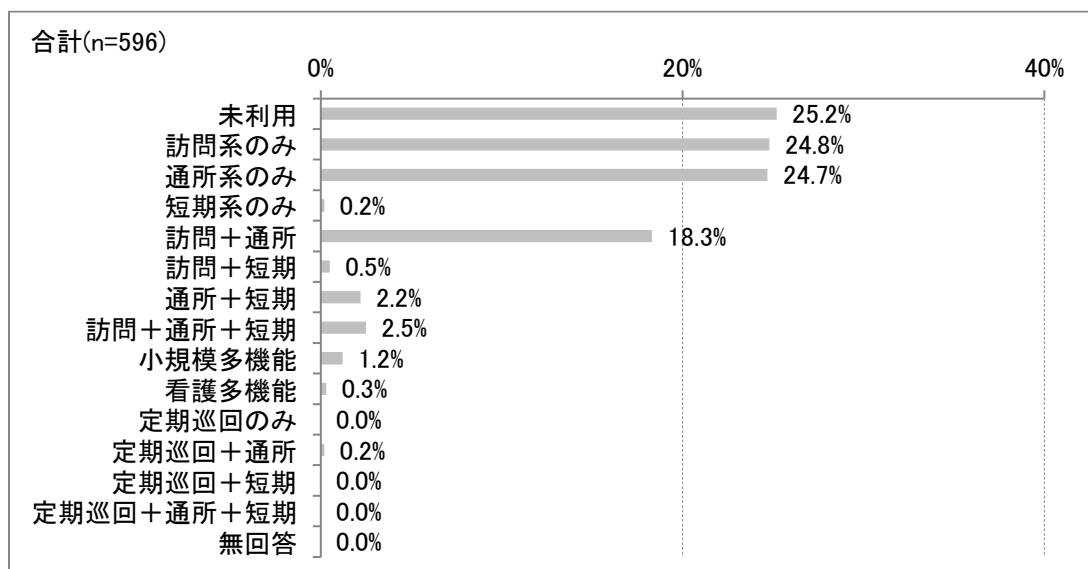
要支援・要介護認定者と介護者の 生活と福祉に関する調査

第2節 在宅介護調査

1. 認定データの単純集計

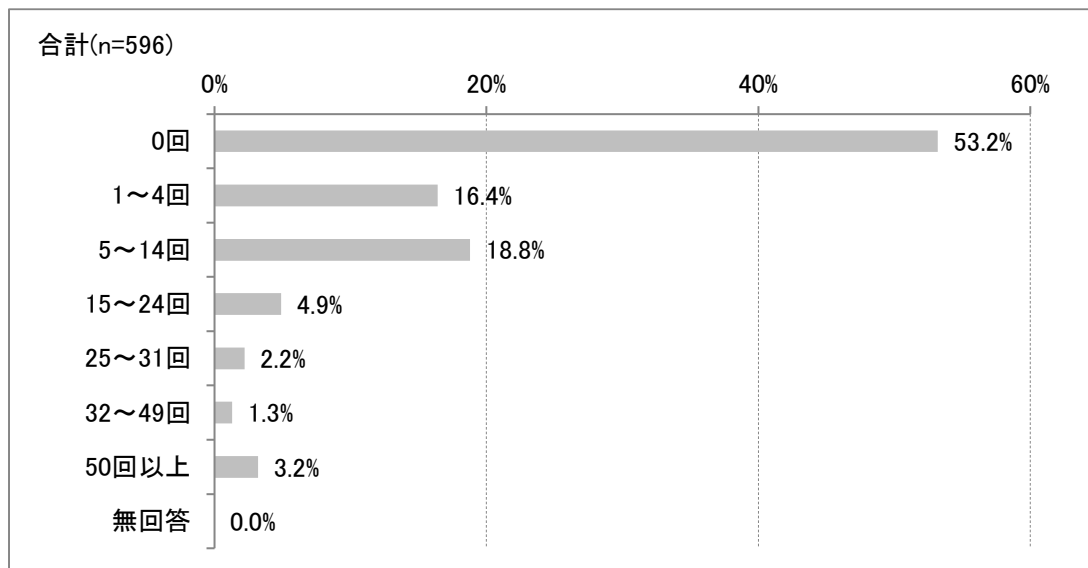
1-1-1 サービス利用の組み合わせ

「未利用」の割合が最も高く 25.2%となっている。次いで、「訪問系のみ」が 24.8%、「通所系のみ」が 24.7%となっている。



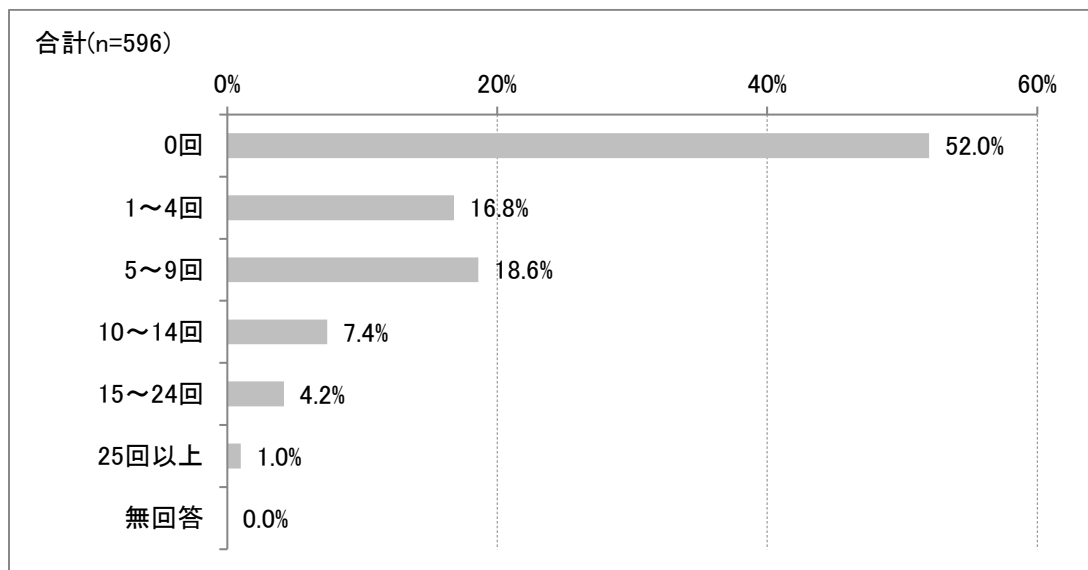
1-1-2 訪問系の1カ月当たりの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 53.2%となっている。次いで、「5～14回」が 18.8%、「1～4回」が 16.4%となっている。



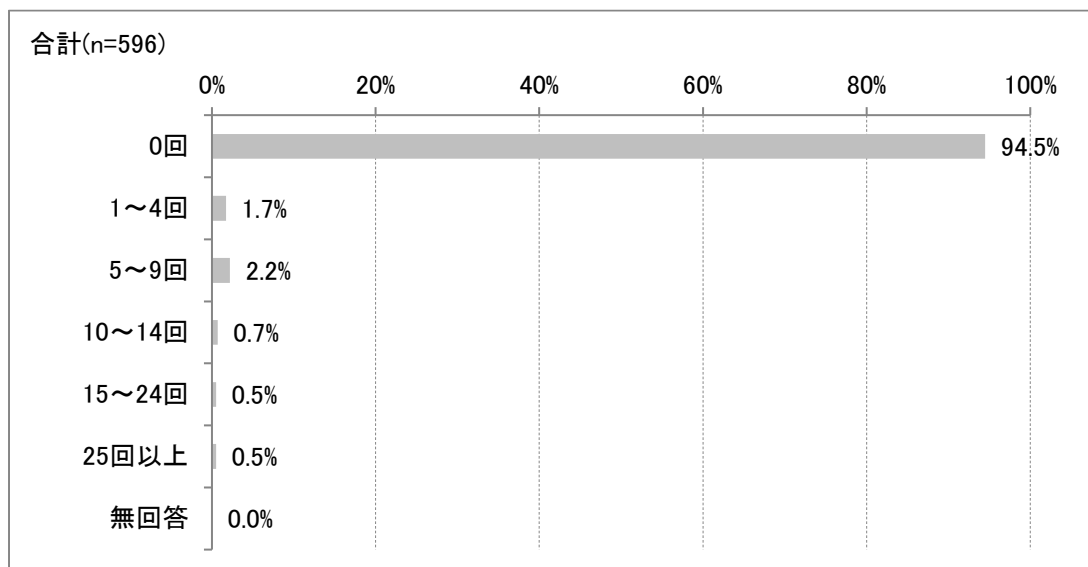
1-1-3 通所系の1カ月当たりの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 52.0%となっている。次いで、「5～9回」が 18.6%、「1～4回」が 16.8%となっている。



1-1-4 短期系の1カ月当たりの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 94.5%となっている。次いで、「5～9回」が 2.2%、「1～4回」が 1.7%となっている。

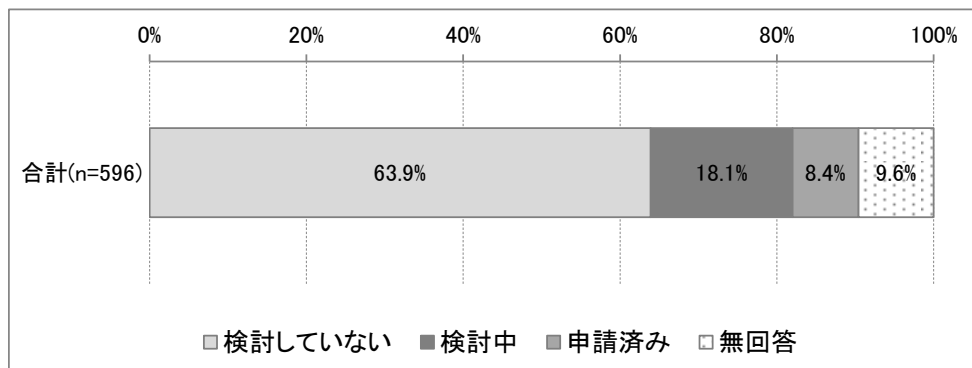


2. 在宅限界点を高めるための支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基礎集計

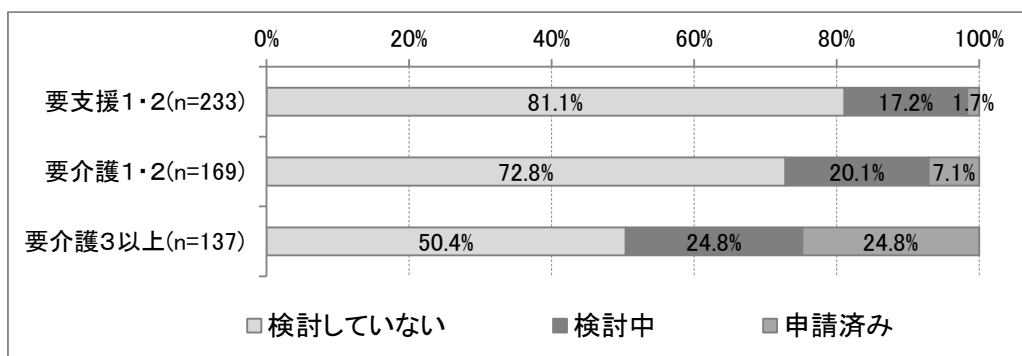
2-1-1 施設等入所の検討状況

「検討していない」の割合が最も高く 63.9%となっている。次いで、「検討中」が 18.1%、「申請済み」が 8.4%となっている。



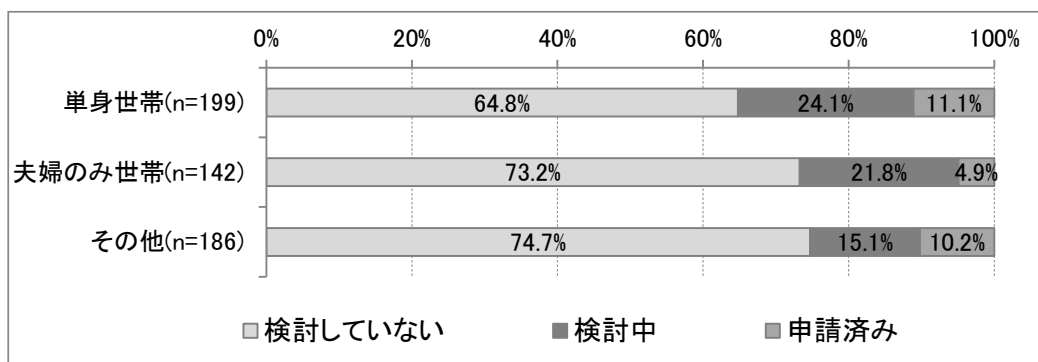
2-1-2 要介護度別・施設等入所の検討状況

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が 81.1%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が 17.2%、「申請済み」が 1.7%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が 72.8%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が 20.1%、「申請済み」が 7.1%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が 50.4%と最も割合が高く、次いで、「検討中」「申請済み」が 24.8%となっている。



2-1-3 世帯類型別・施設等入所の検討状況

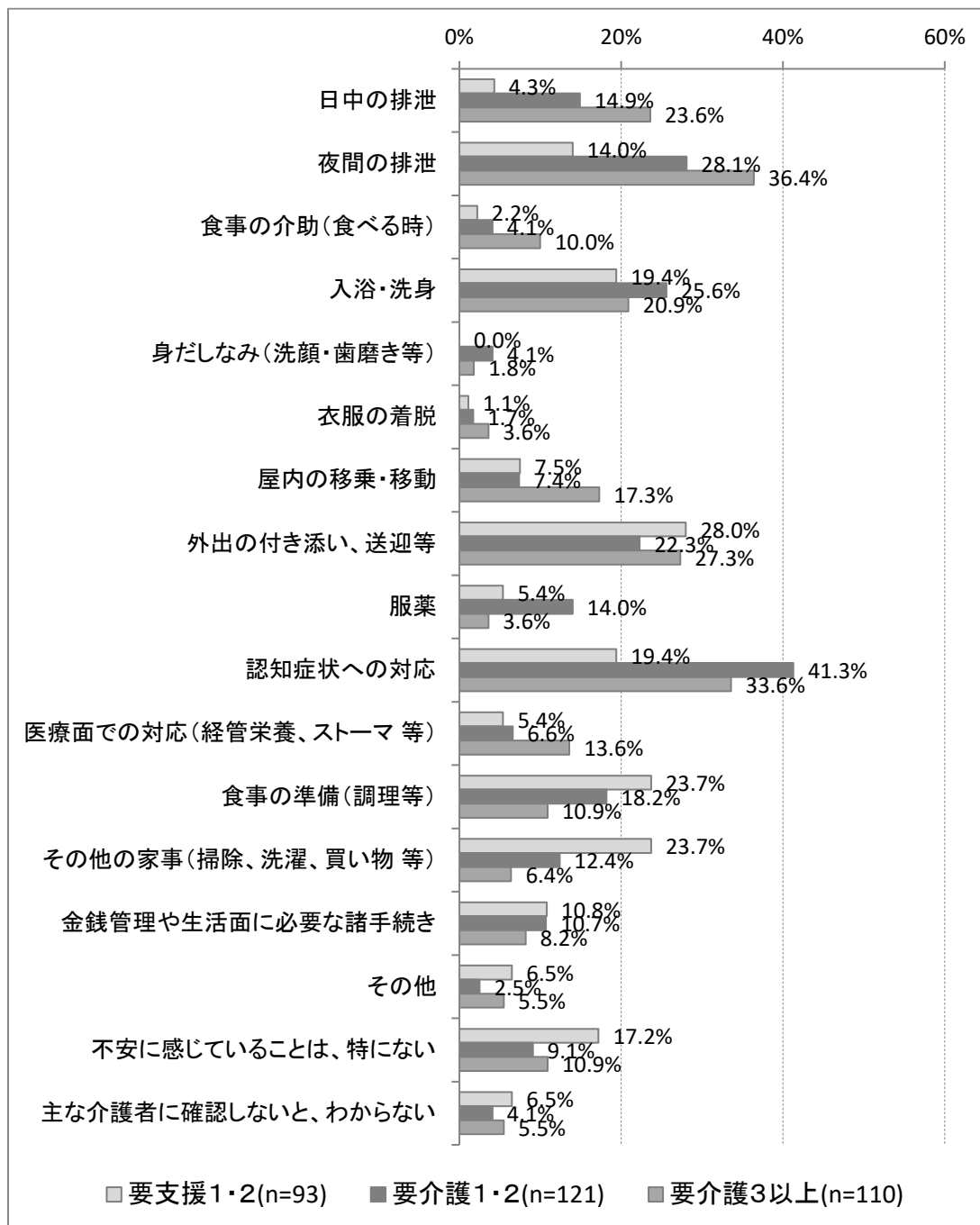
施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が 64.8%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が 24.1%、「申請済み」が 11.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が 73.2%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が 21.8%、「申請済み」が 4.9%となっている。「その他」では「検討していない」が 74.7%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が 15.1%、「申請済み」が 10.2%となっている。



(2) 要介護度別・認知症自立度の「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

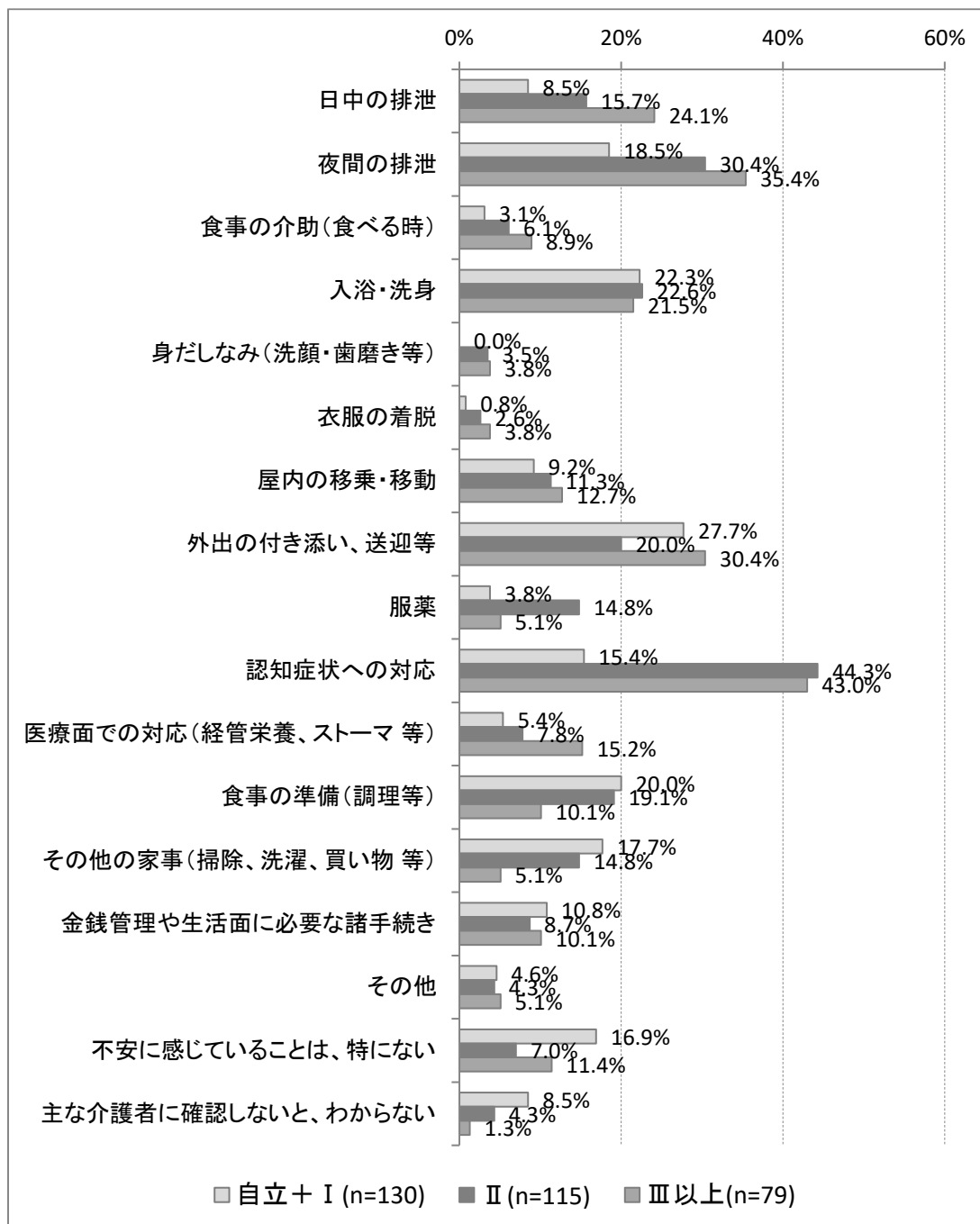
2-2-1 要介護度別・介護者が不安に感じる介護

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が28.0%と最も割合が高く、次いで、「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が23.7%、「入浴・洗身」「認知症状への対応」が19.4%となっている。「要介護1・2」では「認知症状への対応」が41.3%と最も割合が高く、次いで、「夜間の排泄」が28.1%、「入浴・洗身」が25.6%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が36.4%と最も割合が高く、次いで、「認知症状への対応」が33.6%、「外出の付き添い、送迎等」が27.3%となっている。



2-2-2 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

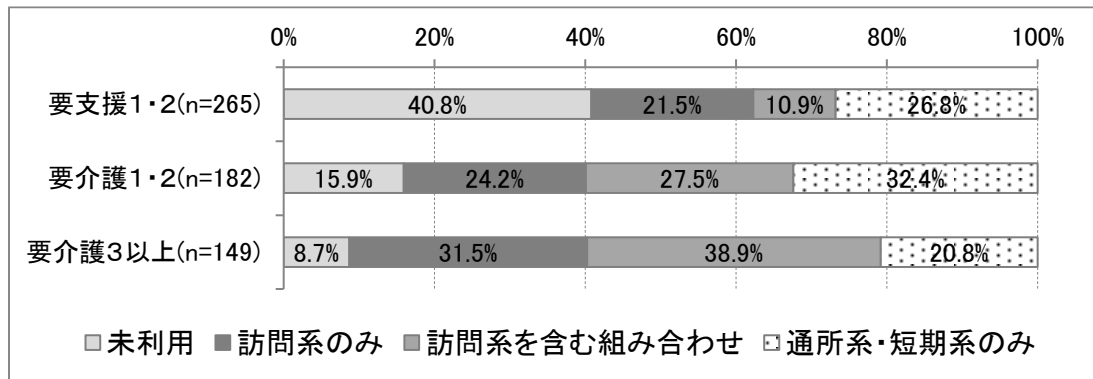
介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「外出の付き添い、送迎等」が 27.7%と最も割合が高く、次いで、「入浴・洗身」が 22.3%、「食事の準備（調理等）」が 20.0%となっている。「II」では「認知症状への対応」が 44.3%と最も割合が高く、次いで、「夜間の排泄」が 30.4%、「入浴・洗身」が 22.6%となっている。「III以上」では「認知症状への対応」が 43.0%と最も割合が高く、次いで、「夜間の排泄」が 35.4%、「外出の付き添い、送迎等」が 30.4%となっている。



(3) 要介護度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

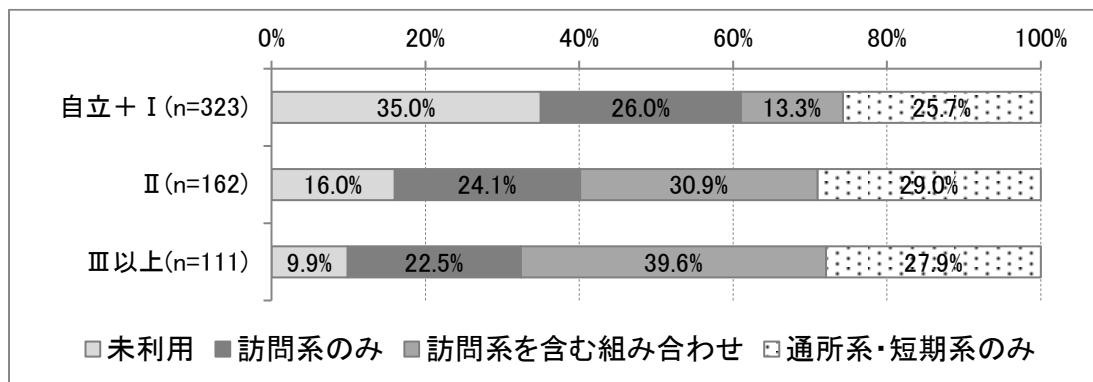
2-3-1 要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が40.8%と最も割合が高く、次いで、「通所系・短期系のみ」が26.8%、「訪問系のみ」が21.5%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が32.4%と最も割合が高く、次いで、「訪問系を含む組み合わせ」が27.5%、「訪問系のみ」が24.2%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が38.9%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が31.5%、「通所系・短期系のみ」が20.8%となっている。



2-3-2 認知症自立度別・介護保険サービス利用の組み合わせ

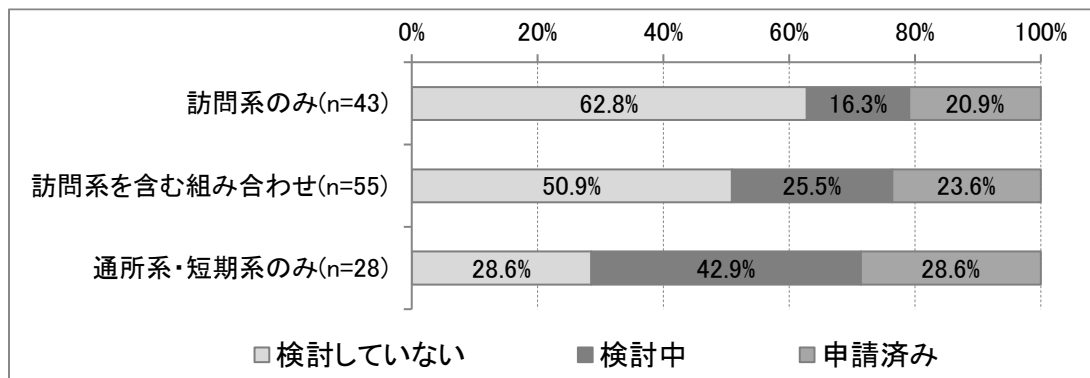
サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が35.0%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が26.0%、「通所系・短期系のみ」が25.7%となっている。「Ⅱ」では「訪問系を含む組み合わせ」が30.9%と最も割合が高く、次いで、「通所系・短期系のみ」が29.0%、「訪問系のみ」が24.1%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が39.6%と最も割合が高く、次いで、「通所系・短期系のみ」が27.9%、「訪問系のみ」が22.5%となっている。



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等入所の検討状況」の関係

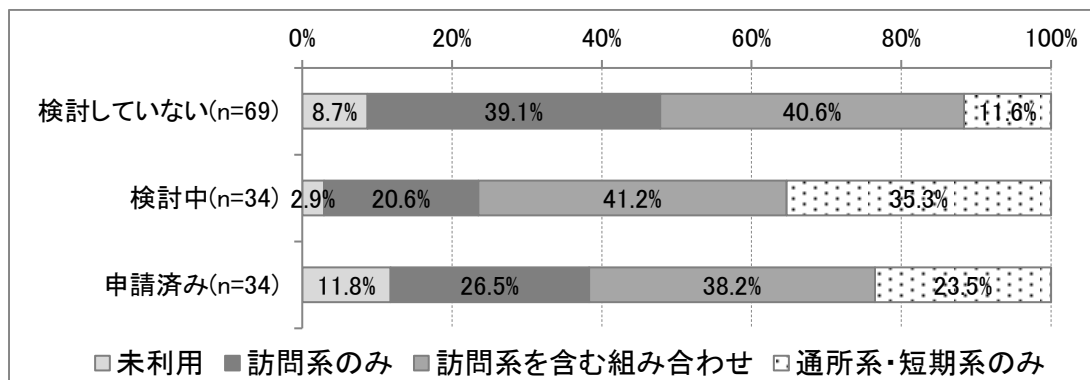
2-4-1 介護保険サービス利用の組み合わせと施設等入所の検討状況（要介護3以上）

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が 62.8%と最も割合が高く、次いで、「申請済み」が 20.9%、「検討中」が 16.3%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が 50.9%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が 25.5%、「申請済み」が 23.6%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討中」が 42.9%と最も割合が高く、次いで、「検討していない」「申請済み」が 28.6%となっている。



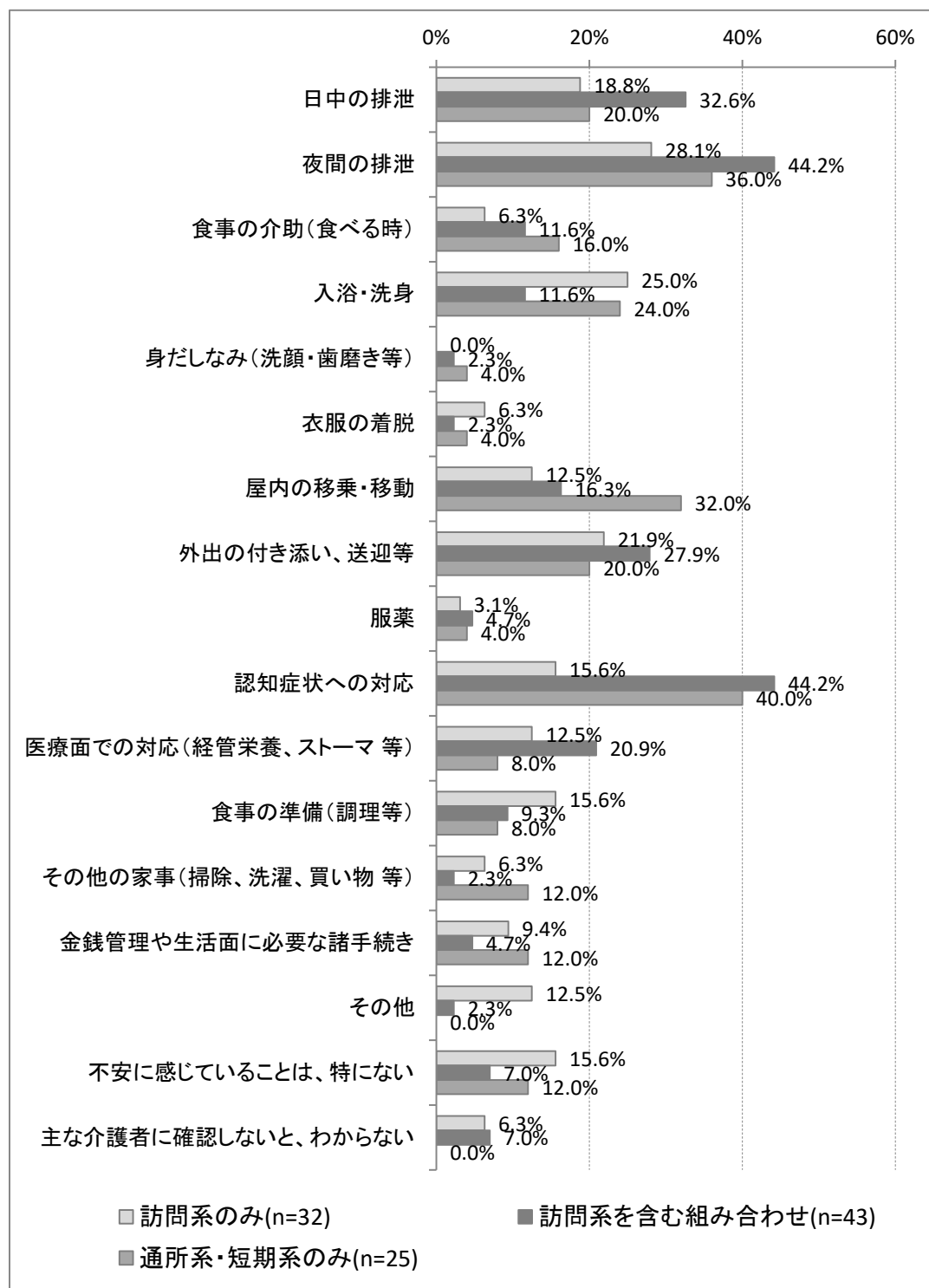
2-4-2 介護保険サービス利用の組み合わせと施設等入所の検討状況（要介護3以上）

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が 40.6%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が 39.1%、「通所系・短期系のみ」が 11.6%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が 41.2%と最も割合が高く、次いで、「通所系・短期系のみ」が 35.3%、「訪問系のみ」が 20.6%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が 38.2%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が 26.5%、「通所系・短期系のみ」が 23.5%となっている。



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係
 2-5-1 介護保険サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）

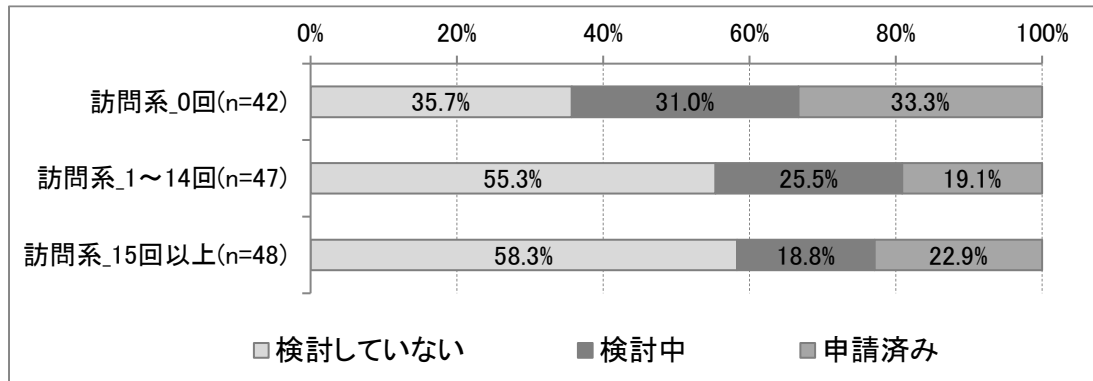
介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」が 28.1%と最も割合が高く、次いで、「入浴・洗身」が 25.0%、「外出の付き添い、送迎等」が 21.9%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」「認知症状への対応」が 44.2%と最も割合が高く、次いで、「日中の排泄」が 32.6%、「外出の付き添い、送迎等」が 27.9%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が 40.0%と最も割合が高く、次いで、「夜間の排泄」が 36.0%、「屋内の移乗・移動」が 32.0%となっている。



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等入所の検討状況」の関係

2-6-1 介護保険サービス利用回数と施設等入所の検討状況（訪問系、要介護3以上）

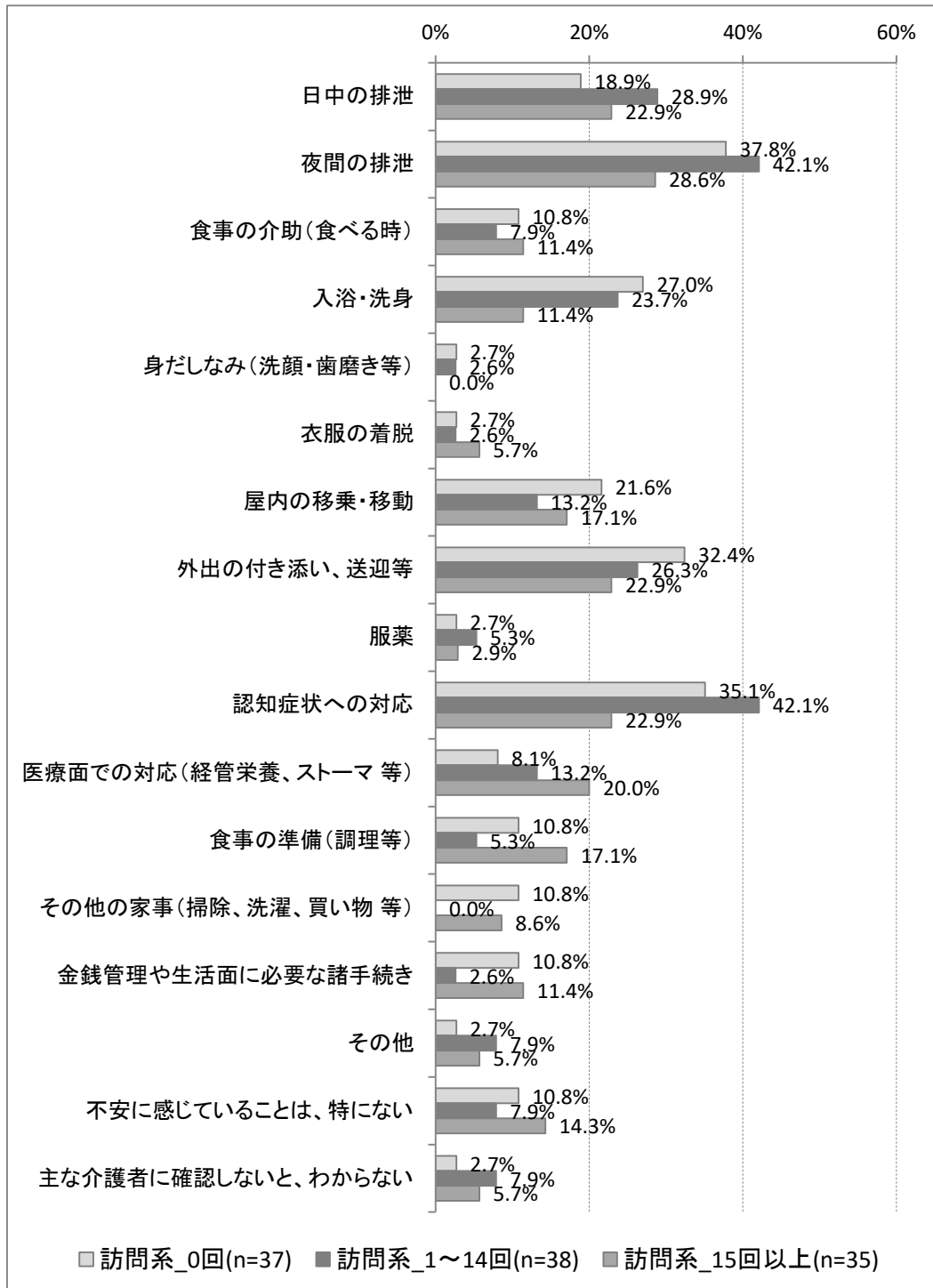
施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が35.7%と最も割合が高く、次いで、「申請済み」が33.3%、「検討中」が31.0%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が55.3%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が25.5%、「申請済み」が19.1%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が58.3%と最も割合が高く、次いで、「申請済み」が22.9%、「検討中」が18.8%となっている。



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

2-7-1 介護保険サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」が37.8%と最も割合が高く、次いで、「認知症状への対応」が35.1%、「外出の付き添い、送迎等」が32.4%となっている。「訪問系_1～14回」では「夜間の排泄」「認知症状への対応」が42.1%と最も割合が高く、次いで、「日中の排泄」が28.9%、「外出の付き添い、送迎等」が26.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」が28.6%と最も割合が高く、次いで、「日中の排泄」「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」が22.9%、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が20.0%となっている。

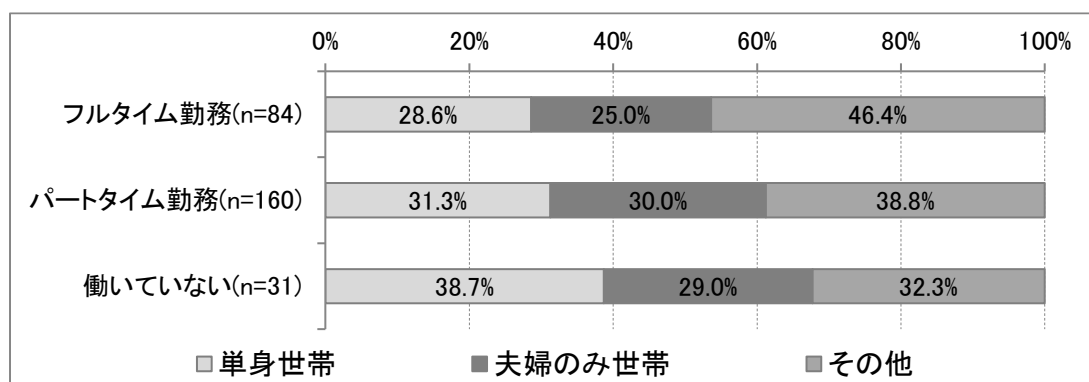


3. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基礎集計

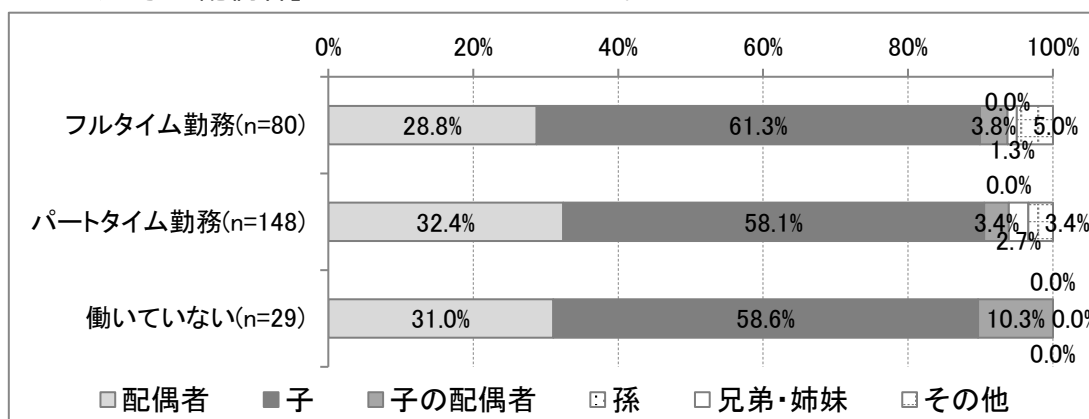
3-1-1 就労状況別・世帯類型

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が46.4%と最も割合が高く、次いで、「単身世帯」が28.6%、「夫婦のみ世帯」が25.0%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が38.8%と最も割合が高く、次いで、「単身世帯」が31.3%、「夫婦のみ世帯」が30.0%となっている。「働いていない」では「単身世帯」が38.7%と最も割合が高く、次いで、「その他」が32.3%、「夫婦のみ世帯」が29.0%となっている。



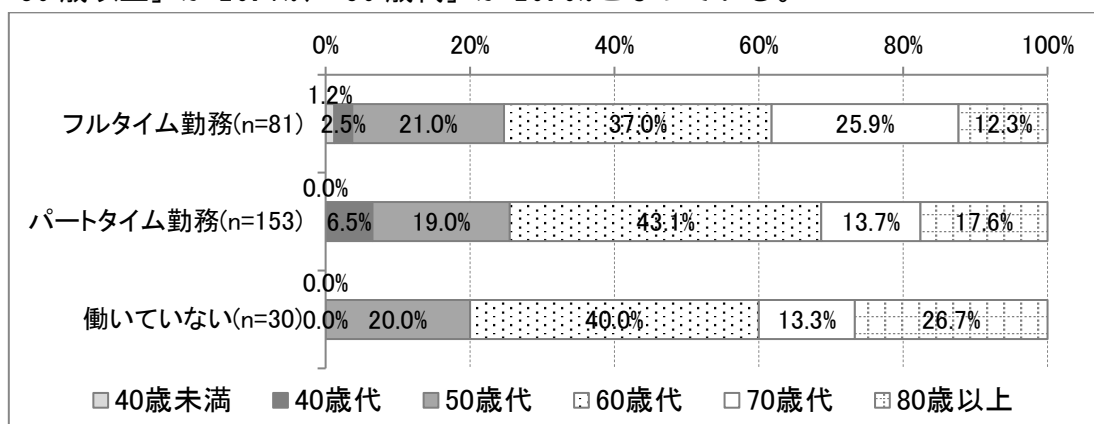
3-1-2 就労状況別・主な介護者の本人との関係

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が61.3%と最も割合が高く、次いで、「配偶者」が28.8%、「その他」が5.0%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が58.1%と最も割合が高く、次いで、「配偶者」が32.4%、「子の配偶者」、「その他」が3.4%となっている。「働いていない」では「子」が58.6%と最も割合が高く、次いで、「配偶者」が31.0%、「子の配偶者」が10.3%となっている。



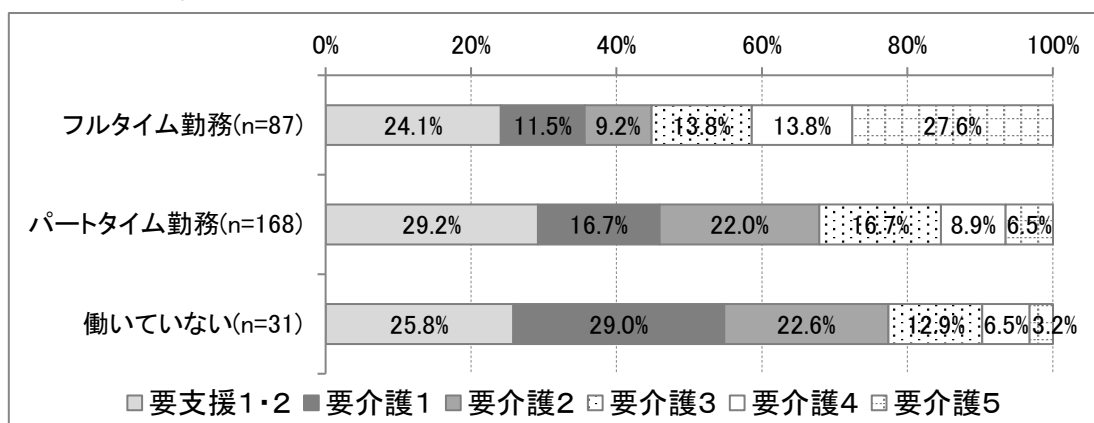
3-1-3 就労状況別・主な介護者の年齢

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「60歳代」が37.0%と最も割合が高く、次いで、「70歳代」が25.9%、「50歳代」が21.0%となっている。「パートタイム勤務」では「60歳代」が43.1%と最も割合が高く、次いで、「50歳代」が19.0%、「80歳以上」が17.6%となっている。「働いていない」では「60歳代」が40.0%と最も割合が高く、次いで、「80歳以上」が26.7%、「50歳代」が20.0%となっている。



3-1-4 就労状況別・要介護度

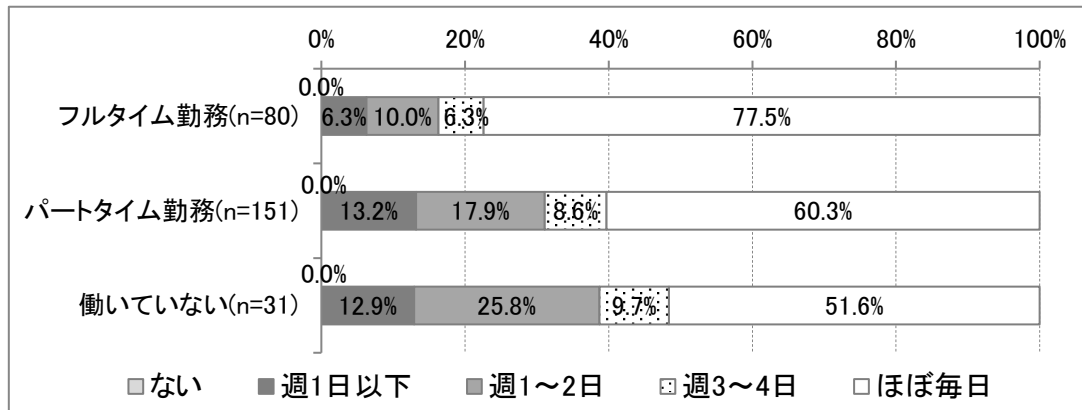
二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護5」が27.6%と最も割合が高く、次いで、「要支援1・2」が24.1%、「要介護3」「要介護4」が13.8%となっている。「パートタイム勤務」では「要支援1・2」が29.2%と最も割合が高く、次いで、「要介護2」が22.0%、「要介護1」「要介護3」が16.7%となっている。「働いていない」では「要介護1」が29.0%と最も割合が高く、次いで、「要支援1・2」が25.8%、「要介護2」が22.6%となっている。



(2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

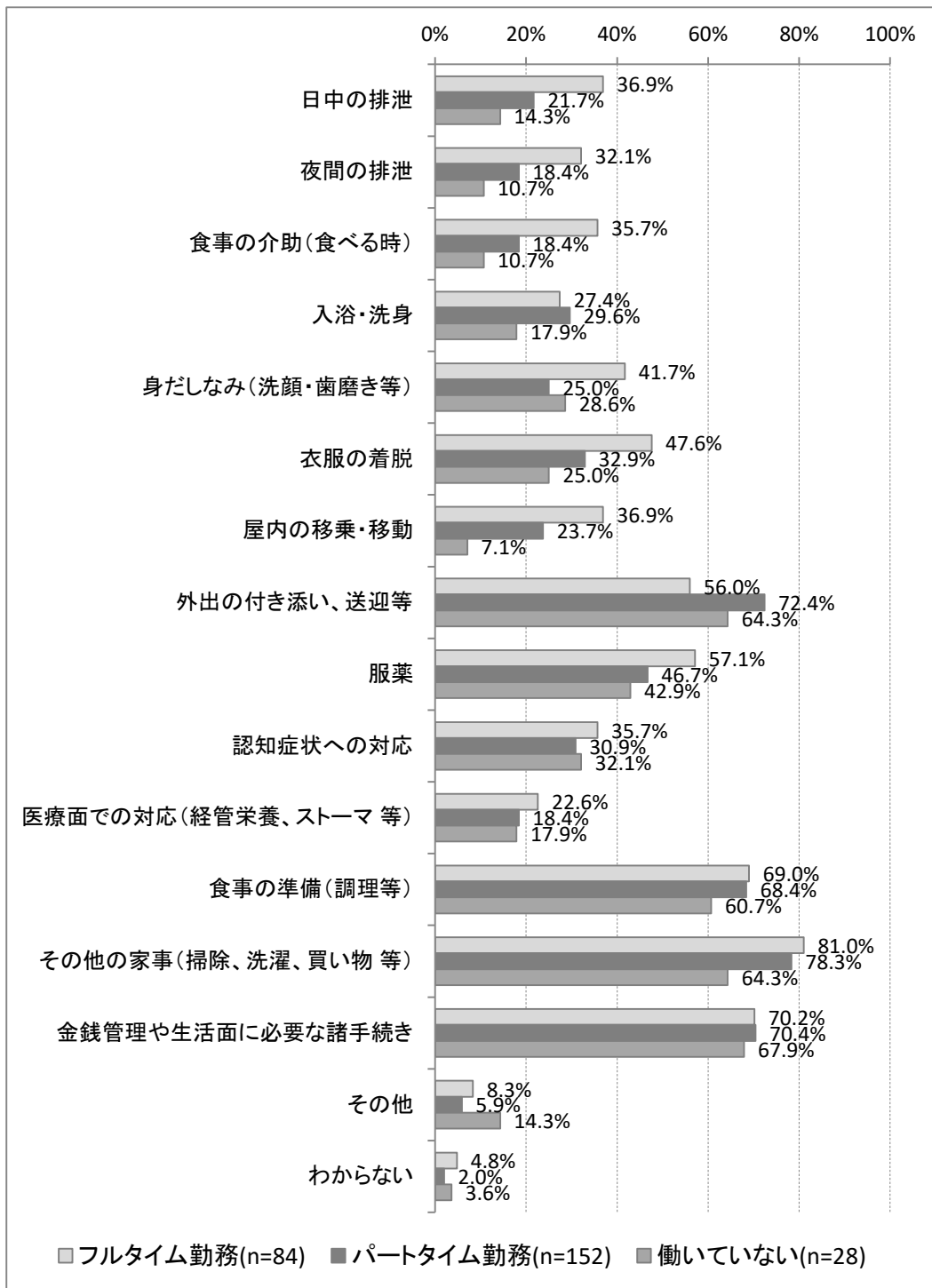
3-2-1 就労状況別・家族等による介護の頻度

家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が77.5%と最も割合が高く、次いで、「週1～2日」が10.0%、「週1日以下」、「週3～4日」が6.3%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が60.3%と最も割合が高く、次いで、「週1～2日」が17.9%、「週1日以下」が13.2%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が51.6%と最も割合が高く、次いで、「週1～2日」が25.8%、「週1日以下」が12.9%となっている。



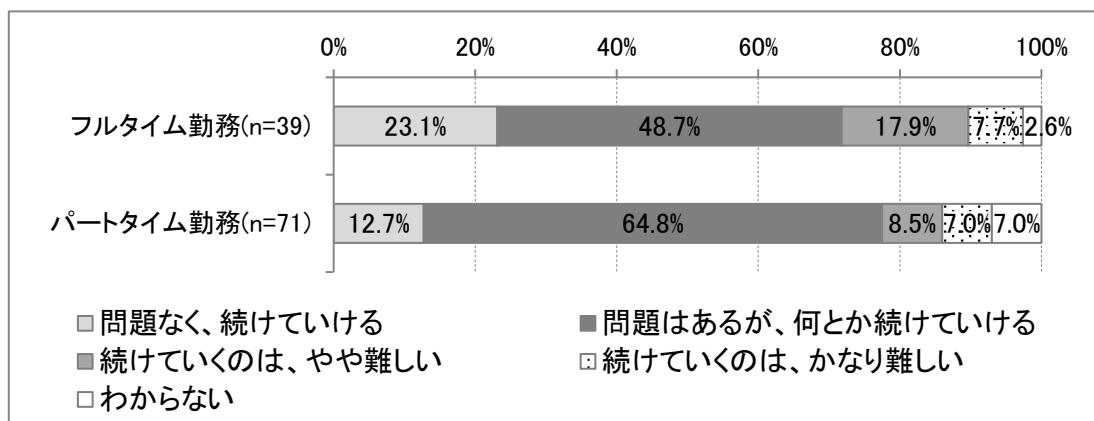
3-2-2 就労状況別・主な介護者が行っている介護

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 81.0%と最も割合が高く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 70.2%、「食事の準備（調理等）」が 69.0%となっている。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 78.3%と最も割合が高く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」が 72.4%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 70.4%となっている。「働いていない」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 67.9%と最も割合が高く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 64.3%、「食事の準備（調理等）」が 60.7%となっている。



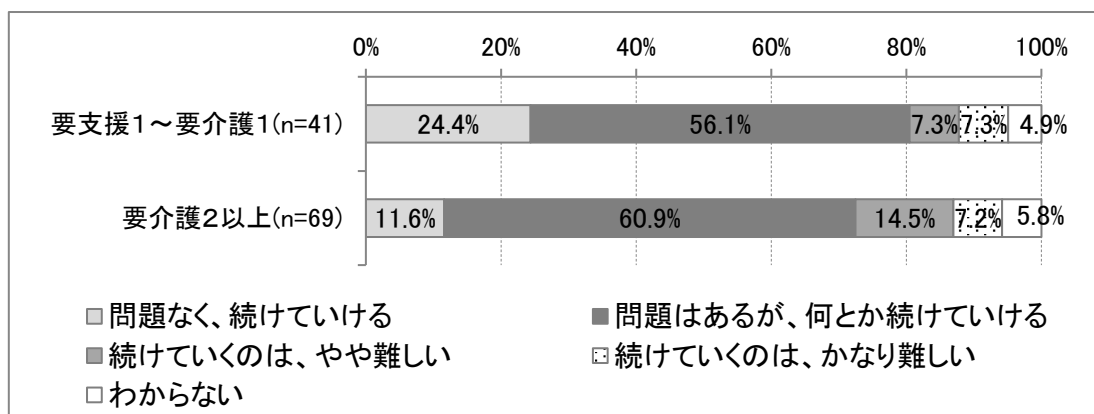
3-2-3 就労状況別・就労継続見込み

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が48.7%と最も割合が高く、次いで、「問題なく、続けていける」が23.1%、「続けていくのは、やや難しい」が17.9%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.8%と最も割合が高く、次いで、「問題なく、続けていける」が12.7%、「続けていくのは、やや難しい」が8.5%となっている。



3-2-4 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

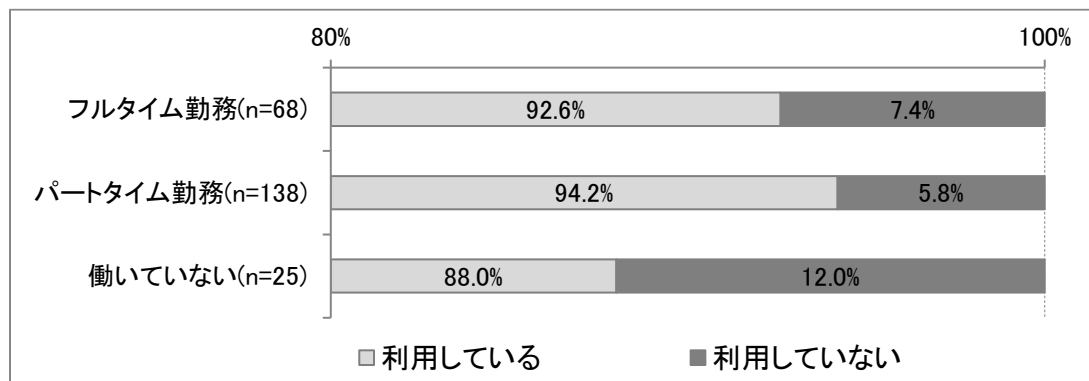
介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が56.1%と最も割合が高く、次いで、「問題なく、続けていける」が24.4%、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」が7.3%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.9%と最も割合が高く、次いで、「続けていくのは、やや難しい」が14.5%、「問題なく、続けていける」が11.6%となっている。



(3) 「サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係

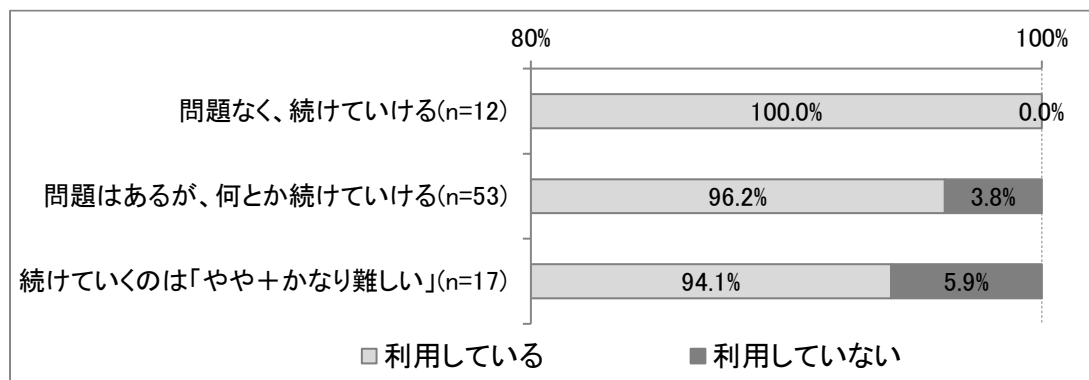
3-3-1 就労状況別・介護保険サービス利用の有無

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が 92.6%と最も割合が高く、次いで、「利用していない」が 7.4%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が 94.2%と最も割合が高く、次いで、「利用していない」が 5.8%となっている。「働いていない」では「利用している」が 88.0%と最も割合が高く、次いで、「利用していない」が 12.0%となっている。



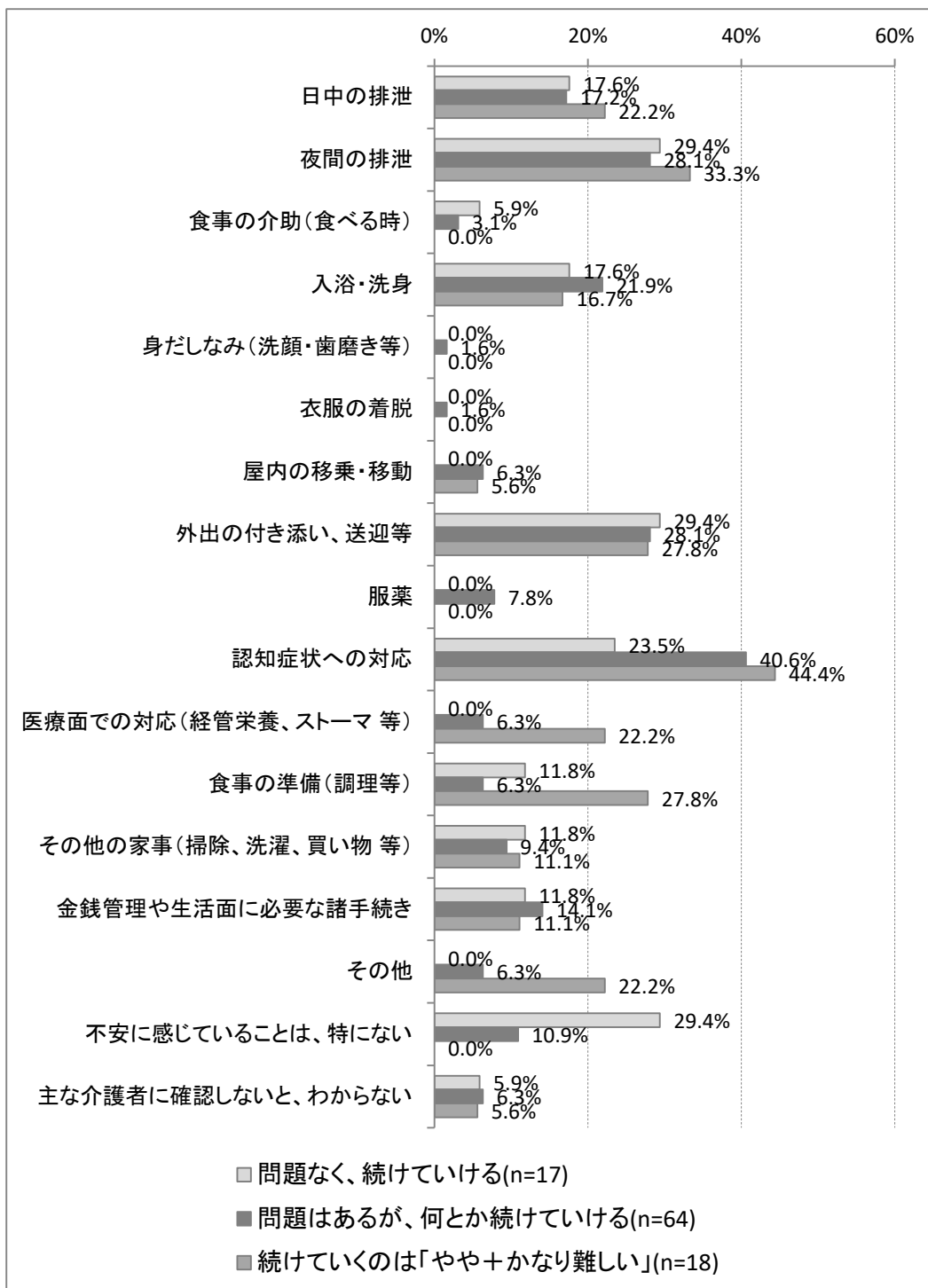
3-3-2 就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が 100.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が 96.2%と最も割合が高く、次いで、「利用していない」が 3.8%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用している」が 94.1%と最も割合が高く、次いで、「利用していない」が 5.9%となっている。



3-3-3 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

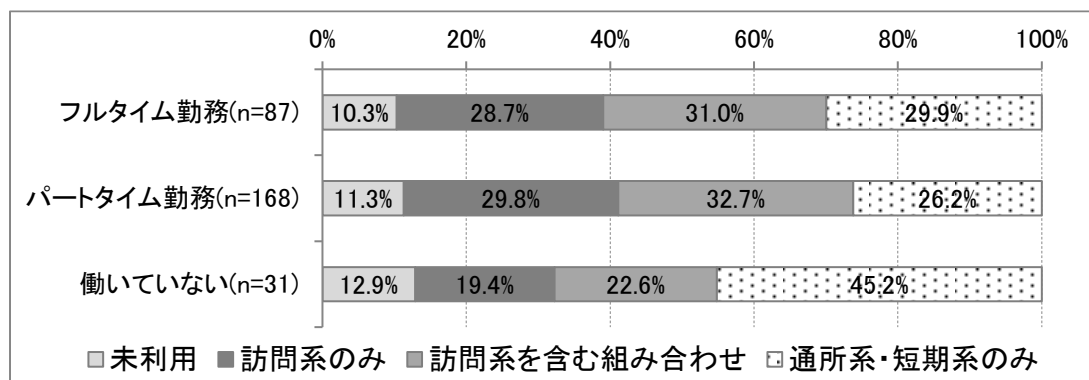
介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」「不安に感じていることは、特にない」が29.4%と最も割合が高く、次いで、「認知症状への対応」が23.5%、「日中の排泄」「入浴・洗身」が17.6%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が40.6%と最も割合が高く、次いで、「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」が28.1%、「入浴・洗身」が21.9%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「認知症状への対応」が44.4%と最も割合が高く、次いで、「夜間の排泄」が33.3%、「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」が27.8%となっている。



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

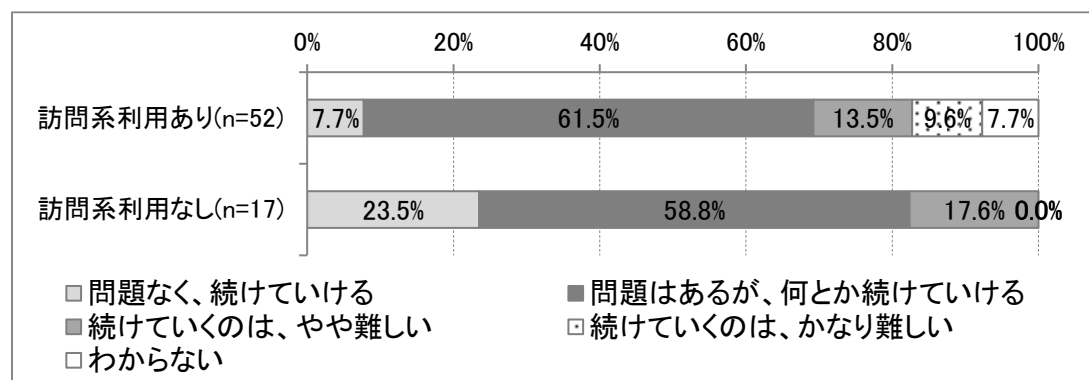
3-4-1 就労状況別・介護保険サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「訪問系を含む組み合わせ」が 31.0%と最も割合が高く、次いで、「通所系・短期系のみ」が 29.9%、「訪問系のみ」が 28.7%となっている。「パートタイム勤務」では「訪問系を含む組み合わせ」が 32.7%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が 29.8%、「通所系・短期系のみ」が 26.2%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が 45.2%と最も割合が高く、次いで、「訪問系を含む組み合わせ」が 22.6%、「訪問系のみ」が 19.4%となっている。



3-4-2 介護保険サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、勤務）

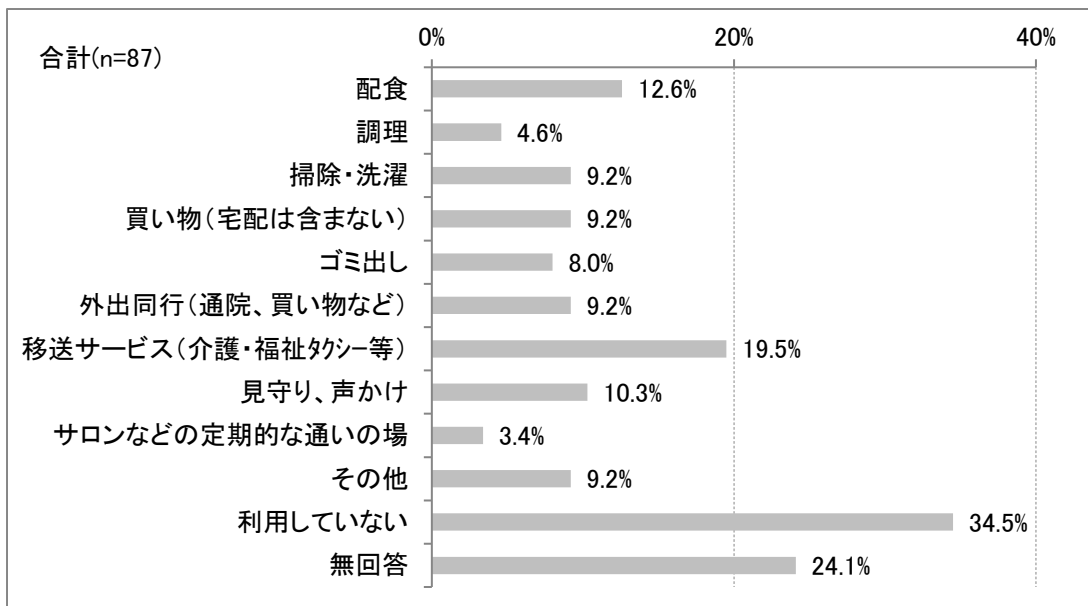
介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 61.5%と最も割合が高く、次いで、「続けていくのは、やや難しい」が 13.5%、「続けていくのは、かなり難しい」が 9.6%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 58.8%と最も割合が高く、次いで、「問題なく、続けていける」が 23.5%、「続けていくのは、やや難しい」が 17.6%となっている。



(5) 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と施設等入所の検討状況

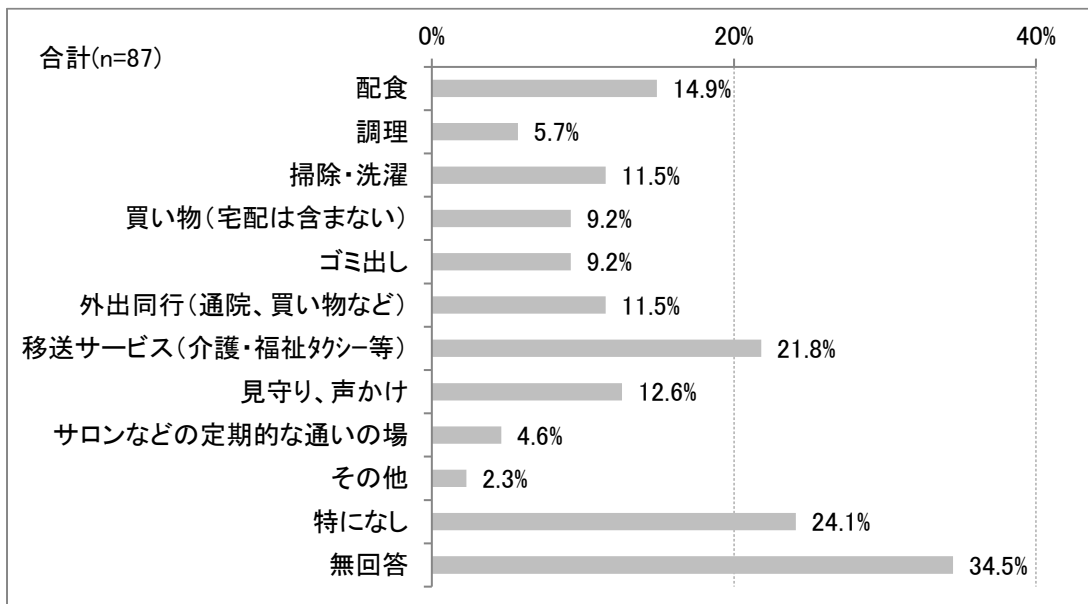
3-5-1 利用している介護保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）

「利用していない」の割合が最も高く 34.5%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 19.5%、「配食」が 12.6%となっている。



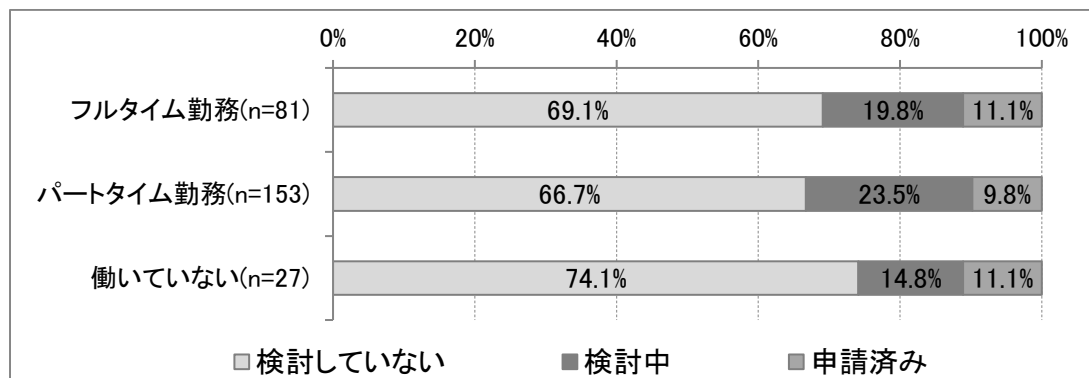
3-5-2 在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）

「特になし」の割合が最も高く 24.1%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 21.8%、「配食」が 14.9%となっている。



3-5-3 就労状況別・施設等入所の検討状況

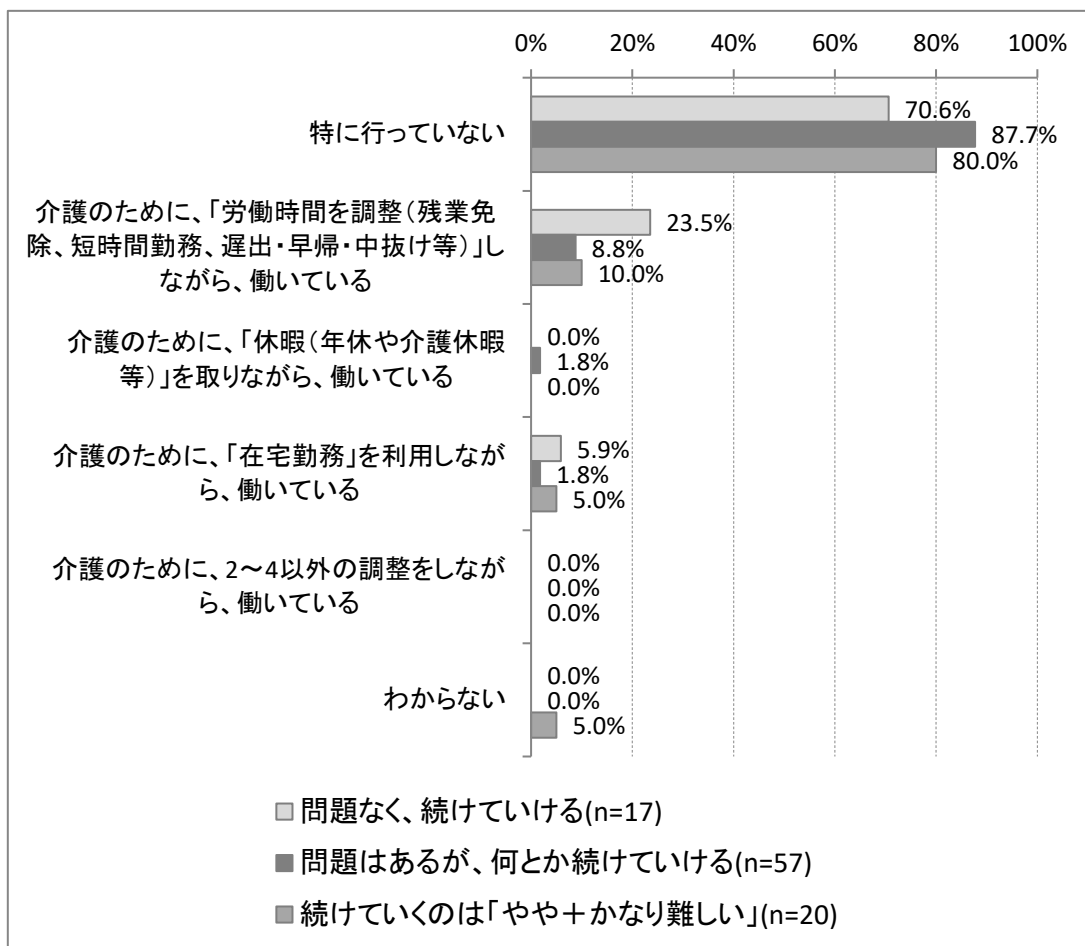
施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が69.1%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が19.8%、「申請済み」が11.1%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が23.5%、「申請済み」が9.8%となっている。「働いていない」では「検討していない」が74.1%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が14.8%、「申請済み」が11.1%となっている。



(6) 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

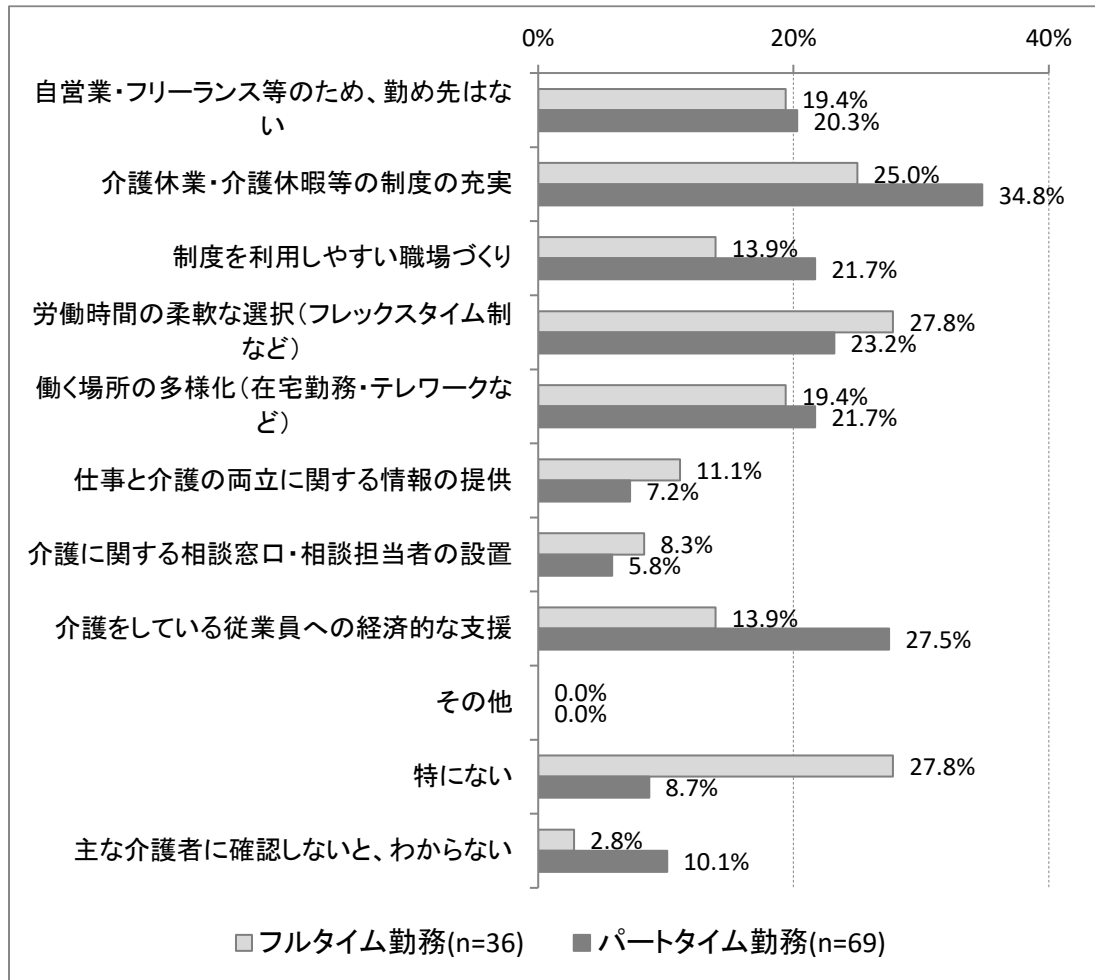
3-6-1 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（勤務）

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が 70.6%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 23.5%、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」が 5.9%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「特に行っていない」が 87.7%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 8.8%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」が 1.8%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「特に行っていない」が 80.0%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 10.0%、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」、「わからない」が 5.0%となっている。



3-6-2 就労状況別・効果的な勤め先からの支援

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」「特にない」が 27.8%と最も割合が高く、次いで、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 25.0%、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」が 19.4%となっている。「パートタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 34.8%と最も割合が高く、次いで、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 27.5%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 23.2%となっている。

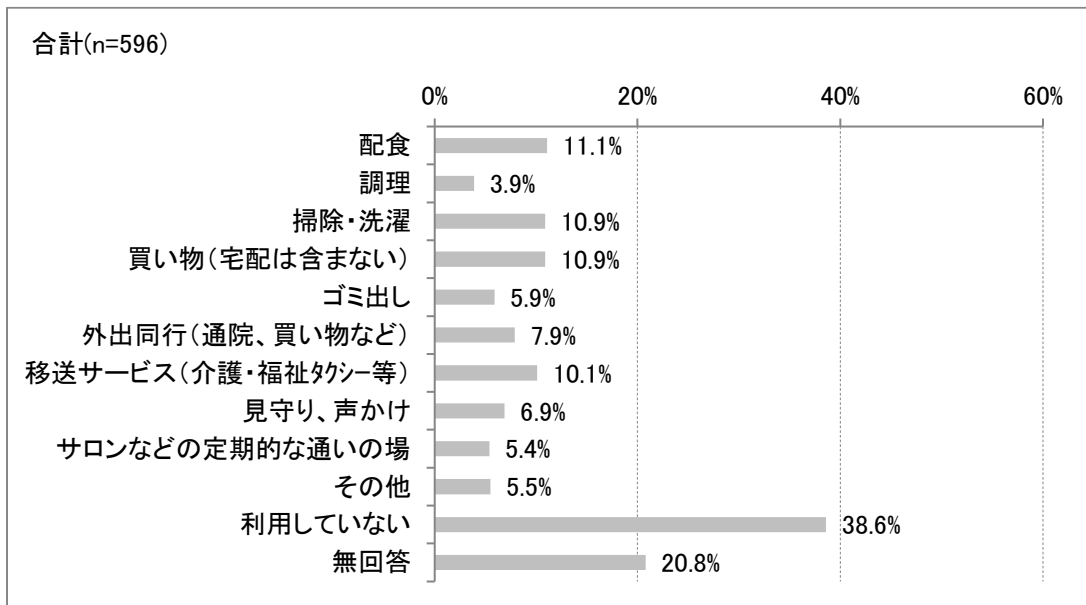


4. 介護保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

(1) 基礎集計

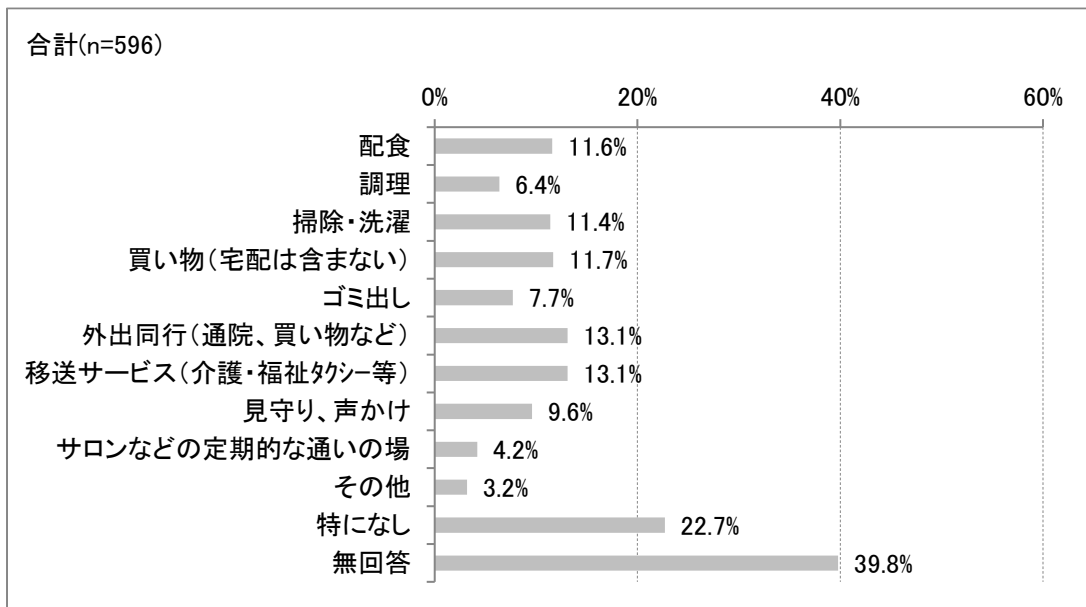
4-1-1 介護保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 38.6%となっている。次いで、「配食」が 11.1%、「掃除・洗濯」「買い物（宅配は含まない）」が 10.9%となっている。



4-1-2 在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス

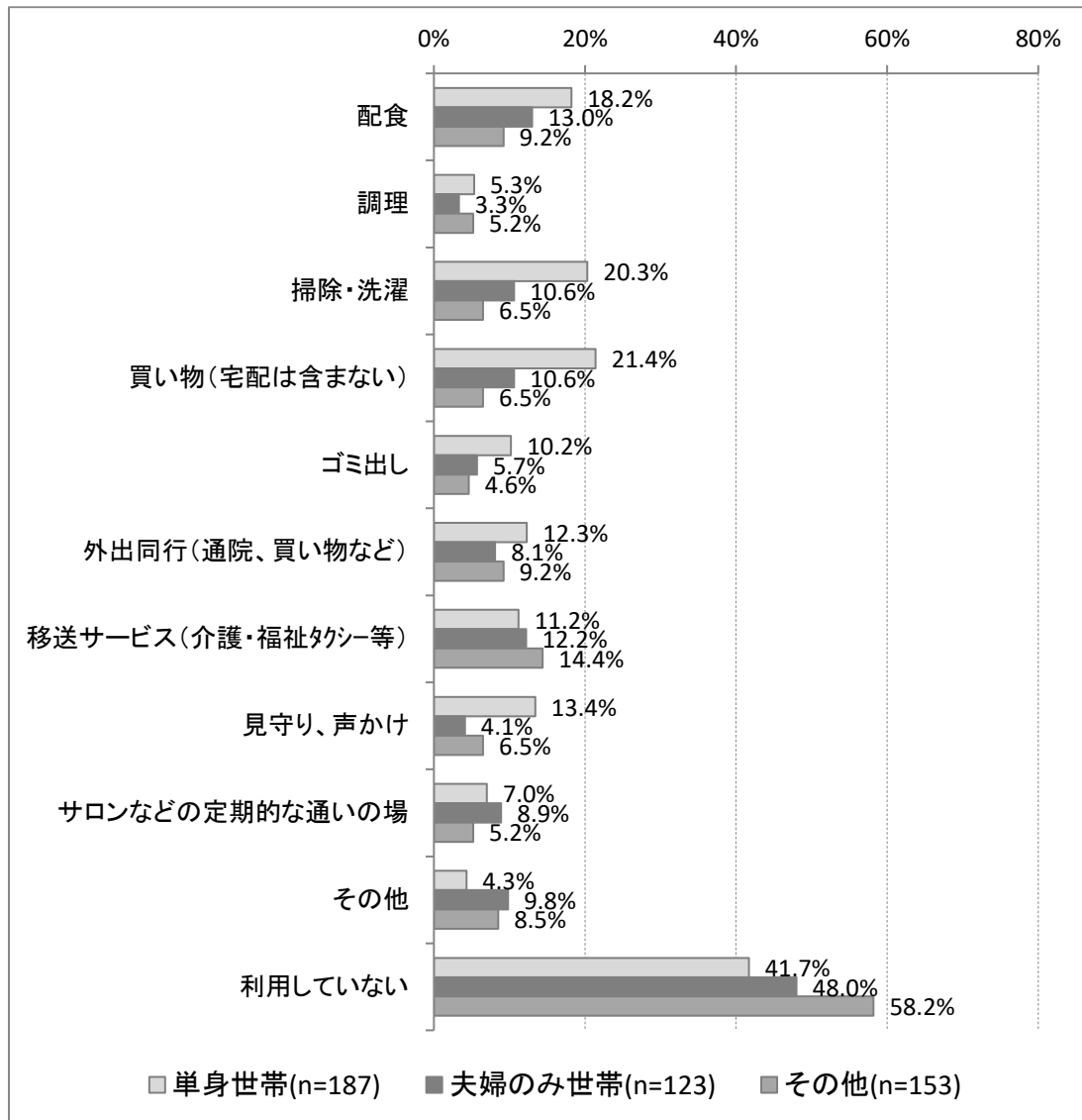
「特になし」の割合が最も高く 22.7%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 13.1%、「買い物（宅配は含まない）」が 11.7%となっている。



(2) 「世帯類型」「要介護度」×「介護保険外の支援・サービスの利用状況」

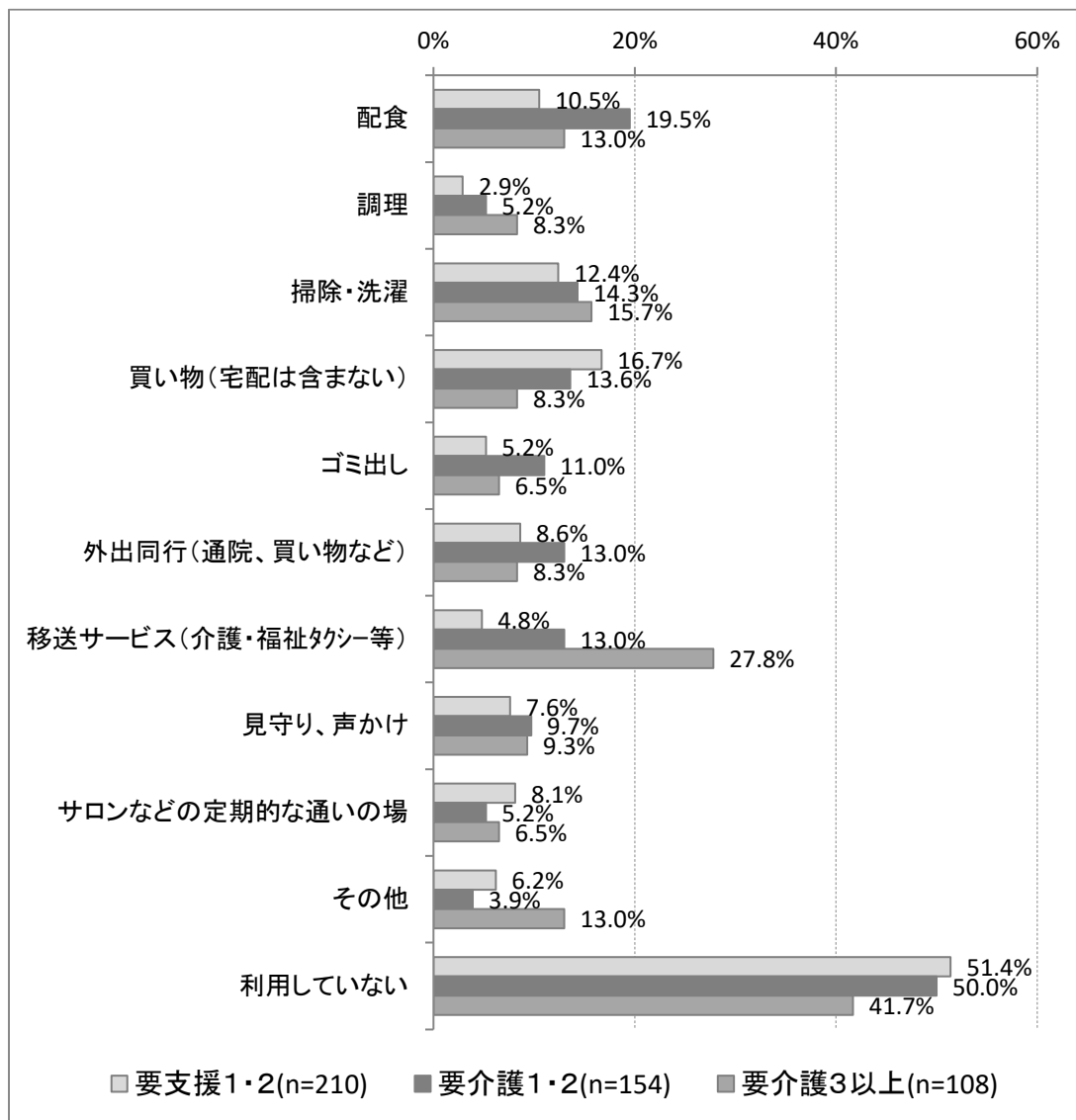
4-2-1 世帯類型別・介護保険外の支援・サービスの利用状況

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が41.7%と最も割合が高く、次いで、「買い物（宅配は含まない）」が21.4%、「掃除・洗濯」が20.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が48.0%と最も割合が高く、次いで、「配食」が13.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が12.2%となっている。「その他」では「利用していない」が58.2%と最も割合が高く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が14.4%、「配食」「外出同行（通院、買い物など）」が9.2%となっている。



4-2-2 要介護度別・介護保険外の支援・サービスの利用状況

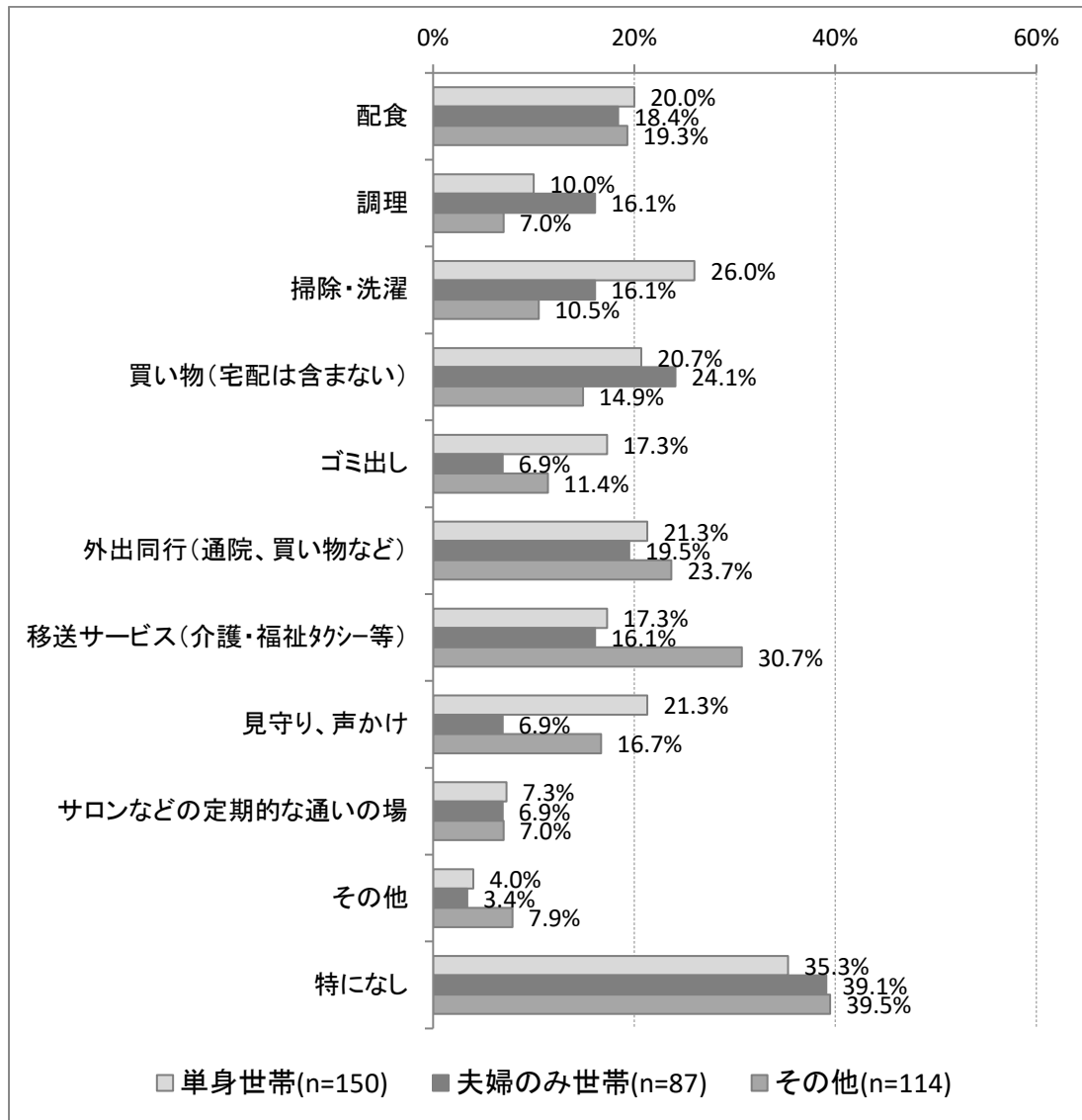
保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が51.4%と最も割合が高く、次いで、「買い物（宅配は含まない）」が16.7%、「掃除・洗濯」が12.4%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで、「配食」が19.5%、「掃除・洗濯」が14.3%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が41.7%と最も割合が高く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が27.8%、「掃除・洗濯」が15.7%となっている。



(3) 「世帯類型」「要介護度」×「必要と感じる介護保険外の支援・サービス」

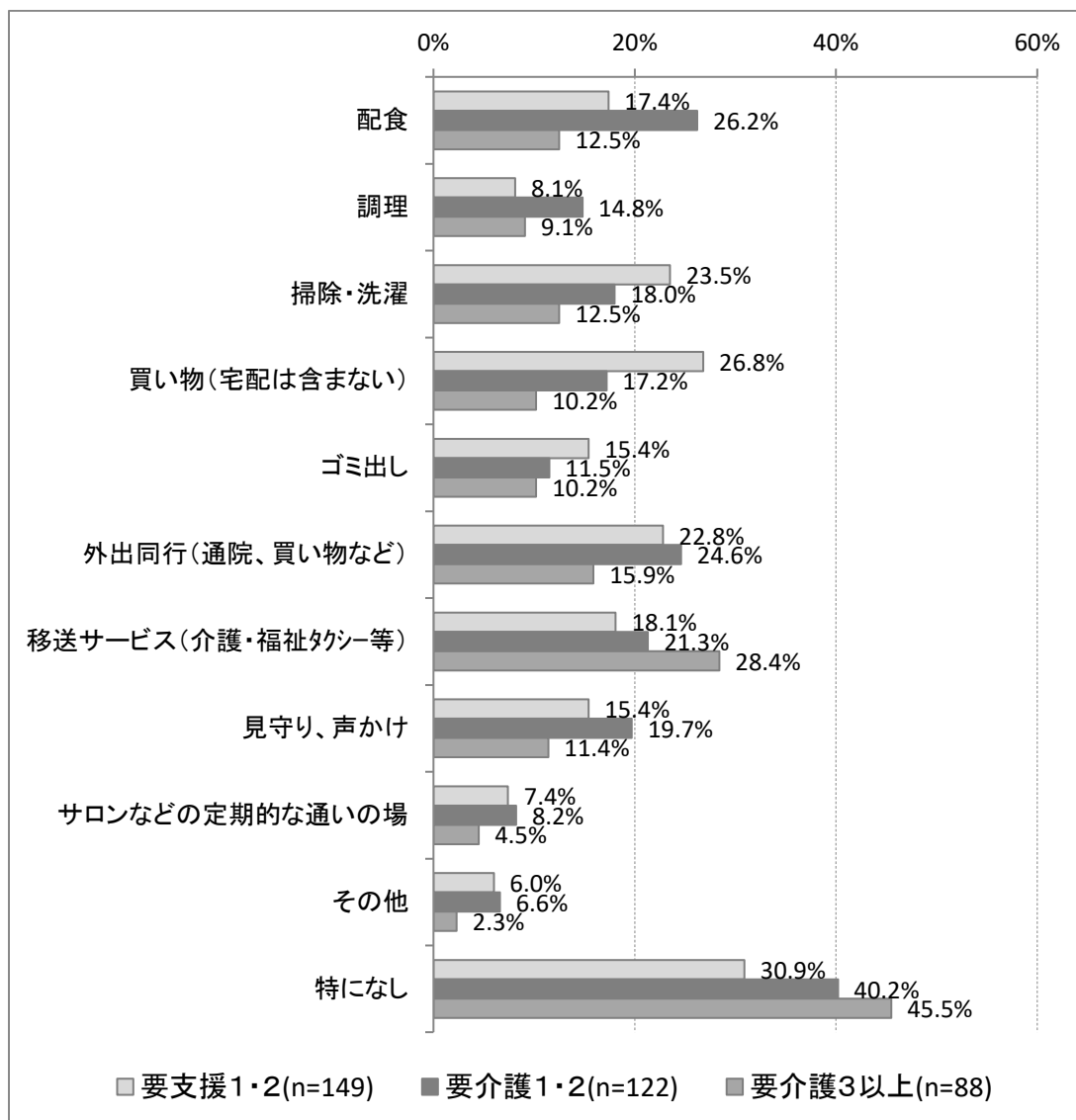
4-3-1 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「特になし」が35.3%と最も割合が高く、次いで、「掃除・洗濯」が26.0%、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が21.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が39.1%と最も割合が高く、次いで、「買い物（宅配は含まない）」が24.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が19.5%となっている。「その他」では「特になし」が39.5%と最も割合が高く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が30.7%、「外出同行（通院、買い物など）」が23.7%となっている。



4-3-2 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる介護保険外の支援・サービス

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が30.9%と最も割合が高く、次いで、「買い物（宅配は含まない）」が26.8%、「掃除・洗濯」が23.5%となっている。「要介護1・2」では「特になし」が40.2%と最も割合が高く、次いで、「配食」が26.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が24.6%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が45.5%と最も割合が高く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.4%、「外出同行（通院、買い物など）」が15.9%となっている。

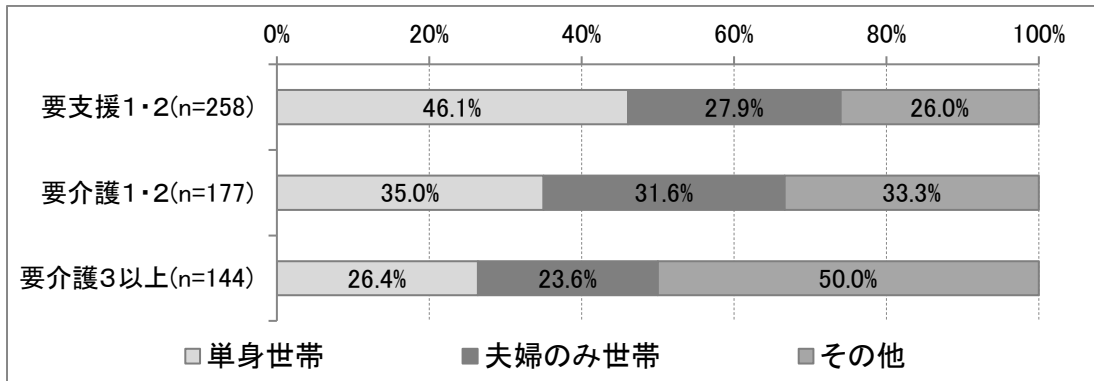


5. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基礎集計

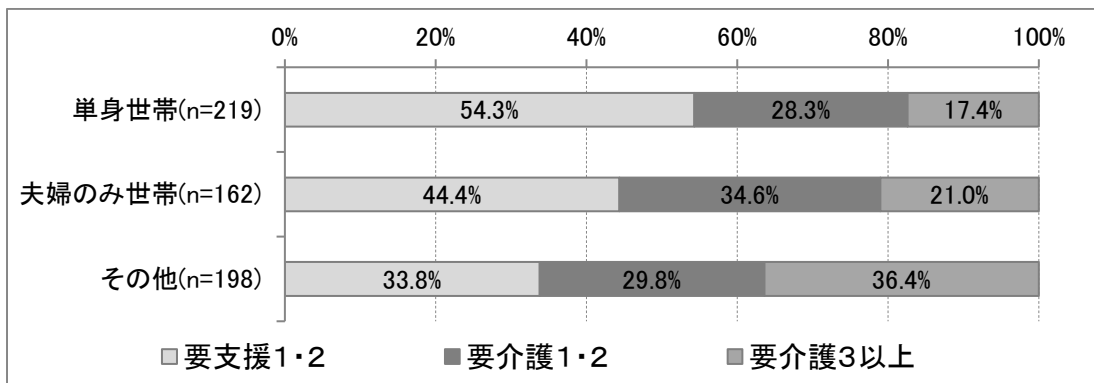
5-1-1 要介護度別・世帯類型

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「単身世帯」が46.1%と最も割合が高く、次いで、「夫婦のみ世帯」が27.9%、「その他」が26.0%となっている。「要介護1・2」では「単身世帯」が35.0%と最も割合が高く、次いで、「その他」が33.3%、「夫婦のみ世帯」が31.6%となっている。「要介護3以上」では「その他」が50.0%と最も割合が高く、次いで、「単身世帯」が26.4%、「夫婦のみ世帯」が23.6%となっている。



5-1-2 世帯類型別・要介護度

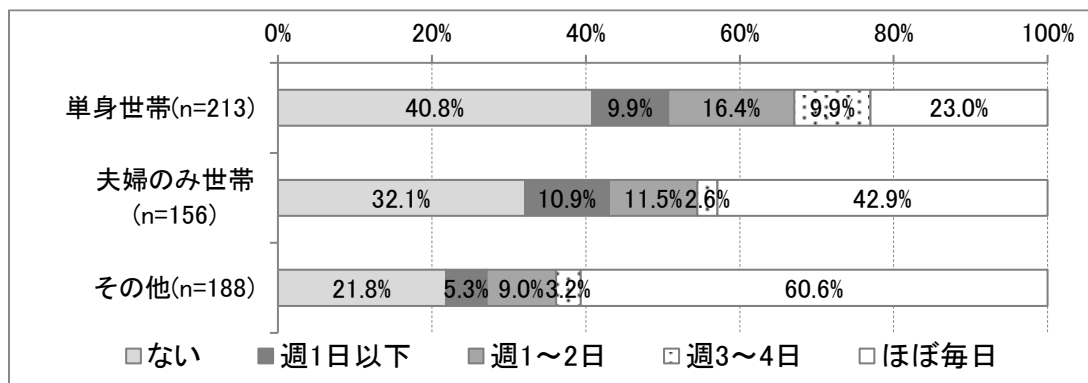
二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援1・2」が54.3%と最も割合が高く、次いで、「要介護1・2」が28.3%、「要介護3以上」が17.4%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要支援1・2」が44.4%と最も割合が高く、次いで、「要介護1・2」が34.6%、「要介護3以上」が21.0%となっている。「その他」では「要介護3以上」が36.4%と最も割合が高く、次いで、「要支援1・2」が33.8%、「要介護1・2」が29.8%となっている。



(2) 「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

5-2-1 世帯類型別・家族等による介護の頻度

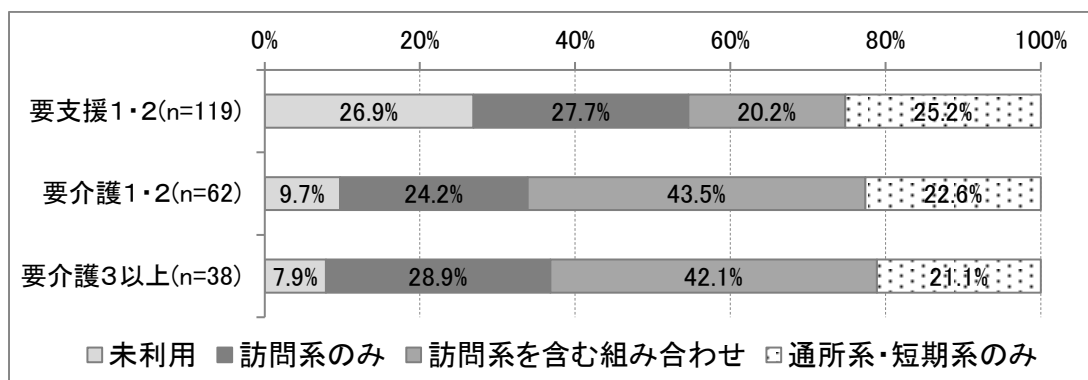
家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」が40.8%と最も割合が高く、次いで、「ほぼ毎日」が23.0%、「週1～2日」が16.4%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が42.9%と最も割合が高く、次いで、「ない」が32.1%、「週1～2日」が11.5%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が60.6%と最も割合が高く、次いで、「ない」が21.8%、「週1～2日」が9.0%となっている。



(3) 「要介護度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

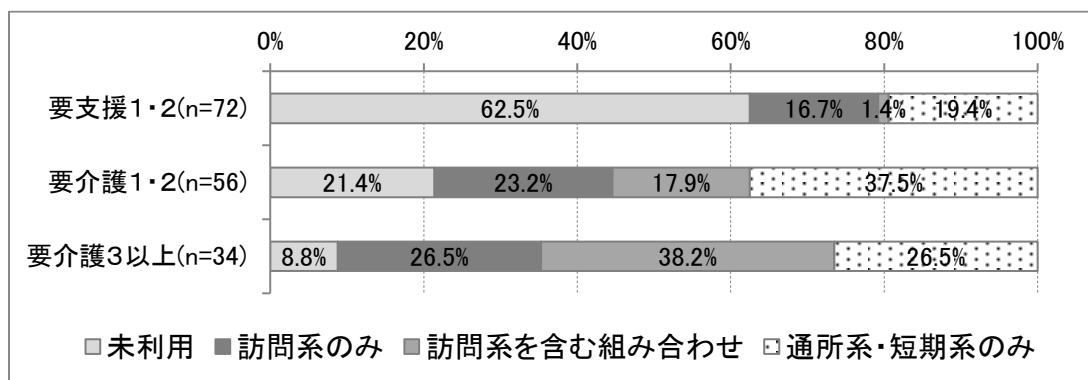
5-3-1 要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ（単身世帯）

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「訪問系のみ」が27.7%と最も割合が高く、次いで、「未利用」が26.9%、「通所系・短期系のみ」が25.2%となっている。「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が43.5%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が24.2%、「通所系・短期系のみ」が22.6%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が42.1%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が28.9%、「通所系・短期系のみ」が21.1%となっている。



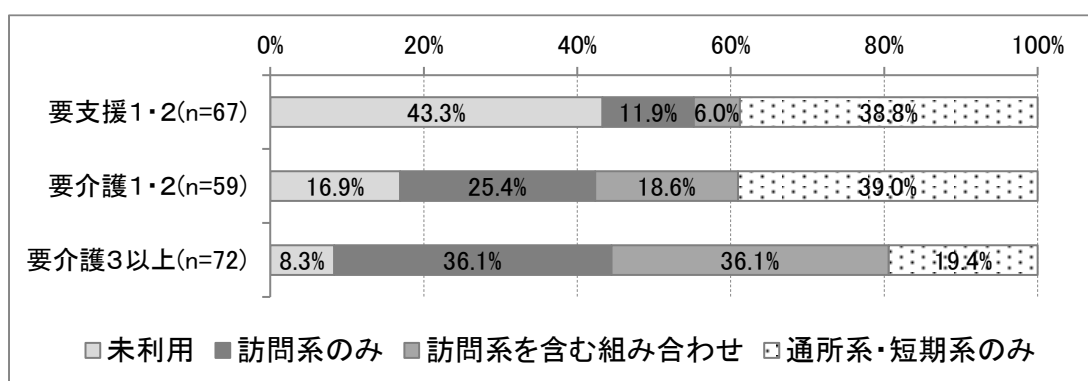
5-3-2 要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が62.5%と最も割合が高く、次いで、「通所系・短期系のみ」が19.4%、「訪問系のみ」が16.7%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が37.5%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が23.2%、「未利用」が21.4%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が38.2%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」「通所系・短期系のみ」が26.5%、「未利用」が8.8%となっている。



5-3-3 要介護度別・介護保険サービス利用の組み合わせ（その他世帯）

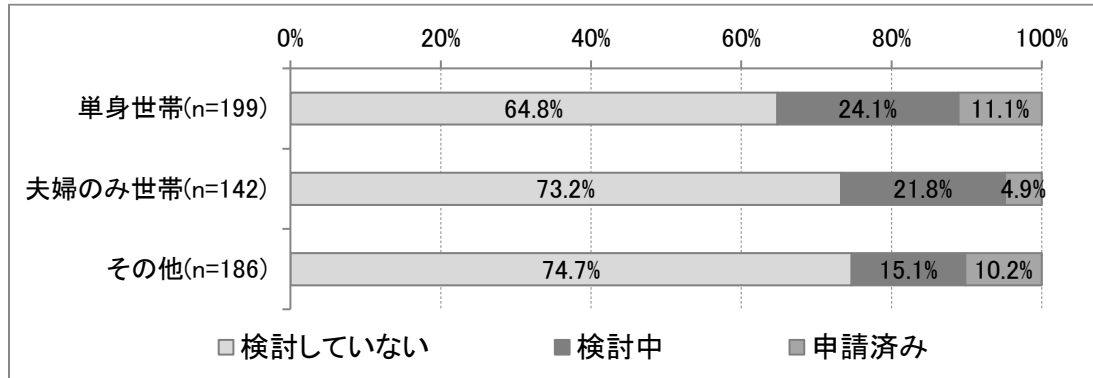
サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が43.3%と最も割合が高く、次いで、「通所系・短期系のみ」が38.8%、「訪問系のみ」が11.9%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が39.0%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が25.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.6%となっている。「要介護3以上」では「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」が36.1%と最も割合が高く、次いで、「通所系・短期系のみ」が19.4%、「未利用」が8.3%となっている。



(4) 「要介護度別」の「世帯類型別の施設等入所の検討状況」

5-4-1 世帯類型別・施設等入所の検討状況（全要介護度）

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が64.8%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が24.1%、「申請済み」が11.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が73.2%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が21.8%、「申請済み」が4.9%となっている。「その他」では「検討していない」が74.7%と最も割合が高く、次いで、「検討中」が15.1%、「申請済み」が10.2%となっている。

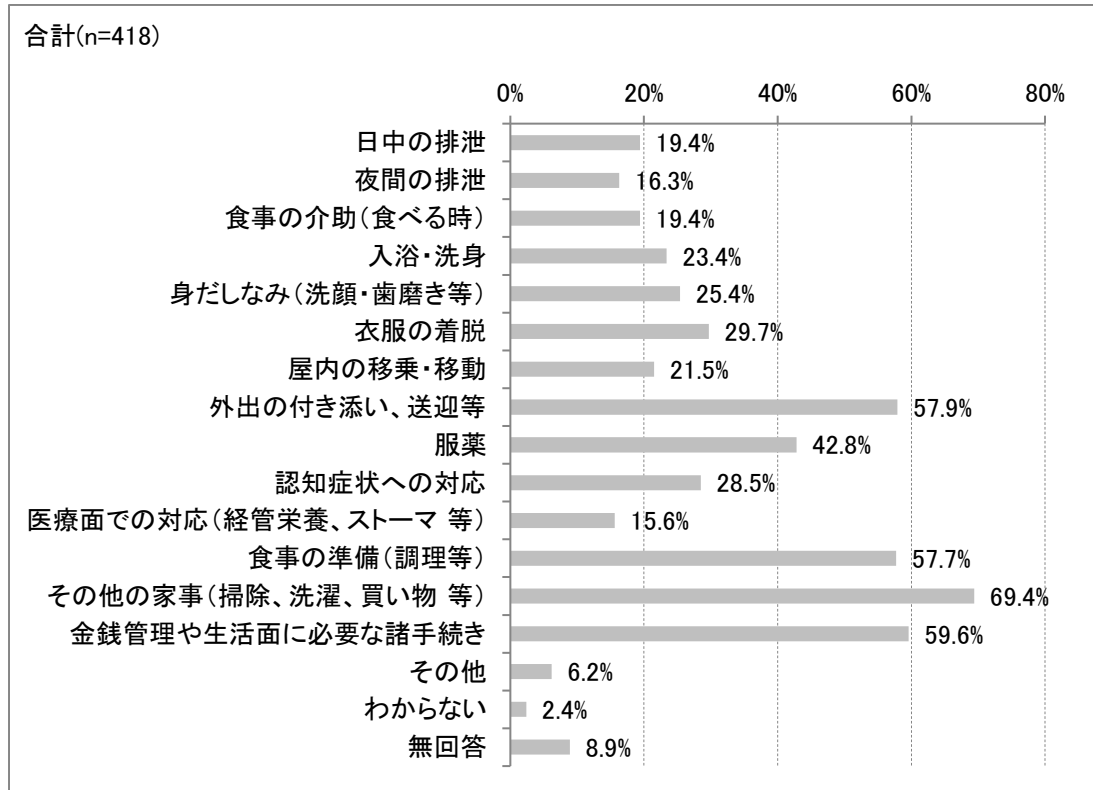


6. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基礎集計

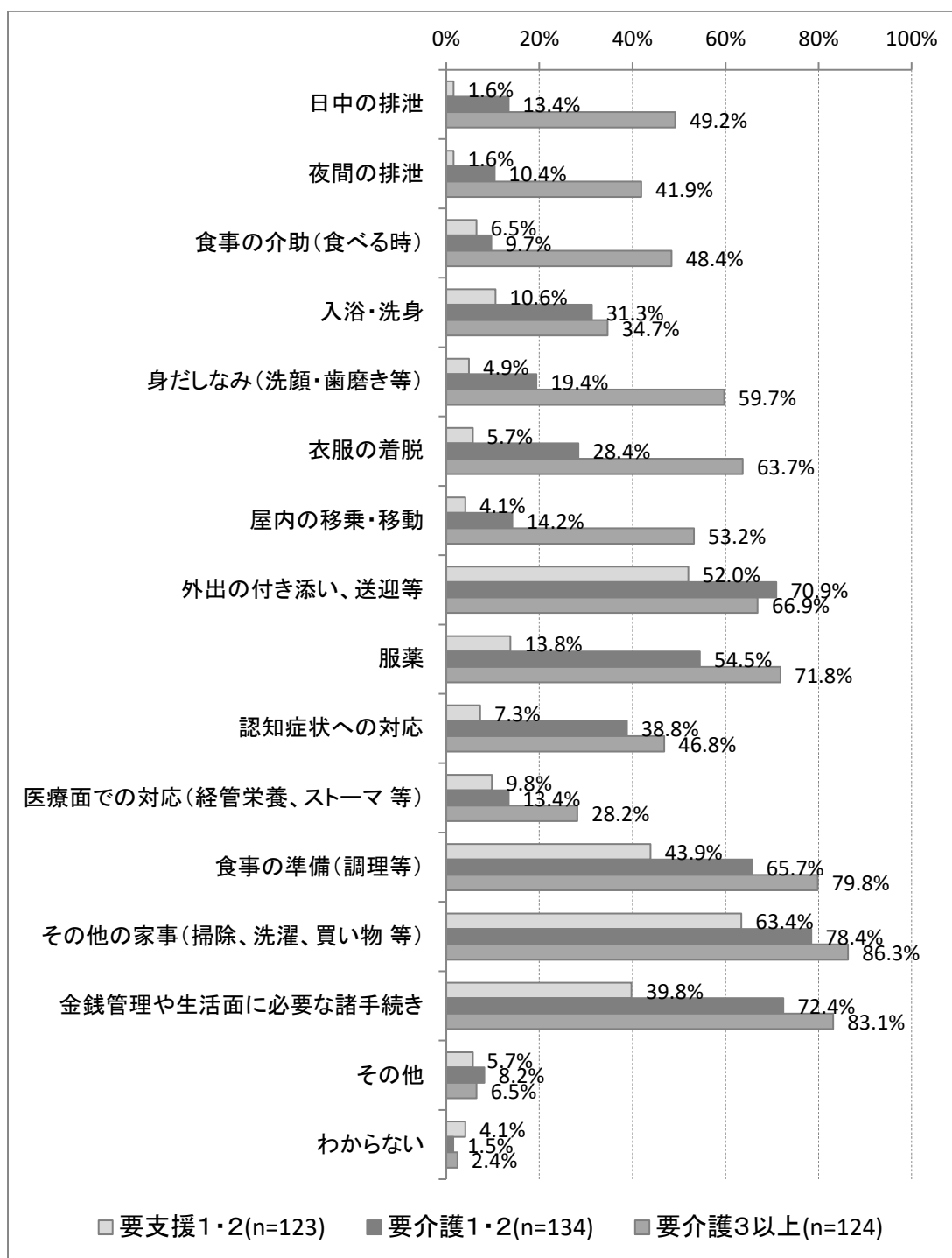
6-1-1 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が最も高く 69.4%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 59.6%、「外出の付き添い、送迎等」が 57.9%となっている。



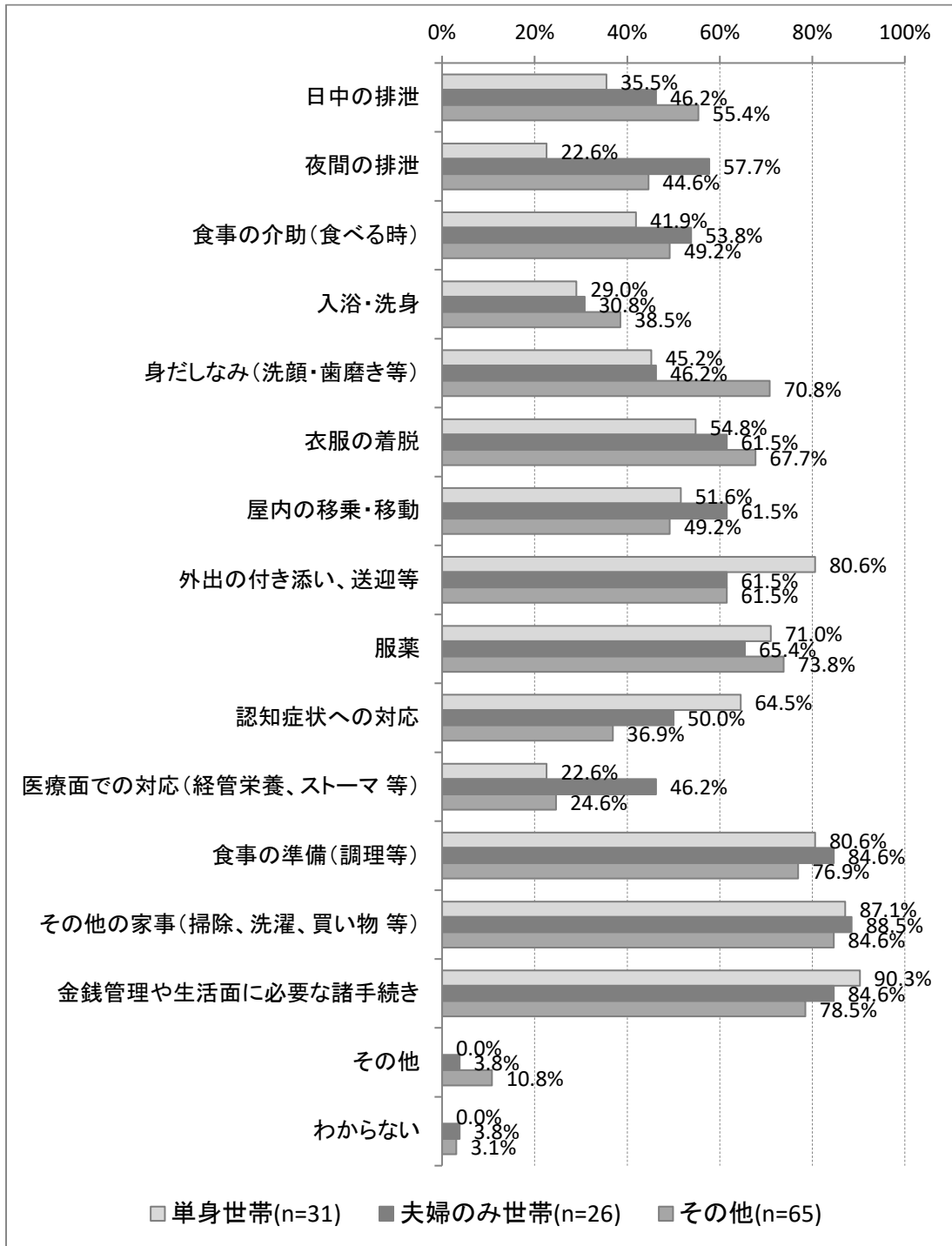
6-1-2 要介護度別・主な介護者が行っている介護

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 63.4%と最も割合が高く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」が 52.0%、「食事の準備（調理等）」が 43.9%となっている。「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 78.4%と最も割合が高く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 72.4%、「外出の付き添い、送迎等」が 70.9%となっている。「要介護3以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 86.3%と最も割合が高く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 83.1%、「食事の準備（調理等）」が 79.8%となっている。



6-1-3 世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）

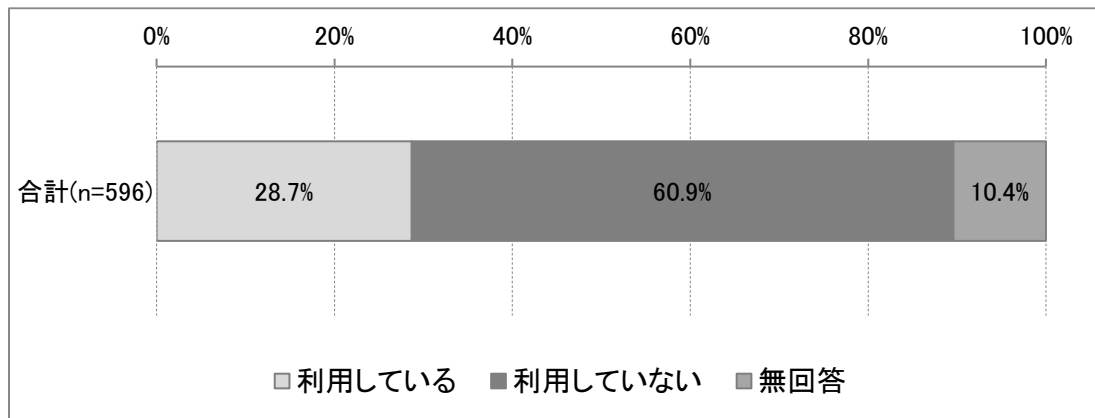
介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 90.3%と最も割合が高く、次いで、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 87.1%、「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」が 80.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 88.5%と最も割合が高く、次いで、「食事の準備（調理等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 84.6%、「服薬」が 65.4%となっている。「その他」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 84.6%と最も割合が高く、次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 78.5%、「食事の準備（調理等）」が 76.9%となっている。



(2) 訪問診療の利用割合

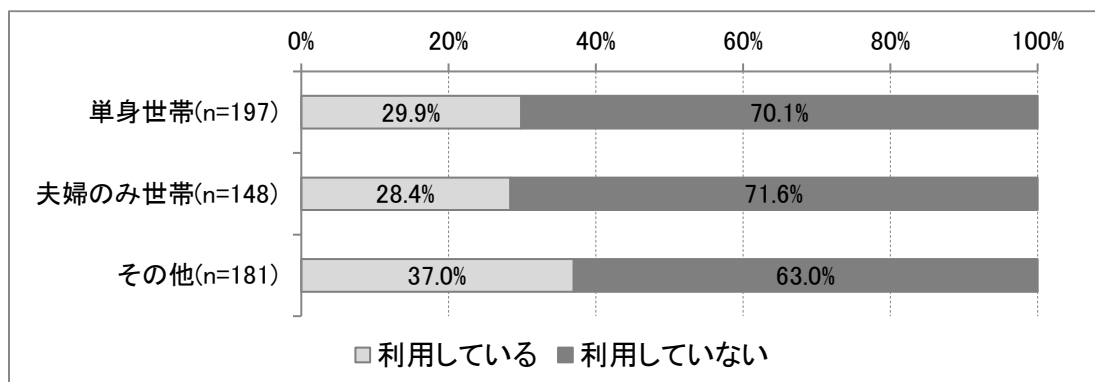
6-2-1 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 60.9%となっている。次いで、「利用している」が 28.7%となっている。



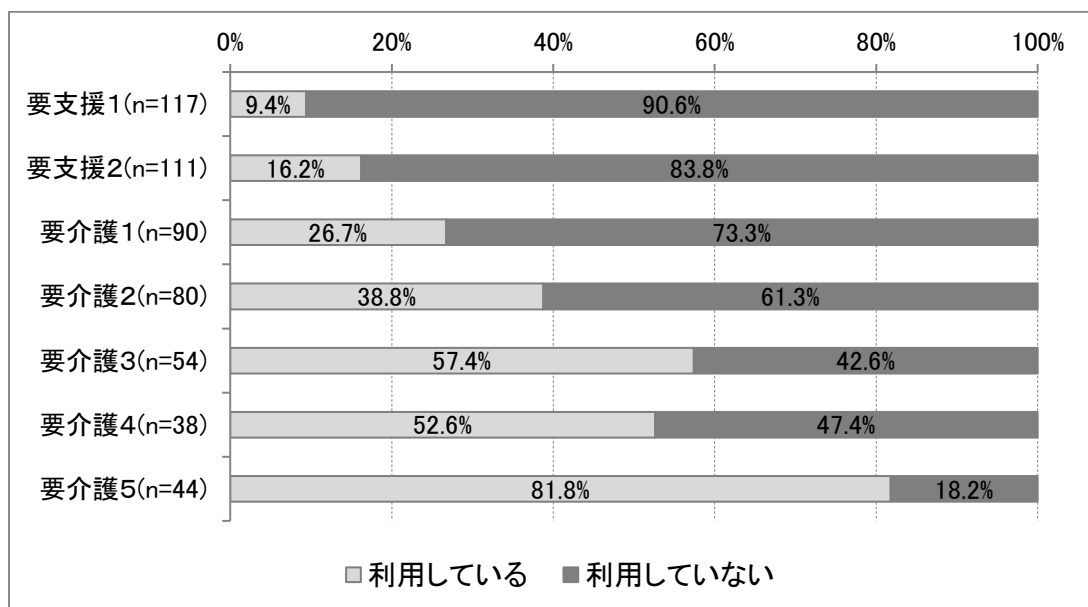
6-2-2 世帯類型別・訪問診療の利用割合

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が 70.1%と最も割合が高く、次いで、「利用している」が 29.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が 71.6%と最も割合が高く、次いで、「利用している」が 28.4%となっている。「その他」では「利用していない」が 63.0%と最も割合が高く、次いで、「利用している」が 37.0%となっている。



6-2-3 要介護度別・訪問診療の利用割合

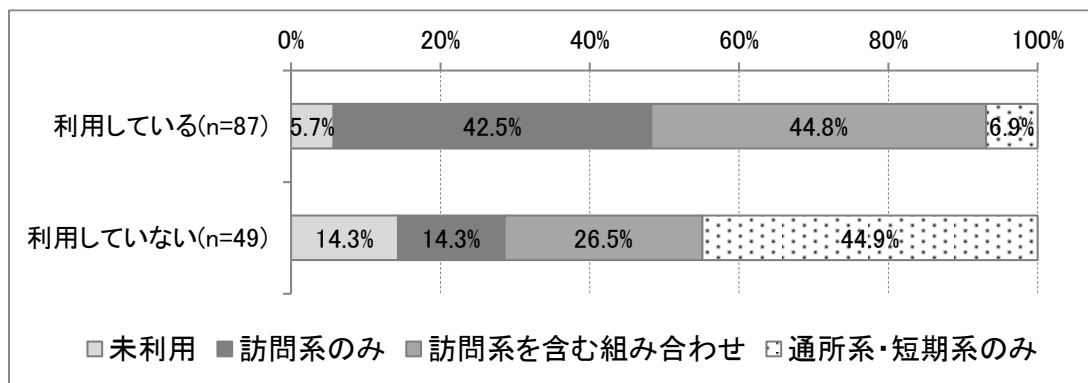
訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要支援1」では「利用していない」が90.6%と最も割合が高く、次いで、「利用している」が9.4%となっている。「要支援2」では「利用していない」が83.8%と最も割合が高く、次いで、「利用している」が16.2%となっている。「要介護1」では「利用していない」が73.3%と最も割合が高く、次いで、「利用している」が26.7%となっている。「要介護2」では「利用していない」が61.3%と最も割合が高く、次いで、「利用している」が38.8%となっている。「要介護3」では「利用している」が57.4%と最も割合が高く、次いで、「利用していない」が42.6%となっている。「要介護4」では「利用している」が52.6%と最も割合が高く、次いで、「利用していない」が47.4%となっている。「要介護5」では「利用している」が81.8%と最も割合が高く、次いで、「利用していない」が18.2%となっている。



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

6-3-1 訪問診療の利用の有無別・介護保険サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）

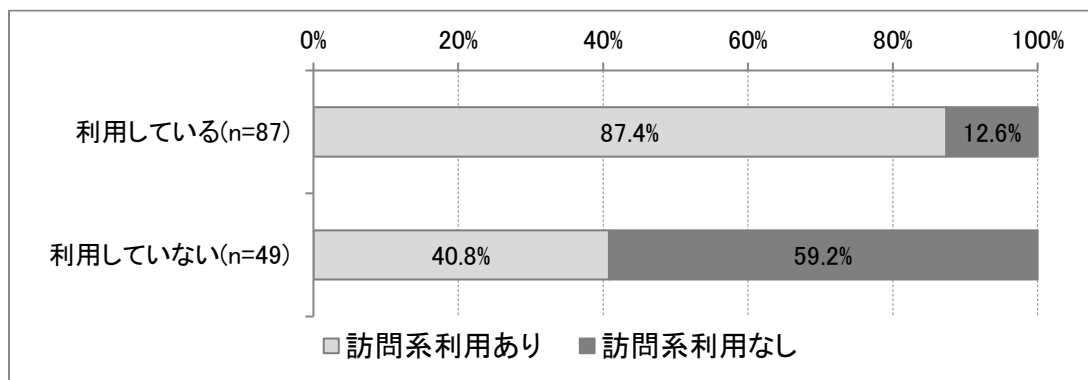
サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が 44.8%と最も割合が高く、次いで、「訪問系のみ」が 42.5%、「通所系・短期系のみ」が 6.9%となっている。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が 44.9%と最も割合が高く、次いで、「訪問系を含む組み合わせ」が 26.5%、「未利用」「訪問系のみ」が 14.3%となっている。



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系の利用の有無

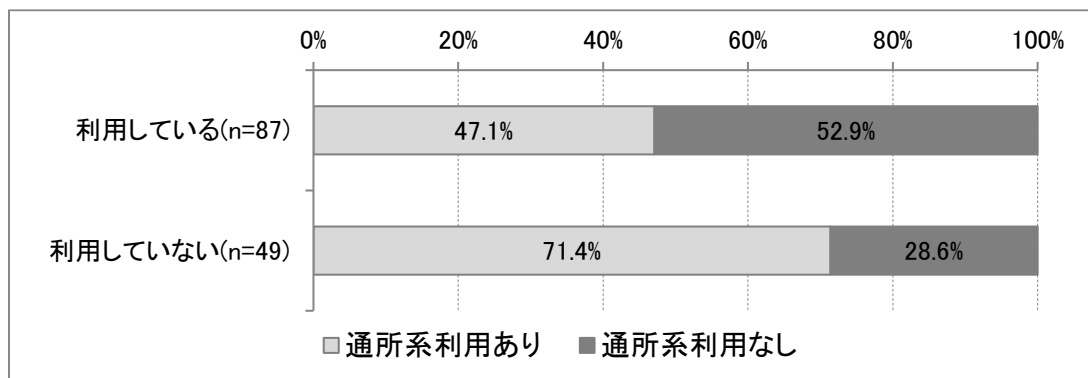
6-4-1 訪問診療の利用の有無別・介護保険サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が 87.4%と最も割合が高く、次いで、「訪問系利用なし」が 12.6%となっている。「利用していない」では「訪問系利用なし」が 59.2%と最も割合が高く、次いで、「訪問系利用あり」が 40.8%となっている。



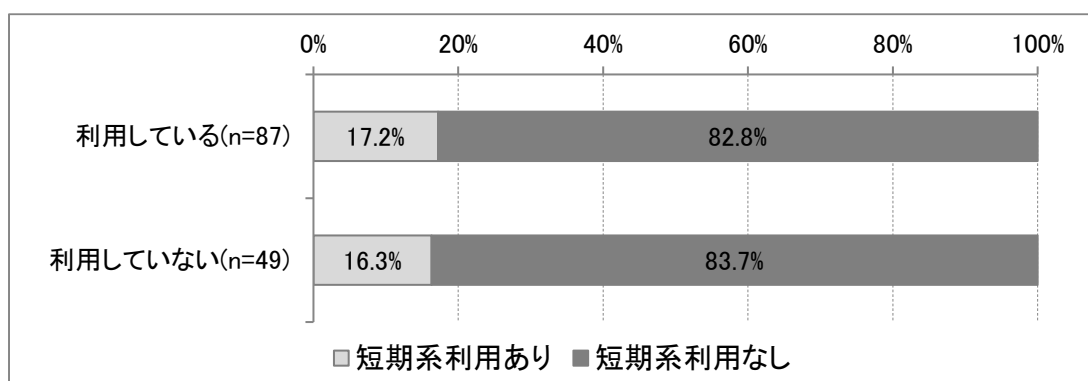
6-4-2 訪問診療の利用の有無別・介護保険サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用なし」が 52.9%と最も割合が高く、次いで、「通所系利用あり」が 47.1%となっている。「利用していない」では「通所系利用あり」が 71.4%と最も割合が高く、次いで、「通所系利用なし」が 28.6%となっている。



6-4-3 訪問診療の利用の有無別・介護保険サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が 82.8%と最も割合が高く、次いで、「短期系利用あり」が 17.2%となっている。「利用していない」では「短期系利用なし」が 83.7%と最も割合が高く、次いで、「短期系利用あり」が 16.3%となっている。

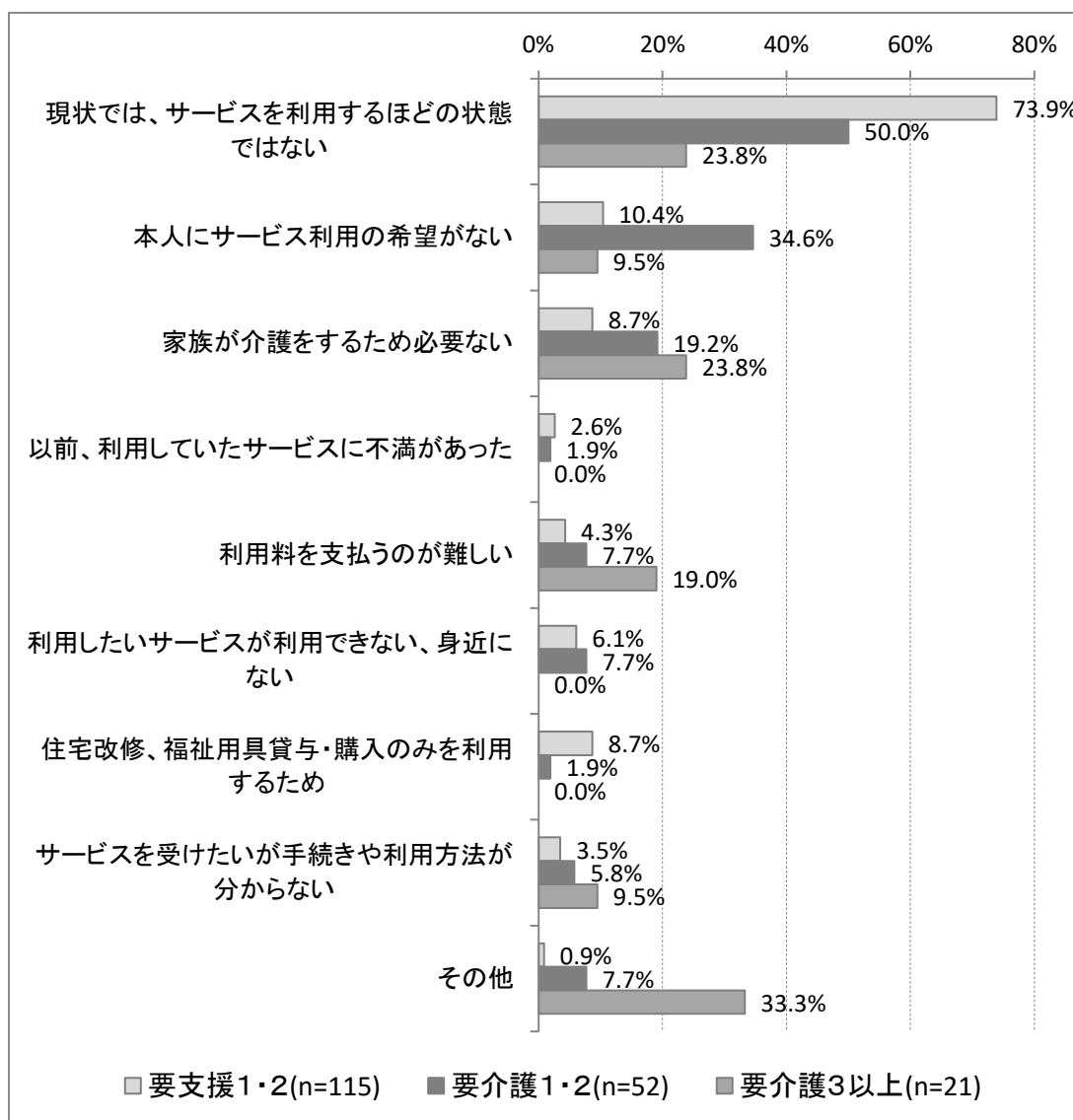


7. サービス未利用の理由など

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

7-1-1 要介護度別の介護保険サービス未利用の理由

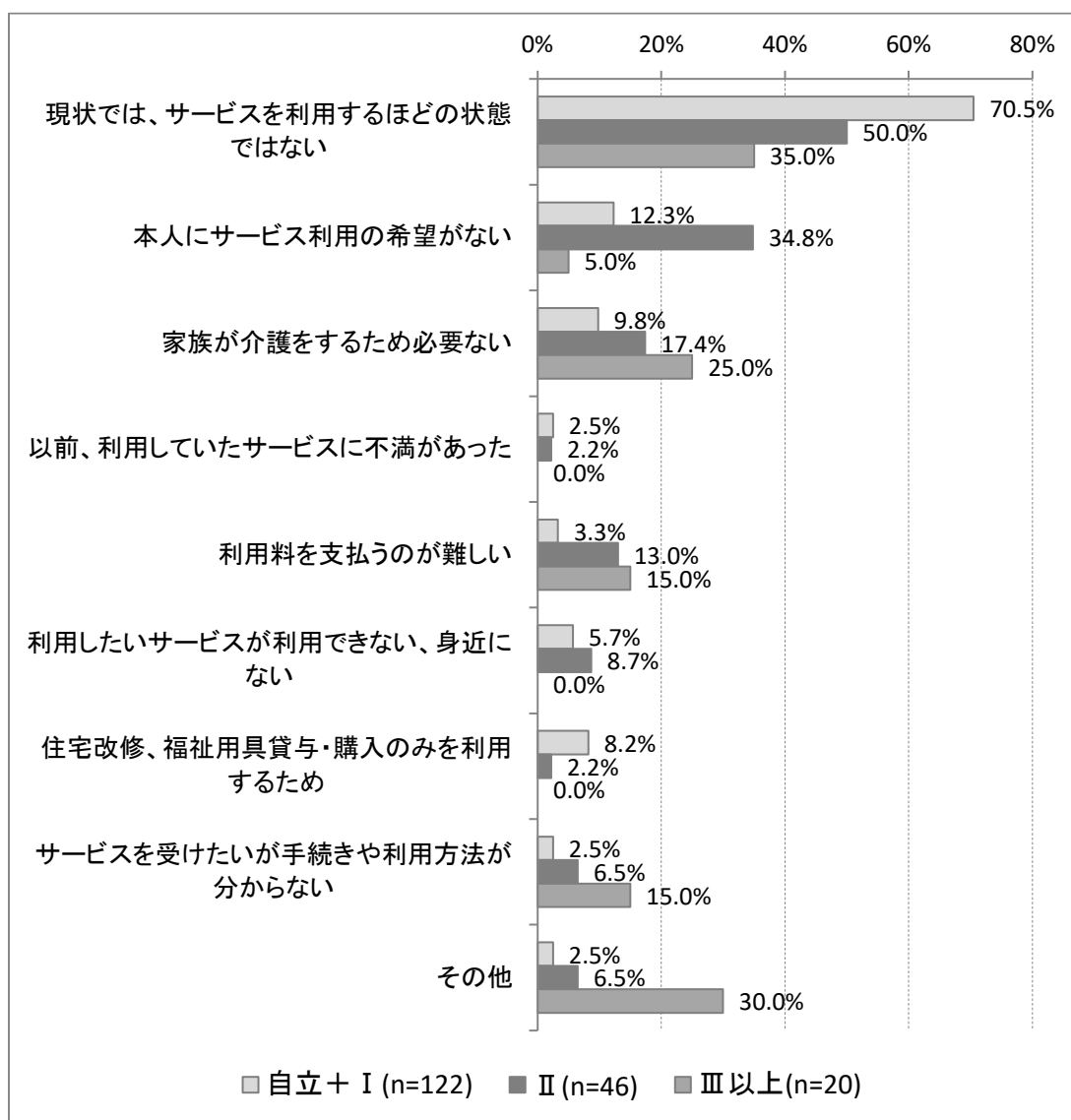
未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が73.9%と最も割合が高く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が10.4%、「家族が介護をするため必要ない」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が8.7%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.0%と最も割合が高く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が34.6%、「家族が介護をするため必要ない」が19.2%となっている。「要介護3以上」では「その他」が33.3%と最も割合が高く、次いで、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」「家族が介護をするため必要ない」が23.8%、「利用料を支払うのが難しい」が19.0%となっている。



(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

7-2-1 認知症自立度別の介護保険サービス未利用の理由

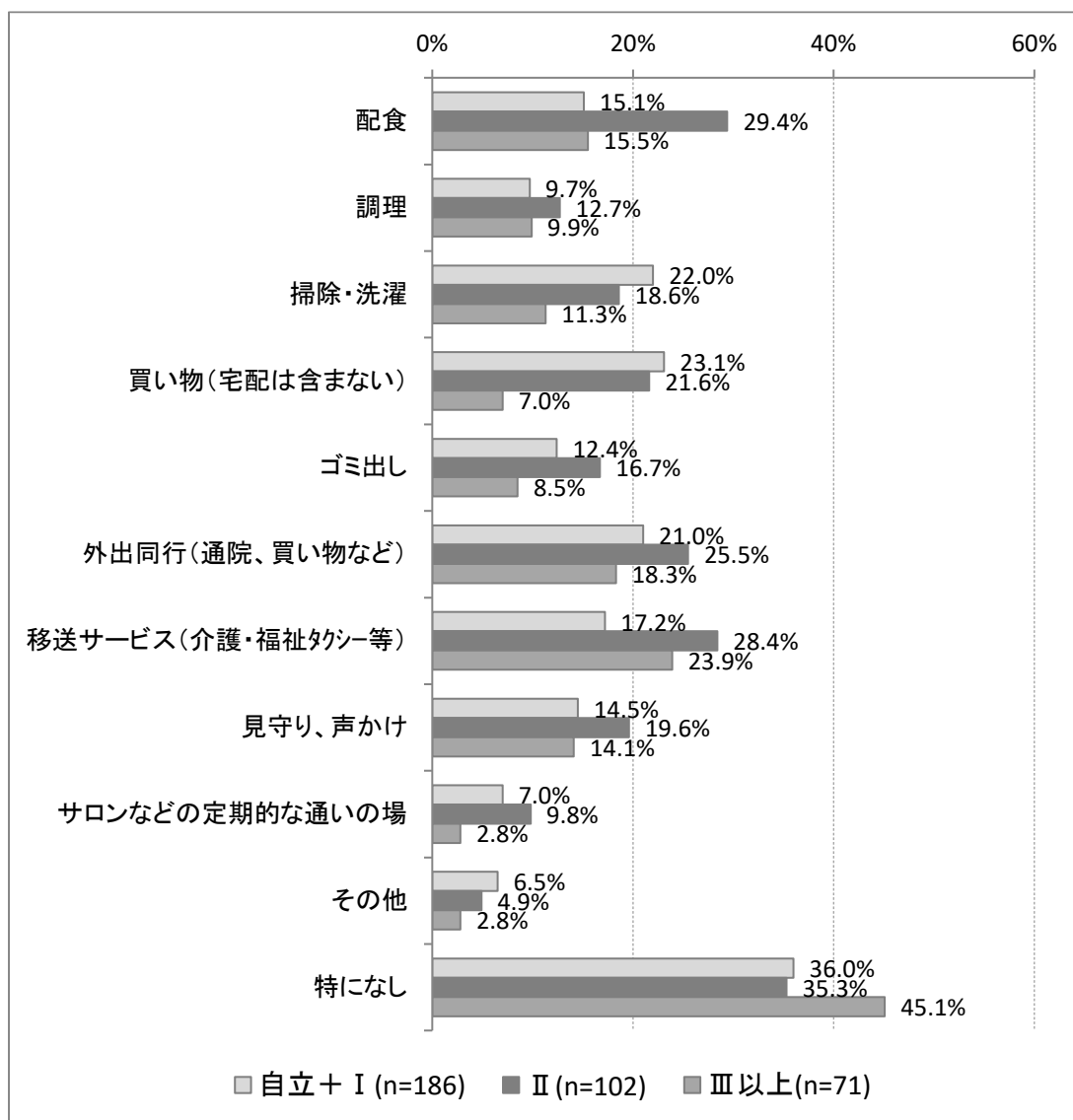
未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 70.5%と最も割合が高く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が 12.3%、「家族が介護をするため必要ない」が 9.8%となっている。「II」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 50.0%と最も割合が高く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が 34.8%、「家族が介護をするため必要ない」が 17.4%となっている。「III以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 35.0%と最も割合が高く、次いで、「その他」が 30.0%、「家族が介護をするため必要ない」が 25.0%となっている。



(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

7-3-1 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要なと感じる介護保険外の支援・サービス

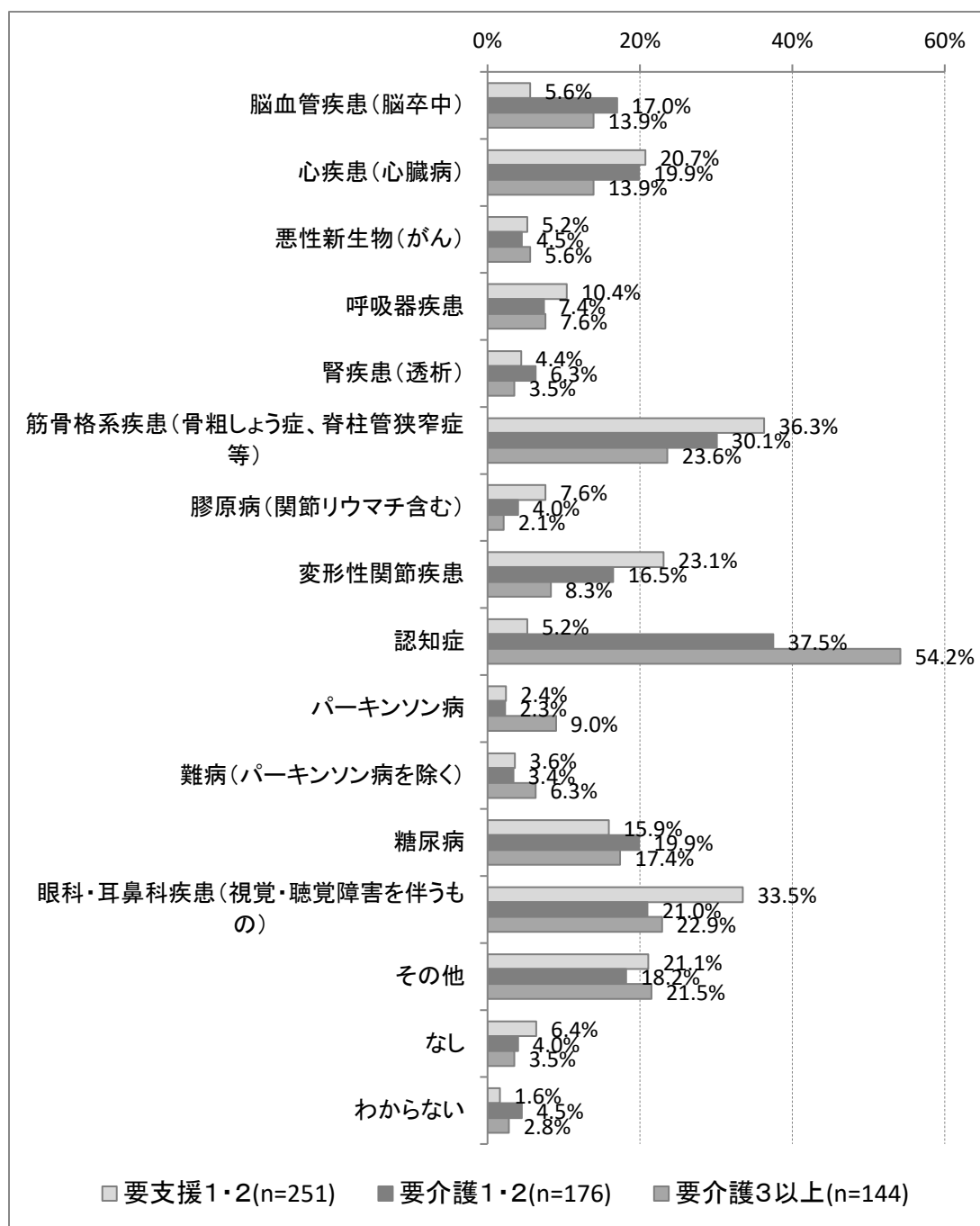
保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が36.0%と最も割合が高く、次いで、「買い物（宅配は含まない）」が23.1%、「掃除・洗濯」が22.0%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が35.3%と最も割合が高く、次いで、「配食」が29.4%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.4%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が45.1%と最も割合が高く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が18.3%となっている。



(4) 要介護度別の抱えている傷病

7-4-1 要介護度別・抱えている傷病

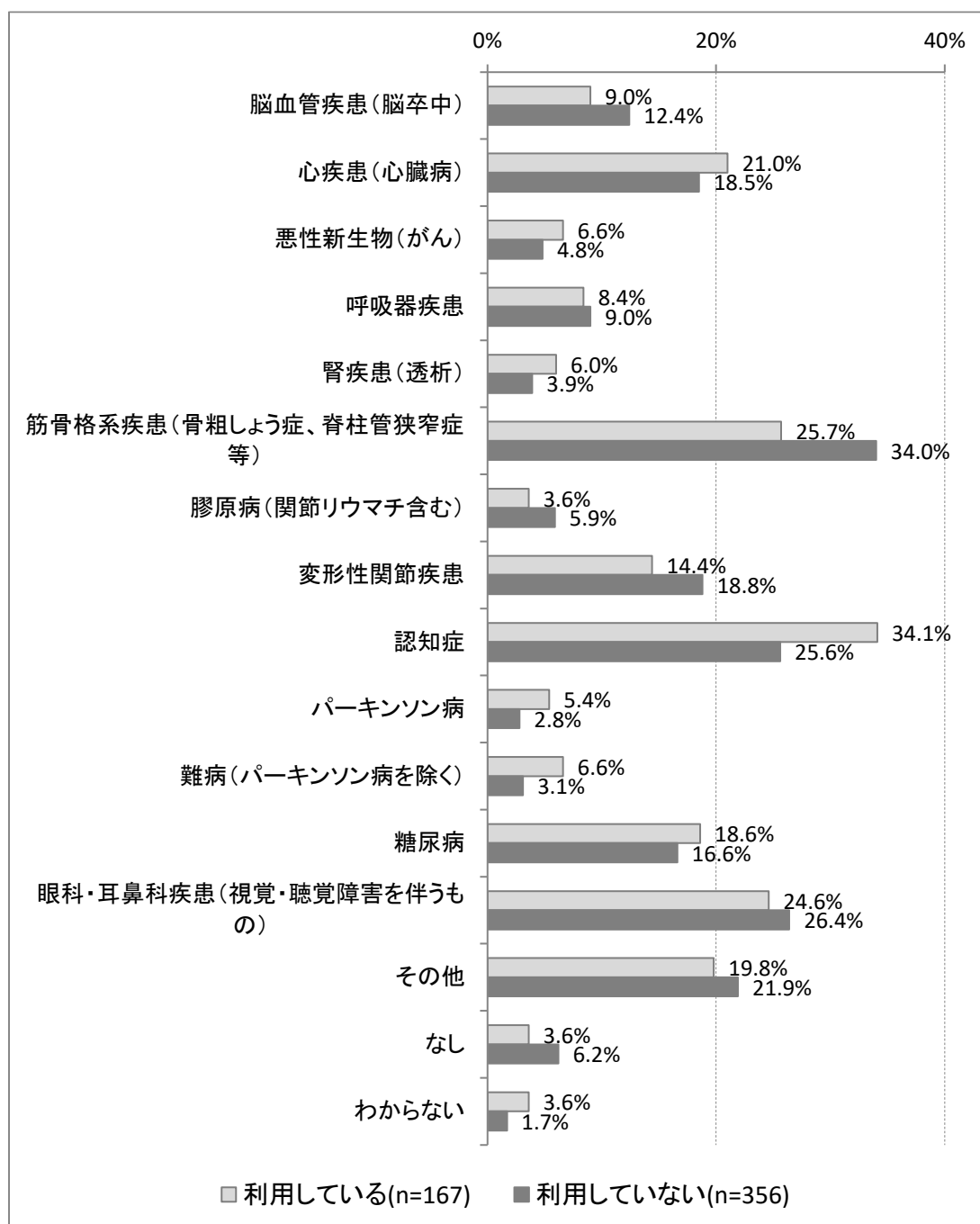
抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 36.3%と最も割合が高く、次いで、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 33.5%、「変形性関節疾患」が 23.1%となっている。「要介護1・2」では「認知症」が 37.5%と最も割合が高く、次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 30.1%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 21.0%となっている。「要介護3以上」では「認知症」が 54.2%と最も割合が高く、次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 23.6%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 22.9%となっている。



(5) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

7-5-1 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「認知症」が34.1%と最も割合が高く、次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が25.7%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が24.6%となっている。「利用していない」では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が34.0%と最も割合が高く、次いで、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が26.4%、「認知症」が25.6%となっている。



(1) 在宅介護の限界点を高めるための支援

① 「認知症状への対応」及び「夜間の排泄」に焦点を当てた対応策

本調査では、在宅介護を継続する上で介護者が不安に感じる内容として、「認知症状への対応」を不安とする割合が34.1%で最も高く、「外出の付き添い、送迎等」が28.6%で続いている（B問5）。要介護度別に見ると、要介護1・2では「認知症状への対応」が41.3%と突出して高く、要介護3以上でも33.6%を占めており、重度化に伴っても高水準で推移している（2-2-1）。一方、「夜間の排泄」は要介護3以上で36.4%と最も高く、身体機能の低下に応じて介護負担が増大している状況が読み取れる（2-2-1）。

さらに、認知症高齢者の日常生活自立度別に見ると、「自立度Ⅱ」では「認知症状への対応」が44.3%、「自立度Ⅲ以上」でも43.0%と非常に高い（2-2-2）。これらの結果から、在宅介護の限界点を高めるためには、認知症初期から重度段階まで切れ目なく対応できる相談支援体制、専門職による助言、レスパイトを含む夜間対応サービスの充実が不可欠である。特に夜間の排泄支援については、訪問系サービスや定期巡回・随時対応型訪問介護看護の活用を含めた支援体制の強化が、在宅生活の継続に直結する課題といえる。

② 在宅生活の継続に向けた手段の適正性の検討

在宅生活の継続に必要な支援としては、「移送サービス」が21.8%、「外出同行」が20.0%と比較的高く挙げられており、介護保険サービスだけでは対応しきれない生活支援ニーズが存在していることが分かる（A問9）。

また、世帯類型別に見ると、単身世帯では介護保険外サービスを「利用していない」割合が41.7%である一方、「買い物」や「掃除・洗濯」の利用ニーズは高い（4-2-1）。要介護3以上であっても、介護保険外サービスを「利用していない」割合は41.7%に上り、制度やサービスへのアクセス、情報提供の不足、経済的理由等が考えられる（4-2-2）。これらを踏まえると、在宅生活の継続に向けては、要介護度や世帯類型に応じた適切なサービス選択を支援する仕組みが重要であり、ケアマネジメントの質の向上や、介護保険外サービスとの連携強化が求められる。単にサービス量を増やすのではなく、生活課題に即した支援手段が適切に選択・利用される体制づくりが、在宅介護の限界点を高める上での今後の重要な課題である。

(2) 仕事と介護の両立に向けた支援

① 介護をしながら仕事を継続している層の課題を解決するための支援

本調査から、介護をしながら仕事を継続している層の多くが、一定の困難を抱えつつも就労を維持している実態が明らかとなっている。主な介護者の就労継続の可否に係る意識を見ると、「問題はあるが、何とか続けていける」が 58.6%と最も高く、「問題なく、続けていける」は 18.2%にとどまっており、円滑に両立できている層は限定的である（B問4）。就労状況別に「問題はあるが、何とか続けていける」割合を見ると、フルタイム勤務では 48.7%、パートタイム勤務では 64.8%と最も高い割合を占めており、就労継続が常に不安定な状況にあることが示されている（3-2-3）。

また、就労継続が困難と感じる層ほど、「認知症状への対応」を不安として挙げる割合が高く、「続けていくのはやや・かなり難しい」と回答した層では「認知症状への対応」が 44.4%、「夜間の排泄」が 33.3%に達している（3-3-3）。これらの結果から、仕事と介護を両立している層への支援としては、夜間や内容に着目した支援が重要である。具体的には、夜間対応型サービスや短時間・スポット型の訪問支援、認知症対応に関する専門的相談体制の整備が、就労継続の下支えとなる。また、介護保険サービスの利用率は就労者層で 9 割を超えている一方で（3-3-1）、それでも困難感が高いことから、サービス量だけでなく利用内容の適正化や組み合わせの見直しを支援することが、今後の重要な課題である。

② 仕事と介護の両立に向けた職場における支援

職場における支援の現状を見ると、制度と実態の間に大きな乖離が存在している。主な介護者の働き方の調整状況では、「介護のために、労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら、働いている」が 34.8%である一方、「特に行っていない」が 30.4%となっており、介護を担いながらも職場の制度を十分に活用できていない層が確認できる（B問2）。

一方で、効果的と考えられる勤め先からの支援としては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 31.5%、「労働時間の柔軟な選択」が 25.4%と上位に挙げられており、時間の柔軟性に対するニーズが高いことが示されている（B問3）。就労形態別に見ても、フルタイム勤務では「フレックスタイム制などの柔軟な勤務時間」が 27.8%、パートタイム勤務では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 34.8%と最も高く、雇用形態に応じた支援のあり方が求められている（3-6-2）。

これらを踏まえると、仕事と介護の両立に向けた職場支援としては、介護休業・介護休暇等の制度の整備に加えて、労働時間や場所の多様化が不可欠である。介護初期段階から利用可能な柔軟な働き方の提示が重要であり、行政としても企業向けの情報提供や啓発を通じて、両立支援を後押ししていくことが今後の課題である。

(3) インフォーマルな地域資源の整備

① 全ての要介護者への対応を可能とする支援の提供体制の構築整備

本調査では、介護保険サービスだけでは対応しきれない生活課題が、要介護度にかかわらず幅広く存在していることが示されている。在宅生活の継続に必要な支援として、「外出同行」や「移送サービス」は全体で比較的高い（(4-1-2)。しかし、介護保険外サービスの利用状況を見ると、「利用していない」が全体で 38.6%を占め、単身世帯や要介護3以上でも同程度の割合にとどまっている（4-1-1、4-2-1、4-2-2）。これは、支援ニーズが存在するにもかかわらず、適切な地域資源につながっていない可能性を示唆している。

今後は、要介護度や世帯類型を問わず、すべての要介護者が必要な支援を受けられるよう、住民主体の活動、ボランティア、NPO 等を含むインフォーマルな地域資源を体系的に位置づけた支援提供体制の構築が求められる。特に、外出支援や見守り、家事支援といった日常生活支援については、フォーマルサービスと補完関係を持つ形で地域資源を整備することが、在宅生活の限界点を高める上で重要な課題である。

② 必要となる支援・サービスの詳細なニーズ把握と提供体制の構築の推進

インフォーマルな地域資源を効果的に整備するためには、支援・サービスに関する詳細なニーズ把握が不可欠である。本調査では、介護保険外サービスとして「買い物」や「掃除・洗濯」を必要とする割合が比較的高い一方、実際の利用率は低く、「利用していない」が全体で 41.0%に上っている（A問8・9）。特に単身世帯では、生活支援ニーズが高いにもかかわらず、介護保険外サービスを利用していない割合が 41.7%と高水準であり、ニーズと利用の間にギャップが存在している（4-2-1）。こうしたニーズは、定量的な設問だけでは十分に把握しきれない側面も多く、今後は調査結果を基礎としつつ、個別支援計画や地域ケア会議等を通じた継続的なニーズの把握が重要となる。

その上で、把握したニーズを地域資源の創出やマッチングに結び付ける仕組みを整備することが求められる。具体的には、地域包括ケア会議や地域包括支援センターが中心となり、インフォーマル資源の情報を集約・可視化し、要介護者や家族の状況に応じて適切に提供できる体制を構築することが、今後のインフォーマル支援推進の重要な課題である。

(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援

① 単身世帯の要介護者の在宅生活を支えるための支援

本調査から、単身世帯の要介護者は、日常生活上の支援ニーズが高い一方で、支援につなぐりにくい状況にあることが明らかとなっている。世帯類型別に見ると、単身世帯では在宅生活の継続に必要な支援として「外出同行」が21.3%、「買い物」が20.7%となっており、通院や買い物といった基本的な生活行為を支える支援へのニーズがある(4-3-1)。一方で、介護保険外サービスの利用状況を見ると、「利用していない」が41.7%と高水準であり、ニーズはあるが利用状況は低い(4-2-1)。また、単身世帯では主な介護者が不在であるケースが多く、「夜間の排泄」や「認知症状への対応」といった不安を抱えても、家族による補完が期待しにくいいため、単身世帯においてはこれらの負担が直接本人の在宅生活の継続可否に影響すると考えられる(B問5)。

今後は、単身世帯の要介護者が在宅生活を継続できるよう、見守りや外出支援、家事支援などを組み合わせたインフォーマル支援の強化とともに、緊急時対応や夜間支援を含めた重層的な支援体制の構築が求められる。特に、地域包括支援センターを起点とした早期把握と支援の接続が、単身世帯支援の重要な課題である。

② 夫婦のみ世帯・その他世帯の在宅生活を支えるための支援

夫婦のみ世帯やその他世帯においては、同居家族が主な介護者となることで在宅生活が一定程度維持されている一方、介護負担の集中や将来的な支援不足が課題として浮かび上がっている。世帯類型別に見ると、夫婦のみ世帯では在宅生活の継続に必要な支援として「買い物」や「外出同行」を挙げる割合が比較的高く、配偶者介護による身体的・精神的負担の大きさがうかがえる(4-3-1)。

さらに、夫婦のみ世帯やその他世帯では、主な介護者が高齢である場合が多く、介護者自身の健康悪化や就労との両立困難が、在宅生活の継続を脅かす要因となり得る。実際に、「問題はあるが、何とか仕事を続けていける」と回答した介護者は全体で58.6%に上り、介護と生活の両立に不安を抱える層が一定数存在している(B問4)。

こうした世帯に対しては、配偶者介護に過度な負担が集中しないよう、介護保険サービスに加えて、レスパイトやインフォーマルな生活支援を適切に組み合わせることが重要である。また、介護者の状態変化を見据え、早期から将来の支援体制を検討・共有する仕組みを整備することが、夫婦のみ世帯・その他世帯の在宅生活を持続可能なものとするための今後の課題である。

(5) 相談支援・ケアマネジメント機能の強化

① 相談支援体制の充実

本調査から、要介護者本人および介護者が抱える不安や困りごとは多岐にわたり、早期かつ継続的な相談支援の重要性が明らかとなっている。主な介護者が不安に感じている内容としては、「認知症状への対応」が34.1%で最も高く、「外出の付き添い、送迎等」28.6%、「夜間の排泄」28.2%、が続いている（B問5）。これらはいずれも、身体介護にとどまらず、心理的負担や生活全体に関わる課題であり、単一のサービス導入だけでは解決が難しい内容である。

今後は、地域包括支援センターを中心に、介護初期から中重度に至るまで切れ目なく相談を受け止める体制を強化することが求められる。

② 自立支援型のケアマネジメント

自立支援型のケアマネジメントを推進する上では、要介護者の状態像と実際のサービス利用との関係を丁寧に捉えることが重要である。本調査では、要支援1・2において「未利用」が40.8%と最も高く、介護予防や生活支援につながるサービスが十分に活用されていない実態が確認されている（2-3-1）。

今後は、ケアマネジャーが本人の生活目標や残存能力に着目したアセスメントを行い、フォーマル・インフォーマル双方の資源を組み合わせたケアマネジメントを実践することが重要である。そのためには、地域資源に関する情報共有や、地域包括ケア会議等を通じた多職種連携の強化が不可欠であり、単に身の回りの世話（介護）をするのではなく、その人らしく自立した生活を送れるように、持っている能力を最大限に引き出す支援を行う自立支援型ケアマネジメントの質を高めることが、在宅生活の持続可能性を高める今後の課題である。

（6）三鷹市における認知症施策の推進

① 認知症の方の価値観や希望の尊重

三鷹市独自調査では、在宅介護を行う主な介護者が感じている不安として、「認知症状への対応」が34.1%と最も高く、認知症への対応が在宅生活継続の大きな課題となっていることが示されている（B問5）。要介護度別に見ると、要介護1・2では「認知症状への対応」を不安とする割合が41.3%と突出しており、比較的早期の段階から認知症への対応が介護者の負担となっていることが分かる（2-2-1）。

また、認知症高齢者の日常生活自立度別では、自立度Ⅱで44.3%、Ⅲ以上で43.0%が「認知症状への対応」を不安としており、症状の進行に伴い、本人の意思や希望が十分に尊重されにくくなる状況がうかがえる（2-2-2）。これらの結果は、認知症の方の価値観や生活歴を踏まえた支援が不十分な場合、介護者の不安が増大し、在宅生活の継続が困難になりやすいことを示している。

今後は、認知症の初期段階から本人の価値観や希望を丁寧に確認し、それを支援方針に反映する仕組みを整備することが重要である。本人の生きがいややりたいことを重視し、その人らしく自立した生活を送れるようすることで、認知症の方が自分らしい生活を続けられる在宅支援体制を構築することが、三鷹市における認知症施策の中核的な課題である。

② 地域の支え合いのしくみづくり

認知症のある方を含む要介護者の在宅生活を支えるため、地域による見守りや生活支援へのニーズが一定程度存在していることが示されている（7-3-1）。在宅生活の継続に必要な支援として、「移送サービス」が21.8%、「外出同行」が20.0%となっており、日常生活における付き添いや地域の関わりが重要であることが分かる（A問9）。一方で、介護保険外サービスの利用状況を見ると、「利用していない」が41.0%と高い割合を占めており、地域に支援ニーズが存在しているにもかかわらず、十分に支援につながっていない実態が明らかとなっている（A問8）。

今後は、認知症の方を地域全体で支える視点に立ち、住民主体の見守り活動や外出支援、日常的な声かけをインフォーマルな地域資源として体系的に位置づけることが重要である。地域包括支援センターを核として、こうした地域の支え合いの仕組みを調整・推進することで、認知症の方が孤立せず、安心して暮らし続けられる地域づくりを進めることが、三鷹市における認知症施策推進の今後の課題である。

(7) 三鷹市高齢者計画・第十期介護保険事業計画の主な項目に関する現状と課題

① 在宅介護の限界点を高める支援の強化

認知症状への対応や夜間の排泄など、在宅介護において負担が集中しやすい場面に重点を置き、(看護)小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型等の地域密着型サービスや専門的相談支援を含めた支援体制を強化する。要介護度の進行を見据え、在宅生活をできる限り継続できる環境整備を図る。

② 仕事と介護の両立を支える仕組みづくり

介護をしながら就労を継続している層が多い実態を踏まえ、介護負担の軽減と就労継続の両立を支援する。介護サービスの適正な利用支援に加え、職場における柔軟な働き方や制度活用を後押しし、介護離職の防止を図る。

③ インフォーマルな地域資源を含めた重層的支援体制の構築

介護保険サービスだけでは対応しきれない外出支援や生活支援のニーズに対応するため、住民主体の活動やボランティア等を含めたインフォーマルな地域資源を体系的に整備し、フォーマルサービスと補完的に活用できる体制を構築する。

④ 世帯類型の変化を踏まえた支援の最適化

単身世帯や夫婦のみ世帯の増加を見据え、世帯類型ごとの課題に応じた支援を強化する。特に単身世帯では見守りや生活支援、夫婦のみ世帯では介護者負担の軽減や将来を見据えた支援体制の構築を重視する。

⑤ 相談支援・ケアマネジメント機能の質的向上

介護初期から中重度に至るまで切れ目のない相談支援体制を充実させるとともに、本人の生活目標や残存能力に着目した自立支援型ケアマネジメントを推進する。地域資源を活用した多職種連携により、支援の質の向上を図る。

⑥ 三鷹市における認知症施策の推進

認知症の方の価値観や希望を尊重した支援を基本とし、本人参加型の支援や意思決定支援を推進する。あわせて、地域全体で認知症の方を支える見守り・支え合いの仕組みを強化し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を整備する。